鹿児島県史料集(25)

三州御治世要覧

〜年代記　御分國之巻　御家格御政治向　當時御役人〜

鹿児島県史料集(25)

三州御治世要覧

〜年代記　御分國之巻　御家格御政治向　當時御役人〜

刊行のことば

鹿児島県史料集第二十五集として「三州御治世要覧」を刊行いたします。

本書は、「三州御治世要覧」の内、年代記（巻二十五）と御分国之巻（巻三十六）、御家格御政治向（巻三十七）、当時御役人（巻三十八）を収載したものです。

県史料集の刊行は、資料の保存をはかり、研究者の利用に供することを目的に進めてきた県立図書館の事業の一つで、史料集の刊行が、とどこおりなく続けられていることは、県史料刊行委員の方々の並々ならぬご協力の賜物と存じます。

今回の史料は、鹿児島県立甲南高校教諭の宮下満郎氏と、鹿児島大学教授の桑波田興氏に編集・校訂・校閲をいただきました。長期間にわたるお骨折りに心から感謝いたします。

なお、この史料が地方史の研究に少しでも役立てば幸です。

昭和五十九年十月

鹿児島県立図書館長

山崎昭雄

三州御治世要覧目録

一　年代記（巻三十五）……五

二　御分國之巻（巻三十六）

薩摩國

鹿児島郡……八五
日置郡……八九
谿山郡……九二
阿多郡……九三
川邊郡……九四
甑島郡……九七
頴娃郡……九八
揖宿郡……九九
給黎郡……九九
薩摩郡……一〇〇
高城郡……一〇二
伊佐郡……一〇四
出水郡……一〇八

大隅國

大隅郡……一一一
肝付郡……一一四
曽於郡……一一七
桑原郡……一二一
姶羅郡……一二二
菱刈郡……一二五
熊毛郡……一二六
馭謨郡……一二六

日向國

諸縣郡……一二七

硫球國……一三九

三　御家格御政治向……一四二

四　當時御役人……一五八

解　題

『三州御治世要覧』には、鹿児島県立図書館所蔵・鹿児島大学附属図書館玉里文庫所蔵の十二巻本と、旧島津家編輯所所蔵（現東京大学史料編纂所所蔵）の四十巻本の二種類がある。いずれも城下士清水盛富の編著になるものであるが、十二巻本は宝暦五年（一七五五）に編さんされたもの（以後宝暦本と略称）で、その後追筆増補されたのが安永七年（一七七八）の四十巻本（以後安永本と略称）である。両書とも、武家濫觴に始まり、慶長十四年（一六〇九）の琉球出兵とその跡仕末までの、島津氏を中心にした薩摩藩の歴史であることに変りはない。

両書の編さんにみられる違いは、宝暦本では巻一～巻十一までを本文とし、外に寛永二十一年（一六四四）までの追加編があり、巻十二は人物小伝である。これに対し、安永本では本文を巻三十四までとし、追加編はない。巻三十五～巻三十八は近世史年表や藩内の現状などの記録である。外に御系図一巻と惣目録一巻とを合わせて四十巻に整えている。

清水盛富が『三州御治世要覧』の本文を慶長十五年までにとどめたのはどのような理由によるのであろうか。それは島津氏の三州統治の終りをどこに求めるかということにあったようで、清水は島津義久の治世をもってその終りとし、家久以後を徳川幕府の支配下にはいった「御当世」の時代としたようである。さらに、慶長十五年には、薩摩における最後の出兵としての琉球出兵の跡仕末がほぼ終った年であり、義久が没したのは翌年正月二十一日である。従って家久以後は太平年号として、年表式に略述したのであろう。

これに対して、家久までを戦国大名とし、光久以後を「御当世」の治世とする考え方もある。伊地知季通が編さんした『旧記雑録』では、後編を寛永二十一年までとし、追録を正保元年から始めている。家久の死は寛永十五年二月二十三日であるが、寛永年代の終りをもって時代を区分したのであろう。清水盛富も、宝暦本では追加編に寛永二十一年までを記しているが、安永本では省略されている。もっとも、藩の記録方が編さんした『島津氏世録正統系図』では、島津氏の当主の治世に関係なく、徳川家康が征夷大将軍に就任した慶長八年以後を続編、それ以前を新編とし、家久はその両方で扱われているので、慶長十五年をもって時代区分をすることが、当時一般に認められていたわけではない。

清水盛富が本書を編さんした意図は、頭記の凡例にみることができるので、重復するようであるが、宝暦本と安永本の両者を次にあげよう。

三州御治世要覧凡例

忠久主州（二駆カ）江御下向以来五百五拾餘年也。其中ニ及足利家衰、日本國中壊乱極テ、子追親臣殺君、悪逆無道至リ極レリ。三州モ亦是ニ同シ。雖然、天運循環無往不復。　日新主・貴久主・義久主・義弘主・家久卿ニ至迄、名将賢君打続テ起ラセ給ヒ、御政道正鋪、三州日ニ隨テ治リ、月々ニ盛昌也。慶長庚子関ケ原一戦ヨリ今寶暦乙亥ニ至テ百五拾餘年、上一人ヨリ下萬民ニ至ルマテ、枕ヲ泰山ノ安キニ置、野山ニ臥テモ白波ノ懼レナキ事ハ、一重ニ前君ノ野戦難戦数度ニ及セ給ヒ、文武之古ニ忝辱サ（文武道）

ル事、比巻中ニテ可見者也。予謹テ思フニ、古戦ヲ傳聞テ于今合セタルトキハ、君恩ノ難有事初テ知レルカ如シ。然レハ、諸臣于　太守公奉仕励共ナリ。又ハ君恩之下ニ居テ、三州之為家臣人前君之御恩難有事ヲ知ラズンバアルベカラズ。依之、今其昔古ヲ傳エ聞ントスルニ、國史数多ニシテ見ルニ煩ヒアルニヨリ、巻頭ニ武士ト云初シ事ヲ顕シ、源家由来ヲ記シ、右大将家ヲ初、従御高祖御代々　勝久主迄之御治世大概ヲ禄シ、　貴久主御世初ヨリ　義久主・義弘主・家久卿之御代ニ至テ三州正鋪治リシ事、神社仏閣之由来、三州諸家之由緒傳記等数巻之諸書ヲ抜粋シ、其要ヲ集メ、シゲキヲハブキヌ。予文盲ナレバ假名文字ニ書シ、三州御治世要覧トナツク。予天姓曾鈍也。後人其誤ヲ補ヒ、正傳ヲ添令清書者チカ幸ヒ是ニシカン。其書拾弐巻、末之一巻ハ諸人傳記ヲ集。故ニ其旨趣ヲ巻頭ニ顕シ畢。

一無名集、是ハ右大将家ヨリ　家久卿迄之大概ヲ記ス。是ヲ諸書ヲ以増補シテ本文ニ用ル也。本文ニ難用者ハ、何ニ云、何々ニ記ス。去程ニ、也ケリ、扨モノ類、只文ツヽキノ為、私ニ加ル所也。引用書如左。

御系圖　御寶物由緒書　御先祖以来御居城附　御戦場由緒　御家代々御家老系圖　廟堂要覧　山田聖榮六巻草紙　寺院由緒記　福昌寺住持系圖　伊作記　日新公記　伯囿公記　島津世録記　王代一覧　平治物語　七武之内注　太平記大全　三國擾乱記　三國軍記　木崎原傳記　九州治乱記　織田信長記　家久上京日記　上使返答　豊臣秀吉譜　征韓録　薩陽平治記　蒲生軍記　参河後風土記　朝鮮征伐記　追加　渕辺良右衛門覚書　大重平六覚書　関ヶ原軍記　日州庄内軍記　武家閑談記　濱田永林高名日記　押川強兵衛由緒書　新納旅庵由緒　関ヶ原大概　神戸休五郎覚書　関ヶ原大重平六覚書　曽木弥二郎覚書　奥関介覚書　黒木左近兵衛覚書　平山九郎左衛門申分　種子島氏家記　諸家大概　琉球在番系圖　信太由来記　他家古城由来記　或記人佐氏兼信所集記也。西國大平記　秋月一牧系圖

于時寶暦甲戌春ヨリ同乙亥春迄ニ謹テ令編集者也。

薩陽鹿府之小臣清水氏源盛富

三州御治世要覧凡例

一凡此書撰集之旨趣者、夫　我君者忝モ清和天皇之正統、鎌倉之右大将家ノ庶嫡於左衛門尉　忠久公、従武衛公賜薩隅日三州之守護職以来、至只今　君二十五代有御相続、而保三州、琉球國迄有兼領者、於本朝無双為武官之高家者也。為其家臣　君家由緒不知者不可有。元弘・建武殆大乱也。應仁之乱久遠而、日本國中為戦國、一日不安。天正年中、殿下秀吉公天下之鎮逆浪、雖帰一統、朝鮮陣七ケ年及長。殿下薨御之後、関ヶ原之有大乱。而　東照神君開萬世太平之基、至今百七十餘年、四海枕置太山之安事、是神君之餘輝也。可尊可尊。就中我君従御高祖御代々卜年申、日新公・伯囿公・龍伯公・惟新公・黄門君、比御五代野戦城攻等、数百度之御難戦得不可曰。増而奉附隨於諸臣下、以身命當矢頭之的、其粉骨難計。依之今保大國給者也。為其子孫丁君恩之忝剔、今四海静成為差無奉公。而賜過分之知行并居屋敷等、世々住安楽者、従高山高従滄海深。人々君恩之難有事、古戦之記不見時難知。今我國古戦之記、雖有右大将家之事跡、或元弘・建武一乱之記、亦者高麗庄内一乱、関ヶ原一戦等、夫

々一ツ一ツ而已。夫モ味方之功而已記、敵味方之次第不分明者多。依之今所集者、以御系圖為主、数百之名記・軍記・雑記・古老之覚書・聞書集書等以増補。而従清和帝代々皇家、天下之武将名将等之傳、于御家雖不懸、以其序當代迄集記、而于子孫使令見。是則君恩祖先之難有事、為可使知也。

一比書、従清和帝至當代、為委記時者、則数百巻可及也。依之諸書之要、可為鑑證者抜萃于本文用。雖然諸書或前後不同、自相予楯、又相齟齬。未知所拠者、或義不専的當、或未知熟是者、有異同、有大同小異、難為知何所多。于故以諸書参考、以論是否便読者。

一天下大名高家之由緒・三州諸士之由緒、于所出随記之。寺院之由来同断。三州之諸士従鎌倉供奉、或三州之郡司・城主其家臣、亦者先君之仰仁風、従遠近来為御家臣世遠、而其子孫當時者小身成衰、農工商漁成。子孫何様之血脉不相知有。亦右之類以武勇知謀為士、代々難有被召仕者有。及于治世、以武藝・学問・兵道・暦・字・繪・醫其外夫々之藝能被召出、名顕シ奉仕有。又久不続有。無際限也。于此巻中出有、不出有。其衆之子孫奉仕専可励勤之処、祖先之難儀忘却身放埒持、或慢気而身亡家禿人多。可慎可慎。此又善悪之可為手本者也。因間々又記之。

一此書、従中古天下之武将等諸國之事實書顕、而号三州御治世要覧者、以三州為主故也。

一此書、以御系圖為首巻、于三種神器始武家濫觴・本朝諸姓 并四姓之起、顕従清和帝至琉球御征伐二十四巻、従慶長拾五安永七戊戌迄歴代考略記三拾五、従鹿府諸外城分記三拾六、御家格御政治巻三拾七、當時御役人三拾八、惣目録添而都合三拾九巻、于子孫傳為家寶。

此書誤可多、訛删帰正事尤以肝要也。予幸過之哉。

編者の清水盛富の系譜は明らかでない。「年代記」の末尾に、「松原山邊於私宅書之、山県末流清水盛富」とあり、松原町近辺に屋敷があった源姓の下級武士であったらしい。天保末年ごろの城下絵図によれば、清水家は三か所見られる。また「當時御役人」の御使番に清水源兵衛が、「家格御政治向」では小番与士の四番与に清水源右衛門が、「同」鹿児島諸士名字では「き」の項に清水が見える。清水氏について『諸家大概』には、「清水氏姓追可考、清水弥兵衛祖父監物は志布志町人にて候を、御赦免被遊後鹿児島へ被召移候、其後弥三左衛門より騎馬に被召成候」と記されているが、盛富との系譜は明らかではない。また、ほぼ同時代の人で、明和七年（一七七〇）に『盛香集』を著した清水盛香との関係も明らかでない。

今度刊行する『三州御治世要覧』は、安永本の一部を採録することになった。初め県立図書館所蔵の宝暦本と附録年代記とを合せて一冊とする計画であったが、安永本があることがわかり、史料刊行委員会で検討した結果、改訂増補された安永本の刊行が望ましいとされた。しかし四十巻の安永本を刊行するには数年の歳月を要するため、とりあえず巻二十四までの本文を除き、巻三十五以下の附録に相当する部分だけを刊行することにしたものである。収載する史料は次のようなものである。

年代記　県立図書館本の表紙には『三州御治世要覧附録　年代記　自慶長十五年　至安永七年』と記されているが、安永本の巻三十五と同じ内容である。一部に坂田文庫の罫紙が使われ、東京神田の古書店から、鹿児島県史編纂事務所が購入したものを、昭和二十一年に県立図書館へ移

管したものである。安永本の惣目次では「太平年号」とあるが、巻三十五の表紙には「年代記」と記されている。年代記はその序文に見るとおり、本文のあとをうけて、慶長十五年から安永七年までの薩藩史を、年表式に記述したものである。

御分國之巻（巻三十六）は、鹿児島城下を初め、藩内の各郷毎に、城下からの距離・郷村の石高・神社仏閣・衆中高人躰・用夫数などが記され、当時の現在が記録されているものである。特に村高については、藩の総高からみると、天明三年の内高によったものであり、当時藩内で公認された石高である。

御家格御政治向（巻三十七）は、類書も二三見られるが、必ずしも同じではない。特に一所持以下小番与までの氏名がみられることは貴重な記録である。

當時御役人（巻三十八）は、家老以下定火消に至るまでの安永七年当時の役人帳である。これも類書があるが、下役の役人名などは他書に見られないものである。

例　言

一、本史料集には、鹿児島県立図書館所蔵『三州御治世要覧附録年代記』と、鹿児島県歴史資料センター黎明館史料課史料編さん室（旧維新史料編さん所）所蔵（島津家編輯所旧蔵、東京大学史料編纂所現蔵）の『三州御治世要覧』巻三十六御分國之巻、巻三十七御家格御政治向、巻三十八當時御役人を収載した。両書とも写本である。

二、原稿作成に際しては、それぞれ前掲書によったが、年代記については、島津家編輯所旧蔵本によって校訂した。

三、印刷に際しては、分注などできるだけ原本の体裁に従ったが、一部字数を整えたところがある。

四、印刷に際して、原則として旧字体によったが、一部当用漢字に改めたものがある。また変体仮名はすべて通用体の平がなに改めた。但し江・者・茂・而については、活字を小さくしてそのまま使用した。

五、片カナのルビは原本に附されたものである。

六、本文には適宜、読点・句点・並列点などを附した。

七、不明か所・難読か所は□又は▨で示し、右傍に（　）で注記した。

八、本史料集の作成にあたり、旧県維新史料編さん所より、史料の閲覧・調査の便宜を与えられた。記して謝意を表したい。

九、本史料集の原稿作成は、主として甲南高校の宮下満郎が担当し、鹿児島大学教育学部の桑波田興が援助した。

（表紙）

三州御治世
要覧附録

年代記

自慶長十五年
至安永七年

三州御治世要覧 年代記 三十五 全

三州御治世要覧巻第三十五目録

太平巻年号

慶長十九　元和九　寛永二十　正保四　慶安四
承應二　明暦三　萬治三　寛文十二　延寶八
天和三　貞享四　元禄十六　寶永七　正徳五
享保二十　元文五　寛保三　延享四　寛延三
寶暦十三　明和八　安永

三州御治世要覧八、従清和天皇島津十八代之太守　家久公琉球國御征伐慶長十四年己酉ニ終、従己酉今之至安永七年戊戌、暦数凡百六十八年也、其間之歴代を考略し、後人備一覧、仍附御治世要覧之後也、

以上方他國為頭書、以我國記于下也、

慶長十五庚戌閏二月大、十二月三日、新納武蔵守忠元於大口卒ス、行年八拾五歳、伊集院半右衛門大口地頭被仰付候、

同十六年辛亥　正月廿一日、龍伯様於國分御逝去、

二月廿八日、家康公秀頼ヲ京都会命ス、二月廿七日譲位、人皇百九代後水尾四月廿一日御即位、

同十七壬子

七月十二日、大友義五郎卒ス、八月八日、中川修理卒ス、

同十八癸丑　六月、家久様御妹様、為御賀江戸へ御越ニ而候、大坂之秀頼籠城ニ付、大坂立有之、諸軍川内ニ着揃、京泊より出船、

慶長十九甲寅

同二十乙卯　元和元改　大坂籠城之御奉書到来、三月廿五日、本郷伊予守義則病死、弓馬之達者、

太守様五月五日、一万三千八百餘之軍勢被召列候而肥前迄御出陣候得共、急ニ御上洛ニ成、尼崎ニ御着、

七月十七日、御在京、于二条　御登城、将軍家御口自呼之、令任参議、同廿一日御参内、奉供ニ付琴・尺八御拝領、

元和二丙辰

四月十七日、大御所鎌倉御、駿州久能山葬奉ル、

同三丁巳

二月廿一日、勅シテ家康公廟東照大權現、

同四戊午閏三月小

同五己未　七月廿一日、惟新様於加治木逝去、御年八十五、

比時　太守様御上洛、御暇ニ而九月御帰國、

同六庚申　六月十四日、比志嶋紀伊守國貞死去、七十歳、

同七辛酉

同八壬戌

同九癸亥閏八月大　踊之儀新外城故、平山備後新地頭分ニ被召移、

同十甲子　二月晦日、改元寛永、十月十四日虎壽丸様御元服ニ而、又二郎忠元と御改ニ而候、「後ニ光久公御事」

一同十一月十二日、又二郎様鹿児嶋御立、

寛永二年乙丑

一四月十二日、又三郎様江戸へ御着、

一同廿二日、又三郎様　御登城、

一七月廿二日、於江戸又三郎様御母堂御卒去、備前忠清女也、法名心慈院安大姉、鳴津

同三丙寅閏四月小

一八月十九日、　太守様京都ニ而権中納言ニ被任候、従三位ニ被叙、九月六日、二条城行幸、同十日還御、

一十一月十三日、須木地頭村尾重昌死去、四十五歳、

同四丁卯

一日州都城牛桙山之内猪之八重と云所ニ而、飫肥之者共船板を取候を、庄内之者見合留置及口能、論山相初る、

一八月、鹿児嶋南林寺弓場ニ而、東郷重尚四寸的束矢、

一當秋、田地ニ小蠅と云虫入、

同五戊辰

一高岡法花嶽寺和泉式部琵琶、鹿児嶋へ被召寄候得共、如本返進、

一大口地頭新納加賀、於江戸被仰付、

同六己巳

人皇百十代明正院、十一月八日、後水尾院位皇女ニ譲ル、

同七庚午

一四月十八日、江戸御屋敷江　家光公渡御、同廿一日、　秀忠公渡御、

一十月五日、於亀様御逝去、　家久公　御前様、義久公御娘、持明彭窓庵主、福昌寺ニ奉葬也、

一十二月廿三日、　又三郎様薩摩守従五位下ニ被任、

寛永八年辛未

一四月朔日、中納言様薩摩守より大隅守ニ被任候而、又三郎忠元様薩摩守被任御元服、松平氏并御諱字御給りニ而、松平薩摩守光久様と奉申上也、

一七月廿五日、聖護院様二品道晃親王、大峯入ニ付、飯隈入部、

一八月六日、都城家老北郷源左衛門忠俊、悪逆ニ付以　公命於鹿児嶋被誅、翌七日源左衛門父北郷小兵衛忠泰、弟平左衛門忠仍、於都城被誅、諸人誠ニ相成也云々、

一十月六日、川上助七久如死去、跡地頭ニ而候、左京忠賢孫左京久林之子ニ而候、

同九壬申

正月廿四日、将軍秀忠公為他界、台徳院殿、贈正一位入相国、徳川将軍二代家光公、秀忠公御嫡子、北御世初ニ、西国大名ニハ品川口迄上使、奥羽ノ大名ニハ十住口迄上使被遣候得共、自今上使被遣聞敷、御高ニ被仰渡ニ付れ

一四月朔日、於江戸　虎壽丸様御誕生、吉利下総忠張御産弓被仰付、國次之御腰物忠張献上仕候由、後ニ綱久様、

一五月十八日、喜入大炊入道紹嘉死去、

一今年、御下國以後一向宗御改、日州高原其外所々有之ニ付、衆中ハ知行皆々被召揚、百姓ハ科

も卿曹物挙領之由、諸国太平記見、

同十癸酉

物被仰付候事、

一御分國田地不相並候ニ付、去年以来引並竿被仰付候、于世云寛永竿是也、

一都城中桙論山、以両使伊東修理太夫殿江被進候由、

一一向宗御沙汰有之、高原衆中一向宗、知行・屋敷被召揚候、

同十一甲戌

將軍家光公御上洛、

當甲戌比より御座配と申事初り、志岐田尻御太刀進上候哉、究而ハ不知由候、

一比志嶋宮内少輔國隆御家老御役御断、去寛永元年より相勤候、

一御分國目録、御使者市木八左衛門を以江戸へ被差出候、

一嶋津彈正久慶、御家老被仰付、

一諸士持高名寄帳、被返下御支配ニ付、

一十一月廿五日、　光久公御舎弟又十郎殿久直都城相続ニ付、　家久公より十五ケ条御教訓之御書拝領ニ而候、

寛永十二年乙亥

鎌田出雲政流殿・三原左衛門重鐃殿、年頭ヨリ御家老、

一今年、宗門手札ニ而改被仰付御取付ニ而候、寛永十一年、御分國改之手札生子迄、百姓八年付ニ而、一人ニ札一ッ宛相渡候と、大口書留ニ有之候、

同十三丙子

家光公日光御社參、

一家村壱岐守重治女正月十七日卒去、　家久公御妾、

一三月、山田民部少輔有栄殿御家老御役被仰付、

一黄門様御病気ニ付、御醫師久志本式部卿殿十一月八日鹿児嶋へ下着、

同十四丁未閏三月

一閏三月廿九日、久志本式部殿帰京、四月廿日慶祐法印鹿児嶋ニ下着、

一七月八日、夜星月ニ入、

一大口地頭新納加賀掛持ニ而候得共、當年ゟ移地頭、

一十月廿八日、出水より、肥後之内天草、肥前之内有馬表江貴理師丹蜂起之由、注進申上候、

一十一月三日、豊後御目附衆へ御飛札を以御届有之、出水之内獅子嶋江御老中山田民部少輔殿人数召列被出置、到来次第御加勢之筈ニ而候、

大口地頭新納加賀人数召列、十一月十五日ゟ獅子嶋へ渡海、十二月八日大口ニ帰宅之由、大口書留ニ有之、

同十五戊寅

一黄門様御病気、光久様御在江戸ニ付、肥前嶋原江為御加勢、人数一万千弐百六拾八人程被遣候、内人数三千七百七人大将嶋津下野守久元、三千六百九十二人大将北郷佐渡守久賀、三千六百九人大将嶋津豊後守久賀、弐百二十五人鹿児島衆、夫丸十五人兵粮渡衆、右三人外人来院石見・新

納加賀守忠快・山田民部少輔有栄・三原左衛門・市来佐渡守、右四人ハ同前談合役ニ而、嶋原ニ被参候、

或嶋津豊後殿・北郷佐渡殿・入来院石見殿・山田民部少輔殿・新納加賀殿主取ニ而千餘人被遣、當正月元日城攻有之、村尾源左衛門并伊集院衆中戦死と書付茂有之、大ニ相違候、或正月十一日大口衆嶋原へ渡海、地頭新納加賀と大口書留ニ有之、正月十三日嶋原へ阿久根衆渡海、同三月帰陣と阿久根書留ニハ有之候、庄内山之口地頭伊集院備後、為名代二男伊集院休右衛門山之口人数召列、出水米之津迄出陣候得共、嶋原落城故直ニ帰陣と山之口書留ニ有、

一黄門様御病気ニ付、於江戸正月十三日、阿部豊後守様を以　光久様江御看病御暇、且又肝煎有馬之一揆可撃之旨被仰渡、其日江戸御立ニ而、二月十四日肥前有馬江御着ニ而、攻口御請取可被成旨被仰達候得共、松平伊賀守様ゟ被仰候、中納言殿御病気大切之由候間、早く御帰國可被成由ニ而、攻口御渡シ無之候ニ付、有馬御立ニ而、同十六日鹿児嶋江御着、同廿三日　黄門様薨御、

一黄門様御他界ニ付、御葬礼役者ニ而候間、長野殿・酒勾殿早々帰宅候様ニ、二月廿五日重庸・貞昌・久國・久元ゟ嶋原江被申遣候書状、北郷佐渡守殿・渋谷石見守殿と有之、其時酒勾ハ新左衛門と為申由候、三月十日　黄門様御葬礼、福昌寺ニ而有之候、

寛永十六年己卯　島津十九代　光久公

一六月十六日、　太守様御帰城、當秋御家督、諸外城御巡見有之、

一宗門手札御改相済、去亥年ゟ相初り當年迄五ヶ年ニ相済、是手札改初りニ而候、

一琉球八重山嶋ニ異國之大船参候而、色々狼藉仕候聞得有之、渋谷四郎左衛門・喜入吉兵衛両人被差遣候、附衆鹿児嶋ゟ五人、外城國分ゟ十人、顆娃ゟ十五人、谷山ゟ二人、指宿二人、阿久根十五人、都合四拾九人下嶋、

同十七庚辰　諸國中疫病時花、ハヤル

一正月廿九日、　太守様為御参勤鹿児嶋御立、年寄役として嶋津豊後殿・入来院石見殿・吉利下総殿被召列候、三月廿三日江戸江　御着、二原左衛門殿御家老御断、

一二月廿五日、薩州伊佐郡祁答院長野郷ニ而、砂金ヲ掘出す、

一五月廿二日、　慈昭院様御送骨高野御登山、御供之御家老川上因幡殿、御使衆平田狩野宗弘鹿児嶋御立、

一同十月、琉球八重山嶋ニ悪逆者有之、渋谷四郎左衛門下嶋ニ而退治、

同十八辛巳

八月二日、於江戸、家綱公御誕生、

一嶋津彈正久慶御家老御断、穎娃左京久政御家老御役被仰付候、

一日州伊東境槻ノ川内・板屋ノ川内と云所ニ、山口事起る、

一於江戸四月三日、伊勢兵部貞昌死去、七十三歳、

一去年祁答院永野ニ而砂金掘出、掘候事御免ニ而、北郷佐渡殿請込ニ而金掘を被入、過分之金掘出、砂金九百八十九両餘御献上、

一當巳ノ八月初より田地虫入、

一十一月、　光久公吉利下総忠張江御成之節、重物入唐雪舟五百羅漢之屏風、為御引出物献上之山、

同十九壬午

一正月十四日、永野金山御拝領ニ而候、

一御系圖御用ニ而、川上因幡殿江戸へ持参、二月五日吉田備中守様へ被差出、御受取候、

一六月廿八日、　虎壽丸様御元服、又三郎久平様と中候、

同二十癸未

十月二日、慈眼大師入滅、天海と云、月光開山勝通上人ヨリ五十一代之盛主、日光山之中興開山、百十一代光明院、諱紹仁、明雲院之御弟、摂政九条之道房、

一年頭より、北郷佐渡久加殿御家老御役被仰付候、

一今年春、鹿児嶋諸士分十組、定ム組ヲ、

一御大老ゟ永野金山掘事、御停止ニ被仰渡候、

一四月、鹿児嶋城之上的場ニ而、東郷長左衛門重尚二寸四方之的ニ中、

一六月十二日、嶋津下野守久元死去、六十三歳、

一同廿七日、東郷肥前守重位死去、八十五、能学俊藝庵主、

寛永二十一年甲申正保元年改

一當春、御當所上組十与ニ而候得共、六組ニ被相改候、一番与頭嶋津安藝殿・吉利下総、此時吉利家之一所川邊之内野崎村、其後市来之内湯田村被下云々、

正保二乙酉閏五月

十二月二日、家康公之御願東照大権現之宮号ヲ被下候、勅使飛鳥井大納言雅孝卿云々、

一五月十日、嶋津大和殿與方卒去、私云、太守家久公御姫ニ而候、歳二十六、大和久章ハ鹿屋領地ニ而候、久章自殺之後、息又助忠清に新城被下候由、新城者元来鹿屋一名之内、申事に候、

一穎娃左京久政御家老御断、嶋津圖書久通殿御家老被仰付候、

同三丙戌

一四月七日、於江戸御屋敷御老中・大名・小名御招、犬追物張行、同廿六日御暇御給り、御下國ニ而候、

一同月、山之口移地頭伊集院備後死去、同所十輪寺ニ而火葬、嫡子伊集院源右衛門久往、於江戸山之口移地頭被仰付候、

同四丁亥

一八月廿三日、於江戸嶋津玄蕃忠紀殿卒去、

一今年、宗門手札改有之、

一十一月十三日、於江戸王子村　太守様犬追物御張行ニ而、　公方様備上覧、御家中射手奉　尊

顔、

一十二月十一日、於谷山下福元村清泉寺嶋津大和自殺、三十歳、兵具奉行平田氏・二原氏、

一南蛮船来于長崎、此時北郷佐渡・相良権兵衛于長崎被遣、

同五戊子閏正月有

一閏正月、伊集院源右衛門江戸より下着、山之口移地頭、

一二月、年号慶安ニ改、

一八月、諸外城江大組頭を定、

慶安二己丑

一御家老川上式部久國殿御役御断ニ而号商山、山田民部有栄御家老御断、敷根筑前殿・町田源六久慶御家老役被仰付、筑前殿嶋津号并久之字拝領ニ而、嶋津筑前久頼殿と云、源六殿ハ町田伊賀久則ニ被罷成候事、

慶安三年庚寅閏十月

今年五月七日、既張大納言義直卿薨ス、

同四辛卯

四月二十日、於江戸征夷大将軍従一位左大臣源家光公薨、四十八、大猷院殿、贈正一位大相国、於江戸述懐之浪人共事及露顕、張本人者池井正雪・正貞・丸橋忠弥

令謀叛、火事ト云セ飛火ヲ放チ江戸中ヲ闇ニナシ、双紙之桃灯ニテ御二家之名ヲ借リ、御城内ニ押入リ、将軍家ヲ質ニ取テ天下ヲ可奪給之処ニ、丸橋手ヨリ露顕、京都ハ加藤市右衛門・加藤三郎兵衛、江戸ハ丸橋忠弥、駿府ハ池井正雪・同二右衛門・佐原十兵衛、大坂金井半兵衛・吉田初右衛門、正雪駿府自害、阿部川河原獄門、八月十日丸橋ヲ初二十余人鈴森ニテ磔ニ被行云々、

同五壬辰

年号ハ九月ヨリ承応元年ニ改、

同二年癸巳

一當春、二番与頭嶋津市正・佐多又四郎・頴娃右京・鎌田源五郎・吉利仲四郎五人ニ被仰付候事、

一琉球人立有、正使國頭、今年、宗門手札御改有之、

一庄内山之口麓桜之馬場今ハ云田地竿入、東郷肥前・猪俣為右衛門・汾陽次郎右衛門、

一五月六日、光久公御娘卒去、幻花童女、恵燈院ニ御納リニ而候、

一十二月朔日、嶋津中務殿奥方卒去、光久公御妹ニ而候、

同三甲午

一二月十七日、大口地頭新納加賀忠清大口ニ而死去、六十歳、家来牧山清兵衛其外二三人殉死ス、

一同十二月、加賀忠清嫡孫新納次郎右衛門大口地頭被下候、

九月二十日、百十一代帝後光明院崩御、

同四乙未

良仁親王、十一日廿八日踐祚、年号改明暦元、

一綱久様四月十一日御暇御給リ、同廿二日江戸御立、五月七日ニ鹿児嶋へ初而御入國、御書院冊之間ニ被成御座、同七月五日ニ二之御丸ニ被遊御移徙候、敷根筑前守頼善ニ、今年嶋津之称号永々被許也、

百十二代後西院、諱良仁、後水尾第四子、二条光平公関白、

明暦二年丙申閏四月大

一正月二十七日、　綱久様鹿児嶋被遊御城御立、

同三月十七日江戸江御着、

一六月廿六日、永野金山御明御拝領、北郷佐渡御家老御役御断、今年御分國中宗門手札改有之、

同三丁酉

正月十八日同十九日、江戸大火事、御城酒本丸天守炎上、諸大名町焼ツクス、同二十三日林遺春卒ス、羅山子ト号ス、　月伊達忠宗卒ス、十月十二日前田肥前守利常卒ス、

一二月二日、　中将様鹿児嶋御立候得共、於日州江戸御屋敷御焼失ニ付、御参勤被相延候御奉書到来ニ付、夫ゟ御帰城ニ而候、

一六月廿日ノ夜、毛フリ下ル、同廿一日大雨洪水、

一七月、御諏方御祭礼、當年より別火頭屋ニ立、

此以前ハ頭殿居屋敷ニ造ル、

一庄内山之口田地御支配竿入、　山之口ニケ村惣高、二千二百四十六石二斗五升七合三夕九才也、

一九月十六日、薩州出水之内長嶋外城ニ被取立、移地頭仁礼左近、

一日州高原御支配、田地御竿入曖郡見廻ニ被仰付、相勤也、

同四戊戌

一二月、庄内山之口桜馬場地頭屋敷・衆中屋敷田地ニ相成、竿入中候、竿奉行新納茂左衛門、日州御竿例奉行汾陽次郎右衛門也、

一七月廿八日、諏方御祭礼例ノ通、今日より年号萬治元年ニ改元也、

一嶋津中務久茂殿御家老御役被仰付候、十二月四日庄内山之口移地頭伊集院源右衛門久往死ス、児玉四郎兵衛ニ移地頭被仰付候、

萬治二己亥

一當春、庄内都城より高城・山之口・勝岡之通路ニ並松ヲ植ル、

一八月七日、東郷肥前守死去、八十二歳、重位之嫡子、二代目、兵法達者、

一百姓共田地御支配ニ付配有之、庄内山之口ニ鹿屋牢人、志布志・垂水并都城・串良・穆佐・大崎等より男女百五人被移、

一御分國田地御支配相済、當秋諸士名寄帳相渡、

寛永年より初而、世ニ万治大増支配なり、

同二庚子

一大老之命ヲ受テ、串木野芹ケ野金山ヲ掘、

一八月、新納弥兵衛忠尊大口地頭被仰付候、先地頭新納次郎右衛門忠饒、當五月十二日長州信崎ニて二十二才ニ而死去故如此、忠尊ハ次郎右衛門養子也、

一日州須木ニ一向宗起テ、須木衆中十九人一向宗之沙汰有之、

萬治四年辛丑閏八月

正月十五日、寛文ニ改元、

一當春より薩州羽月水流邑方田に成、大口ノ大田村轟井をセキ、溝を掘掛レ候得共、當年ハ水を不持、

一四月廿五日、年号寛文ニ改、六月廿五日伊集院

右衛門殿卒去、八月十一日虎助様御誕生、松平河内守様御娘ニ而候、後ニ嶋津兵庫殿と申候、

寛文二壬寅

一當春、大口地頭新納弥兵衛大川ニ井手ヲセキ、大田・里村畠方田成、十王原下り深溝を掘、水ヲセキ入ル也、

一伊勢兵部貞照殿御家老御断、新納又左衛門久了・町田勘解由久昌御家老御役被仰付候、

同三癸卯

一御家老町田伊賀殿御役御断、

一六月七日ヨリ七月十九日迄、日数四十二日間、夕立も不参大日照、

一殉死一天下法度ニ被仰渡、此時之執政松平伊豆守上聞シ被禁内、嶽台雑話ニ見ユ、

同四甲辰閏五月

一奥作有之、九月十五日御移徙有、巳時吉時之由候、

一十二月六日、大口地頭新納弥兵衛死去、四十才、新納又左衛門殿大口地頭被　仰付候事、

同五乙巳

一正月十七日、大口地頭仮屋出火ニ而不残焼失、辻々ニ番屋作火用心、

一隅州大根占城本村・馬場村御新田成就ス、惣奉行菱刈孫兵衛、溝奉行伊東了右衛門・古後七郎右衛門、

一七月廿五日、聖護院道寛親王大宰入、寛永八年ヨリ初而飯隈入峯、

一八月、日州高原神徳院東叡山直末寺ニ成、神徳院ハ開山性空上人以来十八世迄天台別院、當年法派御極ニ付、無是非末寺ニ成也、

同六丙午

一鎌田蔵人正信御家老御断、嶋津帯刀久元御家老被仰付候、

一大口地頭新納又左衛門殿ニ而候処ニ、嶋津久元ニ被仰付候、

同七丁未閏二月

一諏訪左右衛門兼利御家老御役被仰付候、

一七月十二日、嶋津安藝殿卒去、

一十二月廿五日、於江戸延久様御元服、御加冠家綱公、被遊松平氏御給り、松平修理太夫四位少将被仰出候事、

同八戊申

一當春、肥前嶋原城揚り地ニテ、同十一月日州伊東氏番手被仰付、薩州大口通ニテ肥後水俣ニ被出、騎馬四十八騎、雑人迄二千餘人云々、

一嶋津中務久茂殿御家老御役御断、

寛文九己酉閏十月

一太守光久公、四月十五日庄内高城之内田尾小善城ト云所ニテ御狩、諸外城ヨリセコ被召立四千八百餘人、猪鹿百餘丸取得候、

十一月朔日冬至、古ヨリ朔巳ト十巳出度事トス、依之冬キ之儀被行、

同十庚戌

一嶋津新八郎久賢殿御家老御役被仰付候、
一薩州様七月廿五日初而御入國、未之下刻二之御丸ニ御着ニ而候、

同十一辛亥

一三月十五日、　光久様庄内高城去酉年狩倉ニテ、セコ千六百八人程被召立御狩、猪鹿七十三丸取得候、
一諏訪左右衛門兼利殿御家老御役御断、
一六月三日、肝付半兵衛殿奥方卒去、
一琉球人立有、

同十二壬子閏六月

一嶋津出雲久胤殿御家老御役被仰付候、（後ニ嶋津図書久竹、）
一今年、肝付弾正殿一代久之字御免被仰付候、
一九月十六日、於鹿児嶋塩屋屋籠を取候節、物頭ノ長谷場十郎右衛門足軽ニ内七右衛門・関田次郎右衛門戦死ス、
一今年、御分國中宗門手札御改有之候、

同十三癸丑

一正月五日、　御前様於江戸逝去、　綱貴公御夫人、松平左兵衛督信平様御女、観了日脱大姉、御牌興國寺、
一二月十九日、於江戸　薩州様御逝去、（御家名綱久公、）御年四十二、泰清院殿関山良無大居士、
一福昌寺炎上、
一四月十五日、庄内山之口移地頭児玉四郎兵衛依願地頭御免ニテ、新納縫殿ニ被仰付、鹿児嶋ヨリ掛持、御役料高二百石、
一琉球人立有、
一年号延寶元年ニ被相改旨、九月二十一日より、
一十月十五日、伊東領清武隈之原治右衛門、山之口ニテ馬盗取、
一於江戸十一月廿八日、　太守様従四位上左近衛権中将被仰出、

延寶二年甲寅

一嶋津中務久輝殿御家老御役被仰付、
一十二月廿一日、日州伊東出雲守様御領内飫肥北川内境、つきの川内・板屋之川内論山、江戸へ御訴訟申上候旨屈有之、

二月、ヤソ宗門改ニ付、京都町中宗旨改有之候、京町数千八百五十二町、

一天竺宗千五十人
真言宗一万七十人
一法相宗五十四日二人　一禅宗一万千六人　一浄土宗十二万二千四十四人　一律宗九千九百十一人　一法華宗八万千五百八十六人　一西本願寺四万千五百八十六人　一東本願寺八万百十一人　一高田門徒七千四百六人　一仏光寺八万三百六人　一大念仏千八十人　一山伏六千七十二人　都合四十二万五千六百四十一人
内男十八万二千七十人
女二十三万三千五百七十一人

延寶三年乙卯

一庄内山之口移地頭新納縫殿依願地頭御免ニ而、丹生弥兵衛信註被仰、御役料高弐百石被下、移地頭ニ被仰付、
一八月、庄内山之口衆中古川次郎兵衛、鬼山城筋白水ケ野邊ニ駕ニ差越候処ニ、未明通道ニ出候得ハ、馬盗人と相見得、馬三疋二人ニ而牽越候ニ付、追掛候ヘハ、馬を捨、高城飛地狩倉谷下リニ逃行不追付、右馬山之口ニ牽越御披露申出候得ハ、馬ハ入札払被仰付候、右盗人ハ隅州末吉衆中笹原弥右衛門、高城町之治兵衛・柿木崎

市之丞、清武之隈之原治右衛門と申者、弥右衛門今年高岡ニ而搦死、此四人之内治右衛門ハ清武ニ而誅伐、残三人御成敗、以後馬盗無之候、

一九月十七日、菊三郎様鹿児嶋二ノ御丸ニ而御誕生ニ而候、（後ニハ吉貴公、）

一十一月廿二日、日向那珂郡北川内と諸縣郡梶山論山、北川内理軍ニ被仰渡、壱万七千百九十弐間、里ニシテ七里卅四町二間間之山論ナリ、

同四丙辰

一二月十六日、嶋津兵庫殿忠朗卒去、六十一歳、

一外城之士、鹿児嶋ニ而筆者役人申付間敷旨被仰出候、

一九月三日、町田出羽殿卒去、（家久公御子、）

同五丁巳

一今年、御分國中宗門手札改有之、

一六月廿日、大口大洪水ニ而、ケ様之儀近年無之事之由候、

一都城安永村之内、荒川内ニ馬次所を被建、宿馬初ル、

同六戊午

一四月四日夜九ツ半時分、下納屋町より火起り、下町不残焼失ス、同五月朝五ツ前ニ焼鎮る、焼屋敷四百廿ケ所、相残屋敷十五ケ所、焼家数一千弐百三十一、士屋敷十五ケ所、焼候蔵屋敷壱ケ所、下町中江為御心附、真米千俵被下候事、（一六月十五日、女院崩御、東福門院、一今年、石清水放生会再興ス、）

一七月三日、東郷善助死去、兵法者ニ而候、法名了山龍心庵主、

同七己未

一中将様今年四月十八日雨天、午ノ下刻　御城被遊御立、横井御茶屋江御一宿ニ而候、

一五月廿八日、庄内山之口番所、梶山差引ニ被仰渡候、在番人肝付志摩之丞、

一御使役之事、御用人御役と六月六日改名被仰付候、今晩八ツ時分大風ニ而、前之海ニ懸リ居ル船三艘破損ス、

一嶋津市正忠廣御家老御役御断ニ而、萬山と改名被成候事、

一十一月廿一日、南林寺弓道ヘ　薩州様朝五ツ過御光儀ニ而、諸士弓被遊　御上覧候事、

延寶八年庚申閏八月大

一正月十二日、申刻スレヨリ平ノ馬場田尻八兵衛屋敷より火起、大火ニ成、下・中三ケ二町中大半焼失、其日春山御関狩ニ付、六組共ニ罷登、鹿児嶋無人之由候、夫々与分ニ而御狩有之、同十三日五ツ時分ニ焼鎮ル、諸士江拝借米被仰付、家内差出を以、壱人ニ付米壱斗ツ、相渡候、町中ヘ米千俵被下候、佐多内記殿江ハ米六拾石御給候、惣焼屋敷八百四十九ヶ所、内壱ヶ所ハ客屋、壱ヶ所ハ屋久蔵、三百四十五ヶ所諸士、一ヶ所ハ天神宮地、十一ヶ所ハ南林寺脇寺、八ヶ

（五月五日、林春斎卒ス、号弘文院、同八日、征夷大将軍正二位右大臣源家綱公、於江戸薨、御歳四十歳、戒名院殿、贈正一位太相国、八月十九日、法号崩御、八十五、同日六日、東福寺葬奉ル、後水尾院ト謚奉ル、歌人、徳川将軍五代目綱吉公、家光公三男、正保二年丙戌正月九日御誕生、御母ハ本庄太郎兵衛女、）

所ハ御中間并細工人屋敷、三百九拾一ヶ所ハ町屋敷、惣様家数三千三百八軒、内廿三客屋、十二屋久蔵、弐千五拾九諸士、廿六脇寺、百七十二右之門前、廿七御中間細工人、四十四ハ諸士、下屋敷九百廿三、町中惣様死人五十四人、内十三人、山崎藤兵衛・大山五郎左衛門・同人妹、下人廿二人、士方下女七人、同町男五人・女五人、

一二月九日、　中将様、土井能登守様上使ニ而、御國元江御暇御給りニ而候、

一六月廿七日七ツ時分　中将様御當地ニ御着城、

一閏八月六日、朝五ツ時分ゟ風雨甚敷、益々強く成立、四ッ時ゟ七ッノ比大風別而盛也、寺社及大破、三十年来覚不申由、古老ノ衆被申、

一薩州東郷、嶋津弾正殿私領ニ而候処ニ被差上、外城ニ成、居付ノ家来共、直ニ東郷衆中ニ被仰付之由候、

一十月十三日夜子刻、岩切諸右衛門殿より火起り、貴嶋伊右衛門殿類火ニ而候、

一同十一月八日午ノ刻、南林寺門前三ケ二焼失ス、

一同十九日午ノ刻、内田道圓老屋敷ゟ火起り、屋久嶋蔵迄焼失ス、

一十二月朔日、辻々ニ火番所作り、火用心有之、

一同廿九日、御用人喜入次兵衛御取次ニ而日州高原江被仰渡候ハ、高原之内高崎割候而、外城ニ

同九辛酉

被仰付旨被仰渡候事、

一當春、高原割外城ニ而高崎被召立候ニ付、外城支配被仰付候所ニ、紙屋之儀外城御引取ニテ野尻ニ被召付、此時高原地頭職ハ山田民部殿、高崎ハ村尾源左衛門殿ニ地頭被仰付、小林ハ黒葛原吉左衛門殿ニテ候事、

一三月廿六日、　中将様庄内江　御光越、高城小善城山之口ノ内下り谷場貫と云所ニテ御狩、御供御老中嶋津市正殿、山奉行有馬嘉右衛門田尾へ御越御狩、惣人数朝ゟ晩迄鉄砲打候数不相知、猪鹿二百餘丸取得候、鹿児嶋ゟ串目下知松本覚右衛門・鬼塚孫左衛門被遣候、桂李之助殿・別府式部左衛門殿を以曖方へ被仰渡候事、

一日州高原割外城ニ付、五月十七日、惣検者菱刈孫兵衛殿・野村太左衛門殿、附衆鎌田市兵衛、蒲牟田村・後川内村高原麓ニ相付、小林之内廣原村ニ用夫廿人相添高原ニ附、野尻より衆中七人、同所之内水流村ニ用夫九十三人相添高原附、高原之内前出村・大牟田村・縄瀬村三ケ村ニ而、高崎一外城ニ相立候、高原・高崎境引、山奉行林休兵衛、高原・高崎曖、小林より行司横目立会、高原衆中屋敷百三十九ケ所、高崎九十三ケ所ニ而候、此時高崎地頭村尾源左衛門ハ吟味役、

一八月十九日申ノ刻、　薩州様　御着城ニ而候、

一九月十八日申ノ刻、菊三郎様被遊御發駕、御當地より出水迄之御國道中六日、小倉道中十八日、中國道中廿四日、東海道廿日、道中御賦也、

一十月朔日より年号天和ニ改元之由、被仰渡候事、

一北郷惣次郎殿忠時御家老御役被仰付候、

天和二年壬戌

一正月九日、菊三郎様江戸へ御着ニ而候、被仰出趣、

毎度被仰出候得共、於于今緩ニ有之候条、又々被　仰出候、當所若キ者共、頃日旧風躰悪敷、或ハ月代之致様、額の取様、別而見苦敷、或白頭巾小文字を書散、又ハ異様之頭巾なと大勢一様ニかつきつれ、衣類之着し様、刀之差振、惣而作法悪敷、或路次屋敷をも不嫌、竹鉄砲を打込、無用之所ニ高聲を挙、何之所作有之共不相見、徒夜白行廻之条、不届深重に被思召上候、殊ニ　御代替り之砌ニ而候処に、仕置大形ニ而、右通有之様ニ相聞得候へハ、旁以不可然儀ニ候間、自今以後、萬事行跡詞をも嗜、学文武藝心懸、待遇寄合慇懃に仕、風儀可相改旨、急度可申渡、於其儀者、面々与所江召寄、稠敷申渡置、白然　仰出之趣相背族有之ハ、曲事可申付旨被仰出候、

天和二年戌二月五日

一二月六日、薩州様鹿児嶋御立、尾黒江御滞留、琉球衆二月九日四時、御當地打立上洛、薩州様昼八ッ時尾黒御立ニ而、市来湊江御一宿、二月廿二日朝京泊御出船、琉球衆同前、

一嶋津助之丞殿忠守御家老御役被仰付、

一八月廿二日、名護王子卒去、

一十一月七日、於江戸　綱久公御夫人御卒去、松平隠岐守定頼御女、真修院殿幸延妙榮日長大姉、御香尊江戸ヨリ清水弥兵衛守下ル也、

同二癸亥

一二月十九日、　綱貴公後御夫人卒去、蘭室院殿身安貞法大姉、

一五月三日、菊三郎様御元服、　光久公御加冠、嶋津又三郎忠竹様奉称也、

一今年受命、掘ニ薩州鹿籠之金山ヲ一

天和四改元貞享元

貞享四年甲子

一二月廿二日、年号貞享元年ニ改、御當地ニテハ四月朔日ヨリ貞享と改元之由、被仰渡候、

一七月廿五日、聖護院道祐親王大峯入ニ付、飯隈山上洛、

一當秋、御分國中宗門手札改有之、

一諸外城高帳之儀、家督計ニ而候得共、當年ヨリ嫡子・二男・二男・末子迄、諸衆中一人モ不残書載候様ニ被仰渡候、但男計ニ而候、

成年代記曰、貞享元年六月廿七日、豊後国佐伯海中ニ光有、取揚見レハ一尺七寸之仏像ヲ得タリ、其せなかに銘有、曰、明方歴丁酉廿五年季夏吉日、唐瑳本里春政王叔果同妻陳氏頂師云云、

同二乙丑

一三月廿三日、日州伊東領佐野ト申所ニ居候者共

八家内、八重と申所に居候物共十四家内、合男女七十七人、御家を奉頼、庄内山之口邊路飛松と申所江参候、馬拾三疋・鉄砲廿五挺・弓弐張持参申候、則鹿児嶋へ言上、地頭最上右近則御當番御老中種子嶋蔵人殿へ被申出候、新納又左衛門殿へ御相談ニて、欠落者共及飢仕合ニテハ如何、不飢様ニ御米被仰付、同廿七日地頭右近夜通ニ山之口ニ差越、相談人大寺弥兵衛、梶山番肝付志广丞、飫肥之使者阿万武兵衛・安井弥右衛門両人ゟ證文出、欠落者共罷帰候事、長ヶ故略ス、

一深見元泰と申人今年被召抱候、父ハ深見休兵衛と申薩摩人、異國往来自由之節大明渡海、十ケ年餘逗留、唐人大通師役、私師匠者黄檗独立十年薩摩ニ居候、私兄深見休泰、姪深見覚左衛門・深見新助等ハ今以薩摩居候由、自分書出見、

同三丙寅閏三月小

一喜入右衛門殿久亮御家老御役被仰付候、後ニ改名又兵衛・又安房、

一日州佐土原城主嶋津式部久壽家老松木左門、私意ヲ高ニシテ上ヲ蔑如ニシテ驕ニ長シ、一家之政ヲ恣にする之聞得有之、依之御家老嶋津帯刀殿久元、御老中大久保加賀守様忠朝ニ被申出、御免之上ニ而、佐土原之家老樺山主馬久孝・宇宿傅左衛門・酒勾源左衛門高昌ニ申付、松木左門并二男三四郎・三男長次郎僕従三人付、閏三月四日、日州高岡ニ送ル、倉岡在番木上新右衛門・丸尾太兵衛綾在番、并高岡衆中三十人相付、薩州加世田ニ送り禁錮ス、

一左門加世田へ被遣候跡ニて、左門餘党相残、叔父村松三太夫企奸謀之由相聞得、御用人相良主税長清・村田為左衛門経景・中神蔵之丞頼安、七月廿二日鹿児嶋出足ニ而、同廿五日佐土原ニ参着ニて、式部少輔殿家老樺山主馬久孝・宇宿傅左衛門久運・浅山治右衛高重出逢、三太夫を捕可申と、山口権太夫宅へ参候様申遣候得共、松木三郎五郎宅へ引籠申候、三郎五郎叔父森清兵衛同意ニ而引籠故、同廿八日人数差遣討取、役者共家宅ニ火掛候得共、脇ニハ掛リ不申由、三郎五郎・三太夫・清兵衛討取、三十餘人死人有之由候、右之首尾、貞享三寅七月廿八日、御使者吉田六郎右衛門清兼鹿府罷立、同八月廿三日江戸へ参着、御老中大久保加賀守様・阿部氏・戸田氏・牧野氏江被参事済候由、三郎五郎ハ左門嫡子也、

一十一月始ヨリ、下郡元牛掛脇田谷山迄、白貝□出来候事、

貞享四丁卯
百十四代東山院諱朝仁、今年二月廿一日受禪、同四月二十八日御即位、此時一条

一二月十三日、於江戸虎徳様誕生、後ニ嶋津周防殿と申候事、

冬経公関白、同年月朔日御即位為御賀儀、侯科肥後守参内、献上物御太刀一腰、縮五百把・白銀五百枚、東院御所へ御太刀一腰・縮二百把・白銀三百枚、仙洞へ右同断、女院へ御太刀一腰・縮一百把・白銀二百枚献上也、同十一月十六日大嘗会被行云々、

一依水戸黄門光國卿命、為文書写、佐々助三郎薩州ニ下着、

一七月廿七日、　太守様光久公御隠居、　薩州様綱貴公被遊家督、

同五戊辰

一平田新左衛門殿宗正、綱貴公御部屋栖之節ゟ二之丸御旅御家老ニ而御座候処ニ、御家老御役被仰付候、

一七月朔日、　中将様光久公御四酡屋敷江御移徙、

一八月六日、　太守様綱貴公御着城、

一九月廿七日、御物座御國遣座と被相改候事、

一同廿八日、　中将様為御参勤鹿府御發駕、

一年号元禄と改元之由、十月六日ゟ相改候様ニ被仰渡候、

年号元禄改元、九月晦日ヨリ改、

一高原衆中小森武兵衛鹿児嶋江被召移候、行司役相勤候由、

同三庚午

元禄二己巳閏正月

一正月十六日、本高麗町上村正右衛門殿ゟ火起り、向高麗町焼失、火飛て新屋敷船手近所迄焼失、

一閏正月十三日、下樋之口森岡孫之進殿火起り、一ケ所焼失、

一同十五日、西田中町焼失、

一二月、花尾山丹後局御茶毗所六地蔵御建立、御家老平田新左衛門宗正、大乗院現住慧承公命、

同四辛未

一二月六日、宮原玄智より火起り、西風ニ而新屋敷樋之口、又南林寺隠居迄焼失、同七日ヨリ辻々ニ番所造り往来送候事、

一三月三日、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、

一六月十一日、　中将様御國元江御暇、御使野元助右衛門罷下候、六月廿八日江戸御立ニ而、八月廿八日御着城、

一正月四日夜四ッ時、荒田町ニ火起り、町中焼失、

一旧冬十二月十五日、　又三郎様　公方様御加冠ニ而被遊御元服候、　松平修理太夫吉貴公と御改名、従四位下被仰出候由、御到来ニ而候、

一五月十二日、御船手検者所より夜亥刻ニ火起り焼失、其夜ハ大雨ニ而候、御船奉行谷山孫右衛門殿在番ニ而候、

一於江戸四月十八日、上使阿部豊後守様ニ而、太守様御國元御暇、

一三月廿七日九ッ半、仁礼覚左衛門殿ヤネふき三左衛門屋敷ゟ火起り、有馬七左衛門殿迄ニ而火止ル也、

一五月廿二日夜中時分より、下二本松山之口邊洪水ニ而、船馬場ヲ通用、諸人江御物より粥被下候事、

一中将様ハ四月六日御國元御暇ニ而候処ニ、御病

氣故、閏八月廿一日ニ御立、廿三日御道中ニ而、
九月十四日伏見江御着、同廿一日大坂、同廿七
日ニ御乗船ニ而、十一月三日ニ被遊御着城候、
一今年、御國中宗門手札御改有之候、
一今年、日州天台宗一寺高原神徳院、薩州天台宗
一寺野田之山内寺と、此節ゟ寺格被仰付候、右
両寺、今年神徳院より山内寺を末寺と書出候得
共、其以後山内寺ゟ由緒書古跡之訳を以段々申
出趣達　賞聞候処、山内寺有由緒古跡候間、神
徳院末寺ハ難申儀候条、御領内ニ而神徳院ハ
日州之一寺、山内寺ハ薩州之一寺ニ被仰付、両
寺別立候様ニ有之度旨上野明王院江被仰聞、而
執當覚王院・佛頂院江右之趣相達候処ニ、　思
召之通両國之一寺ニ御極可被成旨、両執當より
被申付由明王院ゟ被申遣候故、両國天台宗之一
寺ニ被仰付候、

元禄五年壬申

一六月十日、琉球佐敷王子登城、
一同十二日、　中将様御参勤として鹿府御立ニ而、
苗代川江御泊、
一九月廿七日、　太守様御着城、虎安様此節初而
下向、
一祢寝孫左衛門殿清雄御家老御役被仰付、丹波と
改名ニ而候、

同六癸酉

一二月十六日晴天、　太守様御参勤、鹿児嶋五ッ
半ニ御發駕、東目筋御登、小堀川ゟ御船ニ被為
召、加治木へ御一宿、肝付表御通道、
一五月廿二日、大雨洪水ニ而、御物ゟ粥被下候、
一七月廿五日、聖護院道尊親王大峯入ニ付、飯限
山上洛、
一十一月廿一日朝四ッ時、下中ふくら鍛冶屋ゟ火
起り、一ケ所焼失、其日晴天、

同七甲戌閏五月

一紀州高野山僧口事ニ付、百五十人程、當春御國
元江流罪ニ而候、暫中村ニ屋敷構ニ而被召置、
其後佐多之内邊塚へ被召置候、然処ニ坊主一人
薪取ニ参、行衛不相知候故、鹿児嶋ゟ役々被差
越狩共有之候得共、不相知候、程経て谷ニ落死
有之候を見出候事、
一修理太夫様へ松平越中守重定御縁与、四月於江
戸御取組ニ而候、
一中将様酉六月御下向ニ而候処ニ、御病気ニ付、
橘隆庵老壬五月廿八日ニ江戸發足ニ而、小倉筋
下向、六月十九日鹿児嶋へ着ニ而候事、
一四月初より同六月まで、谷山脇田にてあやつり
有之候事、
一中将様御病気ニ付、御参勤御延引御断之御使者
嶋津縫殿殿、七月三日ニ鹿児嶋被立候事、
一十一月三日、御旧例之鏑流馬、上馬町出越右衛

門殿・松崎休左衛門殿被相勤候、　中将様御立願方、上馬黒葛原善介殿・比志嶋善八殿・伊東次郎右衛門殿・めのと芦谷茂右衛門殿・御名代虎徳様・御老中肝付主殿殿・御用人野村太左衛門殿、同十八日、遊行上人尊通鹿児嶋江着ニ而、浄光明寺へ被入候事、

一十一月廿九日、　中将様御逝去、御歳七十九、此節大雪ニ而三四尺程積、

一十二月十九日暁御葬礼、御法名寛陽院殿泰雲慈温大居士、御葬場役者次第、御棺守先佐多豊前殿、跡嶋津権十郎殿、本家北郷、御太刀本田熊之助、御天蓋猿渡新右衛門、御香爐御香合指宿衆中長野筑右衛門、御茶碗御茶入御茶筅御茶杓同所衆中長野市左衛門、御茶碗御湯入御サジ同所衆中長野六左衛門、御花瓶財部衆中長野三郎兵衛、御燭台出水衆中長野伸右衛門、下炬松明末吉衆中長野覚右衛門、御茶湯提子長野庄兵衛、御燈爐木藤平右衛門・木藤長左衛門・木藤正左衛門・木藤四郎兵衛、御幢中村監助・中村勘右衛門・串良衆中中村孫兵衛・中村新助、御葬馬右梶原主水、左梶原平右衛門蒲生衆中、右梶原清兵衛、左梶原善左衛門、　光久公之御世源姓、中冑ニ惟宗姓、承久三年六月近衛基通公依レ命為藤原姓、而世々太守藤也、至光久公用源姓、

一今年深見元泰願ニ付御暇被下、他國江戸ニ被参、

同八乙亥

御旗本格ニ被仰付候由、

一三月廿七日、春山ニて御関狩有之、四月初より谷山脇田ニ而あやつり有之、

一太守様三月六日鹿児嶋御立、同四月十八日十九日御老中方御廻、同廿一日御登城、嶋津圖書殿息女於まつ局江戸へ五月三日着、六月朔日　太守様御姫分として、嶋津左京殿江御祝言相済、

一匠作様吉貴公初而御國元江御暇、五月廿七日阿部豊後守様上使ニて御暇被下、六月十日江戸御立、七月廿五日初テ御入國、御供之御老中嶋津中務殿、御番頭入来院志摩殿、御用人市来次郎左衛門殿・上井五郎左衛門殿、奏者番村尾源左衛門殿、同堀四郎右衛門殿、兵具奉行伊地知蔵之丞殿、同假役中神七右衛門殿御供ニ而　御着城、御礼使新納主税殿東日筋被参候、

一寛陽院様御遺骨高野山江御登山、六月五日八ッ過福昌寺御立、御供御老中嶋津縫殿殿・嶋津大蔵殿、御用人村田伊左衛門殿、同向井市之丞殿、自分御供若松宗休、於高野御石塔奉行清水弥兵衛也、

一七月廿三日、谷山衆中橋口三郎兵衛安行死、享年七十六、刀鍛治上手也、

一同廿八日、　匠作様御諏訪江御社参、同廿九日福昌寺御佛詣、

一八月十五日、諸役人江御入部ニ付御祝御料理被下、御能有之、

一同廿五日、福山御馬追ニ御登せ候、霧嶋御参詣、

同九月朔日ニ御帰り、御供御老中佐多豊前殿御父子・嶋津中務殿御父子・嶋津助之丞殿御父子、御用人市来次郎左衛門殿・鎌田後藤兵衛殿、御馬廻り御供何れも江戸賦、霧嶋御供ハ御國賦、

一八月、谷山脇田ニてかふき有之、當年、隅州田代川原村御新田成就、

同九丙子

一太守様御任官、元禄八亥十二月十八日、従四位上左近衛中将被　仰出候由、子正月十五日川上平馬御使ニ相知候、

一正月廿一日、御任官ニ付、御一門衆・与頭衆・一所衆・諸地頭、其外諸士江朝御料理被下、晩ニハ御膳進上、御能有之、御能与志賀東北養老、

一同廿六日、匠作様東目筋被遊御發駕、御下屋敷五ツ半被遊御差出、御茶屋ゟ御船ニ而加治木江御着、御供御家老嶋津中務殿・佐多豊前殿御父子・嶋津助之丞殿、御用人市来次郎左衛門殿・堀四郎右衛門殿、奏者番五代舎人殿、其外奉供ニ而候、二月十日江戸へ御着、御参府御礼済、

一四月廿二日夜子刻、上浜町ゟ火起り、折節東風ニ而、士屋敷五十四ケ所、　御城ミまや焼失ス、金銀蔵屋敷残、士屋敷家数八百五十四、町屋敷弐百十三ケ所、家数五百五十軒、土蔵十、堂二ツ、火元上和泉屋町助右衛門借屋、伊地知休右衛門下人清右衛門、松沢全之允　嶋津虎安殿家ゟ落半死、新納次郎四郎家来焼死ス、

一御城御門橋外口ニ仮番被仰付候、假兵具奉行四人、大嶋盛太夫・猿渡十郎右衛門・中神七右衛門・伊東半右衛門、諸外城百姓ハ申ニ不及、諸衆中迄竹木縄自分ニ持参仕進上有之、火本清右衛門籠舎被仰付候、然共付火之聞得有之、御詮儀候処ニ、崎山八兵衛下人万七と申者仕候出相知、

一太守様四月十三日、御國元御暇大久保加賀守様ニ而御給り、六月一日江戸御發駕、八月四日朝五ツ時、御下屋敷ニ御着城、御供御家老喜入安房殿、御用人野村太左衛門殿、渋谷四郎左衛門殿、御目附伊集院為右衛門殿、兵具奉行野村才右衛門殿、六月祇園御祭礼踊、七月名踊或御頭屋并御寺方迄ニ而、御城ニハ踊不申候事、

一今年、依近衛基熙公吹挙、鹿児嶋諏訪大明神・稲荷大明神叙正一位、

元禄十年丁丑閏二月、

一二月地頭持御納戸奉行・兵具奉行吟味、衆若党袴着せ候儀、御法度被仰渡候、御用人迄ハ御免、御城焼失ニ付而也、

一閏二月廿七日、　太守様御参勤として鹿児嶋御

發駕、

一四月六日、於江戸御任官之御祝有之、

一六月廿五日九ッ過、向高麗町根占正左衛門殿屋敷ゟ火起り、数ヶ所焼失ス、

一諸系圖・古目録・文書等御用ニ付、御記録奉行諸外城被差廻候、

一七月朔日、江戸上野御堂御手傳御當り、依之上野本所ニ被召置候衆、惣頭嶋津大蔵殿、御用人村田善太夫殿、御用人代御目附之相良清兵衛殿、吟味役三雲新兵衛殿・家村平八殿、兵具奉行白尾登五右衛門殿・村田五郎右衛門殿、御番頭北郷惣次郎殿、御用人市来次郎左衛門殿、御用人代伊集院猪右衛門殿、留主居赤松甚右衛門殿、御前目附北郷右衛門八殿・宮之原甚太夫殿、御家老ハ根占丹波殿、

一十月廿七日ゟ、銭壱貫文代銀十六匁直成ニ被仰渡候、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬町田勘左衛門殿・志岐数馬殿被相勤候、

一今月、日州諸外城他領境之縄引有之候、

一十二月廿五日ノ夜、上町三ヶ二焼失、

同十一年戊寅

一頼朝公五百年忌、二月十三日ゟ同十九日迄一七日、於大乗院御執行仰渡有之、

一銭壱貫文代銀十五匁直成、三月朔日被仰渡候、

付、同十一月、右四ヶ寺大合寄ニ被仰付由、他国之年代記ニ見、京江戸ノ分不相見得候、

今十月、日並宗不受不施四ヶ寺連流被仰

一同六月十七日夜、山下六右衛門所へ忍入、二男山下九兵衛を差殺、相手不相知、御詮儀段々有之候得共、相手不相知候、

一七月十日、　吉貴公御参府鹿児嶋御立、御家老嶋津勘解由殿、御用人堀四郎右衛門殿・仁礼覚左衛門殿、其外御供ニ而候、

一金銀吹替ニ付、来卯八月迄古銀取替仕候様ニ被仰渡候、

一八月より祢寝丹波殿宅ニ而札改有之、札奉行嶋津織部殿・町田源左衛門殿・種子嶋弾正殿、焼印所客屋近邊、御分國中諸外城迄所々ニ而改也、

一九月三日、御仕置物有之、去々年御城焼失、火付万七、同類十左衛門・千左衛門、上下引廻り下郡元浜ニ而、右三人竹鋸引両日有之、同五日八付ニ被行候、其節万七子三才ニ罷成を、万七目ノ前ニ而せいらい差殺見せ候由、

一今月より、串木野芹ケ野金山被召立候、

一諸士持高、凡下ゟ買候高并諸外城ハ外城越ニ買置候高、御借り入高被召成、高壱石ニ付、代銀百卅めニして九分之利銀被下之候、

一十一月二日、稲荷御神事、鏑流馬岩山半兵衛殿・大嶋孫次郎殿被相勤候、

一今月、御分國内場外城境縄引有之、　中将様東目御下向ニ而候、

一十二月十日夜五ッ時分、家村平八殿自火ニ而一

ケ所焼失、平八殿在江戸也、
一外城縄引通路迄竿入、繪圖出来候ニ付、検者・繪師諸外城被差廻候、

同十二年己卯閏九月

一正月、御関狩吉野ニ而初而有之、惣奉行佐多李殿・嶋津主計殿・鎌田隼人殿、
一三月十九日、上ノ原庄屋屋敷ゟ火起、一二ケ所焼失ス、
一四月十四日、中将様五十算賀奉祝、兵庫殿・又四郎殿御膳進上、且又、御城代・御家老衆・御連枝方進上物有之候、
一八月十五夜、嶋津兵庫殿家来小松原ニ打果シ有之、同九月晦日仰渡有之、御詮儀候処ニ、嶋津又市左衛門殿家来安藤浅右衛門と申者仕候由、知也、
一九月、上町出火、閏九月十日戸田山城守様御死去ニ付、同十二日迄御禁断、
一十一月朔日、本田家於御前元服、如式法御祝物進上、御脇指頂戴、信次郎と名拝領ニ而候、信次郎曽祖父本田作左衛門と申候、此作左衛門男子無之候ニ付、肝付半兵衛弟養子ニ罷成、本田四郎右衛門と申候、信次郎祖父ニ而候、其子次郎左衛門と申候、信次郎父ニ而候、
一十一月三日、稲荷御祭礼、鏑流馬新納五郎右衛門殿・町田勘左衛門殿・福屋五郎兵衛殿・新納

今年四月ヨリ京七条川原ニテ新銭ヲ鋳ル、

元禄十三庚辰

帯刀殿、めのと芦谷茂右衛門殿被相勤候事、
一同四日夜八ッ時分、上町二ケ二焼失、
一同六日、嶋津兵庫殿江御成、夜入　御帰城、
一正月十二日、　太守様今日西目筋御参勤鹿児嶋御発駕、御供御老中嶋津圖書殿・新納美作殿、御番頭種子嶋弾正殿、御大身分嶋津伊豆殿、御用人野村太左衛門殿・相良吉右衛門殿、其外奉供ニ而候、
一三月、加治木ニ出火有之、出物蔵迄焼失ス、
一四月十九日ヨリ同廿五日迄、大猷院様五十年忌御法事有之、
一八月、高野坊主去戌春流罪ニ而、佐多邊塚へ被召置候得共、此節被召置候、[本々一遍カ]

同十四辛巳

一正月朔日、日食八分辰時、七月十五日月食五分、亥子刻ニ而候、
一八月十五日ゟ鹿児嶋上下町海邊大築地有之、町ニ成、
一十月十一日、於御前嶋津大蔵殿久明・川上式部久重御家老ニ任ス、
一同廿六日、御亀様近衛大納言様江御縁与御約諸相済、諸役人江御祝被下候、
一十二月廿二日、於江戸高輪御若子様御誕生、鍋三郎様と申上候、

二月十四日、於江戸勅使御下向、御登城之時、浅野内匠頭殿高家之吉良上野介殿ヲ於殿中被切付、内匠頭切腹被御付、与良殿ハ被立籠由、[脱カ]

元禄十五年壬午

十二月十四日、江戸本庄吉良上野介殿屋敷ニ夜八ッ時、故浅野内匠頭家来共、家老大石内蔵介ヲ初四十六人党ヲ組テ復討ニ入、上野介殿ヲ討取首ヲ取、亡君之墓ニ祭、其後雪天之由、

一二月十一日、江戸高輪御屋敷焼失、

一庄内山之口境目故、武器無之候而ハ不叶在所由達　貴聞、白銀百枚衆中相中ニ拝領被仰付、依之玉目拾匁鉄砲七十五挺張調、軍役ニ備置也、

一三月十日、　太守様御参勤として鹿児嶋御發駕、七ッ時西目筋、御供之御家老喜入安房殿、御同心嶋津玄蕃殿・嶋津内匠殿、

一十月十八日夜、江戸芝御屋敷・田町御屋敷御類焼、火本芝御屋敷表御門前湯屋ゟ火出る、夜中假御家出来候、翌十九日上使齊藤次左衛門殿御給り、假御家ニ御出之由候、

同十六癸未

故浅野内匠頭家来敵討人数名書

家老
大石内蔵介
用人
片岡源五右衛門
郡代
吉田沖左衛門
物頭
原惣右衛門
側用人
磯貝十郎左衛門
大目附
間瀬久太夫
京留上屋
小野寺十内
使番
富森助右衛門
江戸留主居
堀部弥兵衛
馬廻り
間喜兵衛
右同
近松勘六
国絵図御
潮田又之丞
馬廻り
赤垣源蔵
同
早水藤左衛門
江戸上
奥田孫太夫
馬廻り
多田五郎右衛門
同
大石瀬左衛門
内蔵介嫡子
大石主税
馬廻り
堀部安兵衛
同
菅谷半之丞
此時浪人
不破数右衛門
馬廻り
木村岡右衛門
同
岡野金右衛門
茅野
千馬三郎兵衛
同
中村勘助
近習
大高源五
歳奉行
貝賀弥左衛門
近習
吉田沢右衛門
近習
武林唯七
無足
小野寺幸右衛門
広島番
村松喜兵衛
近習
倉橋伝助
同
杉野十平次
無足
間　新六
金奉行
前原伊助

一二月六日夜九ッ半、加治屋町勝目兵右衛門殿屋敷ゟ火起り、西風ニ而、士屋敷二百四十八ヶ所、家数千六軒焼失、内六ヶ所ハ職人屋敷、三ヶ所ハ御小者屋敷、町屋敷三百八十五ヶ所、家数七百九十軒、南林寺并脇寺十二、家数五十一、并門前九十三ケ所、内三ケ所ハ残、家数百七十、合屋敷七百三十九ヶ所、合家数二千八ツ、焼失船四十六艘、四本八太郎下女一人焼死ス、

一三月十一日雨天、　吉貴公今朝六ッ時分御首途、御諏訪御参詣、直ニ安養院江御入、祇園江御参、風強候政御船ニ不被為召、陸ニ而築地御茶屋へ御入、嶋津玄蕃殿ゟ御膳進上、追付御帰館、九ッ過御下屋敷ゟ御發駕、御供御家老嶋津助之丞殿、御用人赤松次郎右衛門殿・堀四郎右衛門殿、御兵具奉行村田喜右衛門殿・同　中神七右衛門殿ニ而候、

一去二月六日之火事附火之聞得有之、御詮儀候処ニ、山下八左衛門・久保田社人土佐と申者子新三郎・今一人、三人ニ而仕候段相知候、去寅六月、山下九郎兵衛・八左衛門差殺候段、當六月相知候事、

一六月朔日、鍋保丸様御卒去ニ付、殺生禁断日数二日被仰渡候事、

一七月十八日、晩ゟ鹿児嶋大風、

一太守様五月晦日御國許へ御暇、上使秋元但馬守様を以御給り、六月十八日ニ江戸御發駕、御油ゟ御急き、同廿七日伏見江御着、惣御供立之人数八晦日伏見へ着、七月二日伏見御立、同日夜入大坂へ御着、七月六日御乗船、同日御出船、同十九日門司ニ而大風、御供立小早二三艘少々損シ、同廿日陸ニ御下り、同廿五日出水ニ御着、小倉筋又八郎様・嶋津又之進殿、御家老御用人野村太左衛門殿御供、小倉ゟ陸、御跡立主取平田九郎右衛門殿・上村権兵衛殿、七月廿七日出水ニ着、八月四日晴天、九ッ過ニ御着城、

一御城御普請有之、御普請方中原為兵衛殿、中取隅元与一右衛門殿、惣大工永田次郎左衛門殿、

勘定奉行
南條八十右衛門
馬廻り
勝田新左衛門
無足
同　十次郎
同
堀田良右衛門
同
矢頭右衛門七
同
村松三太夫
三
間瀬孫九郎
目付
茅野和助
徒士
樺川勘平
台所役人
上村次郎左衛門
徒目附
神崎与五郎
以上合四十六人

老躰故かご御免ニ而、往来かごかき被下候、

一八月十六日、鍋三郎様御事高輪御前様御子分ニ被為成、備姫様御儀茂御同前、高輪御前様御直子御出生候ハヽ、鍋三郎様御事御二男ニ可被成候、右ニ付江戸御老中様方へ右之段被仰上置候、此段承可置旨大蔵殿御口上ニ而、御子様方・諸番頭・一所衆・吟味役・御用人・御目附迄被仰渡候、此段地頭所曙壱人ツヽ召寄、申達候様ニ被仰渡候、

一十月廿八日、又八郎様忠英常盤迫より、今日御台所御新宅へ御移徙、

十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬毛利長松殿・新納権之介殿被相勤、

元禄十七年甲申

一正月十二日晴天、　綱貴公・又八郎様忠英朝六ツ時花尾権現へ御参詣、御供ニ与共ニ中途羽織袴、御家老嶋津大蔵殿、御用人相良主左衛門殿、御目附赤塚源太左衛門殿、彼方ニ而　上様御支度熨目長上下、御駕籠廻り熨目半上下、御先御供不洗物并上下、彼方ニテ大乗院ゟ御膳進上、配膳御小姓熨目半上下、御石之邊夫ゟ川田下平坂之上ニ地頭上村権兵衛ゟ御茶屋調、御精進上御膳進上、御中途川所々ニ船参船渡シ、御台所ゟ御出、八ツ半過ニ而御台所へ御入、御先番伊地知杢右衛門御納戸奉行、相良市郎左衛門、

宝永元年四月朔日改元ト、他国年代記ニハ有、

一二月十五日、御本丸御對面所小番・大番所之大家出来候ニ付、今日六ツ前ニ御出座、御移徙之規式伊地知八郎兵衛、其外本田家ゟ相勤、能太夫三人、如例御用人御取次ニ而、時服一重ツヽ、御對面所下之敷居上ニ而拝領、御相伴又八郎様・玄蕃殿、主居之方ニ兵庫殿・又之進殿、四ツ前ニ相済、支度水色半上下熨目花色赤筋なと有之ハ不罷成、諸役人ゟ進上物有、諸士ゟ三種二荷仕候、御祝儀ハ今度御廣間ニ而御帳ニ付退出、

一三月十日、　太守様・又八郎様御同道ニ而出水筋御参勤、出水米之津より御船ニ而肥前寺井川ニ御着、今日伊木半七郎と申浪人可被召抱由被仰渡候、此人亀姫様へ被召付、京都御裏方へ被召置筈、筋有人之由、曽祖父伊木七郎右衛門秀吉公御近習ニ奉公、黄袋ニ被仰付由候、祖父半七郎、父半七郎迄ハ紀州ニ奉公為仕人之由、其身書付ニ見得申候、同四月十二日吉野諸々御馬追有之候、

一年号寶永元年ニ三月晦日被相改、四月廿五日鹿児嶋諸座へ被仰渡、諸士組中江ハ小与頭番へ召寄申渡也、

一嚴有院様廿五回忌御出、五月八日ゟ同十四日迄福昌寺ニ而御執行有之、

一太守様四月十八日江戸へ御参府、同廿三日土屋相模守様ニ而上使御給り、

一吉貴公御國元江之御暇、上使小笠原佐渡守様ニ而御給り、同廿一日江戸御發駕、

一六月十六日、南林寺へ追出之鐘出来、今日未之刻供養、則鐘初有、

一七月朔日、匠作様吉貴公御着城、但此御下向ニ市来城ノ町出口之楠大枝落、貴嶋助之進乗物ニ落掛ル、

一八月十五日之晩、御城山狐以之外鳴候、　綱貴公御病気ニ被遊御座由、江戸ゟ飛脚到来、去八月二日御病気ニ付、上使田村右京様御給之由、

一八月十三日、在番琉人津喜山親方死去、

一綱貴公御病気ニ付、　匠作様御参府、八月廿一日鹿児嶋御發駕、西目小倉筋御急、九月十九日御参府ニ而、御對顔相済候由、

一九月十九日、　綱貴公御逝去、昼八ッ半時御使、同日江戸立、十月七日鹿児嶋着、永山源五右衛門同日殉死、御法度之旨日帳所ニ而被仰渡候、

一十月十三日ニ御法名上原芳介守ト、同十四日評定所ニ而御弘メ有之、大玄院殿昌道元新大居士、

一十月七日ヨリ五十日、諸十月代仕間敷候、又者町人百姓御構無之候事、

一普請鳴物三十日、山野之殺生五十日、商賣漁猟一七日被差留候事、

一大玄院様御遺体、江戸九月廿七日御立、御道中美濃路・中国・小倉筋御道ニ而、十一月廿日晩四ッ時分、福昌寺江被遊御入、

一御逝去ニ付、上使松平弾正様ニ而御香奠御拝領、嶋津二十一代吉貴公、

一十月廿九日、　吉貴公御家督、土屋相模守様御宅何れも御列座ニ而被仰渡、同日又八郎殿周防と御名替、嶋津帯刀殿忠雄御家老御役被仰付候、

一十一月十二日御継目之御礼、同廿七日薩摩守様と御名被相改、

一同廿四日暁　大玄院様御葬礼、同晦日迄一七日御中陰之御法事御執行、御法事中殺生・普請・嶋物、遊山ケ間敷儀停止、當所漁猟止、

一常照院様三十三回御法事、十二月四日ゟ同六日迄於興國寺御執行、

甲府綱豊公御子吉松君、宝永元年十一月五日御養君ニ成西丸是也、此君ハ正保二丙戌正月八日誕生、大御年ニテ夭ス、養シ給云々、

寶永二年乙酉閏四月

一正月二日、江戸ゟ御使榊原三右衛門、　信證院様高輪へ申十二月九日御移、旧冬十二月十一日吉貴公少将ニ御任官、同十三日芝御屋敷へ高輪ゟ御移、

一二月二日、御閲狩吉野ニ而被仰付、四月六日朝七ッ半時　大玄院様御遺髪高野御登山ニ付、諸士下馬札之元ゟ西田橋迄之間罷出、

一四月十四日、東郷与助殿死去、南林寺ニ葬、兵法者ニ而候、法名即安活心大居士、

一六月九日、御國元へ御暇、上使小笠原佐渡守様を以御給り、

一七月九日、江戸御發駕、御家督以後始而御入部、
九月朔日御本丸江　御着城、西目筋朝雨天、昼
ヨリ晴天、御札使佐多杢殿、
一一位様御逝去ニ付御禁断、七月十三日被仰渡候、
一諸士并家来以下所持之系圖文書、御用候間見合
可置旨被仰渡、
一九月四日、吟味役、御目附と御改之由被仰渡候、
一同廿一日、喜入安房殿御家老御免、桂宇右衛門
殿横目頭被仰付候、御用人御免之衆鎌田藤兵衛
殿・鎌田傳兵衛殿・村田平右衛門殿・新納小右
衛門殿、桂宇右衛門殿横目頭被仰付候、御用人
被仰付候衆相良清兵衛殿・向井市之丞殿・町田
孫七殿、
一十月三日、地頭替又ハ初而地頭被下候衆過分ニ
有之候、
一同五日、近衛大納言様御簾中御逝去、於京都英
光院殿覚樹圓明大姉、深固院、
一鹿児嶋士・外城衆中不届ニ付、或磔或斬罪ニ被
仰付候者之子共、向後士ニ被仰付間敷旨被仰渡
候、
一十二月廿八日、御家老川上式部殿御役御免被仰
付候、

同三丙戌

家重公薨ノ御年ニテ生る、御あれミの中にて夫を取わけ御愛熱有しと云り、松平美濃守殿申渡にて、犬医師といふ者此時出来候由、今宝永二年丙戌は諸国豊年にて、五穀とくミのり、十分の世中と万民よろこひたのしむと、他国年代記見ル、

一生類御あはれミニ付、段々公義仰渡有之候、衣
服定　茂正月被仰渡、
一今度　太守様御継目初而就御入國、奉祝士踊備
御覧度之旨被申出候、御旧例之儀候故士踊被仰
付候、先例之通、与頭中万端差引可有之旨被
仰出候事、
一二月十二日、御國遣座之事、御勝手方と被相改
候旨被　仰出候、
一三月十三日、上五番六番与士踊、同十六日下一
番与ゟ四番組士踊、備　上覧候、
一四月五日、　吉貴公為御参勤四ッ時従御本丸御
發駕、西目節、御供御家老嶋津中務殿・嶋津帯
刀殿、御大身分嶋津筑後殿、御用人市来次郎左
衛門殿・相良権太夫殿、同六月朔日江戸へ御参
府、上使秋元但馬守様、
一同十四日、吉野并所々御馬追有之候、
一當年、御分國中宗門手札改、札奉行嶋津主水・
町田甲斐・鎌田采女被相勤候、
一士踊入目銀割付上方商下方高掄六万弐千九百弐拾石余、近年銀拂底之由、其聞得有之、銀吹直シ被仰付
旨公儀ゟ仰渡、
一七月廿三日、吉利杢之助殿忠儀死去、治部忠名
嫡子、杢右衛門殿親ニて候、
一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬中嶋六左衛門
殿・黒葛原小吉殿被相勤候、
一同五日ゟ九日迄、真修院様廿五回忌御吊、
一同廿九日、於江戸満姫様近衛大納言様へ御縁与、

金銀吹替之事、柳沢弥太郎とて百五十表取なりし、段々立身して此時四万十五万石様御、松平御称号、御一字被下、松平美濃守吉保ト改メ、悴越前守松平伊勢守と改侍従ニ被任、金紗狩箱虎皮鞍覆迄御免之由、此吉保金銀吹替被申行之山、源国太平記見ル、

被　仰出候、於御城御老中御列座ニ而、土屋相模守様より　太守様江被　仰出候、

十二月十四日、御家老中ゟ与へ被仰渡候、御國元若き者共、弓・鉄炮・兵法等精を出可申、来年御下向之時分、不斗被遊　御覧儀も可有之段、

寶永四年丁亥

年代記曰、宝永四十月四日午下刻ヨリ、五畿内・南海道大地震、海辺は津波、大地さけて青き泥わき出る、同く十一月廿三日、富士山ノ根方東走り口の方ゟ山やけ出、鳴るおと雷の如し、すミの如くなる砂ふりてくらき事夜る昼のわからしれず、廿四日巳輪をおがみて諸人安堵す、廿五日廿六日又天霊りて砂ふり、地震火廿八日ニ止、此時富士山の麓ニ小山出生、俗ニ此山ヲ宝永山ト云ヒ、

当時御作事方逗留客リ後スルニ、御座移ハ八月十八日ト見ユ、其帳載スル所悉クハ述ヒラル、宗高記、

一正月廿二日、吉野御関狩、鹿児嶋壱番与・弐番与・五番与罷登也、

一今度御記録編集ニ付、去々年御触状を以被仰渡置候通、諸士其外下々ニ至迄致所持候者、三月ニ可差出旨与分御書付有、

一原口権兵衛於江戸上野御佛詣、正月二十日於明王院乱心仕候段、御触有、

一四月十一日、御本丸新御作事相済、御座移被仰渡、　御下屋ゟ御本丸江御座相直る、　太守様江府江被遊御座ニ付、御家老衆江御吸物ニ而御酒上ル、并御菓子・濃菜、御用人御目附ハ取肴ニ而御酒被下、同席并諸奉行・諸座頭取迄御酒被下、取肴出る、是合所之座也、北之御門より出入有之、

一於須摩様御事、妻方屹仕たる書付ニハ、殿之字ヲ書可申旨被仰渡、

一太守様御國元江御暇、上使稲葉丹後守様六月十二日ニ被下候由、七月朔日江戸御發駕、美濃路御通、大坂ゟ室迄、室ゟ御船、小倉筋出水ゟ御入、跡立候而、於須摩様同所ゟ被為入候、雨天、右御礼使嶋津中務殿、御用人市来次郎左衛門殿、假御用人米良藤右衛門殿、御納戸奉行相良李之介殿、大備西目筋被遣候故、御先キ物頭衆迄茂此内被参候、今日ハ御手廻り計ニ而候、

一十月十三日、従江戸飛脚到来、家千代様御誕生、九月廿一日逝去、同廿九日　吉貴公御姫卒去、明厳院殿霜苗与禅童女、恵燈院ニ御納、

一嶋津淡路守殿佐土原ゟ御越、十一月九日福山ゟ船ニ而客屋へ御入、使者宿ニ被成御座、同廿二日御帰ニ付、石燈爐ゟ又々御船ニ而候、

一十一月十七日飛脚、去ル十月廿八日夜　吉貴公御娘幹姫様御逝去之由、

一十二月十八日、嶋津主水殿・伊集院十右衛門殿御勘定奉行新規重立而被仰付候、御勘定奉行相勤被居候衆、長崎源助殿・町田越右衛門殿・猿渡藤右衛門殿二人、今日御役被引取、無役ニ被罷成候事、

一家千代君、宝永四年七月十七日ニ御誕生、同年九月廿九日逝去、云々、

同五年戊子閏正月

一正月、郡山花尾山平等王院御再興ニ而候、此寺ハ建保六年、永金阿闍梨開基之寺ニ而候、且三十六坊為有之由候得共、　勝久公御時寺院及破壊、円融院と申寺近年迄為有之由候、　綱貴公平等王院御再興可被成旨、元禄十七申二月被仰出被置候ニ付、今年　吉貴公御再興、且平等

王院御本尊ハ、従頼朝公忠久公江御附属之御家御相傳、谷渡五指愛染明王、弘法大師之作、平等王院廃壊之後ハ鹿児嶋護摩所江御安置被成、毎年六月朔日於御城御開帳御祈祷有之候、丹後御局之御牌御建立被成候得共、勝久公之時寺院破壊、御牌など茂紛失候哉、御局之御法名相知れ不申候、御局石塔并栄金阿闍梨石塔石垣等付事、共ニ去元禄二年己巳二月承綱貴命、家老平田新左衛門宗正、大乗院現住覚慧御荼毗所六地蔵御建立之時、新御再建也、

一当年ゟ出物米、極月限相納可申候、総之儀翌年可為四月限、（正月十八日、）

一太守様四月十日四ツ時、為御参勤西目筋御發駕、御供御家老嶋津帯刀殿、若年寄種子嶋彈正殿、大身分嶋津玄蕃殿、同六月四日御参府、同五日上使土屋相模守様御出、同十一日ニ御参府之御礼相済、

一富士山燃ニ付、高役銀持高ニ相掛、上納百石ニ付二両宛賦、

一七月廿九日、於江戸増上寺火之御番御當りニ而候、

一十月廿三日、　吉貴公御二男様御卒去、天真院殿蘭溪霜涸大禅童子、恵燈院殿、

一十一月廿一日、小源太様誕生、御懐は於須摩様、

一正月十日将軍家宣公西丸御在城、生類御あわれミの事、一番御救被仰出候而、諸遠上意御免被成、大綱通用停止なりしと、藩国太平記ニ見、

一三月廿一日ヨリ南都大仏殿成就供養有、遠師洛東巻おん流円理和尚、四月八日迄大法会、参詣多シ、

一六月廿三日、近衛関白左大臣家熙公摂政ニ任ス、去廿一日御譲位ニ依テ也、新院ニ太上天皇之称号を奉らるる、

一公方様正月十日薨御被為成候間、普請・鳴物・遊山ケ間敷儀、家職ニ付音高儀、漁猟迄相止候、

一二月、花尾山圓融院御再興、寺号曼荼羅寺と被改、去年六月本地院御再興ニ而候、是迄二ケ寺相建候事、

一大銭通候儀差支事有之、下々迄迷惑仕候由被聞召、被相止旨、二月、

一二月、福昌寺江御牌所御建立ニ而候、

一公方様御法名常憲院殿、此段可奉承知、毎月十日殺生禁断ニ而候、

一鍋三郎様四月二日御元服、御名又三郎様、御諱忠休公と被遊御改、

一六月十一日、先比屋久嶋江異國人参候節、首尾能相勤候衆、今日於御書院嶋津将監殿ゟ御褒美之御口上被仰渡、肝付三右衛門殿白銀五十枚、新納右衛門殿・東郷三右衛門殿へ銀五枚ツヽ、屋久嶋之藤兵衛と申百姓ニ琉米百表被下候、

一七月、南泉院御再興、八月比志嶋隼人殿江大御目附同格ニ被仰付候、

一諸士出物蔵請取六ツ切ニ而、次紙用申間敷旨被仰渡候、

一大乗院仁王門之儀、此程二王堂と唱違候由、向後二王門と唱可申候、宗躰方以後宗門方と相唱可申由、九月被仰渡候、

一十月十二日晩九ツ過、南林寺松原ニて喧嘩、此

次第ハ家村角兵衛殿江町人咄申候ハ、各御傍輩ニ伊東六郎左衛門殿と申人、毎晩町へ被成御出御あれ候由申候ニ付、六郎左衛門殿へ角兵衛殿知らセ被申候、六郎左衛門殿見届ニ被参候処ニ、両人ニ取逢喧嘩ニ及候由、伊東六郎左衛門と偽候者ハ、佐多豊前殿家来片野迫半右衛門と申者之由、六郎左衛門半左衛門を被打果候、

一十月十五日、吉野御関狩、惣奉行嶋津備中殿・嶋津主計殿、町田宇右衛門殿、一番二番五番組罷登候、

一鎌倉流馬乗方之書付致所持候者ハ可差出之御触、十月有之候、

一十一月二日、稲荷御神事、鏑流馬喜入右衛門殿・御雇藤井源右衛門殿被相勤、

一水戸中将様先月十二日御逝去ニ付、十一月六日ゟ同十日迄御禁断御触有之候、

一十一月十四日、肝付主殿殿兼柄御家老御役被仰付候、

一今月、花尾山ニ普賢院御再興、是迄平等王院之脇坊三ケ寺ニ成候、

一宗躰座、宗門改所と此節被相改候間、向後こ之通唱書付等ニ成可仕由、

一常憲院様御一周忌、十二月十日ゟ同十六日迄於福昌寺御執行、殺生禁、

一新院崩御、依之十二月晦日ゟ殺生、普請・鳴物、遊行ケ間敷儀御禁止之旨、十二月晦日於鹿児嶋被仰渡候事、

一十一月禁裏御普請成就ニ付、十一月十六日午上刻、御遷幸、御供奉、御雇御相変客奉供

同七年庚寅

一元日、御慎ニ付五社参無之、同十五日ニ五社参有之、

一正月廿日ゟ同廿二日迄、飯敷於妙谷寺、龍伯様百年忌御吊、与中へ御禁断触ハ無之候、今廿二日ニ御家老嶋津中務殿依願御役御免ニ而、御腰物拝領候、桂織部殿へ若御年寄役被仰付、同廿五日鎌田源左衛門殿へ大御目附、要人と名替、

一御普請方被建置候築地、以前ゟ築出と唱候得共、向後築地と唱可申候、祇園前築地を新築地と唱可申旨、二月朔日ニ被仰渡候、

一二月十日、新納市正殿頓死被成候、實ハ自害被成候、此中阿野喜平次殿出火之節、鎌田藤四郎殿と入与為有之由ニ候、

一同廿二日夜九ツ時分ゟ、下石燈籠半町計下ゟ火起、網干場迄焼失、

一同廿七日、吉野御関狩、

一今度東照宮御再興・南泉院御修造付而、吉野山願王院権僧正御招請被成、御遷宮御遷座被相調筈候、依之権僧正近日御當地江着被成筈、暫者南泉院江兼住被成筈候、其内於中途参逢候節、無作法之為躰無之候様ニと被仰渡候ハ、三月、

一口事奉行、糺明奉行と唱可申候、口事場を評定

一二月廿七日、中院御ノ内大臣通茂公逝去、八十歳、

一七日六日、下御霊のやしろ御せんくう、勅使藤松右中弁、このやしろハ禁裏内侍所の御かりや埋領ありて造営せらるゝ也、

所と唱可申、三月、

一四月十五日、嶋津備前殿久貫御家老御役被仰付、中務と名替ニ而候、

一同十六日、東照宮御遷宮、同廿日御遷座有之、各南泉院御遷座ニ付、諸士四月十八日登城、御祝儀　御出座、御家老嶋津中務殿・嶋津帯刀殿・種子嶋蔵人殿、御月番嶋津将監ニ而候、抑此南泉院御宮并御位牌殿之儀、薩州霧田紫尾山大願寺、元来之天台宗ニ而、足利将軍義満公御自筆醫王寶殿之額迄為被遣置寺、　光久公雖被引移置候、地面茂狭彼是不宜候ニ付今度御再興、寺山院号大雄山佛日寺南泉院と、東叡山准公より被改、和州吉野山学頭頼王院権僧正智周住職ニ而、常院室被仰付、且御領内天台宗之触頭ニ被仰付、右御遷宮御遷座首尾能相済候、為御祝四月廿五日於御本丸御能興行被仰付候、依之火用心入念候様ニと被仰渡候、

一五月九日、於築地御茶屋東郷藤兵衛父子三人、兵方被遊　御覧候、藤兵衛だし郷田源助、同七月朔日ゟ銭壱貫文代銀十二匁五分ニ被仰渡候、

一七月十一日、南泉院権僧正於前濱船遊ひ、佐多豊前殿ゟ花火御させ候、五六十程も花火有之候、見物人多人数有之候事、

一御触七月十四日御寺参之節、養仙院邊　御目通ニ、前髪有之之餘り若輩ニ而無之者共五六人、無行跡之様子ニ而罷居候、右之者共へ名御尋有之候、人々心得ニ茂可罷成候間、何方ニ而も事廣聞得候様ニ大勢へ咄可申、大御目附御側表御用人七月十五日切掛ニ而、木脇霧之助・崎元休太郎・大寺善助・山元杢之允・村岡次助右之通ニ而、六与江御触流ニ而被仰渡候事、

一先比西田川原へ御細工所付之者打果シ右之、又関喜右衛門外ニ百姓之頭を打割、其外わやく有之、八月九日御不審之若き衆被召出、客屋ニ而御家老嶋津帯刀殿・肝付主殿殿御下りニ而、東郷吉右衛門嫡子東郷半右衛門、小倉与右衛門嫡子小倉八兵衛、大迫其七ニ男大迫藤左衛門、右三人被召籠候得共、同十九日右三人如本々被召置候、

一八月十六日、今度御巡見之上使脇元ゟ御當地へ御着、　太守様五ツ時分客室へ御下り、上使九ツ時分御着ニ而御對顔有之候、同十八日上使谷山平川江御泊之等ニ而鹿児嶋御立、小田切靭負様・土屋数馬様・長井堅物様三人ニ而、何れも四十人計之御手廻りニ而候、

一大五郎様御逝去之御到来有之、八月廿九日ゟ日数三日之御禁断ニ而候、

一八月廿六日未刻、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、琉球人被召列候、御家老嶋津将監殿、御用人市来次郎左衛門殿、琉球方御家老嶋津帯刀殿、

一八月十一日、東山院第八王子遠仁親王、御年七歳、はじめて親王家の御家を立つる、開院宮奉中、御家領千石、

一十一月十一日御非位、此時摂政八近衛家凞公、

一十一月、琉球人来朝、将軍家ニ御礼ニ上る、中山美里王子豊見王子、其外ニ十一人、

御用人相良権太夫殿、御代替御祝儀之使者、正使美里王子主従廿人、副使富盛親方主従九人、其外役々有、國司継目ニ付御礼之使者、正使豊見城王子主従廿人、副使与座親方主従九人、其外役々ニ而候、

一大玄院様七回忌御法事、九月十六日ゟ同廿二日迄日数七日、福昌寺、

一十月廿三日夜五ツ時分、上後坂否笠正右衛門殿屋敷火起り、一ケ所焼失、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬比志嶋兵次郎殿・五代仁右衛門殿被相勤候、

一上新筑地一囲之内、不依誰人、無代銀ニ而可被下、築立可申と存候人ハ御普請方へ願可申出旨、御触十一月有之候、

一年頃五十才計之男死躰、長髪・切疵数ケ所、裸身下町江流寄候段、御触、

一銭壱貫文代銀十五匁ニ、十一月廿六日ゟ直成被相改候由、御触流ニ而被仰渡、

一常憲院様御三回之御吊、十二月八日ゟ十日迄於南泉院御執行、

一太守様去月十六日中将様へ御官位御昇進、来十一日ゟ十五日迄御祝儀可申上候、常式ハ中将様と不申上、太守様と可申上由、十二月十日御触ニ而候、

一正月十二日、洛東智恵院山門ニ花頂山ト云勅額トル、霊光院様御震筆、立き八尺四寸、横五尺二寸

一二月二日、神原式部太夫上使として上京せらる、是御即位之賀祝儀也、諸大名十万石以上之御使者上京せらる、

一二月十二日、琉球衆鹿児嶋ニ御着、家老嶋津大蔵殿、御用人ニハ猿渡喜右衛門殿ニ而候、

一交野宮内卿様御逝去ニ付、二月廿一日ゟ同廿三日迄御禁断被仰渡候、

一若き者共、南泉院脇寺吉祥院・勧樹院江参、寺ノ童共雑言申掛候由、御触、

一年号正徳と被相改旨、五月朔日江戸ニ而被仰渡候由、五月十一日御触、

一満姫様於江戸五月十八日御登城、御献上物数多、御跡乗ニ雲新兵衛之由、

一六月廿五日、嶋津玄蕃殿死去ニ付、同廿七日迄御禁断之由被仰渡候、

一今度下り船於松嶋破損、死去之衆、大坂横目出原万兵衛殿、御台所役人川越権右衛門殿、御納戸役高城六右衛門殿、御馬廻り菱刈権兵衛殿、御小姓役菱刈孫七殿、御雇醫師嶋津兵庫殿家中市来玄駕、御台所役人蒲生衆中池田次兵衛殿、御納戸付肥崎武兵衛殿、奥附士間世田吉左衛門殿、琉球僧壱人、其外死人助命茂有、六月廿九日夜八ツ時分、大風ニ而候事之由候、

一七月廿一日大風、夜四ツ時分ゟ夜明五ツ時分、別而盛也、南林寺山六七十本吹折又ハコロフ、廿年来無之由、阿多藤十郎殿懐・内儀・息女、家コロヒ落被相果候由、藤十郎殿内儀ハ脇田仁右衛門殿息女ニ而候由、

一八月十五日、　太守様六ツ半横井被遊御立、四ツ時分ニ御着城ニ而候、御供御家老嶋津帯刀殿、御用人市来次郎左衛門殿、御側御目附平岡八郎太夫殿、

一陽和院様今月十二日被遊御卒去、御到来ニ付、八月廿九日ゟ来月九日迄御禁断御触、陽和院様ハ光久公御夫人、本嶽自勝大姉、平松中納言御娘、

一去廿一日御役替、嶋津内膳殿若御年寄、比志嶋隼人殿若御年寄格、伊集院十右衛門殿大御目附、名越右膳殿、大御目附格被仰付候、

一九月十五日、御家老佐多豊前殿久達、嶋津称号拝領ニ而号嶋津豊前、

一山之手御番所御近習通口番所長屋門、玄喚前有之北御門、二之丸本御門、南口御門、（但御台所門之事、）東裏御門（御台所門西陽ニ有、）御下屋敷御本門、西裏御門（但御下屋敷御本門之事、）花薗御門（御里口門之事、）御台所口番所（但裏通り番所陽江有之候、）

右之通、寄々可被申通由、御触ニ而被仰渡候事、

一真幸吉田衆中、先年人を打果シ、盗仕候様ニ取成事済候由、近キ比相顕候、先比遠流被仰付茂有之、被召籠候者茂有之候、今度八人切服被仰付筈ニ而、物頭吉田右衛門次郎殿、山口杢右衛門殿、足軽肝煎両人、平足軽弐拾餘人召列、十

正徳二年壬辰

二月廿四日朝鹿児嶋を打立被差越候、同廿六日御仕置有之、吉留弥左衛門殿、同甚兵衛梟首、右ニ申合候者三人殿、此人数ハ御兵具所蔵役ニ而着込ヲ過分盗、質屋ニ召置候罪、川内休太郎是ハ不断光院ニ参、謀書いたし候、殿ニ被仰付、

一正月十一日、表御目附御用無之、重而何そ御見合を以可被仰付候、被下置候地頭所ハ被預ケ置候由被仰渡候、常時御當地ニ被居候御目附衆、本城源四郎殿・相良仁右衛門殿・讃良権左衛門殿・比志嶋善八殿・別府式部左衛門殿・猿渡藤右衛門殿・諏訪仲右衛門殿、江戸詰伊集院嘉左衛門殿、琉球在番御目附伊地知八郎兵衛殿、此中之御目附ハ重役ニ而、此節新規ニ御目附御役初而被仰付候衆、此中ハ大御目附座御取次役相勤居被申候衆ニ而候、町田孫右衛門殿・岩山半兵衛殿・有川幸右衛門殿・大河平源助殿・桂八左衛門殿也、

一於江戸阿多六郎右衛門殿長屋ニ而、御留主居若松彦兵衛殿を町田休右衛門殿被打果候由、

一琉球國司佐敷王子卒去、七月嶋津備前と豊前殿名拝領ニ而候、同月御使番・御船奉行・御納殿役人御直触ニ被仰付、鑓持七候様ニ被仰渡、

一七月廿八日、嶋津内匠殿朝五ツ時分ニ死去、

一先月廿三日、満姫様被遊御登城、萬端首尾好段

御到来、九月十八日御祝儀、

一嶋津兵庫殿・嶋津小源太殿・嶋津周防殿、右三人御身近キニ付、御二門と唱候由、以後ハ一所持・一所持格と唱可申候、高多きを家中ニ而大名と唱候由、不相應ニ候、左様ニ唱申間敷、急度被仰渡儀ニ而ハ無之由候、八月鎌田要人殿大御目附御免ニ而候、

正徳三年癸巳閏五月

一満姫君様旧猟廿二日御婚礼相済候、御祝儀正月十二日諸士御帳付退出、

一正月十五日、於護摩所鐘之供養四ッ時ゟ九ツ時迄之間ニ有之候、

一二月三日、御歩行目附向後御徒目附と書記、唱茂相唱候様ニと被仰渡、

一郡山厚地花尾権現御社御再興相済候、参詣心次第可仕由被仰渡候、

一江戸ゟ飛脚、御参勤来八月迄被召延、琉人被召列筋ニ相成、諸士御祝儀申上候、

一二月廿五日、於吉野御関狩、

一三月十五日、奏者番御番頭之内ゟ御披露之筋ニ被仰付候、此以前ハ御用人、御奏者此節被仰付候御番頭、嶋津左内・新納左京・嶋津主計・鈴田藤四郎・平田新左衛門、

一四月十三日、御能ニ付、諸士嫡子・二男・三男・隠居迄見物御免被仰付候、

一同廿六日夜四ッ過時分、下納屋町邊ゟ火起り、東風別而強く、大火ニ罷成、町惣様焼失、歴々衆数多、御春屋外廻り長屋、千石馬場筋下手不残川原迄、天神馬場同断、加治屋町迄火飛、川向ニ二ケ所焼失ス、

一服を受候者、六月・七月其慎仕来候得共、向後腹之者、門戸ヲ鎖引入相慎候ニ不及、御城内并役所勤無構相勤可申旨、同五月被仰渡、

一閏五月六日之御使、内田仲左衛門・海江田次郎兵衛ニ而候処ニ、筑前木屋之瀬ニ而悪党ニ逢、仲左衛門悪党ハ両人打果、壱人ハ手負由、残者共ハ逃去候由相聞得候、

一當年、御分國中宗門手札改被仰付候、札奉行入来院主馬・嶋津主計・嶋津左門、中取平瀬治右衛門・中山市郎右衛門・隈元太一左衛門、當札改より諸士以下之妻、此前ハ女房と書記候得共、一統ニ妻と可書記候、代々小番之家来、片書名字ニ而何某家来と書可申候、此以前ハ小番之家来茂依家下人札有之、大番家来書下名字・片書名字・下人札有之不相並、此節ゟ大番ハ一統ニ下人札、小番茂一統ニ片書名字ニ被仰付候、

一今年北郷之称号、三男龍岡、實名資之字、川上ハ安山、實名親之字を可相用と被仰渡候、

一頼之字・朝之字・忠之字、於御家中名乗候儀、一切用申間敷候、

一當公方様御名乗之字、於御家中一切用申間敷候、
一從　家久公到　綱貴公、御名乗之字一切用申間敷候、
一足軽并諸座附、又ハ諸士之家来、又ハ寺門前・町・浦・在郷之内、御家御氏族之甥と申傳候由ニ而、御直列等之家号又ハ御家之字名乗来候者有之由候、向後左ニ相記候家号又ハ御家之字名乗申間敷候、
川上　佐多　新納　樺山　北郷　桂　喜入　町田　伊集院　亀山　山田　碇山　大嶋　義岡
迫水　阿蘇谷　相馬　石坂
御直列又ハ伊集院・町田なと之家中慥成者ハ、其家筋之嫡家之嫡子迄ハ被遊御免候、他家へ参候得ハ無御免候、末略ス、但七月廿五日ニ被仰渡候、
一道之嶋代官之附役人
一琉球在番役之内筆者并ニ与力
一諸所出物蔵役人
一諸所下代役人
一久見崎御船蔵役人
一屋久嶋下代役人
一京都御裏方御台所役人
一京大坂御買物役人
一江戸御買物役人
一江戸御台所役人
一江戸御進物蔵役人
一江戸八丁堀御台所御買物役人
一御家老旅与力　一御旅方役人
一江戸御普請方検者
一御支配方筆者
右之役々、向後外城衆中不被仰付筈候、右之外為勤来役々ハ已前之通、七月十八日向井市之丞、
一座附之士者　御目見之節、御座敷居外ニ而御礼可仕候、奏者茂敷居外ニ而可致披露、与ニ付与頭宅ニ而中渡事有之節ハ、諸士と一列ニ無之、別立而可中渡候、独礼ニ而無之、年頭・節句等之御礼ハ、諸士之末席ニ可罷出候、
右之通被　仰出候、八月五日、
一新番と申家格被召立、大番家之人、於江戸新御番相勤候人、又ハ御當地ニ而諸奉行等相勤、六人賦之御役ニ而、御役御改又ハ御免ニ而當分無役ニ而罷居候人、九月十一日ゟ上下ニ而初而御番被相勤候、今日相勤候衆、吉田正左衛門・川田曽右衛門、三代程相勤候得ハ、代々新御番と申家格ニ被仰付由候、
一御城下明地ニ被召成、歴々衆何れも引移被仰付被移候、
一高上り之儀ニ付、段々御格式被相定、被仰渡候ハ九月ニ而候、
一花園御門、花島御門と被相改、南泉院下馬乗場

脇堀ニ掛り候橋、假橋と唱可申被仰渡候も九月ニ而候、

一諸士持高名寄帳、借銀為質物、足軽・御小者・御中間・諸座附之者・寺社家・町浜在郷家中者江渡置候名寄帳ハ、此節高主方へ可相返候、附高ニ而召置候高も片付候様ニ被仰渡候、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬上村平右衛門・本田新右衛門被相勤、

一御城下ゟ諸座、加治木屋敷後ニ相直候、

一御支族之家、支流迄茂家譜系続當年被仰付候、

正徳四年甲午

一正月十八日、御氏族　光久公以前ハ藤原ヲ相用、以下ハ源姓可相用旨被　仰渡候、

一二月朔日及披露候次第、正月廿二日福山住例川村小薗門名字吉左衛門家作地引為加勢、敷根上之段村縁之脇門清吉と申者参、壺一ツ堀出ス、内ニ古銭九貫八百五十八銭入為有之由、目録相添申出候、

一東照宮御百年回御法會、於南泉院御宮御執行、大雄山南泉院、大雄山御宮　南泉院御位牌殿、向後唱候様ニ四月被仰渡候、

一欠落女、年三拾弐三程、おとら、勢中より大々、色白ゥ中し、、少赤めニ有之、面少而長ク、鼻筋高く、向歯ニしろはの様歯相見得候、髪黒くけつりからし、

右女、先比依科一節籠込申付置、其後須木之内木浦村衆中江被下候処ニ、右女ゟ鹿児嶋へ用事有之由申ニ付列越候、中途ゟ致欠落候処ニ、頃日諸外城江相見得、方々ニ而人をだまし、下女又ハ人之妻ニ茂成替罷在内、夫之留主ニ衣類を盗取行衛茂不知逃去候由申出候間、所中江申渡、若於罷居者堅固ニ留置、早々可申出旨、四月御触有之候事、

右おとら、四月廿七日捕之下町江預ケ置候処ニ、囲を破り行衛不相知候間、於罷居ハ早々可申出旨、御触有之候、

一年比弐拾四五男色立有、洲崎江切殺有之候得共、何方之者茂不相知間、夜前ゟ罷出、に今不入来者於有之ハ相糺、早々申出候様ニ、五月朔日御触有、

一苗代川江天台宗寺家来迎院御再興ニ付、御領内壱人ニ付二銭ツ、奉加被仰付旨、被仰渡候ハ七月、

一八月十一日八ツ後、嶋津内記殿御宅江猿渡藤右衛門殿御用ニ而被召寄候而、上り屋江被召入候、當分町奉行相勤被居候、跡屋敷閉門ニ而候、親父猿渡要人殿御用人御役三番与頭被仰付、當分在江戸ニ而候、

一同十六日、　太守様御首途、琉球人被召列候、

一九月五日、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、御

一正徳五年四月十七日、於日光山大猷院

供御家老肝付主殿殿・嶋津将監殿、御用人御番頭市来次郎左衛門殿、其外琉球人被召列候、正使金武王子、副使与那王子、

一霧嶋山社頭寺院先年焼失ニ付、為御再興高壱石ニ付真米壱合宛、百姓ゟ勤化三ケ年被仰付、両年分ハ去亥年・巳年両度上納相済、今壱年之勤化、當年上納被仰付候間、高壱石ニ付真米壱合宛出米ニ相加、上納候様ニ被仰渡、八月二日ニ而候、金銀吹替公儀御触、同月、

一荒田八幡宮之脇田地、惣様士屋敷に被仰付、荒田へ持高有之名寄帳御用、

一十月十六日之後、猿渡要人殿江戸より下着、主従十人之手廻りニ而候由、新御番高田傳兵衛殿、御歩行堀切清左衛門殿・山元作右衛門殿相附被参候、同廿六日猿渡要人殿へ被仰渡候御口上、

嫡子藤右衛門重キ亡出仕候ニ付、猿渡家被召禿、徳之島へ遠流被仰付旨被仰出、二男鮫嶋次郎左衛門事ハ鮫嶋次左衛門養子ニ而候処ニ違変被仰付、沖永良部嶋へ遠流、藤右衛門妾ハ悪石嶋へ遠流、藤右衛門事ハ於上り屋くびり白害、死躰者取捨ニ被仰付、要人遠流ニ付、物頭山口杢左衛門殿・中嶋七右衛門殿ニ而候、要人遠流之支度黒縮緬之羽織袴、藤右衛門妾ハ三十計、綿ほうしかむり船元江為参之由候、右猿渡家来下人男女供ニ御春屋揚り者に罷成候間、御拂物ニ被仰付、諸人闘取ニ而代銀申請ニ被下候事、

一十一月二日、稲荷御神事、鏑流馬町田郷九郎殿・土持助右衛門殿被相勤候事、

正徳五年乙未

一去年御供之琉球人、二月廿一日鹿児嶋ニ下着、

一銭壱貫文代銀十八匁、三月朔日被相改、

一御厄年ニ付、御願文六組ゟ差上候、四月、

一又三郎様四月五日御元服、松平之御称号・御一字・御道具御拝領、従四位下侍従ニ被　仰出、御名　大隅守様、御實名　継豊公と御改候間、与中之諸士四月廿六日御祝儀、御帳ニ相附退出可仕旨、御触被仰渡、

一信證院様御國元江御引越、御願之通被仰渡、御引越之筈、六月成、

一霧嶋山不動堂明動寺再興ニ付、奉加銀御分國中被仰渡、同月、

一去月十二日朝、上使阿部豊後守様桜田御屋敷江御越、　太守様江御國元御暇御給り、時服百・銀子千枚御拝領、翌十三日　御登城、於　御前御腰物・御馬拝領被遊、先例不相替段江戸ゟ御到来ニ付、与中之諸士七月十六日御祝儀、御帳ニ相付退出可仕旨被仰渡、

一松平民部太輔様御息女様　隅州様へ御縁与、御願之通先月廿二日被仰渡候旨御到来ニ付、七月廿二日与中諸士惣出仕ニ而御祝儀可申上候、

一七月廿六日、遊行上人伊集院ゟ鹿児嶋ニ着、浄光明寺へ被入候事、

一八月晦日、　太守様横井ゟ御着城、御供御家老嶋津帯刀殿、御用人市来次郎左衛門殿・平岡八郎太夫殿、其外御供ニ而候、

一九月廿五日夜、南林寺炎上、

一十月六日、信證院様鹿児嶋へ御着ニ而候、

一同十八日、大御目附北郷佐左衛門殿若御年寄役被仰付候、

一諸御座鑰、従前者大番所江有之、鑰前之筆者罷出受取事候処ニ、十月十七日ゟ小番所へ相直り、其役々罷出受取事ニ被仰付候間、其通可仕由之御書付を以被仰渡候、今日當御番頭嶋津又七殿、今日ハ四番与御番日ニ而候、當小番肥後与左衛門殿・清水源右衛門殿大番所へ参、鑰受取小番所江相直る、今日より諸奉行罷出被受取筋ニ被仰渡候事、

一十月十八日、嶋津内膳殿久丘着御、年寄役ニ而候処ニ、　隅州様御方御家老御役被仰付候、去未九月十一日、御家老嶋津帯刀殿依願御役御免被成候事、

一新橋筋小堀川ゟ御普請方前之御堀涯之儀、先年御願之上御免被成置候、然ハ平日諸人ゟ右之御堀土取候儀、不苦被成御免旨、十月十五日被仰渡候、

一十月廿日八ツ時分、上立野ニ而大寺甚助・大脇孫左衛門喧嘩、甚助、孫左衛門を被打果、

一同廿一日、寺社奉行伊集院織部殿大御目附役ニ御役替被仰付候、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬本田孫次郎・後醍院平左衛門被相勤候事、

一同十九日、荒田八幡前百姓屋敷ゟ火起り、諏訪甚右衛門屋敷一ケ所焼失ス、

一伊集院苗代川来迎院成就ニ而、去九月　寛陽院様御位牌御安置有之、此寺ハ高原神徳院廃寺来迎院之号跡を以、御再興ニ而候事、

一南林寺松原へ脇寺相直る筈ニ而、十一月三日ゟ松之木伐有之、嶋津筑後殿へ寺引直シ迄手傳ニ被仰付、都城二男・三男之士共伐候由ニ候、

一満君様去月晦日御逝去ニ付、十二月十二日ゟ十六日迄御禁断有之、御年十七、御産以後御疱瘡、被遊御逝去、京都御廣敷番ニ而詰被居候平嶋甚右衛門御使ニ被参候由、近衛右大臣家久公後之御簾中ニ而候、御法名光相院殿寶岳恵勝大姉、十一月廿九日共有之、

一大中様此中之火事ニ付、福昌寺へ御移被成御座、十二月十二日晩南林寺へ御帰、

一十二月十八日、比志嶋隼人殿範房御家老御役被仰付候、御勝手方同断、種子嶋弾正殿大御目附ゟ、若年寄嶋津奎殿、大御目附へ義岡右京殿、

正德六年丙申閏二月

一南林寺住持心滿和尚二月十四日遷化、同十九日南林寺ニ而葬礼有之、

一二月廿一日、吉野御関狩、惣奉行義岡右京殿・入来院主馬殿・伊勢兵部殿、

一正德二壬辰、江戸大圓寺類焼ニ付、福昌寺請込ニ而、當二月与中へ勸化有之、

一閏二月十八日、霧嶋山大燃初る、

一三月三日、瀬戸口馬場馬乗之時、有川五兵衛息、原口保庵二男と喧嘩、

一坊津一乗院寶物、大乗院脇ニ而三月ゟ開帳、追人物鹿野屋ゟ参候、一寸坊、鹿野屋浄連寺門前市左衛門弟慶傳坊、年廿七、山伏、大指長ク、手足短シ、其長一尺二寸有、同四月ニ至て大女追人ニ出ル、

一三月廿六日、御仕置者十一人、先比欠落いたし候おとら、鹿児嶋中引廻り、牛掛ニ而磔、

一上方若キ衆萩原善助嫡子と聊止、閉門町出越右衛門弟・赤塚源太左衛門嫡子・川上長左衛門二男・森清助嫡子・川上平兵衛嫡孫、

一四月晦日、公方様被遊薨御、五月十五日御到来ニ付御慎、

一國分宮内原御新田、汾陽四郎兵衛・土師孫右衛門へ被仰付置候、當五月比成就也、

一諸士衣服定、四月・六月両度有之候、

一公方様御法名、幽源院様と申渡置候処ニ、宣命被号有章院様旨御触、

一御而代凶年相続候ニ付、年号享保と被相改出、今月朔日於江戸被仰渡候間、奉得其意、右之日ゟ諸書付享保と可改旨、七月也、

一享保元年七月廿八日、諏訪御祭礼、頭殿志岐藤左衛門息、

一八月十一日、霧嶋山大燃、朝七ッ半ゟ五ッ比迄硫磺瀬泥ニ而、高原・狭野原・蒲牟田・櫟原(クヌギ)壱尺餘降埋候、

一同九月廿六日、霧嶋山大燃、世人神火と申候、此夜瀬戸尾権現へ福山之者六人参詣、内四人石ニ當り打殺、一人ハ神子行衛不相知、残一人ハ少々疵負候得共、乍漸在所へ帰、花堂曙所へ勸居候飛脚番、大石ニ當打殺、昼七ッ時分六時比迄、同夜九ッ時分ゟ七ッ時比迄大神火、高原在光坊社頭并米蔵・材木蔵・門前惣様焼失、小池ゟ門前之間、大石弐尺程埋、狭野神徳院社頭ゟ坊門前四五ケ所焼失、狭野権現十薬咎有之遷宮ノ筈ニ而、為御名代嶋津藤次郎殿被差越候得共早々帰宅、高原地頭左近允与太夫殿初地入ニ而候得共、是ゟ早々帰宅、東郷在所御神躰八十一代之現住覚焉法印守出シ、高原鎮守大明神社内ニ久敷御安置、花堂町祓川不残焼拂、高原衆中百姓方々江立除也、庄内山之口書留ニ、此時降

埋候砂石例見ルニ、地壱歩ニ砂石共ニ六斗四升
降候と云々、鹿児嶋迄茂聞シ、同廿七日ニ茂神
火終日ニ時々幾度といふ事なし、同十月廿一日
ゟ同廿二日迄、時々大神火有之、
一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬有川休右衛門
・町田長兵衛被相勤候事、
一十二月廿八日、霧嶋大神火、高原花堂衆中不残
焼失、都城片添村焼、同廿九日晩大燃、高崎宇
賀大明神・海蔵寺・在郷一ケ所焼失、

享保二年丁酉

一正月元日雪、同三日霧嶋大燃、高原之内入来名
・石ケ野名・川平名過半焼、高崎麓家十四五ケ
所焼失、
一旧冬より御下屋敷御普請有之候、御普請奉行ハ
尾上甚五左衛門殿也、
一正月七日雪、今日より同廿一日迄霧嶋時々大燃、
七日昼八ツ過時分ニ成候得ハ、鹿児嶋ゟ火光り
見る、同八日夜五ツ時分神火影敷、其晩ハ成程
晴夜、同十日昼四ツ時分ゟ、同十一日九ツ時分
ゟ、同廿一日大燃、砂石ハうすく、一時・二時
計つゝ間有之、一時か一時半計つゝ燃候、正月
七日降砂石山之口ニ而例見、此中よりハうすし、
壱歩ニ壱斗三舛計有之と云々、今度砂降候外城、
高原・高崎・野尻之内、高城・山之口・都城之
内也、

一享保二年酉正月四日、南都興福寺炎上ス、庫内堂ヲ除ク外七堂之大カラン、悉ク焼亡ス、

今度高原・高崎表霧嶋度々大燃ニ付、為見分御
目附横目被遣置候処ニ、正月十七日帰宅ニ而首
尾被申出候、彼表高原・高崎衆中百姓皆共ニ、
岸有之所ハ穴を掘、岸無之所ハ庭を掘大竹を以
塩屋之様ニ拵、上ハ茅ヲ葺、其上ニ野芝を打臥
置候、野山道ニ茂大小之石落候而、少々之燃ハ
不絶有之、砂降世間曇天ニて、通を行候時茂半
首をかむり候、就中高原之内ニ而も花堂之在所
一宇茂不残焼拂、大木立なから枝を打落シ怪俄
人餘多、牛馬之怪俄数々、野山共ニ無青色、牛
馬之飼料茂近外城ゟ入付候、絶言語候事之由被
申候、依之右片付方として、大御目附義岡右京
殿、御用人谷山角太夫殿、高原地頭左近允与太
夫殿、其外地頭之衆、御目附・横目被差遣候、
當酉正月十一日改、一砂入之外城拾弐ケ所、一
焼失家六百四軒、一怪俄人三十二人、一死牛馬
四百五疋、一田畑六千弐百四十町八反六畦拾九
歩、高ニシテ六万六千百八十二石餘損地ニ成と
云々・硫磺涌出、花堂川ゟ日向赤江川迄流出、
川底ニ住居候川魚虫之類惣様死、正月廿七日神
火如跡々之、
一二月朔日、吉野御関狩、
一於江戸當正月廿二日大火事、明暦火事六十一年
ニ成候と取沙汰中候事、
一四月六日、御家老嶋津大蔵殿死去ニ付、同八日

迄普請・嶋物可相止旨御触流有、

一同七日、上市来六右衛門ゟ火起り、浄光明寺炎上、士屋敷二十七ケ所、立野・冷水迄焼失、火飛テ立野寶珠院・盤若院類火ニ而焼失ス、

一八月二日、霧嶋神火燃之節者、必西風ニて致光物、雷之様嶋渡候、

一於苑様八月三日暁七ツ時江戸御立ニ而、鹿児嶋へ御引越被成候、

一十月朔日、北郷作左衛門殿久嘉御家老御役被仰付候、

享保三年戊戌閏十月

一正月十五日、庄内山之口移地頭村田九郎左衛門御断ニ付、肝付八郎右衛門へ今日被仰付候、御役料高百五十石被下候由被仰渡候、

一二月、嶋津十郎左衛門殿大御目附被仰付、登と名替、名越右膳殿若御年寄役、二階堂新五右衛門殿大御目附同格ニ而、御番頭御小姓頭兼役ニ被仰付、

一三月、御家老与力、旅与力迄四人ニ而候処ニ、此節ゟ三人ニ被仰付候、御用人役茂両人ニ而候処ニ、此節ゟ壱人ニ被召成候事、

一去二月廿七日夜、霧嶋大燃、高原・高崎へ砂石灰弐寸程降埋候由聞得候、

一七月五日、嶋津杢殿久武御家老御役被仰付候、

一當秋、　太守様琉人被召列鹿児嶋御發駕、十一月八日江戸江御着、琉人正使越来王子、副使西平親方、同十三日琉球人登城、

一八月、山之口移地頭肝付八郎右衛門甑嶋移地頭被仰付、山之口移地頭ハ嶋津求馬久房ニ被仰付候、御役料高弐百石、

一十一月十三日、鎌田後藤兵衛死去、御用人為相勤人ニ而候、

一十二月二日、琉球人江戸罷立、美濃路罷下候、

享保四年己亥

一上下弓場・鉄砲場普請之儀、向後普請方ニ被仰付、模合方御取替を以出可被置候旨、二月被仰渡候、

一御家中之面々、比日別而難続之由候、於旅召置候家来共、向後ハ心次第勝手宜様ニ可相減候、其外段々被仰渡、二月十八日、御取次頴娃長左衛門、

一四月、鹿児嶋中屋敷改被仰付候、

一本琉球在番中原為兵衛殿當三月病死之由、五月初飛船ニ而申来候、

一御用人以下之妻女、乗物無用ニ可仕候、其外段々、五月廿八日、御取次谷山角太夫、

一銭壱貫文代銀三拾四匁ニ、六月五日ゟ被相改候、

一諸士拝借取込銀等、或年延、或年度納拂捨之訴訟、今迄者其身書物ニ小与頭次書、与頭奥書を以申出来候得共不及其儀、自今以後、其身訴書

一正月十二日、点仁親王ヲ閑院宮ト称号ス、同廿三日親王宣下在、一月十一日御元服有テ、弾正尹・御年十五、

直ニ御勘定所へ可差出候、外城衆中同断、六月十四日、

一太守様御國元江之御暇御給、先規不相変御時服百・銀子千枚御拝領、今月十六日江戸可被遊御發駕被仰出候、依之来七月朔日与中之諸士御祝儀可申上旨、六月廿八日与中へ被仰渡候事、

一高壱石ニ付出米壱斗壱合、真米半分、内壱合ハ苦労米、

右、近年御物入之儀相続、御勝手向御不自由、金銀引替御物入増候ニ付、被相掛候旨御触、七月朔日ニ与中へ被仰渡候事、

一銭壱貫文代銀四十匁、八月廿三日より被相改、

當分鹿児嶋疱瘡最中、

一十月廿八日、　太守様横井ゟ御着城、今度之御下向少々御不快ニ付、千石馬場御通筋別而掃除有之、門戸を差犬猫なと茂不罷出様、子共ハ脇江退置候、一昨日ゟ大曲水上邊へ下知人参、通を差留、人陰も不見得様ニ仕候由、七ツ時分御着城、花園御門ゟ被遊御入候、此節之御下向ハ及五ヶ月候、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬新納右衛門殿・比志嶋兵次郎殿被相勤候、

一同六日、御家老嶋津将監殿御城代被仰付、用上久馬殿寺社奉行ゟ若年寄役被仰付候、

一十二月、鳥吹御法度ニ而、鳥吹持合候者ハ御取揚ニ被仰付候、

同五年庚子

一正月八日、富士山燃、高役銀被返下旨被仰渡候、

一出水賀志久利薩州惣社と唱候様被仰渡、川内之文字、川内又ハ千台と両様ニ書来候得共、向後川内之文字相用候様ニと、正月、

一正月廿五日、谷山衆中橋口三郎兵衛安國死去、大和守安行之末子ニ而、父子共ニ刀鍛冶之上手なり、法名ハ成心宗巧大居士と云、

一國分正八幡宮別當弥勒院と申寺者、性空上人開基之寺ニ而候得共、中古致廃壊、其通ニ而有之候処ニ、　太守吉貴公依御志願、當年二月御再興之儀、於武州江戸被　仰出、伊集院来迎院憲英江住職被仰付、東叡山室格ニ而大僧都勅許之儀御願被成候、住持憲英當二月廿四日東叡山御本坊江院室并住職之御礼申上、院室大僧都之令旨頂戴仕候、憲英事猶父之儀石井宰相行康卿江御願被成候、東叡山六世崇保院准三后一品公覚親王、

一今年、吉貴公薩州出水加志久利大明神にも別當寺御取立ニ而、幸善寺と申候、此寺ハ栗野ニ有之候廃寺ニ而、元来鹿児嶋大乗院末寺ニ而候、此節御再興ニ而、真言京都智積院直末寺ニ被仰付、寺高百四十八石壱斗弐合九夕四才被召附候、外ニ高六十石ハ加志久利之神領ニ而候、寺格之

儀着座無之門主ニ被仰付候、

一四月十三日、甑正右衛門殿自宅ニ而客被仕喧嘩、正左衛門殿客を突被殺、切腹、持高弐百石餘半地被召上候事、

一五月十九日、若御年寄名越右膳殿恒度御家老御役被仰付、大御目附嶋津彦太夫殿若御年寄役被仰付、御側御用人平岡八郎太夫殿大御目附役被仰付候、（或名越氏ハ書十一月廿日紙家表被仰付共有、）

一九月三日、伊集院蔵人殿（久矩）御家老御役被仰付候、

一公儀御用ニ付、鍛冶喜入之玉置小市安代、鹿児嶋西田之宮原清右衛門正清、江戸江被差登候、

公方様御腰物御用之由ニ而候、

一山之口衆中朝倉甚五兵衛石火矢細工仕候由ニ而、鹿児嶋江被召出候事、

一当年、高原東光坊霧嶋権現假殿旧地江迂宮有之候、

享保六年辛丑閏七月

一太守様御隠居御願書、今月三日戸田山城守様江被差出候処ニ、同九日　太守様御名代鳥居丹波守様御同道ニ而　隅州様御登城、御老中様御列座、御用番山城守様ゟ　太守様御願之通御隠居、隅州様江御家督被仰渡候通御到来、月並御礼ニ罷出候面々ハ来ル廿五日、与中之諸士并諸寺院来ル廿六日、御祝儀可申上候、六月廿四日、内記、

（一同十五日、上加茂神主七家内、鳥井大隅右京太夫・森瑞弾守両人ハ隠岐国ヘ流罪、松下長門太夫ハ壱岐国流罪、）

一久永鎌哲嫡子久永嘉右衛門、六月廿五日夜中洲崎ヘ打果有之、相手不相知候ニ付、同廿六日新屋敷方若キ衆、御春屋ヘ被召出御詮儀有之候、同廿七日口聞有之、与中ヘ刀改被仰渡候、梅北九郎兵衛殿嫡子梅北権之助殿切腹、梅北九郎兵衛殿ハ被召籠候、権之助殿死躰塩清ニ被仰付置候由、

一七月廿七日夜、西清右衛門殿屋敷ニ罷居候伊集院弥八郎下人幸右衛門と申者、南林寺之蔵ニ参、似せかぎを以蔵之戸を明、脇ニ相果居候、御寺内之事故屋久嶋蔵邊ヘ出置候、疵抔も付無之由ニ而候、

一公儀御尋者、當正月十六日暁深川万年町町医師中嶋隆碩夫婦切殺、致欠落候下人直助人相書相渡り、旅人改有之候事、

一今度宗門御改ニ付而、手札新札を用候而ハ諸人物入度有之筈候ニ付、此節者古札をしらげ用候様ニ被仰渡候、七月、

一閏七月三日夜ゟ風雨、同八日迄昼夜無断絶雨降り、高原・高崎・高岡・野尻大洪水ニて燃石流出、死人等過分ニ有之候由ニ候、

一新右衛門事相良大蔵、右ハ　太守様従御若年数年首尾能相勤、於江戸横目方御門之首尾御咎目者方調等之御用被仰付、今度御家督ニ付大御目

（一同十月廿日、投事家ヨリ慧恵江寄ノ書物縫解六巻壱・字典四十巻進献有、）

附格、座席平岡八郎太夫次、連名茂同断、大蔵と名拝領、八月七日、将監、

一組帳仕付ニ付、諸士屋敷有無之訳御用候間、可申旨、八月被仰渡候、

一銭壱貫文代銀拾ニ匁三分三り、十月十二日被改、此内ハ四十八匁かへニて候、

一十一月二日、稲荷御神事、鏑流馬毛利善太夫殿・松崎十郎右衛門殿被相勤候事、

一今月ヨリ高崎惣廟宇賀大明神并菩提所海蔵寺御造立有之、

一弥勒院寺格之儀、常十二月着座門首大蔵寺上ニ被仰付候事、

享保七年壬寅

一太守様旧猟十八日被遊　御登城、於御白書院御縁頰御老中様御列座、水野和泉守様ゟ少将御任官被仰渡候段御到来、正月十三日御祝儀、

一銭壱貫文拾弐匁、正月十四日被相改、二月朔日吉野御関狩、

一泰清院様五十年御回忌、二月十八日ゟ同廿日迄於福昌寺御執行、殺生禁断、

一太守様於江戸田町相撲を取せ被遊御覧、水車抔と申相撲強有之候由候、

一総州様吉貴公被遊御着城、御礼使肝付典膳殿、去年六月九日ニ被遊御隠居、同十一日御名上總介様と御改名、總州様と可申上旨被仰渡候、御着城以後磯江被遊御座候事、

一七月三日、於江戸従公義諸大名御参勤半年代ニ被仰出、高一萬右ニ付米千俵宛御出被遊候由、

一今度御家督初而御下向ニ付、八月廿八日諸役人江御料理被下候、同九月三日ニ諸士江御料理、於御對面所被成下候、

一十月、今度御家督初而御入部ニ付、奉悦士踊備上覧度旨被申出、御免被仰出候、此節ゟ御犬垣ニ而踊仕候、

一御分國中大御支配被仰出、十一月郡奉行諸外城江被差廻候、肝付表ハ後醍院喜右衛門・川上源助・祢寝甚兵衛等、其外諸外城ニ差入也、

同八年癸卯

一正月三日、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、

一庄内山之口移地頭嶋津求馬殿、移地頭御免被仰付候、

一正月十二日、鹿児嶋被罷立候、御先立肥前之内黒崎ニ而破船之左右相知候、御船奉行鎌田了右衛門殿、同國茂木へ被上候衆茂有之由、正月朔日川口出船、其夜ニ而候由、

一二月、霧嶋山燃為御見分、御勝手方御家老種子嶋弾正殿、山奉行曽木権之助殿、郡奉行田中幸右衛門殿、諸外城被差廻候、薩州吉田差入ニ而、二月二日高原、夫ゟ庄内荒川内之様ニ差入ニ而候、

一同月、庄内山之口地頭嶋津求馬殿江再被仰付、
鹿児嶋ゟ掛持ニ而候、山口清右衛門御役料高四
十石被下、山之口ニ移り在番ニ而候、
一太守様二月四日御参府、同六日上使安藤對馬守
様桜田御屋敷江御出、御懇之被蒙　上意、其外
首尾能段御到来ニ付、四月十一日諸士御祝儀、
一同月、花尾山江多聞院御再興ニ而候、従是前元
禄十七年申二月、前之中将綱貴公花尾山江平等
王院幷脇寺本地院・圓融院・多聞院・普賢院、
此五ケ寺御再興可被遊旨被　仰出置候、依之
吉貴公寶永五平等王院・本地院被召立、同六二
ケ寺、此節迄都合五ケ寺御再興ニ而候、一ケ寺
ニ高弐拾五石宛御寄附被成、本寺平等王院本尊
ハ佐多豊前久達ゟ被差上候、愛染明王御安置ニ
而候、此本尊弘法大師作ニ而、毎年六月朔日平
等王院ニ而御祈禱有之候、
一御下屋敷御庭普請ニ付、六与諸士嫡子・二男・
三男當分勤無之者、五月九日ゟ朝五ツ時罷出、
御門番ヘ相断御門前ニ差扣、御差圖次等ニ相勤
候、一日ニ五十人宛主取壱人、何れも中帯ニ而
罷出相勤候事、
一太守様四月廿一日首尾能御婚礼相済候、御到来、
五月十一日御祝儀也、
一五月十三日、菱刈藤馬殿病気養生不相叶死去、
當分大御目附役、

一六月、　忠久公御尊像、従　吉貴公浄光明寺江
御安置ニ而候、
一八月五日晩、於洲崎若キ衆喧嘩、執印藤兵衛殿
・竹下長次郎殿・家村佐左衛門殿、此三人ニ而
吉原平右衛門殿を被打果被罷帰、切腹ニ而候由、
一高田茂太夫殿死去、八十二才、八月十二日晩葬
礼、弓数寄ニ而、忝も　太守様御師匠被　仰付
置候人ニ而候、
一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬鎌田源左衛門
殿・若松平八郎殿被相勤、
一同廿七日、北郷作左衛門殿久嘉死去、御家老役
相勤被居候事、
一十二月朔日、　太守様被遊蒲生御立、御着城、
一同二日、御着之御祝儀、
一同十一日、大御目附御役料三百石嶋津大蔵殿久
春御家老御役被仰付候、大御目附種子嶋十左衛
門殿若御年寄役江役替ニ而、御勝手方迄被相勤
候、右同役平岡八郎太夫殿若御年寄役ヘ、御勘
定奉行御役料六百石、嶋津主計殿大御目附ヘ、
寺社奉行新納左京殿大御目附江、何れも今日被
仰付候、
一古き武者繪御刀候間、致所持候者ハ差出候様ニ、
なゝかまと申木、但右之木ハかみなりおちゝ之木
之由申傳候、二品御用触十二月有之候由、

享保九年甲辰閏四月

一元日、五社参、与之御供有、

一十一日、御隠居様御方御役々被仰付、御家老義岡右京殿久守、御用人相良源太夫殿、御近習役鎌田休之進殿、御納戸奉行諏訪甚六殿、其外御役々被仰付候事、同十六日相良大蔵殿死去ニ而候、

一二月朔日、嶋津左仲殿嶋津大蔵と改名被仰付候、同三日、於吉野御関狩、惣奉行嶋津主計殿・嶋津市太夫殿・種子嶋平馬殿、鹿児嶋二番与・四番与・六番与罷登、朝雨天、昼ゟ晴天、此日若キ衆鉄炮多打候故、夫より野火起る、同四日、御関狩ニ罷登候人数御用迫り、鉄炮御定之外打候事、野火付候事、異様之支度仕候事、

右三ケ条御詮議、二番与ハ嶋津藤次郎殿宅、四番与肝付典膳殿宅、六番与町田宇右衛門殿宅也、同十日迄之御詮儀ニ而閉門被仰付衆数多、其外出家抔ニ被仰付候衆も有之候、

一六月十五日、嶋津周防殿大姶良之内木谷村拝領、同十九日、周防殿役人を初上下十七八人木谷へ差越、大姶良と境引、山奉行志和屋佐太夫殿、郡奉行山田弥五右衛門殿、其後依願木谷を改号花岡、

一九月、鮫嶋仲兵衛殿へ盗人入、元禄銀五貫目盗取、引替之節不差出、咎ニより持高弐百六十石余半地被召揚候、

御用人平田平太左衛門殿大御目附御役被仰付候、

一十二月、陽和院様御位牌弥勒院ゟ御安置ニ而、御廻向可申上旨被仰付候、御牌所御廟所ハ福昌寺ニ而候、　光久公後夫人平松中納言時康卿御女也、

同十年乙巳

一四月、家重君御元服、正三位大納言任ス、

一二月、吉宗重豊之文字、名乗ニ用候儀無用ニ可仕と被仰渡候、

一同廿五日、　太守様御参府、

一六月四日・五日、於吉野狐狩被仰付候、罷登候人数、磯天神下濱江朝六ツ時ニ可相集候、年十八九ゟ四十才迄之間、一小与ゟ十人ツヽ隈手棒持参可致候、上之与及両度狐取得差上候得共、下之与取得不申、不手涯ニ相見得候段　御意ニ付、同九日狐狩、前髪取候者ゟ四十以上迄、朝六ツ時可相集候、下人等召列儀心次第、病気ハ證文、同十一日又候狐狩、壱番与ゟ四番与迄罷登候、同十四日狐狩、五番与・六番与罷登、狐一疋取差上る、同十五日壱番与ゟ四番与迄狐狩、五十以下之者与中不残罷登候、手棒持参、朝六ツ時集八耳取、同十六日一番与ゟ六番与迄惣様罷登候、土持十右衛門殿ゟ火起り、今日一ケ所火事、同廿一日下方与狐狩、帖佐衆中・谷山衆中迄被召立、磯鳥越并囲内犬なし之狩集ハ、

稲荷之邊磯茅落し迄狩申候事、

一七月廿八日、御諏訪神事、頭殿左志岐藤右衛門殿弟、右岩山金左衛門殿弟被相勤、

一同卅日、嶋津周防殿拝領大姶良之内木谷村ニ、又大姶良野里村之内にて八百石相添、二ケ村ニ而一所之地ニ成、依願花岡と改、鬼ケ原と申野所を小路ニ割麓ニ取立る、兵道野村兵部殿被差越、行方有之云々、

一大御支配所客屋ニ相立最中御分國中御支配、去年諸外城衆中屋敷迄竿入、其節五月十三日ゟ打続四十四日程諸外城大日十越、

一八月廿五日、西田鍛治奥主左衛門秀興死去、

一當秋、平田平六殿へ被仰付、磯濱邊ニ新道出来、往来有之候事、

一御組所と書来候得共、向後与所と書可申旨、九月被仰渡候事、

一於上築地當秋操有之、於江戸九月晦日名越右膳殿死去ニ付、人々遠慮可仕旨被仰渡、當分御家老役ニ而候、

一九月十二日、上使松平伊賀守様桜田御屋敷江御出、　太守様江御國元御暇御給り、御先格不相替紗綾三拾巻・白銀百枚御拝領、同廿一日御暇之御礼　御登城被遊候処ニ、黒御書院江　公方様　大納言様御一所　出御、御懇之被蒙上意、於御前御馬被遊御拝領段御到来ニ付、十月十一日御祝儀御帳ニ相付退出、

一於江戸御普請方検者竹下八右衛門殿高輪詰、九月十九日夜五ツ時分ニ高輪奥江忍入候事相しれ、被召籠候段、此節御使ニ中来候事、

一葵ノ御紋之儀、　公義仰渡趣ニ付而、衣類ハ勿論諸道具等ニ至迄、男女共ニ付申間敷候、十文字之儀ハ少ニ而も似寄候御紋所附申間敷候、先年段々被仰渡趣有之候間、弥其旨を相守可申、女童以下かうかいすかし等ニ成無用ニ可仕旨、十月十四日中務、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬新納五郎左衛門殿・若松平八郎殿被相勤、

一長嶋移地頭山田四郎兵衛殿、所曖其外役々一方ニ而口事、四郎兵衛殿地頭御免、曖其外ハ御用ニ付差越候処ニ、中途於川内足軽多人数被差遣置捕之、番人餘多被附置、其後被召籠候事、

一十二月廿六日、　太守様苗代川ゟ御着城、直ニ磯江御越ニ而御帰城、

享保十一年丙午

一元日、五社参、与中之諸士御供先例之通也、

一同十一日、磯御囲内天神社壇之下ニ、指先き爪を切、紙ニ包有之候、何者之業共不相知候条、家内男女末々迄遂詮儀候様被仰渡候、

一二月四日、於須磨様伊勢御参宮として、御當地御立ニ而候、

二月二十七日、将軍吉宗公武州小金

原ニテ御狩有之、

一同十一日、於吉野御関狩、
一五月十一日、若御年寄平岡八郎太夫殿之所御家老御役被仰付候而、明年御参勤御供迄、同十五日内匠と名拝領ニ而平岡内匠と改名、
一島山半蔵殿不行跡ニ有之、私遠流之願被申出、流罪之由、
一六月十八日ヨリ一七日、於浄光明寺御元祖忠久公五百年御遠忌御弔有、
一樺山主計殿久初御家老御役被仰付候、六月廿六日ニ而候、
一於江戸六月廿六日、高岡衆中志賀武兵衛殿、学問ニ而鹿児嶋士被仰付候、
一九月廿一日、篠崎八郎右衛門殿死去、此人ハ御用人御役相勤候人ニ而候、
一當秋、於上明神前築地歌舞狂言有之、

享保十二年丁未閏正月

一正月二十七日、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、
一二月廿一日、江戸居付梅田九左衛門殿御國元へ妻子引越ニ而、江戸出立、
一當春、諸外城飢饉ニ而、葛等を掘飯料ニいたし候由、
一於江戸御前様三月廿日被遊御卒去、松平長門守吉元御娘ニ而候、御法名奉号瑞仙院殿松嶽貞高大姉、可奉承知旨、四月廿日、
一青銅五百疋、諸士相中ゟ瑞仙院様御法事ニ付、献納有之、
一七月廿八日、御諏方御祭礼、頭殿左新納権之助殿息、右肝付五右衛門殿息勤、
一瑞仙院様御鬢髪、八月十四日暁浄光明寺ニ被遊御入候事、
一於江戸九月十六日、上使松平伊賀守様ニ而、太守様江御國元江之御暇御給り、諸事御先格不相替旨御到来ニ付、十月十三日ニ御祝儀、
一御分國中大御支配相済、諸士持高名寄帳被返下候事、
一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬相良権兵衛殿・中嶋六之進殿被相勤候事、
一太守様十二月五日六ッ半時苗代川御發駕ニ而、八ッ時ニ御着城ニ而候、
一同廿一日、吉貴公御処於巖殿、嶋津大学殿久章へ婚礼被調候事、
一忠久公ゟ貞久公迄五代御夫人御牌浄光明寺江無之候、依之住持寂翁之依願、當十二月御法名追号ニ而御安置ニ而候事、

同十三年戊申

一元日、五社参、六与諸士御供如例、
一竹下休左衛門殿と申人、今度御供立御跡荷物附役ニ而罷下、旧冬廿七日宿元を出行衛不相知候処ニ、紀明奉行伊集院弥八郎殿江戸江御使ニ被参候、小倉筋黒崎邊ニ而行逢、羽かひ附ニして

一三月二十一日、春宮御殿棟上、
一四月、将軍吉宗公日光御社参、
一五月十六日、春宮御殿棟上、同六月
二月新御城移徙、
同六月十一日春宮

立太子、九歳、一十月廿二日、法皇之御所江太子行啓始メ、

被列下、其段被申出候由

一二月五日、御関狩於谷山被仰付候、集ハ落之上、惣奉行種子嶋織部殿・嶋津仁十郎殿・北郷四郎殿、當年ゟ春山・谷山両所ニ而替々御狩被仰付候、鹿児嶋三与罷登来候得共、二与宛ニ被仰付、三ヶ年ニ壱度ツヽ、外城も同断、

御狩賦

一三番与（當申年登り前）　四番与　谷山　知覧　山川　川邊　加世田　田布施　伊作　久志秋目　鹿籠　指宿

一二番与（来酉年登り前）　六番与　伊集院　喜入　坊津　川辺都山田　日置　吉利　川内　山田　樋脇　隈之城　郡山　永吉

一壱番与（来々戌年登り前）　五番与　帖佐　入来　薩州　吉田　隅州　山田　阿田　百次　串木野　桜嶋　加治木　頴娃　市来

一隈之城・入来・百次・桜嶋・加治木之儀、已前谷山・春山へ不罷登候得共、當年ゟ三年ニ一度ツヽ、狩立故、新規ニ狩立申付候、

一鹿児嶋名狩立被差免置候得共、二年ニ一度ツヽ、以来狩立申付候、乍然花野村・塩屋村・西田村・吉野村・下田村・小野村之儀、跡々ゟ御関狩ニ不罷登申候条、向後共ニ被差免候、

一以前ハ御名代を初御扶持米・送人馬等為被下事候得共、人役ニ此節ゟ被仰付旨、段々之仰渡、正月、中務、

一今月十二日、於江戸御妾腹御男子様被遊御誕生之旨御到来有之、六月廿八日惣出仕ニ而御祝儀可申上候、御家老衆被為達（連カ）名候、三月廿三日、主計、

一七月廿四日、御家老義岡右京殿久守、御役之内ニ死去也、

一今度御誕生御若子様、益之助様と御名被進候間可奉承知候、向後益之字を名ニ用、名乗ニ用候儀無用ニ可仕段被仰渡、八月八日、大蔵、

一當申四月初より笹賀取候、出精申候得ハ、一人ニ而二駄程茂取候由、諸外城大形如此由、或人咄ニ、正字ハ符（シヽ）か、異名野麦、慶長十五庚戌じねを取候由、古き書記有之、是ニハ自稲と有、享保十三戊申迄百十九年ニ成、庄内方ニてハ都城山田浦・安永浦江多有之、當秋大飢饉ニ付、此實を以助命云々、

一ときと申候而門松をたてにきはいをはり候由、向後無用ニ可仕候、十月被仰渡、

享保十四年己酉閏九月

一正月五日、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、

一去秋諸外城飢饉、然れ共米直段不高値、當春高原・高崎城之儀、銭百文ニ真米五舛程之相場ニて、古老之衆ケ様之下直覚無之由ニ候、

一去辰年以来、和田次兵衛・和田次右衛門・長谷場権兵衛・加藤堅助并和田次右衛門家来花北清

右衛門へ銀子借付、又ハ右之人数ゟ致借用両替等、委大御目附座江可申出旨、正月七日与中江御触流を以被仰渡候、

一欠落者和田次右衛門家来花北清右衛門、年三十三、色立段々有、右旧臘廿二日宿元を出、御當地立退候旨相聞得候、其以後自然立帰隠居儀も可有之条、入念相改候様ニと、正月八日被仰渡、

一二月、鹿児嶋中疱瘡専時花候儀ニ付、段々之御触有之候、

一鹿児嶋并近名ときと名付、餅だんこ調、屋敷内外ニ縄張候由、向後無用、同月、

一福昌寺江経蔵造立ニ付、御領國中曹洞宗之僧ゟ心落勤化御免、同月、

一太守様三月五日御参府、同七日上使水野和泉守様御給ニ付、四月三日御祝儀、

一五月、黄檗寺御再興、此寺ハ　大玄院様御領内ニ黄檗宗門御取建之御志を被為続、信澄院様ゟ吉貴公江被仰進訳有之、雖為御隠居為御名代、真言宗大乗院末寺西田了性寺末院地蔵院之廃号ニ而御再興、山号・寺号之儀、住持玄黙ゟ元持山壽國寺と願申出候事、

一六月八日、荒田ニ被居候医師小田宗心、妻女を打果シ自害之由候、

一於江戸三月十六日、　太守様増上寺火ノ御番被仰付候由申来候、

一今月四日、　太守様　御登城被成、　竹姫君様を　太守様江御縁与被仰出、御請被仰上、段々御懇之被蒙　上意御到来ニ付、可奉承知旨六月被仰渡候、六月　太守様増上寺火御番御免ニ而、戌亥年御拂米御免、且又芝御屋敷御取添御免ニ而段々廣まり候事、

一御城代嶋津将監殿八月十七日被相果、鳴物遊興ケ間敷儀、同十九日迄日数三日令停止旨、同十八日御触、同廿日晩於南林寺葬礼六十九才、

一一昨廿六日、吉野村五百路門之万左衛門・上伊敷村之与八列立、花棚村江罷越罷帰候処ニ、吉野村之内吉田筋蓑笠之邊ニ而、右両人之者江切付候者有之、与八ゟも為切付申候得共、何者共不相知候ニ付、家来下人末々迄疵付候者有之候ハ、、早々可申出候、八月廿八日、大蔵、

新田之家号を家来等到迄名乗候者有之候ハ、、来ル廿日限り可申出候、尤文書於致所持者可差出旨被仰渡候、九月二日、上計、

一公義御尋人、當酉三月八日暮時、上野國山田之郡今永村百姓、元主人半左衛門父子を切殺し、次男ニ手疵負せ致欠落候、半左衛門下人三郎兵衛人相書、三郎兵衛、生國上州仁田山村、面丸形、色少し黒く但ひけ有、さかやき中髪、鼻筋通、目丸く目尻たかし、むねニ少シ毛有、手足毛多くあり、中せい、ひたい大きく物見候節ハ

ひたひにて見ル、肉中ふり、年二十壱式と見得候、
右之通之者御用、随分入念相改候様ニと、段々被仰渡候ハ九月、
一閏九月、當年御分國中宗門手札御改ニ付、札改座相立、諸外城検者差越、
一琉球人唐ゟ塩を火なしニ取候事稽古仕参候由申出候ニ付、鹿児嶋塩屋ニ而稽古被仰付、郡奉行上師孫右衛門殿・平田平六殿抔被参例被仕、同月、
一小次郎様御儀今度御元服、徳川右衛門督様と御改被遊候ニ付、右衛門と名付居候者ハ可相改旨被仰渡候、閏九月卅日、大蔵、
一嶋津周防殿昨日死去候間、明五日迄鳴物遊興ケ間敷儀停止被仰渡候ハ十月四日ニ而候、同六日晩周防殿遺躰一所花岡之様ニ被為越、去二日釣ニ御出、夫ゟ不快ニ而三日ニ死去、四十三歳ニ被為成之由候、
一當夏御取立之黄檗寺、願之通元持山壽國寺と寺名去八月被仰付候、左候而開山萬福寺大光國師、二代南源、三代鉄梅、四代千指、是迄ハ観請住持、五代玄黙と相定候、然ニ當十月　大玄院様御牌住持ゟ御安置仕候様被仰渡、
一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬入来院右近殿・北郷七左衛門殿被相勤候事、
一去申秋、諸々笹ニ實成候処ニ、今年ニ至り所々唐竹枯捨り、一円ニ唐竹無之事ニ罷成候事、同十四日夜八ッ時分、鎌田小藤次屋敷火起、一ケ所焼、
一今度御入輿ニ付、御守殿方諸御役所被相建、御役所之次第十一月被仰渡、御入輿相済候、御到来有之候間、元日御祝儀可申上旨、十二月十一日、

享保十五年庚戌

一元日、御入輿之御祝儀諸士申上候、
一旧冬十六日、太守様　御登城被成候処ニ、従四位上中将御官位被仰出候通御到来ニ付、明三日御祝儀可申上候、正月二日、大蔵、
一欠落者御触有之候、但直ニ年書ニ而欠落者共無之候事、
年卅四、和田次右衛門家来花北清右衛門、右之者召込置候処ニ、昨夜中牢を破り出行衛不相知、長々召込置候ニ付、髪髭は剃可有之候得共、自然様躰を替居事も可有之候間、随分人念相改候様ニと被仰渡、正月三日、御家老座、
一右清右衛門事牢を破り出候、其夜ハ雪天ニて候処ニ、本主人和田氏所へ盗ニ入、鏡餅其外段々盗取、稲荷座主寶持院ニ忍、刀箱衣を盗取、自身致月代、出家之姿に様を替、上方所々ニ忍入盗仕候ニ付、鹿児嶋中夜廻り段々有之候、尤近名所々山々狩被仰付、所々狩申候処ニ、西田山

六日廿日未刻、京上立うり通笠町西江入町ゟ出火にて、東風烈く吹大火ニ成、西限米屋町北野辺迄不焼残ス、凡町数百三十四町、家数二千七百九十八軒、穢かまと数六千四百七ツ、
十二可寺社、七十二ヶ所公家衆、公義より御救米五千俵にしられ百八丁二軒借被仰付、洛中洛外千余町より米銭衣類等ヲ合力ス、

王山ニ忍居候を、正月九日八ッ時分ニ狩出相搦候事、

一正月、姫君様益之助様を御猶子ニ被遊候事、

一二月十六日、　太守様御國元江御暇御給り、同七月朔日、御着城ニ而候、

一六月廿一日、肥前結桶ニ而有馬刑部殿・赤塚利右衛門殿・阿蘇越右衛門殿喧嘩仕、利右衛門殿・越右衛門殿両人を刑部殿被差殺、翌朝刑部殿切腹被仕候段相聞得候、何れも江戸詰ニて下り之節也、利右衛門殿ハ御馬廻り、越右衛門殿ハ新御番ニ而候、依之刑部殿跡被召禿、半地被召上、刑部嫡子ニハ祖父多門跡被仰付、兵道者ニ而候、

一山之口在番山口清右衛門殿御断ニ付、藤井孝左衛門殿へ被仰付、八月被移候、無御役料、

同十六年辛亥

一九月九日、椎井宮天台座主宣下、十二月十五日、比宮様於江戸大納言様へ御人奥御祝言、

一御所帯難被続ニ付、諸士へ御加勢可申上被仰渡候ハ正月ニ而候、依之諸士銀米等志を以進上仕候事、

一諸士衣服定被仰渡候ハ二月、進上物等減少被仰付候ハ四月、歪、

一六月六日、嶋津市太夫殿へ若御年寄役被仰付、同月、嶋津求馬殿山之口地頭御免、同十月、芦谷喜左衛門殿へ屋久嶋隠居被仰付候、乗馬之一巻と承事ニ而候、

享保十七年壬子閏五月

一正月元日、五社参、六与諸士御供如例、

一祢寝内記殿へ山之口地頭被仰付候、掛持ニ而無御役料、正月、

一二月四日、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、

一同月、東郷藤兵衛殿宅へ嶋津左衛門殿家来豊田五郎右衛門と申者致推参候付、藤兵衛殿弟子伊地知清右衛門殿兵法ニ而豊田を被打候儀及披露、藤兵衛殿・清右衛門殿逼塞被仰付候、豊田も同前、二月廿二日、谷山御関狩ニ而候、同廿七日磯於源殿武之信證院様へ参上候処ニ病気差越、其夜之九ツ時分被相果、三十二才之由、依之二月朔日より日数三日鳴物遊興等停止之御触、二月廿八日今暁と有之候、於源殿ハ　吉貴公御妾相良氏娘也、

一荒出方川上助太夫殿、小与頭ニ而欠落之御触通達ニ被相廻候処ニ、不思議成裏書有、依之及御糺明、六月十七日晩、益山喜左衛門殿被召籠候由承候事、

一八月十九日夜九ツ過、下町石燈爐邊ゟ火起り、東風ニて火手五ッ六ッニ成及大火、町屋敷五百廿ケ所、伊勢兵部殿下屋敷一ケ所焼失ス、

一總州様御法躰之御願被仰上、御願之通被　仰出候ニ付、八月廿五日磯ニ而被遊御法躰、入道様と申上候事、

一当秋、西国筋ニてかといふむし出て五穀ミのらず、崇崇九州の人民餓死するもの多し、是によって諸軍家より西国筋諸大名方へ拝借被仰付、京大坂貧民も公義より御救米を被成下なり、

一當秋、田地大虫入御領内迄ニ而も無之、西國筋惣而飢饉無納之地多、高一石ニ付十部廿部、所ニ寄三十歩計下り有之、五穀無比類高直ニ有之、當年田ニ入候虫ハ人を螫シ候、或人曰、天文廿年辛亥七月、サバイト云虫入、悉クサシ失フ、同壬子年、麦大小共ニカレ入飢饉ニ而、銭百文ニ付粃三舛大麦八六舛、前年八月十六日大風吹田畠共ニ悉損ス、天文辛亥ヨリ享保壬子迄凡百八十二年ニ成、

右記録ハ、野尻住柏原徹道人道被為見候故写之高原法印書留ニ有、庄内山之口邊ニ而ハ銭百文ニ米壱舛三合、鹿児嶋真米壱石ニ付テ百弐三拾匁之相場、但十二匁銭也、御國餓死ハ無之候得共、他國ニハ過分餓死為有之と傳承候と有、

一十月三日、遊行五十世快存上人鹿児嶋へ着、浄光明寺へ被為入候、快存上人より浄光明寺壽門江、二十世寺格永足下将位、於宗門三四ケ寺之内之事之由、被申付由候、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬相良吉右衛門殿・関五次右衛門殿被相勤候、

一十二月九日、左近允与太夫殿病気養生不相叶死去、御用人御役勤之人也、

一於江戸十二月十七日、又三郎様御着袴初御祝儀、當年五ッ被遊御成、

同十八癸丑

一於江戸四月十三日、上使松平右京太夫様芝御屋敷へ御出、御國元御暇給り、

一銭壱貫文代銀拾壱匁五分、四月十五日ゟ被相改候事、

一於江戸　姫君様五月朔日御安産ニ而、御女子様御誕生ニ而候、

一薬師如来木佛一躰、市来大日寺へ安置候処ニ、去九日夜失候、御触、五月、

一此節御誕生御女子様、於菊様と御名被進、五月七日御七夜、御祝段々御拝領、

一五月廿二日、　太守様江戸御發駕、御供御家老伊集院蔵人殿・平岡八内匠殿、御用人町田八左衛門殿、御近習役二階堂八太夫殿、其外御供七月十一日ニ鹿児嶋江御着城、

一庄内山之口的野八幡宮寶殿・舞殿造替、下地・柱伊東代、御家より初ると申事候、

一都城ニ被居候鶴千代殿、八月六日死去ニ付御禁断三日、

一御物入ニ付、諸士外城衆中御加勢米被仰付、志を以出米ニ相添上納仕候、

一御簾中様今月二日御逝去ニ付、十月廿日ゟ同廿九日迄日数十日御禁断、

享保十九年甲寅

一元日、五社参如例、

一二月五日、　太守様為御参勤四ッ半時鹿児嶋御

一十一月十八日内侍所御造作御成就有之、尊木殿へ奉還、二月二夜之御神楽有、

發駕、

一同十八日、御関狩於谷山御執行、

一二月、祢寝内記殿死去、

一本田中務太輔様御老中被仰付候、依之嶋津中務殿主税と名拝領、七月二日、

一近衛関白様御姫、徳川右衛門督様へ御縁与、森姫様と申候ニ付、森ノ字名ハ可改由、

一八月廿六日、御勘定奉行高橋外記殿・平田新左衛門殿両人共ニ御役御免ニ而候、御番頭嶋津又七殿・御納戸奉行嶋津郷太夫殿へ御勘定奉行被仰付候事、

一奥山平之丞長々病気ニ付、座中取拵置候処ニ、八月廿七日抜出行衛不相知由候、

一十一月廿八日、於江戸又三郎様御鈴踊被遊、御内々御祝為有之由ニ候、

一三月廿一日、於洛東寺弘法大師九百年忌勅会大法事、諸国ゟ真言宗僧衆会有之、

同二十年乙卯閏三月

一銭壱貫文代銀拾壱匁七分ニ、正月七日ゟ直成被相定候事、

一大馬場名字之儀、向後大場ニ被相改候旨、三月廿九日御触流ニ而候、

一太守様四月十三日御暇御給、五月十日御到来、四月廿一日江戸御發駕、六月十八日鹿児嶋へ御着城、

一八月十二日、堀四郎太夫殿興昌御家老御役被仰付候、

百十六代桜町院、中御門院第一之皇子、享保廿年乙卯十一月三月御即位、

一當卯九月比より五畿内の犬ニ病付て過半死ス、此病犬ニかみつきかまれたる人多く死す、

一十月二日夜七ツ時、福昌寺江火起り、客殿・山門・開山堂其外寺中不残焼失、

一十二月廿五日、頴娃左京殿於磯若御年寄役被仰付候、當十一月比ゟ犬はしかと申煩人ニ茂食付申候、鹿児嶋中ハ申ニ不及、諸外城同前牛馬迄茂間々死事有之、前代不聞珍事、ハシカ犬無性ニ相成人を喰候、其疵別而癘死候多シ、

同二十一年内辰

一正月、嶋津備中殿宇宿道仙老野屋敷境論、道仙松を伐候儀ニ付而、道仙養子宇宿十郎左衛門殿横目御免ニ而帖佐江寺入、取納借シ之高千弐百石、借シ置候銀子拾弐貫目御取場ニ而、道仙事ハ屋久嶋へ隠居被仰付候、

一犬ハシカ旧冬十二月比ゟ當正月ニ至り、死犬何程といふ事なし、世上一統也、

一二月二日、太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、

一三月十八日、益之助様被遊御中刕、御名又三郎、御實名忠顕様と奉称旨御到来ニ付、四月十八日与中之諸士御祝儀、御帳ニ付退出ス、

一四月十五日朝、南林寺松原ニ而相良平右衛門下女十一才ニ罷成候、強好仕候者有之候ニ付、下人等行先改有、

一年号元文元ニ被相改候由、五月七日江戸ニ而被仰渡候間、其日ゟ元文と可相改申被仰渡候、

四月二十八日、元文ト改元

一従公義今度金銀吹改被仰渡候ハ五月、
一御家老種子嶋弾正殿、依頼御役御免ニ而、御腰物拝領ニ而候事、
一山之口・梶山・穆佐・倉岡在番之儀被召止、表横目六ケ月詰ニ在番ニ而押候様ニ、當八月より被仰付候、
一近衛准后様今月三日薨御ニ付、十月十八日ゟ日数三日御禁断、
一十一月二日、末吉・小根占・田布施之儀、磯付外城ニ被仰付候事、
一十二月九日、頴娃左京殿久周大御目附ゟ御家老御役被仰付候事、

元文二年丁巳閏十一月

一正月廿八日、嶋津外記殿死去、四十六、嶋津主殿殿嫡子、御勘定奉行御役内ニ而候、
一二月廿一日ゟ同廿三日迄、慈眼院様百年御回忌於福昌寺御執行ニ而候、
一同廿五日、春山御関狩、三番与・四番与罷登候、御狩相済大雨、
一公義御尋者、當正月九日夜、本庄中之郷細川玄蕃頭屋敷前ニ而、本町三町目醫奥養庵を切殺シ致欠落候、渡邊惣七人相出、渡旅人改、
一嶋津登殿死去、
一壮之助殿屋敷鞍川と被相改、鞍川之儀、本鞍川と唱可申由被仰渡候、

一十一月十五日、薩舎子御入内、

一二月ヨリ京江戸ニテ銭新ヲ鋳ル、

一於谷山脇田操有之、相樸茂有之候、
一五月朔日、御側御用人小笠原郷左衛門殿、大御目附役ニ被仰付候事、
一仙洞御所崩御ニ付、殺生・遊興五月二日ゟ六日迄停止、舞立候儀も遠慮可仕由被仰渡候、今月、指宿磯付外城ニ被仰付、田布施ハ表方ニ成候、
一九月、加治木之本誓寺御目見寺ニ被仰付候、比寺之由緒ハ、開山運誉上人者筑後國養通寺住職ニ而罷在、天正十二年、龍造寺隆信没落之後、彼國之僧俗諸方へ退散候、其時分新納旅庵事出家ニ而、肥後八代庄厳寺住持ニ而御座候、右運誉旅庵へ心易候付、庄厳寺へ参、旅庵許状を取薩州へ罷下り、泊リノ道場法光寺へ罷居、翌十三年如肥州罷帰候処ニ、肥後國最早属御家候付而、運誉事甲斐宗運館ニ而、始而　維新様江御目見仕候、然処ニ肥後之内合志郡住吉光明寺を被下、此寺智恩院末寺之由候、天正十五年、関白秀吉公肥州隈元へ御動座之内、運誉重而薩州へ下向仕、不断光院江罷居、翌十六年飯野へ参上仕、新納旅庵御取次を以寺地之願申上候処ニ御免被仰付、帖佐願成寺開基仕、慶長元年不断光院江入院、其翌年加治木本誓寺開基仕、右外ニ茂寺地之願段々申上候由、右由緒を以當月御目見寺ニ御免被仰付候、
一當年、御分國中宗門手札御改有之、

一六月、竹千代君御誕生、

一十二月六日、長嶋衆中於獅子嶋鹿狩ニ而長嶋ヘ帰船之時、船及破船、長嶋衆中宮崎仲太左衛門・堤彦左衛門・長山長次郎・瀬戸口茂喜右衛門・大堂平次郎・宗像傳左衛門・長野勘兵衛・竹田孝兵衛・飯尾新兵衛・敷根政右衛門・上利兵衛凡十一人、本浦嶋之水主三人、凡上下十四人溺死、移地頭ハ中村早太殿ニ而候事、

同二年戊午

一當春、南林寺大門口濱ニて勧進相撲有之、

一六月七日朝、御日附伊集院長右衛門殿夜番ニ而、今朝悪病差起り、罷帰則死去、

一七月十日夜、高麗町中原七右衛門殿火起り、一ケ所焼失、

一嶋津主殿殿江戸詰御家老ニ而候処ニ、病気ニ付御暇被下、江戸罷立、八月七日大坂ニ而死去、遺躰一所長吉ニ着、天昌寺ニ被入候、法名武功院殿智山道勇大居士、

一八月廿七日、嶋津壮之助殿江越前嶋津家相続被仰付置候ニ付、一所之地可被下旨被仰出置候、依之帖佐之内薩州吉田之内ニ而可被下旨被仰出候、帖佐之内平松麓ニ見立有之候、

一十一月、大堂会被行、

元文四年己未

一正月十一日、御勘定奉行嶋津弥一郎殿大御日附被仰付、無役伊勢兵部殿江御勘定奉行被仰付、物頭之平田次郎兵衛殿ヘ御用人役被仰付候事、

一御船奉行児玉四郎兵衛殿・鹿嶋傳左衛門殿・出尻八郎右衛門殿・讃良善助殿四人共ニ郡方被仰付候、藤井休右衛門殿壱人久見崎ヘ参被居候衆、御船奉行相勤被居候、船頭代合之事ニ付、奉行と検者及口事、如此由四郎兵衛殿ハ地頭被下置其通之由、

一八月五日、於江戸高輪御前様御逝去、吉貴公御夫人、松平越中守宣重御娘ニ而候、御法名霊龍院殿洗顕妙能月渕大姉、

同五年庚申閏七月

一又三郎様御儀、旧臘十一日御城江被為召、於御前御元服、御一字御拝領、御懇之被蒙上意、御名薩摩守、御實名宗信公と御改被成候旨御到来ニ付御祝儀、

一十一月、新嘗被行、済中表外廻部之り物ニ日停止、尼法騎御門往反ヲ止、

一於江戸高輪八月、居付御小姓西小角殿外方ニ掛り、金子之事ニ謀書之聞得有之、足軽共取ニ被遣候処ニ、窓を打破り欠落ニ而行衛不相知候、右ニ付而引入被居候衆西筑右衛門殿・小川鉄之進殿・堤六郎次殿、

一今度於江戸尾張中納言様御息女様薩州様江御縁与、右尾張様御息女房姫様と奉申候間、房之字之儀、名并實名ニ用候儀無用可仕由、

同六年辛酉

一正月四日、西田町水上之方より火起り、三ケ二焼失、

一同十一日、御拝領之鶴御到来ニ而候、

一寛保元ニ月廿九日、二条関白吉忠公女、舎子皇子御降誕、三月十一日、守寺町無量寺ニテ、後自河院五百五十年紀歌会法事、庭田大納言勅旨立、

一二月十五日、御勝手方御家老堀四郎太夫殿興昌依病気御役御断、願之通御免ニ而、鎌田太郎右衛門殿へ御勝手方御家老被仰付候、同添役ハ郷原金太夫殿へ被仰付候、金太夫殿山之口地頭ニ而候得共、志布志地頭被仰付候、大野清右衛門殿勝岡地頭ニ而候得共、山之口地頭ニ被仰付候事、

一太守様御不快為御養生、依御願御帰府被遊候由被仰渡候、

一年号寛保元年ニ被相改旨、三月二日於江戸被仰渡候間、其日より諸書付等ニ茂寛保と可相改旨被仰渡候事、

一五月廿二日、於江戸又三郎様御袖留、于時御歳十四、

一七月廿八日、御諏訪御祭礼、頭殿岩山金左衛門殿息・山元五郎左衛門殿息被勤、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬四本甚七殿、射手方菱刈彦太郎殿、

一同六日、大御目附山田新助殿御役御免ニ而半地被召上、小普請ニ被仰付、

一同十二日、蘭田与藤次殿成方死去、初御納戸附、甲州流軍学表方ニ被召成、無役之中通ニ而弟子過分ニ有之候、

一十二月十一日、於江戸薩州様御前髪取候、

寛保二年壬戌

一正月、御城御番所火鉢之火落御詮儀、

一太守様去年御厄年、當年御晴厄ニ付、諸士御願成就二月九日仕候、

一御番所火落之儀、一番与御番日ニ而落度ニ成、一番与小番衆寺入、

一二月廿一日、谷山御関狩、一番与・五番与龍登候、御名代嶋津兵庫殿、

一五月朔日、日食、半時計クレテ夜中の如シ、

一於江戸致欠落候西小角、取得候由聞得候、

一七月廿八日、御諏訪御祭礼、頭殿若松平八郎殿息・鎌田次郎左衛門殿息被勤候、

一南林寺弓場、屋久嶋蔵近邊ゟ本弓場地ニ相直る、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬、

一七月廿七日未刻より八月一日暁迄大風雨、京中関東前代未聞之大洪水、死人多、

一十一月廿四日、新嘗会、

一同廿六日、豊後節会有、

寛保三年癸亥閏四月

一太守様御不快為御養生、依御願御帰府被遊等候間可承知旨、正月仰渡、

一二月十一日、春山御関狩、鹿児嶋三番与・四番与罷登候、

一四月、西小角籠死ニ付磔、閏四月六日小角同類表御小姓堤六郎次・小川吉十郎今名且右衛門、斬罪ニ被行、

一閏四月廿三日、磯江嶋津左衛門殿、同息民部殿御用、於御前左衛門殿江隠居、法躰名遊閑と

一十一月十九日、其山南麓右近橘うへかへさせ給ふにより、此日近衛殿より被奉、
一同廿四日、新嘗会、
一同廿五日、豊明ノ節会、

拝領、嫡子嶋津民部殿久市家督被仰付、左衛門と改名ヲ御家老御役被仰付、座序ハ御家老座上座ニ而、御役料千石被下旨被仰出候事、

一同六月七日、於磯嶋津右平太殿久郷御家老御役、平田新左衛門大御目附被仰付、

一同七月廿八日、御諏訪御神事、頭殿、

一八月十日ゟ同十二日迄、陽和院様三十三回御法事於福昌寺御執行、

一九月廿五日、鹿児嶋小野村三右衛門と申百姓、上納米三十年餘壱番ニ上納仕候、去子年ゟ訴訟不仕、其外親代未進米拾石餘自分代ニ上納仕、其外道橋類ニ至志能、諸人難儀不仕様ニ心掛實正成者故、御證文を以青銅千疋被成下候事、

一十一月三日、稲荷御神事、鋼流馬町田源左衛門殿十六才・関伊兵衛殿廿一才被相勤、

一今月比ゟ西ノ方ニ當彗星出、夜入時分ゟ五ツ時分迄見ゆる、

一十一月廿七日ゟ同廿九日迄、寛陽院様五十年御回忌御弔、福昌寺ニ而御執行、

一去年、十一月比ゟ彗星西ノ方ニ當相見得、次第〳〵ニ大星ニ成、尾ヲ長ク引申候処ニ、次第〳〵ニ小ク罷成候、暦学本田武兵衛考ルニ、因州之分野ニ出ルト云々、當正月八日夜迄相見得、

同四年甲子

一五月、大祓七社江奉幣使ヲ被立、
一六月、疫病はやる ニ付、京中より嘉人形を作て七条川堤ニ送る、諸國ニ同シ、

一九月廿五日、香椎社并宇佐八幡ニ奉幣使被立、十一月十八日、新嘗会、同十九日、尊明館会、同十二月十四日ヨリ十六日迄、清流殿ニ而御修法、同廿五日ヨリ廿七日迄、夢中ニテ夜御神楽、諸国豊年ゟ聞ヘ有ニ因テなり、

延享二年乙丑閏十二月

一二月、西御丸ニ若君御誕生、松平力次郎様奉称、

夫ゟ不見得、或十二月之夜迄共有、

一同十五日、御拝領之靏御到来、

一年号延享元ニ被相改旨、於江戸被仰渡候間、其日ゟ延享ヲ可用旨、ヲ二月廿九日於江戸被仰渡、

一鹿児嶋中諸士屋敷改有之、

一七月二日、於須ノ様御卒去ニ付、踊之儀頭屋迄ニ而、御城御寺方ニ踊不申候事、

一同廿八日、御諏訪御祭礼、頭殿比志嶋彦七郎殿嫡子・清水源右衛門殿嫡孫被相勤候事、八月七日朝辰刻地震、同十日大風、鹿児嶋所々毛降候、

一十二月廿一日、嶋津三次郎殿江和泉家相続被仰付置候ニ付、顕娃・指宿之内ニテ一所地被下、今和泉と被相改候間、其通唱候様被仰渡、

一正月二日より雪、御一門ヲ初衣服定、正月被仰渡候、正月節々雪ニ而、二月十七八日比ゟ日和ニ成、安之助殿祢寝家ニ猶子之儀ニ付、本家小松之称号嫡子代々可相用旨、　継豊公御判物、安之助殿事當二月於　吉貴公御前拝領、孫左衛門儀ハ只今之通祢寝可相用旨被仰渡候、

一六月、岩山金左衛門殿息頭殿被仰付置候得共、御免ニ而、川上納右衛門殿息ヘ被仰付、同十五日、金左衛門殿屋久嶋ヘ隠居被仰付、持高八百二十石餘之内半地被召揚候事、

一七月廿二日、薩州様宗信公暁八ツ時苗代川御立

十月、将軍宣下、任家重公正二位右大臣、十一月前将軍吉宗公西之丸ニ御移徙有ヲ御隠居、大御所様と奉申、将軍宣下御祝儀として、一条左大臣・二条右大将、十月十三日関東江下向、同十五日、勅使として久我大納言・葉室前ノ大納言関東下向、准后使長谷三位被下向、

十一月四日、石清水八幡宮正遷宮勅使広幡大納言・庭田宰相中将、海老中禄四相撲寺殿被仰付、阿部伊勢守大坂御城代、

ニ而、九ツ時分初而鹿児嶋へ御光着御入城、御供御家老樺山主計殿、御用人蒲生十郎左衛門殿・市来次郎左衛門殿、其外御供ニ而候、

一九月十六日、薩州様福山御馬追ニ御登せ候、

一伊勢兵部殿貞起御家老御役被仰付候、

一十月五日、御家老嶋津杢殿　死去、六十三才之由候、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬喜入主膳殿嫡子喜入安次郎殿廿一才・平岡八郎太夫殿嫡子平岡八四郎殿十五才ニ而被相勤候事、

一同六日、河野八郎左衛門殿へ御側詰御小姓頭被仰付、川邊地頭被下候由、

一上内之丸ニ被居候別府長次郎殿、評定所ゟ御用申来切腹被仕候由、

一公方様此節御隠居、為御佳物　薩州様江御腰物拝領ニ而候由、御馬廻り之野間孫右衛門殿宰領ニ而十一月廿日ニ下着、

一十二月十六日夜七ツ時、鎌田次郎左衛門殿屋敷ニ火起り、一ケ所焼失、

一閏十二月朔日、　薩州様郡山花尾権現宮江被遊御参詣候、

一同八日、於江戸菊姫様御歯黒初之御到来ニ付御祝儀、十二ニ御成候由、

一同十一日ニ　薩州様御首途有之候、

一十二月九日、上使松平讃岐守京着、同十五日ニ参内有、

延享三年内寅

正月、一条兼香公任太政大臣、

一三月十六日、皇子遊王宮下、退仁親王奉申、

一十一月二十三日、新嘗会被行、

一御所帯難被続ニ付、御分國中高一石ニ付五舛ツヽ、無高之人数以下人別壱匁出銀、牛馬船迄茂出銀被仰付候、

一二月六日、嶋津大蔵殿久春死去、於江戸御家老御役之内ニ而候、

一今度将軍家御家督ニ付、上使徳永平兵衛様・小笠原内匠様鹿児嶋へ御差入、八月二日朝六ツ半鹿児嶋御立、高入之様ニ御通、

一九月十二日、御用人木村四郎左衛門殿、病気養生不相叶死去ニ而候、

一同廿八日夜、鹿児嶋永吉村牛込鼻邊ニ中宿仕居候山口杢左衛門家来前原千右衛門・父母妻子并小野村之百姓蔵右衛門を切殺、相手不相知ニ付、段々御詮儀、与所ニ而諸士疵改等有之、

一於江戸十一月廿日、御願之通　太守様継豊公御隠居、　薩州様宗信公江御家督被仰出、十二月十六日御到来ニ付、諸士御祝儀申上候事、

同四年丁卯

百十七代

御誕生ニ、五月二日御受禅、御年七歳、桜町院第一皇子、御母青綺門院第二条関白吉忠公御女也、同九月廿一日御即位、一条前ノ太政大臣兼香公摂政ス、此時之

一旧臘十八日、　太守様被任少将候旨御到来ニ付、与諸士正月十八日御祝儀、

一四月、鹿児嶋南泉院・南林寺諸所松ニ虫付ニ付、廿四ケ名百姓共虫踊、

一四月十六日、　太守様へ為上使本田伯耆守様芝御屋敷江御出、御國元江之御暇御給り、紗綾二十巻・白銀百枚御拝領、同日従　大納言様（御所）以上

公家衆ニハ、前左府道香、左大臣近衛内前、右大臣鷹司冬熙、内大臣二条宗基等也、

使西尾隠岐守様御暇御給ニ付、縮緬二十巻御拝領、同十八日従　大納言様以上使松平右近将監様御暇御給りニ付、紗綾二十巻御拝領、同十九日御暇之為御礼　御登城被遊候処ニ、御黒書院江　公方様出御、御懇之被蒙　上意、於御前御腰物・御馬御拝領被遊候旨御到来ニ付、五月三日　御三殿様江御祝儀、

一當夏、所々熱病疹気等之病時花、段々有之候事、

一六月廿五日、　太守様御家督ニ而、初而御人部、御供御家老嶋津左衛門殿、御用人義岡左平太殿、其外御供六十人備ニ而御下り被遊候得共、右御手廻り八参不逢候、江戸江之御礼使嶋津杢殿、

一七月廿二日、御家老北条織部殿依願御役御免ニ而、一世御養料百石被下候、御勝手方御家老鎌田太郎右衛門殿依願御役御免、御養料同断、昨廿一日御用人大野清右衛門殿御勘定奉行御勝手方添役迄被仰付置候、同廿三日鎌田源左衛門殿政昌・郷原轉殿久待御家老御役被仰付候、

源左衛門殿ニハ典膳と名替ニ而候、

一同廿五日雨天、東風雷事々敷、加治屋町佐多衆中川口伯耆所江落、又上町之油屋へ茂落候由、

一八月四日、鎌田典膳殿江志布志、大野清右衛門殿へ田布施地頭被下候事、

一同廿六日晩七ッ過、新屋敷靏丸八郎兵衛殿ゟ火起、肝付孫右衛門殿・大窪半兵衛殿・渕村伊兵衛殿・河野喜右衛門殿・山崎仲右衛門殿・福崎助八殿七ケ所類火、庄内山之口大野清右衛門殿地頭ニ而候得共、嶋津市太郎殿江被仰付候事、

一於江戸細川越中守様八月十五日御登城、雪隠ニ被成御座候処ニ、御族元板倉修理太夫様御切付ニ而、翌十六日越中守様御卒去ニ而候由、九月七日ゟ同九日迄、鹿児嶋嶋物遊興ケ間敷儀御停止ニ被仰渡候、

一總州様御事、此程ゟ御病気御養生無御叶、十月十日被遊御逝去候、御歳七十三、依之山野殺生三十日相止、御直士日数三十日月代仕間敷旨被仰渡候、御法名　浄國院殿鑑阿天清道熙大居士、御治世十九年、御隠居以後廿七年、同十四日、浄國院様磯ニ而御直り被遊候、同十六日戊亥刻、磯御屋敷　御出棺ニ而、新道道御通行、浄光明寺江被遊御移、御寄合以下諸士町田源左衛門屋敷邊ゟ二王門邊ニ罷在、御通御跡ゟ浄光明寺下迄御供仕、夫より何れも退去、同廿五日於浄光明寺御葬礼、御寺内手狭候故、諸士ハ於坂下御帳ニ附退去仕候事、

一大御目附平田新左衛門殿へ御勝手方添役被仰付候、御勝手方御家老嶋津左衛門殿・郷原轉殿両人、右同添役大野清右衛門殿・平田新左衛門殿両人宛ニ而候、

一十二月、磯御方御役人依願御役御免、来年頭供

定・藥代定・染代定、其外段々定方被仰渡、奉公障り、小普請御赦免、籠舍者出牢被仰付、其外段々難有　御意共為有之由候、

延享五年戊辰閏十月

一正月四日、諸士江駈通　御目見被仰付候、

一同十一日御役替、大御目附嶋津弥市郎殿若御年寄役被仰付候而、矢柄と名拝領、寺社奉行山岡齋殿大御目附御役、其外段々御役替四十人ニ及ひ、出水地頭嶋津左衛門殿へ被下、郷原轉殿依願御家老御免、

一同廿一日、平田新左衛門殿正輔御家老御役被仰付、座席ハ鎌田典膳殿次ニ被仰付、掃部と名拝領被仰付候、

一隅州様御病身故、嶋津備中殿御家老座上座詰数年ニ而候得共、御免ニ而候、

一二月十五日、嶋津大蔵殿久丘御家老御役被仰付、座席ハ嶋津左衛門殿次、

一同廿一日、磯御方ゟ被下置候名代蔵役、御勝手方ゟ被差留候由、

一三月二日　御出座、諸士江御目見被仰付候、

一五舛重出米被返下候、籠舍仕罷居候者共御免ニ而出籠、遠流被仰付置候者共直り被仰付、小普請被仰付置候者共御赦免、其外重き科人茂軽ク被仰渡、別而重き科人纔計相残り居候由候、

一頼朝卿五百五十年忌、三月十三日ゟ同十七日迄於大乗院御執行ニ付、御法會中殺生令停止候旨被仰渡候、

一七月廿四日、年号改元、寛延元ニ改元ならる、

一四月七日、稲荷御神事、鏑流馬土岐二之助殿、射手方川上七郎右衛門殿勤ニ而候、去年御忌中故當年如此、

一同月、大野清右衛門殿御勘定奉行御勝手方添役ニ而候得共、御役御免被仰付候、算用役物奉行格有馬源五右衛門殿・東郷主左衛門殿、皆御役御免ニ而候事、

一四月十九日暁、　浄國院様御遺髪高野山江御登山、嶋津仲殿其外御供、

一六月十四日、原良二本杉ニ而喧嘩、平山平之丞殿・舎弟平山源助殿、草牟田被居候中嶋平五左衛門殿、

一同十七日、御留主居皆吉九平太殿御勝手方御用人被仰付候、

一於嘉久様御名唱書面、於御國為吃立節茂様と唱、書付等ニ茂其通可致旨八月被仰渡候、去七月十四日、御家老嶋津大蔵殿死去、

一八月十五日、御側御用人新納次郎兵衛殿大御目附御役被仰付候、

一同廿三日、於南林寺弓場諸士弓被遊　御覧、元脇寺地ニ御茶屋相立、朝六ツ前ニ何れも相揃、五ツ時　御出座、射手人数百五六十人程、四元次左衛門・鎌田平蔵両人抜仕、弓矢拝領被仰付

候、

一九月二日晩六ッ時分ゟ大風吹出、戌亥刻盛也、新屋敷樋之口・山之口馬場邊塩大分あふれ出、井水ニ塩入久敷塩ハゆし、且西目筋大塩ニ而、市来湊・串木野海邊家流れ所々破損ニ而、両所共ニ死人過分之由候、

一九月九日辰刻、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、琉球人被召列、嶋津兵庫殿百人之御賦被下、御供入来院主馬殿、御家老鎌田典膳殿・平田掃部殿、琉球衆壱頭（行列）ハ御跡ゟ被参候、今月、嶋津市太郎殿助之丞と改名ニ而候、

一同廿八日夜八ッ時分、　御城外供屋ニ火起り不残焼失、　御城風脇ニ而無恙、

一十月十三日戌刻計、雷事々敷風雨烈敷、上城之谷ゟ辻風暴ク吹起り、其一通ハ盤石も吹起シ候程之風ニて、家抔半分ゟ吹切候程也、茅家抔其侭馬場ニ吹落シ所々破損、不断光院・浄光明寺・大龍寺・後迫邊迄一通之風ニて脇ハ痛不申、世間ハ左程之風ニて無之候、

一十一月二日、稲荷御神事、鏑流馬北郷民部殿・鹿嶋郷兵衛殿勤、

（十月廿八日、大雷会修行、）

（十一月、琉球人来朝、）

寛延二年己巳

一太守様旧臘十三日、従四位上中将御官位御昇進之旨御到来ニ付、正月七日諸士御祝儀申上、相済候時分、昼九ッ過平之馬場佃勝右衛門殿ゟ火起り、士屋敷二十六ケ所、家数凡百七焼失ス、

一旧臘十二日、　太守様　御登城、及而度上使御給り、段々御拝領物且又琉人被召列候ニ付、御取持先格之通ニ米弐千俵御拝領之旨御到来ニ付、正月十六日諸士御祝儀有之候、

一隅州様同廿四日、　御名代嶋津兵庫殿ニて御首途之由候、

一二月六日、鎌田禅了老死去、七十四才、俗名鎌田太郎右衛門、御勝手方御家老、

一同廿四日、御家老嶋津左衛門殿久申御役内ニ死去、卅六歳、同廿七日晩日置ニ被参候、

一三月十三日、去年御供之琉人、今日鹿児嶋ニ下着、御家老平田靱負殿、御用人戸田傳五郎殿、楽童子之衣類ハ今度　公方様ゟ御拝領之由、

一三月六日、於江戸尾張中納言様御息女、　太守様江御縁与被仰出候、

一菊姫様筑前之松平修理太夫様江御縁与被仰出候事、

一隅州様二月四日江戸御發駕ニ而、四月廿三日ニ鹿児嶋江　御光着ニ而候、

一太守様五月十八日鹿児嶋へ御光着、四ッ時分御馬ニ而候、御供御用人福山平太夫殿、御近習役渋谷喜三左衛門殿・迫水善左衛門殿、御納戸奉行渋谷加納右衛門殿、其外何れも馬上ニ而御供、

一太守様御不快ニ付、六月廿六日諸士為伺御機嫌

（三月五日、隅州宰相殿君五十宮御方様東御発駕、二月下総守御供ぜらる、）

（四月、中御門院十二回忌、）

（同月、日光御門跡上洛、）

一六月、酒井雅楽頭殿播州姫路へ国替、松平大和守殿上州前橋ニ所替、

登城仕候、右ニ付而ハ、諸士ゟ神明江御祈祷御守札差上候、

一六月廿二日、嶋津主殿殿へ御家老御役被仰付候、当分御不快ニ付　御名代嶋津杢殿ニ而被仰付候、主殿殿此中ハ若御年寄役ニ而候、

一太守様御不快御勝不被遊候ニ付、七月八日諸士奉伺　御機嫌、御養生無御叶、七月十日巳刻被遊　御逝去、御年二十二、

一御慎山野殺生鳴物日数五十日止、普請作事日数三十日止、

一漁猟諸商売日数七日、家職ニ付音高儀茂同断ニ相止候、

一御直士日数五十日月代仕間敷候、又者町人百姓ハ不及其儀候、

一御法名慈徳院殿俊巖良英大居士、同七月十三日戌亥刻　御城ゟ福昌寺江御移、同廿四日於福昌寺　御葬送、諸士伺公場ニ相詰候、外城ゟ茂衆中差越相詰候、

一九月二日、大御日附義岡左平太殿御家老御役被仰付候事、

一慈徳院様御遺跡御相続、兵庫様江御願被仰上置候処ニ、御用番本田伯耆守様ゟ忌服被為受、御出府可被成旨被仰渡御到来、九月三日ゟ十月廿二日迄山野殺生并鳴物停止、十二ケ月之御忌服被為受、御出府被成候様被仰渡候間、唱又者書

一九月朔日伊勢内宮、同四日外宮御遷宮ニ付テ、勅使として藤波三位伊勢ニ下向せらる、

一同月、京都所司代牧野備後守殿卒去、

一同月、酒井左衛門尉殿御老中、

一十月、稲垣能登守殿京町奉行ニ被仰付、

寛延三年庚午

一正月、御老中本多伯耆守殿、京所司代松平豊後守殿入洛、

一四月二十三日新院崩御、五月十八日泉涌寺御葬送、幕様ト奉申也、

一六月廿六日、今上御母儀青綺門院と奉申、御母故殊所従二位利子、

一八月廿六日、京都大雷、

付様之字可相用旨被仰渡候、

一兵庫　御出府ニ付被召附候諸士、御立之日より月代仕間敷候、又者人足ハ不及其儀候事、

一九月廿一日、左平太事義岡相馬、与右衛門事川田伊織、次郎兵衛事新納内蔵、次郎左衛門事市来左中、右之通名拝領被仰付候、

一二月廿九日、西田之頭水上邊ゟ火起り、十ケ所計焼失、

一三月九日、南林寺松原ニ而喧嘩、大野鉄兵衛殿二男大野鉄十殿・徳田長八殿・弓削（此間本之通）三人一方ニ而梅田杢兵衛殿二男被打果、切服之由候事、

一四月十八日暁、　慈徳院様御遺髪高野山御登山、

一御名之順・様之文字、左之通被仰出候、　姫君様　太守様　隅州様　御前様　菊姫様　信證院様　於栄様　於喜代様、四月、主計、

一六月十五日晩、伊集院妙円寺鎮守堂之邊ゟ火起り、寺中不残焼失、

一八月朔日午刻、　御前様御城より御發輿ニ而、鹿児嶋御立ニ而候、

一九月廿一日、御家老椛山主計殿死去ニ付、人々遠慮三日被仰渡候、

一十月十日、鏑流馬川上守右衛門殿・樺山才右衛門殿被相勤、去年御服故如此也、十一月三日、大野権太夫殿・町田源左衛門殿舎弟勤ニ而候、

稲荷御神事例通也、

一十二月十一日、先比日学と申聞得悪敷衆、於評定所遠流被仰付候、

寛延四年辛未閏六月

一正月廿五日、下今町小林幸右衛門借屋之早助、昨廿四日晩右於借屋殺害、相手不相知、与中諸士召仕置候者ハ家来下人何者ニ而も、居屋敷ニ召置候者ハ小与頭於宅改有之、

一二月十六日、中太兵衛事小林左内大御目附御役替、左内と名替被仰付、家格寄合ニ被仰付、連名之次第名越左源大次、北条十左衛門上ニ被仰付候、

一二月廿九日、京都大地震、

一四月十三日、上使本田伯耆守様芝御屋敷江御出、御國許江之御暇御給り、御先格不相替段々御拝領物被遊候段御到来ニ付、諸士御祝儀、

一五月十八日晩八ッ時分、上なめり川鹿嶋三左衛門殿ゟ火起り、丸田惣左衛門殿・大山氏・川南氏迄四ケ所焼失、堀之内馬場北之方ニ而候、

一六月廿日、於江戸大御所様葬御、事中有徳院殿、

一大御所様六月廿日薨御、閏六月八日、右御仕合御到来ニ付御慎、同十一日ゟ髭月代すり候儀御免、　太守様六月廿一日暁苗代川御立被遊、其日四ツ過鹿児嶋御着城ニ而、當分御在國ニ而候、

一八月十一日、樺山左京殿奥方御卒去ニ付、同十三日迄禁断、十三日晩南林寺葬礼、

一九月廿三日、御家督ニ付御祝被成、御一門御家老を初諸役人江御料理被下候、同廿五日与中人躰江御料理被下候、同廿七日、諸士奉祝御膳進上仕、御能備　御覧候、

一十月廿三日ゟ　太守様下方御巡見として被遊御越候、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬新納小右衛門殿・相良政之丞殿被相勤候事、

一十二月朔日、年号寶暦と被相改旨、十一月三日於江戸被仰渡候、御触ニ而候、同廿三日、太守様御巡見相済、御帰城被遊候事、

一十一月廿八日、年号改元正暦元、

一十二月、御側衆大岡出雲守五千石御加増、一万石ニテ大名ニ御取立、

寶暦二年壬申

一元日、五社参、与之御供迄先例之通、

一今度御家督初而御入府ニ付、上下諸士踊備　上覧度、与頭ゟ被申出候ニ付、御旧例之通被　仰出、踊稽古上下共ニ有之、御通稽古茂有、二月十五日迄ニ而止、

一二月朔日ヨリ同月十五日迄、小野天満宮八百五十年忌万燈会有、

一二月廿一日、上士踊備　上覧候、終日雲天、同廿二日下士踊備　上覧候処ニ、踊最中ゟ大雨、

一三月四日、上町夷踊御犬垣ニ而備　上覧、下町大黒踊同断、

上方高

一今度士踊ニ付下方高拾五万二百七拾五石ニ割付、文銀弐拾貫二百弐拾七匁余、

一九月十一日四ッ半時、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、琉球人被召列候、御供御家老嶋津主鈴殿・義岡相馬殿両人、其外御供、

一十一月廿六日晩、武青木森邊ニ而喧嘩、松方兵

右衛門殿一方ニ而、相手者喜入次兵衛殿・宮之原弥兵衛殿・有川蔵右衛門殿・渡邊仲兵衛殿四人ニ而、兵右衛門殿を被打果、何れも被帰切腹之由承候、

寶暦三年癸酉

一四月十五日、上使松平右近将監様ニ而御國元江之御暇御給り、先格之通段々御拝領物有之候段、五月十日御到来ニ付御祝儀、

一六月九日、　太守様御着城、此節八東目筋御下向、去七日都城御泊、同八日都城四ツ時分御發駕、九ツ過通山江御泊、翌日鹿児嶋江御着、

一七月　　新納内蔵殿江御家老御役被仰付候、

一高壱万石ニ付籾千俵宛囲置候様、従　公義被仰渡候ニ付、當秋高壱石ニ付真籾弐升六合宛、御蔵人・給地共ニ囲籾被仰付、夫々ニ百姓格護ニ被仰付候、是囲籾初りニ而、是より以前不承事ニ而候、

一十月廿八日、南林寺弓場へ　太守様御光儀、下諸士弓備　御覧候、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬細竹金十郎殿・三原九兵衛殿息勤之、

一末吉衆中内山筑右衛門両親江孝行之段相聞得、鹿児嶋江被召呼候而、青銅二千疋拝領被仰付候、

一此敵山御修覆初テ御手伝、松平安芸守殿、

同四年甲戌閏二月

一旧冬、於江戸美濃・尾張・伊勢二ケ國川々御普請御手傳被仰出候、依之江戸ゟ右場所へ御家老嶋津主鈴殿、御用人菱刈孫兵衛殿・諏訪甚兵衛殿、御近習役伊地知新太夫殿、御留主居山沢小左衛門殿・岩下佐次右衛門殿・佐久間源太夫殿、其外之役々被遣候由ニ候、

一二月、御所帯方難被続、當分御借銀四万貫目餘極々御手廻り之処ニ、此節御手傳ニ付而、金銀持合候者ハ借上候様ニ、小与頭を以被仰付候事、

一閏二月二日、於江戸　御前様御逝去、法名智光院殿心顔貞鏡大姉と奉申候、嶋津大学殿御息女ニ而候、

一今度御手傳ニ付、高壱石ニ付文銀九分九り宛、諸士持高ニ相掛り候而、六月廿九日限ニ上納被仰付候、

一六月、於友殿於都城卒去ニ付御禁断、是ハ　浄國院様末之御女子、去延享四年十二月、嶋津筑後殿息嶋津岩袈裟殿へ縁与被仰付候而、直ニ都城ニ被差越候、當年八才之由候、

一八九月比、江戸芝御屋敷熱病ニ而、士以下足軽人足等ニ至迄、凡死人二百餘人ニ及候、御家老伊勢兵部殿ニ茂於江戸長々病気養生不相叶、十月五日死去、

同五年乙亥

一銭壱貫文代文銀拾四匁五分、亥正月晦日ゟ被相改候事、

一十月十九日、改暦宮下、

一美濃・尾張・伊勢三ケ國川々御手傳相済、六月何れも江戸江引取、

一太守様於江戸御病気御養生無御叶、去月十六日被遊御逝去候旨七月四日御到来ニ付、山野殺生日数五十日相止、御直士月代五十日仕間敷候、其外段々慈徳院様御逝去之節同前、

一御法名圓徳院殿覚満良義大居士、

一七月六日ゟ同十日迄、慈徳院様七回忌御法事於福昌寺御執行、

一同十三日、嶋津内記殿死去、御下屋敷隅州様御方御家老ニ而候、

一同廿八日、諏訪御祭礼、頭殿町田直右衛門殿息・西俣彦左衛門殿息、御慎内、備鑓も無之由、

一於江戸七月廿七日、圓徳院様御願之通御遺領又三郎様御相続被仰出旨、八月十五日与頭宅江与中諸士御用ニ而被仰渡候、

一圓徳院様御遺躰、東海道・中國・小倉三道中、八月十八日晩福昌寺御入寺、

一九月二日、児玉梅庵死去、八十五歳、初市来衆中、学文ニ而被召出候付、初児玉早之丞ニ其後宗因と申候、

一貞享暦違有ニ付、今年土御門従三位陰陽頭安部泰那卿暦法ヲ改給ふ、薩州門人磯永孫四郎源周英暦ノ表ニ此事を記、

一此製出御修覆成就、

一片崎松浜案出ル、

一十一月二十六日、女御入内、

一北國ニ大水出、

一是年、信州木曽川松平薩摩守殿御手伝、

一此年三月、江州竹生嶋渡海ニケ、船破損ニテ七十余人死ス、

一五月、東武大納言様御入輿、開院宮様ヨリ、

寶暦六年丙子閏十一月

一五月七日、松平右京大夫殿京都所司代、同日井上河内守殿大坂御城代、

一正月晦日、信證院様御卒去、九十三歳、御肖像御僧形兼而壽國寺光嚴堂ヘ御安置ニ而候、大玄院様御夫人、享保十四ゟ元文辰秋迄ニ壽國寺寺家并光嚴堂・天王殿・惣門迄成就、寺高四百八十石被召附置也、

一三月廿二日、於徳殿卒去、嶋津出雲殿奥方ニ而、淨國院様御姫ニ而候、

一五月廿三日、公儀御目附京極兵部様・青山七右衛門様鹿児嶋ヘ御着ニ而候、吉野ゟ九ツ過御旅宿客屋江被為入、六月十一日御城江御招請、七月三日為巡見喜入ニ被為越、同十日濱之市ゟ御旅宿ヘ帰宿、

一七月廿八日、諏訪御祭礼、頭殿左米良藤右衛門殿息、右國分藤之丞殿息、

一九月二日、稲荷御神事、御名代嶋津玄蕃殿、此日御目附嶋津筑後殿江御入、

一同六日、隅州様為御慰向江船手ニ而花火有之候、

一同七日御目附伊敷妙谷寺江御参詣、御帰ニ伊勢兵部殿山庄江御入、同廿四日御城山御見分、南泉院ニ而昼御休、十月三日嶋津主鈴殿ヘ御入、公義御目附御勤方相済、十一月二日御旅宿客屋両所ゟ今日五ツ時分御立候、今晩ハ伊集院苗代川ニ御止宿、今日稲荷御神事、鏑流馬鮫嶋次左衛門殿・林休兵衛殿被相勤候事、

一十一月七日、御家老伊集院縫殿死去、

一同十二日、今度公義御目附首尾能御立ニ付、御役人限之御祝儀有、

一閏十一月八日夜五ツ時分、下馬乗馬場榎木邊税所五兵衛殿火起、同五右衛門殿類火、十二月十日樺山左京殿　江御家老御役被仰付候、

同七年丁丑

一二月四日、於吉野御関狩、鹿児嶋二番与・六番与罷登候、

一同廿三日夜八ッ過、南林寺ニ火起り、五六ケ所焼失、

一三月二日夜、谷山町ニ火起り、町半分焼失、其大光鹿児嶋ゟ岡越ニ見、

一七月十六日、若御年寄嶋津将監殿久起死去、

一同廿八日、諏訪御神事、頭殿西八兵衛殿息・右伊集院休殿息被勤候、

一上孝行橋石之太鞍橋ニ仕度願申出、其引替ニ當秋ゟ春秋二ケ年、晴天三十日アヤツリ御免上、於神明築地八月十七日ゟ初る、

一十一月三日、稲荷御神事、鏑流馬三原四郎次殿・岡元仙右衛門殿被相勤候、

一同十九日、武大明神江月並廿酒上、其廿酒被下候者五六人相果、其外半死半生、

同八年戊寅

一二月廿一日ゟ上築地ニ而アヤツリ有之、

一下町波止弐百間餘長々築出可申候間、御米六千石申請、諸士出米入付可申候、御免之願平屋と申町人申出、去年ゟ入付、當春波止築有、

一二月廿八日朝、四番与朝代御番ニ罷出候処ニ、御門ニ墓所之上屋有之ニ付其段申出候、依之今日ゟ晩ニ至り鹿児嶋中御詮儀有之候得共、仕手不相知候、

一時ノ鐘破候故鋳調、四月三日掛初鐘供養、かけ初二日、供養者三日ニ有之、

一五月廿一日夜四ッ時分、上孝行橋ニ相掛候石之太鞍橋崩候事、

一六月十三日、　太守様於江戸御城江被為召、於御前　御元服、御一字御拝領、従四位下少将被仰出、御盃御肴御頂戴、御道具御拝領、御懇之被蒙　上意、御名薩摩守、御實名重豪公と被成御改候段御到来ニ付、七月九日於御城　御両殿様江御祝儀、

一七月十九日辛未、申ノ初刻ニ至り大風吹起甚敷夜入時分ニ吹止候、鹿児嶋中破損多し、此大風山川之邊甚敷、他國ハ吹不申候由、

一同廿八日、諏訪御祭礼、頭殿遠矢金兵衛殿息・伊勢十兵衛殿息、御名代玄蕃殿、

一同廿九日、大御目附川田伊織殿若御年寄役被仰付、嶋津権左衛門殿大御目附御役被仰付候、八月晦日より於上築地アヤツリ有之、

一九月十一日夜四ッ過、下樋之口原田順固殿ゟ火

一三月十六月、近衛内前公任関白、

一七月、紀事大約言遊去、

一七月朔日、皇太子御降誕、

起り一ケ所焼、火飛森岡孫右衛門殿名子家一ツ焼、同廿六日夜大雹降ル、

一玉照院様御卒去ニ付、九月廿九日より十月三日迄御禁断、姫君様御實母由、

一十一月廿五日夜四ッ過、鎌田典膳殿宅江火起り、一ケ所焼失、典膳殿病気ニ付六ケ月御暇ニ而、京都江養生ニ被参候留主、當分御勝手方御家老ニ而候、

一十二月六日、平ノ馬場甲付八幡源兵衛か洲江御移之筈ニ而、久保田諏方社江今日宮移、跡ハ義岡相馬殿屋敷ニ相成、

一同十九日、嶋津市太夫殿死去、此程より病気、三十九才、奥方様ハ隅州様御姫、

一同廿日、御家老嶋津主殿殿出勤、於御座急病差起り、罷帰死去、六十六、

一同廿一日晩、嶋津市太夫殿葬礼於南林寺松原有之候、

一正月二十七日、大坂御城下青山医師守入城セラル、

寶暦九年乙卯閏七月

一正月、甲付八幡源兵衛か洲江宮居相直る、甲付又江月共書中由候、

一二月十五日、於吉野御関狩、御名代嶋津若狭殿、隅州様・於加久様御見物ニ御登せ候、鹿児嶋三番与・四番与罷登、其日朝立曇天、昼晴天、

一同十六日朝、草牟田隆盛院於墓所税所次郎右衛門二男、信照院之竹之内氏喧嘩、

一四月十日、加賀國金沢大火、城下町悉ク焼失ス、

一同廿一日ゟ於上築地アヤツリ、同日隅州様義岡相馬殿江御成、

一四月廿一日晩、夜入元ゟ御普請方ニ火起り、奉行所其外材木蔵不残焼失、外長屋并検者所相残、人馬所ハ別条無之、夜明時分焼鎮る、

一同廿五日、吉野御馬追筈候処ニ、廿四日雨ニ茫崩、同廿六日ニ有之、外城廿五日ニ有、

一七月廿八日、諏訪御祭礼、頭殿土持佐左衛門殿息・二原六兵衛殿息被相勤候、

一閏七月三日、御城東御門橋造替、橋渡り初午上刻、役者野村弥太郎、渡り初ハ下町人深江名字之者十一夫婦ニ而、渡初為有之由候、

一同十三日、上家鴨(アヒル)馬場有馬主右衛門殿へ火起り、一ケ所焼失ス、

一同十六日晩、二源六右衛門殿嫡子二原善八殿乱心ニ而、親父六右衛門殿被切付由候、

一同廿六日、嶋津備中殿御息女おくん殿　太守様御妹分ニ御成、佐土原へ御縁与之筈ニ而鹿児嶋御發輿、御供之御家老嶋津主鈴殿、御用人鎌田太郎右衛門殿、納戸役人高田茂太夫殿、御馬廻り赤崎平兵衛殿、其外御歩行、奥御番之衆供ニ而候、

一同十月六日ゟ十日迄、於浄光明寺浄國院様十三回御法事、

一十一月二日、稲荷御神事、鏑流馬祢寝仙十郎清

行・讃良善助殿、

一十二月廿八日、於江戸於喜代様卒去、五十七、

阿部伊勢守様奥方ニ而候事、

寶暦十年庚辰

一正月十九日朝六時分、夥敷地震有之候、

一近國米良ゟ須木江逃散者有之、鹿児嶋ゟ役々被差越候、五月末ニ如米良帰國之由、

一七月廿八日、諏訪御祭礼、頭殿村田氏・宮原氏勤ニ而候、

一八月六日、　恕翁様三百五十年御弔、於福昌寺寺役ニ執行、

一同廿七日御仕置者、先比源舜庵和尚を差殺し致欠落候小僧慈股（シコ）、鹿児嶋中被引渡（カ）、於境瀬戸入口磔ニ被行、

一九月六日、於栄様伊予國松山之城主松平隠岐守様江為御對面當春鹿児嶋御立、大坂迄御出ニ而候、隠岐守様江十日計御對面、別而之御取持之由、左候而伊勢御参宮、其外上方表所々御見物ニ而、今日鹿府江御着ニ而候、御供之御家老義岡弾正殿江思召有之、於中途御家老御役御免故、無御供病気分ニ而御先ニ帰宿、於栄様ハ今日七ツ時分ニ苗代川ゟ西田御屋敷江御帰着被遊候、

一同廿日、隅州様御不快ニ有之、今日四ッ時御寄合並以上諸御役人伺御機嫌、同九ツ時諸士同断、同夜半時分諸士御用儀有之、御触相届次第与所江可罷出旨、与頭宅ニ而　隅州様御不快、段々御養生御手被尽候得共、無御叶、今日申之刻御逝去之段被申渡、泪ニ而退出仕候事、御壽六十一、山野之殺生鳴物日数廿日相止、普請作事日数十日可相止候、漁猟并諸商売日又家職ニ付而音高き儀日数七日可相止候、御直子日数廿日月代仕間敷候、御下屋敷筋八日数十日、足軽・御中間・一身者日数廿日月代仕間敷候、又者并町人・百姓等不及其儀候旨被仰渡候、

一隅州様御法名、宥邦院殿圓鑑亨盈（カウエイ）大居士此通奉称候間可奉承知旨、

同十一年辛巳

一二月朔日、伊作麓ニ火起、麓馬場過半焼失、西福寺迄炎上之由ニ而候、同月國分町・蒲生町両所共ニ大火ニ而、鹿児嶋町ニ縄拂底之由ニ而候、同月十二日稲荷御神事、鏑流馬比志嶋要人殿・鎌田了右衛門殿被相勤候、去年御忌中故延引ニ而、當年如此、

一四月廿二日暁七ッ時、　宥邦院様御遺髪高野御登山、福昌寺御立、

一六月十一日、梅雨上り、一時雨事々敷、雷肝付主殿殿役所・山沢小右衛門所江落候由、

一同十四日ゟ十八日迄、於福昌寺　圓徳院様七回忌御法事、殺生禁断ニ而候、依之祇園祭礼六月廿二日ニ有之、翌朝頭渡ニ而候、

一今年右将軍宣下、大納言源家治公任征夷大将軍、徳川将軍　源家治公
前将軍源　奉称大御所様、

一太守様御國元江初而御暇御給、四月廿二日江戸御發駕、六月廿二日鹿児嶋江御着城、御供嶋津杢殿、御家老嶋津主鈴殿、御礼使嶋津又七郎殿、今度三道中御通り、肥後之内高瀬川之邊ニ御止宿、御供御小姓之内相良氏・蒲生氏・吉田万太郎殿三人川ニ水あひニ被参、万太郎殿深見ニ被入行衛不相知候ニ付、其夜肥後衆段々川サガシ有之候得共、死躰不相知候、万太郎殿ハ横目之吉田権左衛門殿嫡子、御供之内御近習役四本庄蔵殿御跡ニ銭ヲ被置候由、

一六月廿四日、頭殿別火所ニ被為移、左頭殿大田筑左衛門殿息、右河陽茂右衛門殿息、今日　太守様御光着之御祝儀、諸士御帳ニ相附退出仕候事、

一同廿八日、今度将軍家御代替ニ付、九州御巡見之上使青山七右衛門様・神保帯刀様・花房兵右衛門様、今朝重富御立ニ而、鹿児嶋下町御旅宿へ八ツ過時分御着、　太守様客屋江御下り、上使江御對面有之候、上使人馬送り諸外城ゟ参候、下町問屋ニ居、餘り南林寺松原大門・上り立浜邊ニ罷居候、人馬数百疋、色々純子・緋縮綿類ニ而イロハ候馬共百四五十疋ニ及候由、同廿九日朝立雨、上使江雨天故御滞在之儀被仰遣候得ハ、其通ニ罷成御滞在、同晦日上使三人四ツ時分鹿児嶋御立被成、喜入江御通路、

六月十二日、於江戸、大御所様薨御、淳信院殿本称、

一大御所様六月十二日被遊薨御候ニ付、御慎左之通、

一普請ハ来月十九日迄可相止候、

一家職ニ付音高キ儀并店出候儀、来月六日迄可相止候、尤町屋之店鎖置候儀茂同断、一家職ニ付而漁猟いたし候儀、来月九日迄差留候、一市を建候儀又ハ商売付大勢相集候儀、八月廿日迄差留候、一鳴物遊興ケ間敷儀山野之殺生、八月廿日迄差留候、一髭月代立候ニ不及候、火用心可入念候、七月朔日　太守様江伺御機嫌ニ而候、右ニ付七月踊茂無之、諏方御祭礼之御神事茂旧式迄ニ而候事、

一七月、御家老樺山左京殿、御勝手方御家老鎌田典膳殿両人、依願御役御免ニ而、一世御養料高百石ツヽ被下、伺御機嫌御免、御女中様方江茂同断被仰付、

一八月、嶋津杢殿、右於御前思召有之、嶋津圖書殿上席ニ被仰付候、嶋津若狭殿於御前御家老御役被仰付、加判同役同前、座席嶋津圖書殿次ニ被仰付、本名小平太、嶋津左中殿於御前御家老御役被仰付、加判同役同前、座席嶋津若狭殿次ニ被仰付、御役料高千石被下置候由被仰渡、

一上使神保帯力様於志布志病気、鹿児嶋ゟ段々醫師被遣候、八月十日志布志立ニ而、出水之様ニ被通候、両上使ハ此中御立、實ハ八月六日於志

布志死去、二十七才、同廿九日於出水死去之筋
ニ而候由候、
一八月廿六日夜七ッ時分、南林寺源舜庵ニ火起り、
實姓院・随嶽院迄焼失、同廿七日朝迄ニ焼鎮る、
同廿九日上使神保帯刀様於出水死去之筋ニ而、
其晩葬礼、於出水川原火葬有、両上使御出逢、
寺ハ成願寺、
一九月朔日、御寄合・御寄合並・諸士迄ハ朔之御
祝儀被遊御請、去八朔御慎内ニ付而今日如此、
一十一月三日、稲荷御神事、　太守様御直参、
大玄院様御直参ゟ打絶無之事之由、鑓流馬義岡
左平太藤原久賢・面高新蔵藤原俊命、
一同四日、今度御家督初而御下國ニ付被成御祝、
御一門を初大身分・御寄合・御寄合並以上諸御
役人江御料理被下、於御對面所敷舞台御能有、
一同五日、花尾権現江御参詣、御先供廿五人、御
側廻り御供十五人、
一同六日、於御對面所敷舞台、六与諸士江一汁二
菜御料理頂戴仕候、
一諸士奉祝御旧例士踊備上覧候様被仰出、十二月
朔日より士踊稽古、上ハ築地嶋津周防殿屋敷、
下ハ屋久嶋蔵次塩濱ニ而、二月ゟ廿一日迄稽古、
一十二月廿九日、嶋津備中殿御子吉利（ヲノヲ）死去ニ
付、正月三日迄御役人限之御慎ニ而候、

一新城殿御、奉称祝国院様、

宝暦十二年壬午閏四月

一御内々御慎ニ付、五社参其外之御規式無之由候、
一同四日、諸士出仕御家老御對面、同九日士踊、
正日同前之稽古、上下共、
一同十八日、上士踊備　御上覧候、千弐三百人御
通り被下、七ッ時分上方ニ引取、
一同廿一日、下士踊之筈候得共、雨天ニ罷成候ニ
付相止、
一同廿二日、於吉野御関符有之由、御側廻り何れ
も具足着用ニ而、鉄砲持せ罷登候、　御自身ニ
茂御具足被遊候由、鹿十三丸・猪壱一丸取れ候
由、牟礼之岡ゟあなた之方ニ而為有之由候、
一同廿三日、下士踊備　御上覧候、四千四五百程
有之由、上士踊ゟ八間宛西方ニ弘め候得共入不
申、急ニ又相弘、金銀蔵之方六七間、戸つなき
之方一間計、新辻番方三間計相残候、踊最中小
雪一通降候、別而之寒天ニ而、其間ハ晴、七ッ
時分御通相済、下之方ニ何れも引取候、
一同廿五日、上下町踊、雪踊之間ハ晴天、上夷三
百五十人計、下大黒四百廿餘人程為有之由候、
一二月三日、　太守様為御参勤御發駕、御供御家
老嶋津主鈴殿・同左仲殿、
一三月九日、七ッ時分江戸ゟ飛脚到来、二月十六
日昼、元弘寺之邊酒屋より火起り、芝御屋敷御
取添、御守殿・御本宅不残御類焼、其日南風之
由、芝御屋敷南手之方不残焼失、西手御家老宿

長屋ハ相残候由、右御左右ニ付、今晩鹿府御城
御家老座を初、諸御座明候事、
一太守様伊予國津和之湊迄御登候処ニ、江戸ゟ御
奉書御到来、御類焼ニ付、御参勤ニ而も又ハ御
帰國ニ而も御勝手次第ニ被仰渡、津和湊より御
帰國之由、
一江戸御類焼ニ付、金二万両御拝借被仰付、御守
殿江三千五百両程御給り、姫君様ハ高輪御屋敷
江御移り被遊御座候由、右御類焼ニ付　太守様
江諸士同御機嫌として、二月十四日登城、御帳
ニ付退出仕候事、
一三月廿七日御着城、同廿八日御祝儀として諸士
出仕、御帳付ニ而退出、
一閏四月五日、吉野御馬追四日之筈候得共、雨天
ニ而五日ニ成、御名代嶋津周防殿、
一五月六日、　太守様御参勤ニ付御發駕四ツ時、
御供御家老嶋津左仲殿・嶋津主鈴殿、御用人赤
松甚右衛門殿・嶋津久麟老乍隠居御供、
一先比御類焼ニ付、銀子出方不相見得、人別壱匁
宛出銀、五月ゟ六月上納、
一六月廿二日昼八ツ過、谷村貞右衛門殿二男谷村
八郎次殿江、永山甚七殿と申人見廻ニ而、八郎
次殿を切殺門迄被出候を、嫡子谷村七兵衛殿出
合ニ而甚七殿を被打果候得共、深手負被申候、
貞右衛門殿ニも出逢手負、七兵衛殿ハ被相果、
貞右衛門殿ニハ存命之由、貞右衛門殿居所高麗
町ニ而候、
一當年頭殿新納喜右衛門殿嫡子新納喜藤太殿、右
松崎卜郎右衛門殿息ニ而候、左頭殿祖父喜右衛
門殿七月十六日死去ニ付、則関伊兵衛殿息へ左
頭殿被仰付候而、一万度之御祓有之候由承候、
一七月十九日夜四ッ時、於南林寺松原琉球之王村
王子葬礼有之候、是ハ今度将軍家姫君御誕生為
御祝儀琉球より上國ニ而候処ニ、今月十五日屋
久嶋出船ニ而、鹿籠枕崎迄被参、於此所難風ニ
逢破船ニ而死去、國司ゟ上せ被申候書翰も捨り
候由、四十餘人之乗与ニ而候処ニ、十四五人生
為申由候、十五日二百十日ニ而候、王子當年三
十五、此晩前之浜ニ而屋久嶋船二艘破船、其外
所々ニ破船為有之由候、陸はさまて強キ風ニ而
ハ無之候、
一同廿一日、筑前之松平修理太夫様今月十四日御
卒去ニ付、今日ゟ廿三日迄御禁断、
一八月朔日、銭壱貫文代銀拾五匁ニ被仰渡候、此
中ハ十六匁直成ニ而候事、

寶暦十三年癸未

一六月廿一日、　太守様鹿児嶋へ御着城、御供御
家老嶋津左仲殿、御礼使北郷権五郎殿、
一七月廿八日、諏方御祭礼、頭殿弟子丸与次右衛
門殿息・左近允嘉太夫殿息勤、

今年五穀大風雨、

・九月廿五日、御家老嶋津圖書殿卒去、

一今年、上町・下町ニ築地有之、

一十月六日より同十日迄、於浄光明寺　浄國院様十七回忌、殺生禁断、

一同十六日より下南林寺於大門口、上下町觀進相撲有之、伊集院ノ町労候故、依願當年ゟ二ケ年御免之由、

一十二月十四日夜、新上橋ノ町ニ火起り、柏木八郎右衛門殿・木村四郎左衛門殿類火ニ而候、

寶暦十四年甲申閏十二月

一三月十八日夜、上諏方社頭ニテ鹿児嶋中社人集り神舞有之、珎事故上下男女之見物夥し、

一同廿二日、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、御供御家老嶋津左仲殿・高橋此面殿、御用人福山平太夫殿・宮之原甚五太夫殿、

一五月より六月ニ至り南林寺大門口ニて角力有之、

人皇百十八代、今上皇帝御即位、

一年号明和ニ被相改旨七月六日ニ被仰渡、（但六月三日於江戸被仰出候間、其日ゟ書付等明和と可相改由ニて候、）

一明和元年七月廿八日、諏方御祭礼、頭殿今井市兵衛殿息・宮原平右衛門殿息、

一八月十一日、未下刻より大風辰巳ゟ吹起、北風ニ而申刻吹上、世ニ辰巻ニ而ハ無之哉と申候、鹿児嶋中所々破損多し、

一於悟様七月六日於江戸夭亡ニ付、八月十三日ゟ同十七日迄御禁断、

一八月廿三日、琉球王子鹿児嶋出足九ツ時、御家老川田伊織殿、正使読谷山王子、副使湧川親方、黄儀官譜久山親雲上（役相勤申候、）次王子大親兼職楽正小録親雲上（但國王ノ側勤、三司官取次、掌翰夫役ニ而、座楽ヲ正兼職、）兼上段親雲上（但書翰受込、）儀衛正牧志親上（但行列方并路次楽正、）国師大喜屋親雲上（但別当楽師取楽いたし、）亀嶋親雲上・多賀山親雲上・幸地親雲上・久志親雲上・徳川原親雲上・楽童子（但小姓内相勤申候、）ゟ田嶋里子・深川里子・神村里子・羽地里子、

一六月、諸外城中馬改有之、無札過分之由、

一同廿二日昼九ツ時、　太守様御着城、御供御家老高橋此面殿、御用人宮之原甚五太夫殿、

一今月、於上築地アヤツリ有之、

一七月十六日風、先月十六日両度吹候得共、さまて強き大風ニ而ハ無之候、

明和二年乙酉

一四月十七日、於下野國日光山東照大權現宮百五十年忌、

同三年丙戌

一当春諸國風鎮ス、中ニモ奥州津軽大雪大地震、

一正月廿三日、　太守様御参勤として御發駕、御供御家老高橋此面殿・川田伊織殿、

一二月四日、立石辰五郎下女御褒美被下候仰渡、樺山左京殿ゟ御取次を以青銅五百疋被下候、立石辰五郎下女當分本田助之丞屋敷ニ召置候げん、右辰五郎曽祖父亡立石喜兵衛若年之砌召仕置、深切ニ致奉公、喜兵衛夫婦至死後及極老、糸類稼ニ而致渡世、別而乍不続月々忌日、白飯之内

又ハ糸類相拂料物を以寺へ遣墓参等無懈、正道之心入宜者之由相聞得候、依之為御褒美右之通被下候条、難有頂戴可仕旨辰五郎江申渡候処ニ、御礼申出候、御勝手方ハ取次證文を以相達候、右女ハ九十一才ニ成候、

一五六月比、不差立飯難別而多、及四五十度候、

一當秋田方宜敷、扨ハ四五十年来無之出来之由候、

明和四年丁亥

一六月六日、御着城、今度東日御下向、御供御家老高橋此面殿、

一御留主詰御家老嶋津左仲殿・樺山左京殿、

一同月、甘露寺大納言規長卿御姫御綾御方鹿児嶋江御着ニ而、御本丸奥江御入椽之文字相用候様ニ被仰渡候、

一米良ゟ須木江逃散者参、鹿児嶋ゟ役々被差遣候、

一十二月廿九日、串木野町ニ火起り、不残焼失、

同五年戊子

一正月十一日昼七ッ時、平ノ馬場坂元（ホノマヽ）火起り、高城六右衛門殿・築瀬清左衛門殿・大河平越右衛門殿屋敷・渕邊良右衛門殿火飛、河野六郎左衛門殿七八ケ所焼失、

一二月六日、　太守様為御参勤御發駕、御供御家老川田伊織殿・嶋津左仲殿、

一同十一日、於吉野御関狩、鹿児嶋三番与・四番与罷登候、同日山岡齋宮殿蔵之内ゟ火起焼失、

一江戸大火、

一今年、四文銭出、

今日久見崎ニ茂火起、不残焼失之由聞得候、

一四月十四日、御所帯方御差迫りニ付、諸士迄万事物事質疎仕候様ニ被仰出候、

一五月十一日、荒田矢野（ホノマヽ）火起、渋谷次郎左衛門殿類火、

一七月廿一日、　惟新公百五十年之御遠忌、於伊集院妙圓寺寺役ニ執行也、与中へ御触ハ無之候、御代参品山数馬殿、於加治木御弔士跡茂為有之由候、

一同廿五日、高橋此面殿御家老御役御免、御口上段々思召ニ不叶儀御座候ニ付、御役御免被仰付由候、同廿七日此面殿甥高橋半右衛門殿此面殿玄関ニ而自害、

一八月三日、南林寺源舜庵ニ夜ル八ッ時分ニ火起り、寺中不残焼失ス、

一十二月廿七日、入来院大和殿囲ニ被入候、先比江戸詰之節段々不行跡之次第有之、近キ比二男佐多衆中養子ニ異被申、其外不宜儀為有之由ニ候、

明和六年己丑

一三月廿八日、大姶良龍翔寺　御目見寺ニ被仰付、御茶二袋進上被仰付、下馬札被相建候、右龍翔寺六代　太守氏久公御夫人敬外様御女溪月様御石塔御霊骨奉納有之候訳を以、志布志大慈寺ゟ願申出趣有之、左京殿ゟ石黒戸後左衛門御取次

を以被仰渡候ニ付、大慈寺江申渡候、今月六日
銭壱貫文拾五匁五分ニ被仰渡候、宗門手札御改
之年ニ當り候得共、當年ハ不被仰付候、
一八月朔日、大風、田地十万石之上免高有之由ニ
て候、
一九月十三日、於江戸御家老菱刈藤馬殿死去ニ而
候、
一同廿六日、於江戸御前様御卒去、御法名慈照院
様、徳川刑部卿様御姫也、
一十月十七日、御着城、御供御家老川田伊織殿、
御礼使義岡左平太殿、御留主詰御家老桂織部殿、
一十一月、上冷水北郷権五郎殿野屋敷三人列立参、
屋番打殺出合、同十四日於高麗町桑原（此等字ナシ）
一方ニ而、川村四郎左衛門殿二男・宮内藤助殿
嫡子・池田（此等も字ナシ）喧嘩、同月市成周左衛門殿吉
松江取納究ニ参、郡見廻を切付、切腹為有之由
候、
一十二月朔日、小松式部殿（清香）・喜入主馬殿久（ヒサノブ）
御家老御役被仰付候、式部殿ハ此中若御年寄、
主馬殿ハ大御目附ニ而候、

明和七年庚寅閏六月

一正月廿七日御發駕、御供御家老樺山左京殿・嶋
津左仲殿、
一二月十日、高岡法花嶽寺ニ火起り、寺中不残炎
上、薬師堂ハ無差候、

同八年辛卯

一三月十八日、於綾様鹿府御發輿ニ而京都江御上
洛、御供御側御用人二階堂源太夫殿、納殿役人
竹原兵右衛門殿、
一六月廿三日、　大中様之御遠忌於南林寺寺役ニ
執行、
一於綾様京都へ御着、以後多千姫様と奉称、京都
被遊御立、六月十二日江戸へ御下着、同廿一日
於江戸御婚礼ニ而、御前様ニ御立被遊候、
一同廿八日、赤松甚右衛門殿・二階堂都殿大御目
附格ニ被召成、家格御寄合、
一七月廿八日、諏方御祭礼、頭殿芦谷蔵太殿息・
松崎十郎左衛門殿息被勤候事、
一同日、渋谷喜三左衛門殿御寄合ニ被仰付候事、
一銭壱貫文代銀十二匁、八月二日ゟ直成被相改候、
此中ハ拾四匁かへニ而候、
一八月廿一日、御妾腹御女子様御誕生、當夏江戸
表大日損ニ而水切候而、一荷ニ而代銭弐百五十
文、木曽路抔ハ人一人ニ付水二舛宛領主ゟ被下
候由聞得候、
一十一月廿一日、宮之原甚五太夫殿御寄合ニ被仰
付候事、

一三月十日、琉球先嶋・都古嶋・八重山嶋津波起
り、嶋半分打崩之由聞得候、
一六月八日、西田ニ被成御座候信解院様御卒去、

於栄様と申上候御事、

一七月廿八日、諏方御祭礼、頭殿左新納（一本ノマヽ）右名越（同上）被相勤候事、

一八月十八日、御着城、御供御家老樺山左京殿、御礼使末川織衛殿、此御下り長崎江御越御見物ニ而候、同廿九日山岡齋宮殿御家老御役被仰付候、

一九月廿一日、桂織部殿依病気御家老御役御断ニ付、願之通御免、

一當秋、田方虫入有之、

一正徳三年巳、御氏族之家支流迄、家譜系統被仰付候以来至只今及五十九年、其家々之子孫系絶有之候ニ付、此節系統被仰付旨、卯十一月被仰渡、

同九年壬辰

一正月廿五日、　太守様為御参勤鹿児嶋御發駕、

御供御家老嶋津左仲殿・山岡齋宮殿、

一御鷹之鷂御拝領、

一二月廿一日、於敬様鹿児嶋御發輿ニ而候、御供御家老赤松造酒殿、三月十七日江戸へ御着、同十八日御前様御養子ニ被遊御成由、市川喜内殿納殿役ニ而御供ニ而候得共、死去ニ而候由、

一三月廿六日ゟ於西田操有之、

一六月十九日、嶋津李殿卒去、

一七月、福昌寺・南林寺・伊集院妙圓寺・加世田口新寺・帖佐瀧ケ水心岳寺・鹿児嶋上若宮等凡八ケ所ニ、落木為有之と風説申候、實否不存候、

一八月廿二日、亡嶋津李殿嫡子嶋津太郎次郎殿

右　太守様御舍弟分ニ被成、加治木家跡相続被仰付兵庫と改名、座席嶋津備前殿次ニ被仰付、去七月十日、御用御書付黄紙ニ用来候得共、向後白紙用候様ニ被仰渡、咎書等黄紙可用様ニ被仰渡候、

一當秋、宗門手札改有之、札奉行北郷権五郎殿・嶋津内記殿・畠山数馬殿、去丑年ニ當り候得共當年ニ被差延候、諸外城検者被差廻候、拾二ケ年目、

一上神明宮前之築地うばり不申悪水ニ成候故、上町ゟ願申上、孝行橋之本古川掘有之、川二筋ニ成、當十月最中普請有之、溝と願出候由、

一當九月六日、　殿様江戸ゟ為御湯治箱根阿多見と申所へ御光越、伊豆國之内之由候、同十月八日ニ　御帰府之由相聞得候、

一十一月廿五日、於江戸年号安永ニ被相改旨被仰渡候、十二月十八日ニ而候、

一十二月五日、浄岸院様於江戸御逝去之由、飛脚到来、十二月廿五日、

一浄岸院様御逝去ニ付、山野之殺生并嶋物遊興ケ間敷儀、日数廿日可相止候、魚猟并商売一七日可相止候、家職ニ付音高キ儀同断、

一普請作事等日数十日可相止候、御直士日数廿日
月代仕間敷候、町人百姓等ハ其儀ニ不及候、十
二月廿五日、帯刀、

安永二年癸巳閏二月

一年頭御忌中故、諸士以下々迄門松茂立不申、餅
茂突不申、尤年礼等茂一向無之候、
一浄岸院様御法名、浄岸院殿信譽清仁祐光大禪尼、
右之通承知仕候様ニ被仰渡候、正月九日、御家
老座、
一二月十五日雨天、浄岸院様御尊骸出水ニ御入、
東海道・中國・小倉筋御傳馬ニ而候、公義ゟ為
御見送、御留主居番織田圖書様御附下り、同十
六日阿久根御泊、十七日向田、十八日伊集院、
十九日雨天八ツ時福昌寺へ御着、御供御家老嶋
津左中殿出水より福昌寺迄布砂をはへ盛砂、圖
書様ハ客屋ニ被成御座候、同廿四日夜福昌寺ニ
而御葬送、
一浄岸院様御中陰御法事ニ付、　公方様より御香
奠大判弐百枚、　大納言様ゟ同百枚、　御台様
ゟ同五十枚御拝領、二月四日織田圖書様　公方
家御代拝有之、翌五日四ツ後客屋御立、市来湊
江御泊之由候事、
一三月六日ゟ御下屋敷下枦場江聖堂御造立被仰付
筈ニ而、枦木伐除取付有之、同廿五日嶋津因幡
殿聖堂・仰高門・番所外繋供屋御手傳被仰付、
嶋津筑後殿講堂御手傳、御物御取替を以、以後
入目被仰付筈之由候、同廿九日種子嶋左内殿へ
文庫并張番所御手傳、閏三月十日、中山王江入
徳門并御座之間御末御手傳被仰付候事、
一四月八日、　御城下枦場枦伐除、廣小路ニ可仕
旨被仰渡、其通伐除、御犬垣迄取除、廣小路ニ
罷成候、
一太守様閏三月十五日江戸御發駕ニ而、四月廿五
日雨天九ツ過御着城、御供御家老山岡齋宮殿、
御用人関山軍兵衛殿・嶋津登殿ニ而候、御礼使
嶋津助之丞殿、
一言語行跡髪方等之儀相直候様ニ、
一御國人参候儀不苦候、
一諸事指南ニ、女ニ而も他國ゟ参候儀不苦候、
一寺社開帳可願出と存候人ハ可願出候、
一諸事願事、支配方ゟ差留儀有之由候、以後何事
不依不差留可願出候、
右之通、四月被仰越候、
一口達覚、花火船遊等致候儀不苦候旨被仰渡候、
一諸士二男以下被召仕間敷様ニ世間沙汰有之、六
与之二男以下別立願出候人過分ニ有之、外城衆
中茂過分願出候由、五月、
一道路行候者、其本道相守可罷通候、
一寄合并小番、何そニ付長袴着仕候時分、宅ゟ致
着可罷出候、

一日笠用米候得共、向後者笠相用候様ニ被仰付、
但暑天ニハ勝手次第、
一土醫師之儀、無役ニ而茂大小刀帯候様ニ被仰付
候、
一御家老嶋津左仲殿・山岡齋宮殿江、鹿児嶋繁栄
方被仰付と傳承候、
一五月十五日、嶋津備前殿　御前ニて茂腰差御免
被仰付候、
一時ノ鐘かけ初鐘供養五月晦日、前ノ濱毎夜花火
船遊、茶屋等相立、
一六月、四季羽織相用候様ニ被仰渡候、
一御城下士并町人女之儀、髪之上つくりと中ニゆ
ひ候儀一切令停止候間、上方風ニ髪茂ゆひ可申
候、外城衆中同前、百姓之儀ハ他國百姓妻娘等
之髪之上之如くゆひ可申候、帯茂廣を用可申候、
一御一門・役人・用人・取次番、常ニ上下着御免、
一御一門・大身分・御家老・若御年寄・大御目附
登城之節、表坊主出迎相付候様ニ被仰付、御一
門之儀ハ表坊主ゟ刀持候様被仰付、
一八月初ゟ、上築地・西田町・南林寺大門口江、
冬ニ掛りかふき有之候事、
一琉球世子中城王子、此間阿久根江着岸ニ而、夫
ゟ鹿児嶋へ被差越候、六月十九日ニ而候、同八
月十九日中城王子登城、
一八月廿九日、聖堂御普請成就ニ付、御祭り有之、
一九月、阿多・加世田・川邊江山水出、家并稲等
を流し候由、
一今月上旬、福山御馬追、中城王子御免ニ而見物
被仰付、被差越候事、樺山左京殿依願御家老御
役御免被仰付候、
一十月、御類焼以後御世帯御差迫ニ付、高壱石ニ
付米壱舛五合重出米被仰付置候得共、鹿児嶋士
之分ハ差迫り候段被聞召上候間御免被仰付、外
城衆中寺家此内通、琉球之儀茂中城王子上國ニ
付御免被仰付、
一十一月、今度繁栄方被相立、芝居或茶屋等相立、
他國男女ニ不限入込候様ニ令免許候処ニ、取違
候哉、頃日武士之風儀惰弱ニ流不宜所行有之由
被聞召候間、右通無之、恭謹之風儀ニ相成、質
朴ニ相守候様ニ被仰渡、
一十二月十三日、中城王子宅江御成、
一同廿四日、今月六日辰刻、於江戸御妾腹御嫡子
様御誕生之由飛脚到来、翌廿五日御一門其外御
役人・与中諸士迄御祝儀申上候、

安永二年甲午

一七ヶ年御賈疎被仰出置候内故、年頭之御礼御請
不被遊候事、
一正月七日、門松今日迄取除候、以前ハ十五日ニ
取除候得共、當年ゟ如此、
一同九日、年頭之為御祝儀、中城王子登城、其外

登城、琉人読谷山王子・三司官宮平親方・王子嶋譜久山親方、在番山川親方、親方格伊江親雲上、輿廻四十人餘、楽童子、大村里子、稲屋里子、東風平里子、組志里子、玉川里子、上運天里子等也、

一同十八日、中城王子宅江御成、

一同月、今度御誕生之御若子様御懐、堤前中納言代長様御息女ニ而候間、殿文字相用候様被仰渡候、

一今度御誕生之御男子様、虎壽丸様と被進御名候間、虎之字名乗ニ相用候儀無刀ニ仕候様ニ被仰渡候、

一今月廿一日、遊行上人鹿児嶋江着、浄光明寺江被為入候事、

一二月朔日、御首途、御名代嶋津兵庫殿（也少々彼不決之由誠、）

一同四日、釈菜、同六日曇、於吉野御関狩、御名代嶋津左衛門殿、中城王子（茂）見物御免被仰付被罷登候、鹿児嶋二番・六番与之士罷登、

一同十八日曇、朝之内雨、五ツ時分止、　太守様為御参勤五ツ半御発駕、御供御家老山岡齋宮殿、御番頭兼役御用人関山軍兵衛殿、御近習役並二階堂都殿、御二門嶋津兵庫殿、四月朔日江戸へ御着、

一三月、茶屋女・洗濯女、鹿児嶋・加治木等所々ニ参居候得共、被召返候、

安永四年乙未

一銭壱貫文代銀拾弐匁ニ被仰渡候、

一七月十八日、虎壽丸様へ佐竹右京太夫様御息女於梅様御縁与、御願之通御免被仰渡候、

一江戸式日御使、月ニ両度宛ニ而候得共、此節ゟ壱度ニ被仰付、其外之御（用ハ之）飛脚を以相済候様ニと、於江戸被仰出候、

一七月晦日夜八ツ半時分、下南林寺門前ゟ火起り、東風ニ而及大火、下町半分計焼失、八月朔日朝五ツ時分ニ焼鎮ル、

一十二月、高壱万石ニ付籾千俵ツヽ、囲置候様ニ、従　公義被仰渡候、依之高壱石ニ付、真籾弐舛六合ツヽ、囲置候事、

一二月十二日、御関狩、御旧式迄之執行ニ而、与中諸外城狩立無之候、鹿児嶋三番与・四番与之狩立前ニ而候、

一當春、御城下諸々目附相建、上下町丁門出来、上築地ニ而定芝居、西田・南林寺大門口ニテ時々芝居、山之口地蔵堂ニテ庄内高城石山観音開帳有之、

一四月朔日、新橋舛形江御門相建、今日ゟ番人相勤候事、

一夏麦之出来近年無之大出来ニ而候得共、四月十七日昼過ゟ五月ニ至霖雨ニて麦取得不申、大形生立候、依之吉野御馬追も五月六日ニ有之候、

一四月十五日、於江戸　太守様上使板倉佐渡守様を以御國元江之御暇給り、同廿一日江戸御發駕、六月四日雨、八ツ時鹿府江御着城、御供御家老山岡齋宮殿、御側御用人関山軍兵衛殿、御礼使嶋津杢殿、

一七月廿八日、赤松造酒殿　御家老御役被仰付候、御勝手方ニ而候、川田伊織殿只今迄相勤被居候得共、依願御役御免ニ而、一世御養料百石被成下候、伺御機嫌之儀ハ御免無之候、造酒殿事此中ハ添役ニ而候事、

一去六月十九日、一時雨ニ而、高見馬場具足作り祝井氏所へ雷落候、折節茅家ふきかへニて、指宿之百姓両人家之上ニ登り居候処ニ、両人共ニ則時ニ相果、祝井氏嫡子も被相果、三人死人為有之由ニ候、去々月五月廿三日ニハ、嶋津駿河殿為何故も不相知自害、二十二歳之由、嶋津大学殿御息ニ而、大学殿ハ隠居、駿河殿息子次郎殿二三才ニ而も候哉、珎事多キ事ニて候、

一八月十八日被仰渡候趣、上方御借銀及大分候ニ付、此節元済ニ付而、御領國中高壱石ニ付米五舛宛、真赤半分、銀壱匁、人別壱人付高有無ニ無構一統ニ出銀被仰付候、銀八匁八反帆ゟ弐拾三反帆迄、船一艘帆壱反分銭ニ而も、同五匁五枚帆ゟ七反帆迄、帆一反分銭ニ而も、同弐匁四枚帆以下橋船川平太迄、帆壱反分、銀壱匁牛馬一正分、御役料米・役料銀・御切米・御扶持米・船賃銀其外銀、分銀八百目ニ付五匁、米ハ壱石ニ付五舛宛引方被仰付候、

「右ハ上方表御借銀増長ニ付、此節御趣法被相替、稠敷御倹約被仰付ニ付、右之通出米・出銀被仰付旨被仰渡候」

一琉球道之嶋代官附役、相對ニ砂糖積登り来候得共、惣而御物御取揚ニ被仰付、代官ニ銀拾五貫目、附役ニ拾貫目、来ル酉年ゟ被下旨被仰渡候、

一十月十九日晴、御仕置者、去寶暦七年八月十九日之夜、銭可盗取存念ニ而、横山権兵衛屋敷ニ忍入、権兵衛を差殺し、子息十兵衛仕候筋ニ相聞得候ニ付、十兵衛籠舎被仰付数年ニ而、二三年跡死去、然処ニ、右権兵衛差殺候者ハ南林寺門前者日高仲兵衛と申者仕候段相知候故、仲兵衛遠流仕居候得共被召返、今日鹿児嶋中引廻り境瀬戸入口ニて磔ニ被行候、此仲兵衛ハ先祖代役人共仕候者之由候、去年江戸御進物蔵金子盗取候足軽十兵衛、壱人ハ不断光院之出家、是ハ谷山氏娘召列致欠落候者ニ而候、此両人も磔ニ被仰付候由、

十一月、御前様此間ゟ御病気被遊御座候、御養生無御叶御卒去ニ付而、□御書付相達候日ゟ日数十日殺生禁断ニ被仰渡候事、御書付相達候日ゟ、御直土髪髭月代一日すり申間敷、十一月十

六日、御家老座、

一十二月、　太守様年頭之御礼被遊御受、五社参之節与中諸士御供仕ル事ニ候得共、已後不及其儀、定式御供迄ニ被仰付候、　御家督以後初而五社参被遊候節ハ、如例与中之諸士御供被仰付候旨被仰渡候事、

安永五年丙申

一年頭諸士掛通　御目見被仰付候、

一正月中旬比ゟ二月ニ至り、疎気専ニ而、諸外城迄も同断ニ而、三四月比ニ至迄病人多候事、

一四月廿一日雨、五ツ時　太守様為御参勤御發駕、御供御家老山岡市正殿、御側御用人関山軍兵衛殿、御側御用人格佐久間九十九殿、

一江戸ゟ飛脚到来、佐竹様御姫於梅様御逝去之由申来候、

一六月、　太守様御出府、於江戸諸御大名家老衆へ、此方御家老ゟ被遣候御状、御歩行致持参事候処ニ、此節ゟ被差留、御直書迄を御歩行致持参事ニ被仰付候、

一七月、行屋下橋、一行屋橋、本孝行橋、一孝行橋、蛭子下橋、一蛭子橋、苫口小路下橋、一潮見橋、右之通ニ唱候様ニ被仰付候、七月、主馬、

一八月十二日上射初、同十三日下射初、右之通諸稽古場於弓場射初有之、的相掛等候間、射初當日之儀者上下銘々罷出、十四日ゟ打込稽古之筈候間、与中之面々罷出弓仕候様可申渡候、八月、

此先ハ上下弓場当年ニ引初而也、

一於篤様御事、豊千代様江御縁与被仰渡、御名茂姫様と被遊御拝領ニ付而ハ、一橋江被對格別御取持被相改、御順之儀者　太守様・茂姫様・虎壽丸様、此様之字被遊御用候条、此旨承知仕、御名之文字唱迄も可致遠慮候、八月、左中、

一太守様六月十八日より御熱被遊御座、御麻疹ニ而、別而御軽、御酒湯迄被為済、猶御機嫌能被遊御座候、

一先月十九日、太守様被為　召、御登城被遊候処ニ、　浄岸院様被　仰置候訳有之候ニ付而、於篤様御儀豊千代様江御縁与被　仰出、一橋江以上使御名御拝領有之、民部卿様ゟ御使を以御名目録御拝領之侭被進、且御日傘御袴被進、茂姫様と奉称候、来ル九日四ツ時御本丸江罷出、御両殿様江御祝儀可申上候、可致御家老對面候、八月六日、左中、

一御内證御方御内證様相唱、御高千六百石被遣置候、八月、左中、

一十月十一日、二階堂主計殿　御家老御役被仰付、直ニ来西年江戸御留主詰被仰付候旨被仰渡候由、此中大御目附御役ニ而候、

一當秋、御領國中田方豊年ニ而、毛上上見無之、五十年来無之由、

安永六年丁酉

一虎壽丸様江有馬中務太輔様御嫡子有馬上総介様御息女於恒様御縁与、　敬姫様御事奥平大膳太大様御嫡子奥平九八郎様江御縁与御願書被差出置候処ニ、去十一月廿六日松平中務太輔様御名代ニ而被成　御登城候処ニ、御白書院御縁頰御老中様御列座ニ而、御用番松平周防守様ゟ御一方様江、御願之通御縁与被仰出候旨被仰渡候、依之御一門・大身分・一所持・一所持格・寄合・寄合並嫡子末子迄、与中之諸士来十五日　御本丸致御登城、　御両殿様江御祝儀可申上候、

御家老對面可致候、正月十三日、帯刀、

一太守様御國元御暇御給、四月廿一日江戸御發駕、御留守詰御家老二階堂主計殿、大御目附新納内蔵殿、

一六月六日晴、　太守様今日御着城、御供御家老山岡市正殿、御側御用人川上頼母殿、御側御用人格佐久間九十九殿、御近習役市田勘解由殿、御礼使小松相馬殿、

安永七年戊戌閏七月

一正月廿一日、　太守様為御参勤御發駕、御供御家老嶋津左中殿、御側御用人川上頼母殿、御側御用人格佐久間九十九殿、御近習役市田勘解由殿、御納戸奉行愛甲雑記殿、其外御供ニ而候、

一二月、於江戸御女子様御誕生、御名御用様、御懐ハ御内證之御方、

一三月、与頭江与中ゟ差出候書付、与所筆者を以差出来候得共、向後ハ寄合方相談、小頭ゟ所江相詰居敷筈候間、諸事右小頭江書付等可差出候、尤上下無差別、上ゟ四人下ゟ八人、来ル六日より出席有之旨被仰渡候、三月、帯力、

一四月、於江戸被仰渡候、納殿役人之事御廣敷頭、納殿事御廣敷番、奥横目之事御廣敷横目、奥大番之事御廣敷大番、中通御目附事御供御目附、中通之事御近習通、唐船方受込之事唐船方、紙明方加役之事御裁許方加役、御歩行之事中小姓、御馬方之事御馬預り、御書院役人之事御書院預り、御門抑番之事御門上番、宗門改方之事宗門改役、掃除番之事下番、走番之事使足軽、筆者之事書役、御留主附之事御留主居付役、御庭方之事御庭方御鳥預り、

一五月三日、於克様御夭亡、

一六月朔日、御用人菱刈孫兵衛殿大御目附御役被仰付、大炊と改名、末川織衛殿・嶋津杢殿寺社奉行被仰付候、

一於厚様六月十三日御夭亡之旨飛脚到来、

一寄合方相談人与方相談人と被相改旨被仰渡候、

一八月廿五日夜、御番頭嶋津才記殿内室被相果、其身茂切腹之由、吉田六之丞殿嫡子吉田甚左衛門殿ニ茂、近キ比妻女被打果切腹之由候、

一九月十九日、佐土原之嶋津但馬守殿鹿児嶋へ御越、十月朔日指宿摺之浜江湯治被成、夫ゟ根占江御渡、志布志之様ニ御帰國ニ而候、

御家長久千秋万歳楽

右一巻

安永七年戊戌十一月六日、松原山邊於私宅書之、

此冊傳于子孫而已、他人之不免電覧、只古人之物語見聞迄ヲ記、尤此書ニ為洩事夥し、誤モ又甚可多也、就中當時之事故、削誤帰正肝要也、心得見合迄之事ニ候、

山県末流清水氏盛富（花押）

（表紙）

御分国之巻

三州御治世要覧　三十六

御分國之巻目録

薩摩國拾四郡

薩摩國者総計十四郡爲一國、以故正保年間所献繪圖亦從之也、雖然、寛文四年・貞享元年、　将軍家從倭名集、集、從五位上能登守源順之所撰也、レ停知覧郡隷給黎郡爲十三郡、而賜御判物之目録、同今般所調進之繪圖十三郡献之、云云、

一鹿児島郡弐ケ所　鹿児島　吉田
一日置郡七ケ所　伊集院　永吉　吉利　日置　郡山　市来　串木野
一谿山郡壱ケ所　谷山
一阿多郡二ケ所　伊作　田布施　阿多
一川邊郡七ケ所　川邊　加世田　鹿籠　坊泊　山田　久志秋月
七島　疎島・竹島　七島之内　黒島一支配、　同　口之島　同　臥蛇島　同　中之島
同　平島　同　悪石島　同　諏訪之瀬島　同　寶島
一甑島郡壱ケ所　甑島　上甑島・下甑島一支配、
一頴娃郡壱ケ所　頴娃
一揖宿郡二ケ所　揖宿　今和泉
一給黎郡三ケ所　喜入　知覧　山川
一薩摩郡九ケ所　百次　山田　平佐　隈之城　高江　樋脇　入来　中郷　東郷
一高城郡二ケ所　水引　高城
一伊佐郡拾ケ所　薗牟田　大村　山崎　宮之城　黒木　鶴田　佐司　羽月　山野　大口　阿久根　長島　野田　高尾野　出水

大隅國八郡

一大隅郡八ケ所　桜島　牛根　垂水　大根占　新城　小根占　田代　佐多
一肝付郡九ケ所　百引　高隈　鹿野屋　大娘良　花岡　姶良　串良　高山　内之浦
一曽於郡九ケ所　福山　市成　恒吉　末吉　財部　敷根　國分　清水　曽於郡
一桑原郡五ケ所　月當山　踊　横川　栗野　吉松
一姶羅郡六ケ所　蒲生　加治木　溝邊　山田　帖佐　重富
一菱刈郡四ケ所　湯之尾　本城　馬越　曽木
一熊毛郡壱ケ所　種子島
一馭謨郡壱ケ所　屋久島

日向國

一諸縣郡二拾ケ所　吉田　馬関田　加久藤　飯野　小林　須木　高原　高崎　大崎　志布志　松山　都城　勝岡　山之口　高城　野尻　倉岡　綾　穆佐　高岡

琉球國拾五島

喜界　大島　徳之島　沖之永良部島　与論　沖縄　計羅摩　戸無島　栗島　恵平屋　伊是那　伊恵島　宮古島　八重山島　久米島

御治世要覧御分國之巻惣目録終

御判物御高総

一高三十壱万五千五百六石六斗　村数二百五十八　薩摩國
一同十七万八百三十二石四斗五升　右同二百三十　大隅國
一同十二万二拾四石五斗八升　右同百六十四　日向國
合六十万五千八百六拾三石六斗三升
一高拾二万三千七百石　拾五島　琉球國
総合七拾弐万九千五百六拾三石六斗三升

薩州鹿児島郡

鹿児嶋　弐拾五箇村

高弐万五千二百五拾三石四斗五升五夕四才

鹿児島上山城

一御城　東向　新橋（従是北ヲ上ト云、南ヲ下ト云、掛ル石橋銘ロ、慶長十七年二月　日）

慶長十年、本御内ヨリ此城ニ被遊御移、當御城ニ而候、

一宗廟正一位諏訪大明神（祭礼七月廿八日）

神主従五位下

一正一位稲荷大明神（祭礼十一月三日）本田出羽守

右諏訪御祭礼ニハ、左右頭殿両人、小番以上之人被相勤候、七八歳より十二三歳之人ニ而候、神事奉行川上家より被相勤候、頭奉行者物奉行より相分り、別火所ニ勤ニ而候、神主本田出羽守儀、薩隅日三州社人支配頭ニ而候、　御代参有之候、百本鑓有、稲荷御祭礼ニハ鏑流馬二騎宛、是茂小番以上之人被相勤候、年ニより御立願ニ而、五騎計茂被相勤候、尤市立有、

一祇園牛頭天王（祭礼六月十五日　座主文殊院格護）

祇園御祭礼ニハ、上下両町ニ祇園宮有之、毎年一町宛ニ移り替り、祭礼ニ右町祇園・東福城山腰之祇園ニ神幸、両町神事を支配す、山とて人形を作り、車に載て牛に引する踊有、諏訪・稲荷・祇園此三社之祭り、鹿児島之大神事ニ而候、

一若宮八幡（大宮司井宮新左衛門格護　祭礼九月九日）

一春日大明神（座主西寿院格護）

右鹿児島五社、毎正月元日、五社参有之、

一護摩所若宮八幡

一同所稲荷大明神

右七社ハ別而御崇敬ニ而候故、修甫も御物方より有之、

一小城権現（座主西寿院格護）

一宇治瀬大明神（草牟田村　祭礼十月十八日）

一一条宮（都元村　祭礼九月九日）

一八幡宮（荒田村　祭礼九月廿二日、浜下り有、）

一福ケ迫諏訪大明神（書賢院格護　祭礼七月廿六日）

一多賀大明神

一蛭児宮

一愛宕宮（勝軍院格護　高十五石）

一池之王

一荒神

右十社ハ由緒有之、一分銀方ヨリ修甫有之、

西寿院　如来堂

内之丸　千手観音堂

上山寺　新照院観音堂

光明寺　冷水ノ観音堂

一 薬王寺 野元ノ薬師堂

一 般若院 行者堂

一 常楽院松護 地神堂

此七宇、一分銀方ヨリ修甫也、

一山之門地蔵堂 四間四面

一 江戸東叡山末法曼派 高五百石 大雄山 佛日寺 南泉院 天台

東照大権現御宮 并當将軍家御代々御牌所

一 京都醍醐山宝地院末寺小野方 同八百八拾石六斗五升五合五夕六才

経開山寶成就寺 大乘院 真言

一 相州藤沢清浄光寺末寺 同四百石 松峯山無量壽院 浄光明寺 衆時

忠久公・忠時公・久経公・忠宗公・貞久公御五代御牌所

一 二十二代太守吉貴公御廟所

一 能州総持寺末寺山城五哲之内遺幼派下石屋派曹洞宗二州門首 高千三百五拾石 玉龍山 福昌寺 禅

應永元甲戌 太守元久公建立 元久公御寺開山石屋大和尚

後奈良帝勅願所

外高三百石、慈昭院様御影堂相付、 御先祖様御霊屋数多

有、

一 高百七拾石 福昌寺中 恵燈院 禅

内百石 泰清院様御菩提所、五拾石 慶安様、廿石 曹源

院様、 久豊公・同御簾中壽山妙久大姉・慶安様・曹源院

様・綱久公・常照院様御牌有、

一 福昌寺末寺 同二百石 大平山 興國寺 禅

明應五年丙辰、太守忠昌公建立、開山泰雲和尚

忠昌公 并持明彭窓庵主御寺

一 福昌寺末寺 同四百六石 松原山 南林寺 禅

内二拾五石妙蓮様御茶湯免

貴久公 并持明様・御母堂實溪妙蓮御霊屋、御牌有、

一 福昌寺末寺 同二百八拾石 覚照山 妙谷寺 禅

十六代太守義久公御寺

一 浄光明寺末寺 清水山 五道院 本立寺 衆時

忠久公・忠時公・久経公・忠宗公・貞久公御廟有、

一 大乘院末寺 護國院 真言

右一ケ寺、御物方ヨリ修甫、尤御目見有、

一 福昌寺末寺 高壱石 西峯山 隆盛院 禅

右、又六郎忠隆公御寺

一 福昌寺末寺 太平山 大徳寺 禅

右、忠國公長女萬尼開山、實峯妙恵大姉

一 高三十石 右同寺中 華舜軒 同

義久公前御簾中花春妙香大姉御寺

一 同七石 右同寺中 深固院 同

忠國公御寺 并御簾中心華安公大師御牌有、

一 同二百石 大乘院末寺 護國山 大楽寺

諏訪座主安養院 真言

一 同三十石 坊津一乘院末寺 仙台山 真乘院 大興寺 同

永正五年戊辰六月、太守忠治公御建立、

将軍家義教公御舎弟大覚寺義昭大僧正之菩提所

一 京都智恩院末寺鎮西派浄土宗門首 同二十石 養泉山 無量寺 不断光院 浄土

清陽院殿正一位大相國、延寶六戊午九月十四日逝去、左馬頭

綱重公御牌、吉貴公御安置也、

弥陀尊像造立、而爲芳真大姉影佛、

一同五十石、大乗院末寺　神護山　観音寺
稲荷座主寶持院真言
月香妙雲大姉御寺
一同三十石　福昌寺中　月香院　禅
一同五十石　醫王山　多楽寺　寶珠院　真言
一同五十石　大乗院末寺　飯野諏訪座主　延壽院　真言
祇園座主　文珠院
一大乗院末寺
一同拾五石　愛宕山　愛宕座主　勝軍院　同
小城橋現座主
一大岳山無正護寺　善聚院　同
一大乗院末寺　万壽寺　同
一大乗院末寺　威光院　同
一右同平ノ馬場　柿本寺　同
一右同　福蔵院　同
一右同　春日座主　西壽院　同
一右同　善行院　同
一高五十石　右同田ノ浦　潮音院　同
一　永福寺
一重寶山　上山寺　禅
一高三十石　比志島紀伊守寺　福昌寺末寺南林寺塔頭　源舜庵　禅
一高二十三石一合　伊集院梅岳寺末寺　笑岳寺　同
右同末寺　野元ノ
一醫王山　薬王寺　同
京都本能寺拠所本奥寺末寺三照門主
一高三十石　本長山　正建寺　法花
八品門派日立派
此寺、曹源院様御牌、自分安置被仰渡候、
一瑞雲山　大龍寺　臨済
五山派東福寺内塔頭末寺
一雲海山　般若院
真言宗当山派山伏薩摩日置袋頭
一高　壽國寺　黄檗
一高　弥勒院　天台
一高　良英寺　禅
一御城山吉野橋　御堀三番九　新上橋　西田橋　高麗町橋　武橋、
御下屋敷　三口番所　岩崎　大手　新照院
一鹿児島二町、上町　六丁　柳町　車町　車丁トモ　和泉屋町　夷町　浜町　地蔵町、　下町　十二町　六日町　呉服町　中町　大黒町　木屋町　今町　築町　新町　堀江町　納屋町　船津町　和泉町、
西田町　三　上丁　中丁　下丁、
武士上小路名　諏方馬場　五道院馬場　清水馬場　左衛門坂
藤坂　大竜寺馬場　般若院小路　冷水　立野　城之谷　岩崎
堀之内　虎屋
下平之馬場　上同　下千石馬場　天神　或藏原　高見　二本松　山之口　或榎木　加治屋町　柿本寺　新照院　草牟田　川ヨリ外　高麗町　同　荒田
中村　川ヨリ外　郡元　同　西田　同　田上　同　原良　同　小野　同　伊敷　川ヨリ内赤谷山海道トモ　新屋敷　塩屋
鹿児島上町札辻　同下町札辻　但此所ヨリ御分國中里数相定り申候、
右同浦町　俗ニ荒田町と申候、　横井野町　火立番所　唐船方草牟田　横井
神社　福昌寺門前熊野権現
久富木山　萩原天神　久保田諏方　大田大明神
一龍溪山　神照院　知恵光院　真言
一稽岑山　但坊津　薬院猫坊寺　鷲山寺　弥勒院　天台
一一乗山　妙顕寺　法花
一愚雲山　安寧寺　龍洞院　同右
一日吉山　浄妙院　西田山主座主　西田寺　真言

一芳野山　法輪院　吉野　憲英寺

能学寺

但志布志大慈寺宿坊寺

一不断光院の事前ニ記、雖然又爰ニ記、抑此寺之開山清誉上人之世姓進藤氏、京師之人也、清誉花洛之不断光院ニ居住、故其号を不改不断光院と云、花洛之不断光院ハ近衛殿下之寺也、故ニ信尹公當國左遷之時、不断光院之内祖神春日大明神を勧請被成、伊志岐ニ而春日大明神勧請なり、是ハ真言宗伊志岐ニ智恵光院と号、七石御付被成、聖家一人御格護被成、是も京都智恵光院を不改御心持なり、

一不断光院ニ茂智恵光院ニ茂、御勧請之春日御家門様御自筆二十六ヶ仙御寄進被成、繪者少々御直シ爲被遊由、右ハ不断光院由緒被書出候内ニ相見得候、正月十八日と右わきに、右之趣相見得候、珎敷事故于爰載置也、

春日大明神　一御殿四尺方小板葺　一参殿四敷弐間茅葺（下伊敷）

右、近衛殿下信尹公御建立、一社人屋敷壱ヶ所、

両通之写、寺社前より出るとゝゝ、

一吉野御牧　馬数四百八拾二疋、一比志島野同、馬数

鹿児島弐拾四ヶ村

一高千八百拾四石三斗四升八合九夕六才　鹿児島郷内　武村

一同千九百四拾壱石五升三合九夕五才　右同郷内　荒田村

一同弐百八拾五石八斗四升九合二夕八才　塩屋村

以前ハ武村ゟ差引爲有之由候、其後一名ニ被召立候哉、武村之内共不相知由、郷村帳ニ有、

一同千弐百六拾二石九斗八升七合五夕壱才　永吉郷内　田上村

一同三百八拾弐石九斗三合七夕五才　右同郷　西別府村

但東別府村古帳ニ有之由候得共不相知由、郷村帳ニ有之、

一同千五拾四石九斗壱升壱合五夕六才　右同郷　西田村

一同九百八拾弐石六斗七升九合壱夕五才　右同郷　原良村

一同三百六拾九石七斗八升弐合八才　右同郷　永吉村

一同千弐百八拾七石七斗弐升七合壱夕壱才　右同郷　小野村

一同千四百五拾九石六斗六升八合弐才　鹿児島郷内　下伊敷村

一同五百拾七石五斗二升五合　右同　草牟田村

一同千八百九拾三石四斗四升八合四夕四才　右同　上伊敷村

一同千五百七石七斗弐升九合七夕九才　右同　犬迫村

一同千九百四拾六石弐合八才　日置郡内　小山田村

一同九百拾八石三斗九升八合九夕六才　日置郡内郷村帳ニハ村不見得　比志島村

一同弐百三拾五石弐斗壱升四合七夕九才　鹿児島郷内　皆房村

一同三百九拾五石七斗八升九合五夕八才　右同　岡之原村

一同八百壱石壱斗五升九合五夕八才　右同　川上村

一同五百拾石六斗九升八合二夕三才　右同　下田村

一同九百六拾三石壱斗壱升九合六夕九才　右同　吉野村

一同弐百五拾八石九斗壱升九合二夕八才　右同　花棚村

一同六百三拾弐石六斗壱升九合壱夕八才　「書落歟、右同之ゟ不見得」　坂元村

一同八百八拾弐石六斗八升五合六夕三才　右同　郡元村

一同千弐拾八石五斗九合壱夕七才　右同　中村

一同三百九拾五石七斗八升九合五夕八才　右同　花野村

合高弐万五千三百五拾二石三斗五升七合七夕六才

右高二万三千四百九拾八石八斗五升七合九夕四才、此古高と

ハ享保御支配以前之高ニ而候由、末迄同断、小山田村・比志

島村八、日置郡郡山々古来入来由、

高壱石四斗七升九合壱夕七才　御城内

同四拾六石八斗五升弐合八才　西田町・横井町屋敷

同百四拾石壱斗四升七合六夕五才　上下町屋敷

同弐拾石壱斗　水手屋敷

同千四百三拾石弐斗二升三合弐夕　御蔵地諸士寺社諸座屋敷

同七石七斗八升三合三夕三才　寺社諸座附水手屋敷餘地

薩州鹿児島郡（吉田八、吉来吉田氏代々領地之由ニ候）

吉田（四里、吉田多候故薩州吉田ト云、）五箇村

高六千六百七拾石四斗四升四合八夕五才

一正一位八幡（座主高二十石）宗廟薩埵王子権現

一高壱石四斗　寶勝院

一高拾石　佛智山（福昌寺末寺）津友寺（禅）

忠治公御寺

一同三斗六升四合五夕八才　真化寺　津友寺　隔庵　慈眼山

帝釋寺　津友隔庵　長隆寺　繁昌寺　徳持庵　西福寺　高徳院

金隆院　正江寺　良等寺

衆中高八百五拾石餘（人体衆中百四拾三人、衆中惣人数四百四拾人）

用夫四百六拾九人

一高千七百拾八石九斗弐升四合五才　吉田郷内　西佐多浦村

萬治比御支配迄ハ佐多浦一名ニ而候処ニ、此節両村ニ成、

一同千九百拾八石七斗八合壱夕三才　右同　本名村

一同千四百拾五石三斗八升四合壱夕　右同　東佐多浦村

但近年此名内割、重富ニ入、

一同八百拾石六升六合五夕四才　右同　宮之浦村

一同八百七石三斗六升五合六夕三才　右同　本城村

合二ケ所鹿児島郡

薩州日置郡（伊集院八忠久公御時、伊集院四郎ニ賜ハ、迎清郡司也、其初武内宿祢ヨリ出、紀姓、）

伊集院（鹿児島ヨリ四里半）二拾八箇村

高壱万五千六百五拾五石六斗壱升九合七夕

一宗廟諏訪大明神（大田村）祭礼七月廿八日　神馬二疋（鹿児島ヨリ来ル、）

一高四拾三石　大勝山聖御院　荘厳寺（真言）

一同　妙圓寺（禅）

妙圓寺殿松齢白貞庵主　元和五年七月二十一日　義弘公

一同百石　千秋山　田布施常珠寺末寺　雪窓院（同）

義久公・義弘公御母堂、雪窓妙安大姉御寺、歳久牌モ有、

一高七拾石　芳真軒

實窓芳真大姉　久保公・家久公御母堂、慶長十二二月朔日卒去、

廣瀬吉左衛門助宗女也、宰相殿、

一同三十石　泰定山（京都南禅寺末寺五山派）廣済寺（臨済）

一同七拾五石　梅岳寺（禅）

梅岳寺殿寛庭芳宥大姉　永禄六十一月九日　忠良公御室　貴久

公御母堂

一同七年　竹林山（施行一宿寺）　龍泉寺（時衆）

一同二石　瑞雲山（廣済寺末寺）　善福寺（臨済）

一同八斗　久木山（川邊宝福寺末寺）　破鞋庵

一同二斗　報恩寺

一松尾山　永福寺

一伊作山　圓通庵

一大乗寺（禅）　山寺

一日置山　山寺
一泰陽山　能登総持寺末寺　直林寺同
一醫王院　禅
一道典庵　禅
一榮衆寺　竜雲寺末寺　一松目庵　禅　一鶴林庵　同　一長秀庵　同
一海潮庵　梅岳寺末寺　一安舟軒　禅
一國分安舟軒隔庵　圓龍院　同

此寺ニ義久公嫡女義虎室御霊屋有、

衆中高弐千三百五拾四石餘　衆中人躰弐百三十六人　惣人数
七百拾二人
用夫

一苗代川　高麗人町有、
一春山野御牧
一伊集院浦　神之川　五十二ケ所略改之内、川筋八市来也
一高五百七拾弐石弐斗四升七合六夕　伊集院郷内　清藤村
一同五百拾石三斗弐升六合六夕三才　右同　土橋村
一同弐百六拾八石七斗八升四合七夕　右同　竹之山村
一同三百八石八斗弐升弐合弐夕九才　郷村帳ニ不見得　中津村
一同七百壱石四斗四升九合四夕八才　伊集院郷内　石谷村
一同弐百八拾石五斗八升弐合七夕壱才　右同　猪鹿倉村
一同七百三拾四石九斗二升九合弐夕六才　右同　麦生田村
一同二百弐石弐斗五升四合八夕九才　右同　有屋田村
一同千八拾三石三斗弐升七合壱夕九才　右同　郡村
一同弐千百弐拾七石四斗弐升九合弐夕五才　右同　谷口村
一同五百六拾石九斗六升三合六夕五才　右同　福山村
一同七百八拾四石三斗八升壱合八夕五才　右同　直木村
一同二百四拾壱石七斗四升七合四才　右同　春山村
一同弐百八石八升六夕九才　右同　古城村
一同弐百六拾四石九斗六升八合七夕　右同　恋之原村
一同四百四拾九石四斗四升四合五夕六才　右同　入佐村〔イ作〕
一同四百四拾壱石九斗四升六合弐夕五才　右同　飯牟礼村
一同六百三拾六石六斗二升弐合七夕　右同　徳重村
一同四百九拾弐石七斗壱升壱合六夕七才　右同　野田村
一同五百四拾五石五升九夕五才　右同　寺脇村
一同百四拾四石三升六合四夕六才　右同　宮田村
一同百八拾三石七斗壱升七合四夕壱才　右同　神之川村
一同弐百八拾石九斗五夕三才　以前八市来ニ養母村之内ヶ　右同　苗代川村
被仰付候由、郷村帳ニ見ル、
一同八百弐拾弐石四升壱合六夕　右同　大田村
一同四百七拾六石七斗四升弐合弐才　右同　嶽村
一同八百四拾三石弐斗八升弐合六夕六才　右同　上神殿村
一同八百九拾五石四升八合弐夕九才　右同　下神殿村
一同弐百九拾三石七斗六升弐夕　右同　桑畑村

同國同郡　永吉八南郷万楊庵養弁、忠久此時命居城、紀姓人、

永吉　鹿児島ヨリ六里、古来南郷ト云、壱ケ所　私領高四千弐百五拾壱石

若御年寄　○島津采女

一宗廟　久多島大明神〔イ脱〕　祭礼、海上二久多島ト云岩嶋有、三年二一度ツヽ、永吉ヨリ此嶋ニ参祭有之事之由候、

高弐千二百拾九石五斗五升九合九夕弐才　日置南郷之内　永吉村
用夫百六十六人

一　愛寶寺　真言　一　天昌寺　禅

薩州日置郡

吉利（鹿児島ヨリ六里半）壱ケ村私領高五千八拾六石餘　御家老○小松帯刀殿

一宗廟御霊大明神

一鬼丸大明神（是ハ祢宜之先祖重長之霊を祭之由、根占領地之時彼地ニ祭ル一所、此所ニ替ル時、此地ニ祭之由）

一　勝雄寺（真言）　一　園林寺

高千九百五拾八石四斗四升五合八夕壱才

用夫弐百拾九人

同國同郡

日置（鹿児島ヨリ七里）二箇村　私領高　○島津左衛門

一宗廟

一

一帆之湊（浦町有、五十二ケ所之内）

高三千弐百八拾五石四斗六升壱合五才

内

一高三百弐拾五石八斗九升五合（外田子村除）　日置北郷之内　山田村

一同弐千九百五拾九石五斗六升五才　右同　日置村

用夫弐百八拾人

同國同郡

郡山（鹿児島ヨリ四里半）六ケ村

高頭五千五百四拾弐石七斗四升弐夕壱才

一花尾権現（厚地村）大乗院格護

一宗廟諏訪大明神（祭礼）

一花尾山（花尾権現別当大乗院兼住）平等王院

右花尾権現、御元祖忠久公御建立、　中尊頼朝公、左脇永金阿闍梨、右脇丹後御局、三躰木像御安置、頼朝卿御縁日正月十三日、丹後御局御縁日十二月十三日、花尾権現法楽之踊八月十二日ニ而候、

一高壱石　寶憧寺

一同壱石　門照寺

衆中高五百七石餘　衆中人躰百七十人（士惣人数四百十人）

一高千七百五拾三石壱斗七合九夕七才　（潮家院之内）　郡山村

一同七百五拾九石五斗七升弐夕八才　右同　西俣村

但以前ニ此村ゟ油須木村・厚地村相分リ候由、

一同四百五拾九石壱斗五升三合壱夕弐才　右同　油須木村

一同千弐百弐石壱斗五合六夕三才　右同　東俣村

一同四百九拾九石七斗四升五合六夕壱才　右同　川田村

一同八百六拾九石壱斗四升七合六夕　右同　厚地村

用夫弐百三十九人

薩州日置郡之内（市来ハ忠久公御時、市来十郎郡司家房居城、大蔵氏）

市来（鹿児島ヨリ七里）八ケ村

高頭壱万三百八拾四石三斗六升七夕三才

一宗廟稲荷大明神（湯田村）

一諏訪大明神（湯田村）

一高三拾五石　鳳凰山　遍照院（大泉院末寺）大日寺（真言）

一阿弥陀堂（大日寺格護、此以前ハ御惣坊ト唱来候ヘトモ、御惣坊ト申間敷候、大日寺之阿弥陀堂ト可申旨被仰渡候）

高三拾七石　法城山（福昌寺直末寺）龍雲寺（禅）

一弥陀山（龍雲寺末寺大里村）来迎寺（禅）

（御家十代太守）立久公御寺（文明六年四月朔日、節山玄忠大禅定門、立久公、茂山紗才大師、右御願中、）

一福厳庵　一龍雲寺末寺伊作田村西岩寺（禅）

右御夫婦御牌・御石塔有之候、

一同八石　萬年山　金鐘寺　一徳雲庵　一白中山（龍雲寺末寺）

湊ノ梅岩寺　一補陀山　湊ノ潮音寺

一湊（御仮屋・補町有、別当・年行事）　一城ノ町　一江口浦（伊集院境川渡）　神之川浦

一遠見番所　一温泉（湯田村）　一宿馬（市来・串木野　十五日代）

一市来野御牧（馬数三百十五疋）　一湊地頭假屋　曖在番所有、

衆中高　衆中人躰弐百七拾人（士惣人数九百六拾壱人）　市来郷内　湯田村

一高千三百拾三石六斗六升五夕弐才

一同千六百弐拾七石七斗七升六合八夕七才　右同　養母村

一同千六百五拾七石七斗六升弐合三夕七才（右同断也、）　長里村

一同弐千五百五拾九石七斗壱升五合弐夕五才　右同　大里村

一同百九拾四石九斗九升七合九夕二才　右同　神之川村

一同千六百拾壱石六斗八升八合七夕五才　右同　伊作田村

一同六百四拾九石五斗八升四夕三才　右同　湊村

一同七百六拾九石壱斗八升弐合九夕八才　右同　川上村

用夫千三百二十二人

薩州日置郡（中木野ハ忠久公御時、串木野二郎忠通相守ル、半家也、）

串木野（鹿児島ヨリ九里余）　四箇村

惣高頭五千七百九拾壱石三斗六升弐夕弐才

一冠嶽（修験主坊峯院　熊野）

一宗廟猪之目太大明神　一諏訪大明神

一高三拾九石九斗三升四合三夕七才　冠嶽山鎮國寺頂峯院（真言）

一同壱石　補陀山　良福寺　一良福寺隔庵　王月峯庵

一悟入寺　一上川寺　一（右同）妙智寺（町寺）　一慈眼寺

一正福寺　一（大原山）松山寺　一松原寺　一清圓庵

一江川庵　一實宗庵　一中江庵　一宿露庵　一観音寺

一千手院

衆中高千弐百六拾六石餘（衆中人躰弐百二拾三人　惣人数五百五十六人）　唐船夕尾

一羽島（浦町有、沖羽島遠見番所有、）　一火立番所有、

一高弐千弐百弐拾九石八斗壱升弐合八夕四才（串木野郷内）　上名村

一同弐千三百二石五升六合九夕三才　右同　下名村

一同四百拾弐石四斗八升四合三夕七才　右同　荒川村

一同八百四拾五石九斗五升弐合八才　右同　羽島村

用夫千二十五人

合七ケ所　薩州日置郡

薩州谷山郡（谷山ハ谷山兵衛尉忠光、忠久公御時、鹿城、平氏也、）

谷山（鹿児島ヨリ二里半）　九箇所

惣高頭壱万三千三百五拾九石七斗八升三合四才

一宗廟伊佐知左權現（祭礼九月九日）

一高百石　永谷山（福昌寺末寺）皇徳寺（禅）

又一郎久保公御寺、皇徳寺殿一唯恕參大禅定門（文禄二年癸巳二月八日、）

一高拾三石壱斗五升　補陀山（皇徳寺末寺）慈眼寺

一観音堂　慈眼寺　一恵燈院殿義天存忠大禅定門　久豊公

壽山妙久大姉御夫人　此観音堂ニテ家久公御詠歌

橋姫の瀧の白糸くりかけて　紅葉のにしき波やおりけん

一高三石　常楽寺（真言）　一如意山（川邊宝福寺末寺　町之本渡邊二有）　清泉寺（禅）

一　麓多福庵（禅）　一　松林寺（同）

一　（同）圓妙庵（同）　一　中村　帝釋寺（同）

此寺ニ大観音有之、八月十七日踊此寺ニテ有、

一　持勝院（真言）　一　中村　正壽庵（川邊宝福寺末寺平川之）

一（上福元）江月庵　一　地蔵院（禅）

一　宇宿村蔵禄軒　禅　　一山田村　妙樂寺時衆

此寺ニ大日堂有、　　此寺ニ阿弥陀堂有、大川内阿弥陀ト云是也、五月十六日ニ此寺ニテ田植有之、

衆中高千八百四拾石餘　衆中人躰三百十人（士惣人数八百十七人）

一浦町　一塩屋　一鈴山

一高四百三拾石七斗八升六合九夕八才　伊佐智佐郷内　平川村

一同三百拾弐石壱斗七升壱合三夕弐才　右同　塩屋村

一同五百六拾九石六升弐合六夕壱才　右同　和田村

一同弐千六百拾三石五斗九合三才　右同　下福元村

一同三千五百拾五石九斗壱升壱合九夕九才　右同　上福元村

以前ハ福元村一名、其後上下福元・塩屋・平川ト別立候由、郷村帳ニ見ル、

一同弐千四百六拾石七升六合弐才　山田郷内　中村

一同千五百四拾五石八斗八升六合壱夕四才　右同　山田村

一同五百弐拾六石六斗六升八合九夕六才　右同　五ヶ別府村

一同千三百八拾五石七斗壱升四夕　右同　宇宿村

右一ケ所谿山郡

薩州阿多郡（伊作ハ忠久公御時、和田ノ八郎親純知行、藤原氏人也、）

伊作（鹿児島ヨリ六里半、）　十箇村

惣高頭七千百六拾九石四斗壱升弐合弐夕六才

一宗廟大汝八幡（神主、山之内瀧兵衛格護、祭礼十月二十五日、鏑流馬有、宮内・宮下両家勤之、）神領高五拾石相付、

一諏訪大明神

一高五拾石　如意山　願成寺（大乗院末寺）海蔵院（真言）

右海蔵院にて　家久公御歌

おくふかく砌ふりぬる杉むらに　つもれる雪ハ花にまされり

一高三拾壱石壱斗　善勝寺殿徳瑞浄輝大禅定門（トクヨウジヨウキ）（伊作河内守久逸善勝寺禅）

一同三拾石二斗　梅窓妙芳位一房（大永五年壬午十月十日、新納曉河守是久女、忠良公御母堂常盤殿、）　西福寺時衆

一同弐拾八石（多宝寺殿越前超公大禅定門、又四郎善久御願所、御帯屋等、光久公御再興、）　多寶寺

一春峯山（御切米八石、伊作親忠寺）大徳寺（臨済）　一観音堂（天徳寺殿天南道一大禅定門、大永七年丁丑六月二日、伊作三代下野守親忠牌、）

衆中高千八百拾六石餘　衆中人躰三百六十七人（士惣人数九百六十八人）

一野町

一伊作野御牧　馬数百九拾弐疋

一高五百六拾三石九斗七升五合九夕三才　伊作郷内　今山村

一同三百九石五斗七升六合八夕九才　右同　与倉村

一同七百四拾五石三斗八升壱合弐夕九才　右同　和田村

一同七百四石五斗八升八合七夕七才　右同　湯之浦村

一同千三百三拾石七斗八升三合三夕七才　右同　田尻村

一同四百八拾四石三斗六升四合三夕三才　右同　小野村

一同九百四拾三石五斗壱合壱夕八才　右同　中之里村

一同八百八拾八石六斗九升二合四夕三才　右同　入来村

一同八百六拾七石六斗弐升七合三夕　右同　中原村

一同三百三拾石九斗壱升九合七夕九才　右同　花熟里村

用夫八百八人

薩州阿多郡（田布施ハ古来北方ト云、蛟島刑部丞家高法師行願、忠久公時分居城也、）

田布施（鹿児島ヨリ七里半、）　四箇村

惣高頭六千六百五拾六石五斗三升六合四夕七才

一金峯山六所大権現（金峯院格護）

一諏訪大明神　一勝手大明神

一高百弐拾石　金峯山　妙音寺（坊津一乗院末寺）金蔵院（真言）

一同拾六石　大平山（福昌寺末寺）常珠寺（禅）　一幣傳庵

（此寺ニ友久主牌有、常珠寺殿天勇玄機大居士、明應癸丑二月十日御卒去、）

一平井寺　一大明寺　一不動寺

心傳妙秀大姉牌、元久公御嫡女、十月二日御卒去、年号不相知、

常珠寺ニ有、御女子七人共ニ爲此丘尼ヲ御系圖ニ相見得候得共、

何番目之御女子様共不相知候、

衆中高六百二拾弐石餘　衆中人躰弐百五人（士惣人数六百九十三人）

一野町

一高弐千百九拾九石壱斗九升五合六夕弐才　田布施郷内　尾下村

一同千五百六拾七石壱升弐合七夕九才　右同　高橋村

一同千四百九拾二石八斗壱升九合弐夕七才　右同　池邊村

一同千三百九拾六石五斗八合七夕九才　右同　大野村

用夫八百八人

薩州阿多郡（阿多ハ阿多平四郎權守忠景、同平四郎宣澄、忠久公御時分居城、）

阿多（鹿児島ヨリ八里半）　六箇村

一高頭四千四拾二石八斗八升六合七夕八才

一宗廟日吉山王

一八幡

一高弐拾石　千手山（田布施浄珠寺末寺、忠景公御寺）　大年寺（禅）

大年道登大居士、天文八年己亥七月十一日、相模守入道一瓢

一同弐石五斗　水精山　吉蔵院（上宮寺ト言）

一大年寺隠庵正覺院　一長福庵　一右同皇徳寺（禅）

一高源寺　一安龍寺　一龍心庵　一成持庵

衆中高　衆中人躰弐百弐拾五人（士惣人数六百七拾九人）

一野町

一高四百五拾四石四斗九升九合弐夕八才　阿多郡内　浦之名村

一同千六拾石六斗八升六合七夕四才　右同　中津野村

一五百七拾壱石七斗七合壱夕四才　右同　新山村

一同千百五拾石九斗弐升弐合壱夕七才　右同　宮崎村

京竿以後、宮崎・渡り二ケ村相立候由、外ニ松田村・渡利此

両村被滅、宮崎ニ付、

一高四百七拾石壱斗五升四合四夕壱才　右同　白川村

一同二百二拾五石九斗壱升七合四才　右同　花瀬村

用夫七百五十四人

合三ケ所阿多郡

薩州川邊郡（川邊ハ河邊平太道綱、忠久公御下向比令居城、平姓也、）

川邊（鹿児島ヨリ七里半）　拾三箇村

一惣高頭九千三百三拾九石九斗九升弐合五夕六才

一宗廟飯倉大明神（神主、尚良橋護）

此宮、六月朔日御田植有、遠近参詣人多シ、

一高七石五斗　龍豊山（龍州総持寺末寺）玉泉寺（禅）

口新公御牌モ有之候、玉泉寺殿玉泉智芳大姉、右忠國公御息女

薩摩守用久公御簾中、明應五七月廿三日、

一同七石　清水村　寶光寺　一善秀寺

一同四拾壱石　忠德山（市来金鑵寺末寺、世二山之寺ト云、）　寶福寺（禅）

口新寺殿梅岳常潤在家菩薩忠良公

皇徳寺殿一唯恕参大禅定門久保公（御面牌有、）

計の耳すわと云所有之、不思議成所也、此所ヲ寺門と云、寺山

廣ク所々名所有之、

衆中高　　衆中人躰弐百廿五人（惣士人数六百六拾壱人）

一高九百七拾六石七升壱合六夕六才　（川邊郷内）　神殿村
一同三百七拾六石八斗四升六合弐夕五才　右同　古殿村
一同七百四拾五石八斗六升三合二才　右同　清水村
一同弐百七拾八石壱斗三升壱合四才　右同　今田村
　但以前ニ平山村ト相分候由、郷村帳ニ見ル、
一同六百八拾五石弐斗弐升弐合四夕九才　右同　両添村
　田之上村・宮下村之両名、此度両添一ケ村ニ成、享保十一年
　丙午正月六日、御證文ニ成、
一高八百拾六石五斗四升四合五夕　右同　野崎村
一同五百四拾五石九斗五升七合壱夕四才　右同　小野村
一同千百九拾六石壱斗五升八合八夕壱才　右同　平山村
一同九百四拾壱石三斗五升五夕六才　右同　田邊田村
一同四百七拾三石七斗弐升六合八夕弐才　右同　野間村
一同千百八拾弐石六斗八升七合八夕七才　右同　高田村
　宮村一名ニ而候処ニ、以前ニ相分候由、郷村帳ニ見ル、
一同七百弐拾石弐斗弐升壱夕壱才　右同　宮村
一同二百九拾九石壱斗七升弐合弐夕八才　右同　長田村
　用夫六百七十二人

薩州川邊郡（加世田八郎府五郎忠明、忠久公之御時令居城、平姓、）

加世田（鹿児島ヨリ九里半）　拾四箇村

一惣高頭壱万七百八拾八石八斗六升七合八夕五才
一野間山大権現（愛染院格護）　一益山八幡　一鷹屋大明神
一野間山　愛染院（真言）

一高廿七石　雲林山寶亀寺（真言）　今泉寺
一同弐百三拾三石　龍護山（田布施常珠寺末寺、忠良公御寺、）　日新寺（禅）
　日新公并一枝曇秀居士・尚久・貴久公・忠國公御牌有之、
一同四拾壱石壱斗　日新寺塔頭（此寺ニ忠良公御影御安置、）　常潤院（禅）
一同七斗　白亀山　安養院　浄福寺（衆時）
　此寺ニ貴久公御母堂覓庭芳有大姉御牌有、永禄六年癸亥十一
　月九日、薩摩守重久女、
一六角堂（杉本寺格護、忠国公御骨御安置堂也、）　一南福寺　一龍徳院
一小湊ノ椎雲院
一野町
一片浦　一小松原（出物蔵有、）　一小湊
一野間野御牧　馬数百六拾七疋
　衆中高三千三百四拾八石餘　衆中人躰五百十人（惣士人数千九百三十九人）
一高弐百弐拾七石五斗九升五合八夕五才　（加世田郷内）　赤生木村
一同弐百二拾九石五升弐合弐夕八才　右同　片浦
一同六百五拾九石四斗七升二合壱夕三才　右同　小湊村
一同千弐百四拾石五斗九升壱合九夕三才　（右同、或竹田村共有、）　武田村
一同五百四拾九石三斗五升五合　右同　村原村
一同三百四拾壱石壱斗壱升四合三夕四才　右同　地頭所村
一同千弐百六拾九石壱斗五升二合九夕五才　右同　益山村
一同三百四拾八石九斗七升弐合九夕壱才　右同　宮原村
一同五百三拾五石弐斗四升九夕五才　右同　唐仁原村
一同弐千弐百二斗三升七合三夕九才　右同　大浦村
一同千八拾八石六斗四合三夕六才　右同　内山田村
一同九百五拾八石六斗六升五合九才　右同　津貫村

一同八百三拾七石八斗壱升九合九夕九才　右同　川畑村
一同四百九拾石八斗九升六夕三才　右同　別府田間村
用夫六百七十八人
薩州川邊郡
鹿籠（鹿児島ヨリ　一箇村　○私領
一高三千六百六拾弐石餘　（高三千六百六拾弐石余）御家老喜入主馬殿
一宗廟妙見大明神
一神護院（真言）　一寶珠院（真言）　一長善寺（禅）
一高弐千九百三拾三石九斗九升七合六夕弐才（川邊郷内）　鹿籠村
外樋川村・里村・別府村、此節被召除、一ケ村ニ成、以前ハ鹿籠一名ニ而候、元禄十一戊寅年、田布川村・別府村・里村ト三ケ村ニ相分候由、郷村帳ニ見ル、
用夫七百七拾人
薩州川邊郡
坊泊（鹿児島ヨリ　二箇村
惣高頭三百四拾八石九斗七升壱合四才
一宗廟九玉大明神　（仁和寺末寺廣澤方）　坊津
一高弐百五拾六石弐斗六升三合六夕八才如意珠山龍厳寺一乗院（真言）
日新寺殿梅岳常潤在家菩薩、永禄十一年十二月十三日逝去、忠良公
南林寺殿大忠良等庵主、元亀二年六月二十三日、貴久公
妙谷寺殿貫明存忠大庵主、慶長十六年正月廿一日、義久公　此御ニ牌有之、
一高四石　清月山（伊集院廣済寺末寺）　坊津廣大寺（臨済）
齢岳玄久大禅定門、嘉慶元年丁卯閏五月四日逝去、氏久公

一同六石九斗七升九合壱夕六才（右同末寺）東光山（泊津）海印寺（右同）
太岳玄誉大居士、文明二庚寅正月二十日逝去、忠國公
一同三斗　海寶山　清水院　（泊ノ法光寺時衆）
一高弐石三斗五升四合壱夕七才　（泊津）大知院（真言）
一坊津ハ日本三津之一ッニシテ絶景之所、古来より其名高シ、
近衛龍山公
いまはたゝやまとの船のとまりにて　からのみなとハ名のミ
成けり
一高百四石壱斗壱合四才　（加世田郷内以前ハ坊津村）　坊村
一同弐百四拾四石八斗六升九合九夕九才　右同　泊村
衆中人躰七十五人（惣士二百六十二人　人躰四十九人　惣士百廿三人）
用夫百六十八人
一坊泊ハ、内々坊并ニ泊と二ケ所ニ分居由候得共、一外城ニ相立居候、
薩州川邊郡
山田（鹿児島ヨリ　三箇村
御領内山田多候故、川邊山田と唱申候、以前川邊之内、其後加世田ニ被召附、外城立候由傳候、
一宗廟王子大明神
一高六石　（肥後悟真寺末寺　永谷山　普積寺殿道鑑大禅定門）（此寺ニ貞久公御牌有）　善積寺
肥後悟真寺二代之住侍開山ニテ、御家五代　貞久公御建立と申傳由候、悟真寺ハ八代ニ有、
一高壱石　光明寺
衆中高三百三拾五石餘　衆中人躰七拾四人（惣人數弐百六十弐人）
一高六百八拾七石四斗五合八夕九才　（加世田郷内）　上山田村

一同五百三拾弐石四斗五升壱夕壱才　加世田郷内　中山田村

一同千弐百弐拾六石三斗五升「本ノマヽ」合九夕九才　右同　下山田村

三行合惣高弐千四百四拾六石弐斗壱升九夕九才

用夫

薩州川邊郡

久志秋目　鹿児島ヨリ十三里　二ケ村

内々ハ久志并秋目と支配二ケ所ニ而仕由候得共、小所故久志秋目と一外城ニ相立候、

一宗廟九玉大明神

一寶亀山　阿弥陀寺　久志ノ安義院　一古寶山　久志ノ東泉寺禅

一佛得山　秋目ノ昌峯寺禅　一如意山　秋目ノ大道庵禅

惣高四百五拾七石九斗七升六合弐夕弐才

衆中高百四拾五石餘　衆中人躰六拾人　士惣人数弐百二十弐人

一高三百九拾七石三斗弐升壱合弐才　加世田郷内　久志村

一同六拾石六斗五升五合弐夕　右同　秋目村

用夫弐百二十五人

薩州川邊郡

硫磺嶋　鹿児島ヨリ船路三十二里

一二嶋　硫磺・竹島・黒島、右三島ニテ一支配也、

一櫨現　一分銀方ヨリ合力之高也、熊野櫨現之由

一硫磺嶋、本ハ鬼界ケ嶋、亦沖小嶋トモ歌書ニハ有之、

千載和歌集旅之部

さつま方沖の小嶋に我はありと　おやには告よ八重の塩風　平康頼

一高三拾六石五斗六升五合六夕弐才　川邊郡　硫磺島

同國同郡

竹嶋　鹿児島ヨリ船路二拾八里

一高弐拾石六斗八升九合五夕八才

薩州川邊郡

黒嶋　鹿児嶋ヨリ船路四十三里

一高四拾五石壱斗六升四夕壱才　川邊郡　黒嶋

右三嶋者船奉行支配　検者硫磺嶋ゟ両嶋兼役

薩州川邊郡

七嶋　船奉行支配

惣高八百三拾弐石八斗九升壱合弐夕五才

内口之嶋　鹿児島ヨリ四十四里

高百拾壱石壱斗弐升二合五夕四才

臥蛇嶋　右同六十九里

高四石四升八合九夕六才

中之嶋　右同船路七十三里七里廻り

高八拾三石三升八合五夕四才

平嶋　甘之瀬トモ云、壱里八丁廻り　鹿児島ヨリ八拾六里

高七拾五石八斗五升七合弐夕八才

悪石嶋　二里八丁廻り　鹿児嶋ヨリ八十七里

高二拾五石四升壱合六夕七才

諏訪之瀬嶋　七里廻り　鹿児嶋ヨリ八十里

高百弐拾七石九斗六升九合八夕

寶嶋　鹿児島ヨリ百五里

高二百九拾五石八斗壱升四夕六才

合八ケ所川邊郡

薩州甑嶋郡

甑嶋　二嶋

惣高頭二千弐百六拾七石二斗六升壱夕壱才

内

上甑嶋

一高七百弐拾八石弐斗五升六合　里村
一同弐百五拾弐石六斗八合三夕二才　中甑島村
一同百八拾三石五斗九升二合七夕五才　江石村
一同五拾五石三斗　平良村
一同五拾六石七斗八合二夕三才　瀬上村
一同弐拾二石三斗八升九合五夕　小嶋村
一同拾五石五斗四升弐合七夕壱才　桑之浦村
一同九拾三石六斗三升七合五夕　中野村

下甑村

一高九百七拾三石壱斗三升五合壱夕六才　手打村
一同三百石七斗九合壱夕七才　片野浦村
一同百石九斗弐升五合　瀬々野浦村
一同弐百五拾石八斗九升五合八夕三才　青瀬村
一同百七拾三石七斗七升七合八才　長濱村
一同五拾三石八斗壱升六合六夕七才　薗牟田村
一両嶋衆中高九百八拾七石餘　人躰三百九拾四人（惣上千六十一人）
一御牧有、市山野と云、馬数百二十一疋、只今ハ引取ニ被仰付候、
両島用夫千九百六十人

右一ケ所、甑島郡、外城ニ相立、衆中高
衆中人躰三百九拾四人（上惣人数千六拾壱人）

薩州頴娃郡（頴娃八頴娃三郎忠長、忠久公御時分屋城、平姓也、）

頴娃（鹿児島ヨリ上三里）　七箇村（池田村今和泉ニ入、只今八六ケ村、）

一開聞神社（延喜式神名帳、薩摩國二座小之内、薩州之一宮也、）近衛龍山公

薩摩方ゑひの郡のうつを嶋　これやつくしの富士といふらん
読人不知

東路を行心ちすれ西の海　かいもん嶽は富士の写し繪

一高弐百六石　開聞山　普門寺（坊津一乗院末寺、瑞應院真言）
一大野嶽權現　座主　安養寺
右當寺阿弥陀・釋迦二佛、頼朝公御使帰之御影佛也、堂之正面ニ源家将軍頼朝公ト大文字ニ記、
一高拾四石弐斗七升弐合九夕壱才　平源山（福昌寺末寺）證恩寺（禅）
證恩寺殿義天存忠大禅伯（久豊公）　観忠寺殿恕翁玄忠大禅伯（元久公）
但此外家久公壽山妙久大師・久豊公御夫人御牌有、
一同壱斗　観音寺
一寶蔵山（坊津一乗院末寺）西福院　一御領村　重田寺（真言）
衆中高千三百四拾八石餘　衆中人躰三百三拾九人（惣士八千百八十三人）
惣高頭

内

一高弐千百三拾石弐斗壱升七合七夕弐才　頴娃郷内　仙田村
一同五百七石七斗八升八合壱夕六才　右同　十町村
古八宮十丁と唱候由、郷村帳見ル、
一同千九百六拾石八斗六升六合七夕二才　右同　御領村
一同千三百七拾壱石九斗七升八合五夕三才　右同　別府村
右別府村、享保御支配ニ御領村ヨリ別立、
一同千三百四拾壱石六斗八合五夕五才　右同　牧之内村

一同千六百九拾九石五升九合九夕弐才　右同　郡村

一唐松野御牧、馬数二百四疋、同二百六十一疋頴娃、

右一ケ所頴娃郡　用夫

薩州指宿郡 指宿ハ指宿五郎忠元、忠久公之時令居城、平家ヨリ出、

指宿 鹿児島ヨリ十里　六箇村

一宗廟新宮大明神

一高拾弐石　安泰山 福昌寺末寺 源忠寺 禅　一浄興寺

源忠寺殿大中良等庵主貴久公

一同六石　長勝院

高頭

内

一高弐千百弐拾弐石六斗八升四合四夕三才 指宿郷内　拾弐町村

一同七百五拾七石七斗三升八合九夕　右同　拾町村

一同弐千五百弐拾八石四斗壱升五合九夕三才 右同　東方村

一同弐千九百八拾壱石弐斗八升七合七夕壱才 右同　西方村

右西東両村之惣名ヲ拾九町村と唱候、萬治以前ニ両村ニ分リ候

由、郷村帳ニ見ル、

外ニ小牧村・岩元村、今和泉ニ被召附候故除ク、

衆中高二千百七拾四石餘　衆中人躰三百四人 惣士七百七十人

薩州頴娃郡指宿郡之内

今和泉 鹿児島ヨリ九里半　五ケ村○私領高　嶋津因幡殿家跡

一宗廟

一〃　日洞寺　一　福壽院

一高頭三千五百九拾九石四斗餘

内

一高千四百六拾壱石三斗三升九合六才 頴娃郷内　池田村

一同三百八拾壱石壱斗六升弐夕壱才 指宿郷内　小牧村

一同四百九拾九石弐斗四升五合六夕弐才　右同　岩元村

一同 頴娃郷内仙田村ゟ分ル　利長村

一同 指宿郷内西方村ゟ分ル　西方村

薩州給黎郡

喜入 鹿児島ヨリ七里　三ケ村　私領高四千四百弐拾四石餘　肝付彈正

一宗廟三百餘社大明神

一　常法寺 真言　一　玉繁寺

一浦町

一惣高頭三千五百四拾壱石弐斗三升九合七夕三才

内

一高千七百八拾弐石五斗七升壱夕三才　下之村

一同千七百五拾八石六斗六升九合六夕　上之村

一　瀬々串村

右瀬々串村、大高拂ニ無之、郷村帳ニ不見得、

用夫九百弐人

同國同郡 知覧ハ知覧四郎忠信、公御時令居城、平家、忠久

知覧 鹿児島ヨリ　六ケ村○私領 高四千六百石餘 嶋津左殿

一宗廟中宮大明神

一持寶院 真言　一　西福寺

一惣高頭四千七百弐拾六石弐斗壱升九合九才

内

一高六百三石六斗弐升五合九夕壱才　知覧郷内　厚地村

一同千百四拾六石五升弐合六夕壱才　知覧郷内　永里村
一同六百七拾石九斗九升八合九夕壱才　右同　瀬々村
一同千拾四石九斗六升三合七夕五才　右同　郡村
以前ハ六ケ村ニ而候処ニ、京竿之節厚地村ハ郡村ニ付、瀬々村ハ長里ニ付候得共、後六ケ村ニ成候由、郷村帳ニ見ル、
一同六百拾石八斗四合六才　右同　東別府村
一同六百七拾九石七斗七升三合八夕五才　右同　西別府村
用夫九百人
或人曰、知覧ニ橋立之諏訪大明神とて立せ給ふ、相傳ふ、川邊寶福寺六代之住持雲岳和尚之時、寶福寺之少僧此諏方神前之鎌を取て寶福寺ニ帰り、佛檀之柱ニ討付置候、或夜衣冠正敷人寶福寺ニ来り、雲岳和尚ニ向テ鎌ヲ可被返ト云フ、雲岳只人ニ非ト見テ曰ク、鎌ヲ返ス事ハ安ケレトモ、君此寺之火災ヲ以後守護シ可給ト被頼、彼ノ人然ラハ以後火災ヲ可守ト被帰、依之寶福寺ハ、開基以来于今至テ火災無之、橋立之諏方之鎌トテ、于今寶福寺佛檀柱ニ立テ有之云々、

薩州給黎郡指宿郡之内

山川（鹿児島ヨリ上三里）　四ケ村
一宗廟熊野權現（座主宝積坊格護　高壱石壱斗七升三合八才）
一惣高頭四千七斗七合五夕九才　伊集院廣済寺末寺正龍寺臨済
怨翁玄忠大禅定門　應永十八年辛卯八月六日逝去、元久公
一高壱石　寶持院
一高壱石（児ケ水）龍山寺
湊口　有温泉
一高八百八拾三石九斗八升弐夕壱才　指宿郷内　福元村
以前ハ山川村と申候得共、明暦三年丁酉福元村ニ成、
一同千七百九拾壱石九斗九升三合五夕三才　右同　鳴川村
元指宿之内ゟ被召附候由、郷村帳ニ見ル、
一同九百拾四石七斗弐升弐合四夕四才　頴娃郷内　大山村
右大山村ハ頴娃内ゟ被召付候由、郷村帳ニ見ル、
一高四百拾石壱升四夕壱才　岡児ケ水村
右四ケ村用夫八百四拾弐人
衆中高八百七拾七石餘　衆中人躰七拾三人（上惣人数七百七十人）
或記大羅村、児ケ水、以前ハ頴娃之内ニ而頴娃郡也云々、
合三ケ所給黎郡

薩州薩摩郡（百次ハ古来薩上野、上野太郎忠宗、忠久公時令居城、）

百次（鹿児島ヨリ十一里）　一ケ村
一宗廟諏訪大明神
一高弐石九斗　生松寺（真言）
一同七斗　善應寺（禅）
衆中高三百拾八石餘　人躰六拾三人（惣上百七十二人）
惣高頭千百五拾石八斗三合四夕四才
内
一高八百六拾石七斗八升三合壱夕壱才　百次郷内　百次村
一同弐百九拾石弐升二夕三才　右同　田崎村
用夫七十二人

同國同郡　壱ケ村

山田（鹿児島ヨリ十一里）
一宗廟久木原權現
一高弐石八斗　越後「光寺末寺萬福寺寄言

一同弐石五斗　東光寺禅

衆中高三百八拾石餘　人躰八拾二人（惣十弐百六十八人）

一高千四百壱石壱斗弐升六夕七才　山田郷内　山田村

用夫五拾一人

同國同郡（平佐城ハ忠久公御時、薩摩太郎忠友令居城カ、）

平佐（右同ヨリ十二里）　一箇村私領（高七千七百六拾九石余）　北郷

一宗廟稲荷大明神

一　平等寺（真言）　一　梁月寺

一高弐千四百六拾壱石八斗二升七合壱夕九才　平佐惣高

内

一高千八百七拾壱石四斗九升四合壱夕七才　平佐郷内　平佐村

一同五百九拾石二斗四升三合弐才　右同　天辰村

用夫五十人

薩州薩摩郡

隈之城（鹿児島ヨリ十二里）　三箇村

一宗廟諏訪大明神

一高二石　法昌山　福壽院　称名寺（時衆）

此寺ニ師久公・宗久公御牌、下馬札有、

久阿弥陀佛　暦應三壬辰正月廿四日　宗久公、定山道貞大禅定門　永和二丙辰三月廿一日　六代帥久公

一同三拾壱石　山内山　平嶺石寺　金剛院

一同五石　大源寺禅

一同八石　来國寺

衆中高千百九拾八石餘　衆中人躰弐百七拾壱人（惣十八百二十七人）

一向出御假屋　向出町

一惣高頭六千弐百三拾壱石七斗九升八合九夕八才

内

一高弐千九百弐拾九石四斗二升四夕六才　隈之城郷内　東手村

一同弐千百四拾三石五斗七升壱夕九才　右同　西手村

一同千百五拾八石七斗九升八合三夕三才　右同　宮里村

用夫四百七十四人

同國同郡

高江（鹿児島ヨリ十二里）　二ケ村

一宗廟諏訪大明神

一高壱石　峯寺松寺

一同壱石　長崎寺（チョウキ）

一久見崎御船手

一寄田野御牧　馬数三百二十三疋

衆中高弐百拾五石餘　人躰九十一人（惣十弐百五十八人）

惣高頭三千三百七拾壱石九斗五升七合壱夕九才

内

一高弐千八百九拾三石六斗九合四夕八才　高江郷内　高江村

一同弐百九拾弐石八斗弐升六合四才　右同　久見崎村

一同百八拾六石六升壱合六夕七才　右同　寄田村

用夫四百人

薩州薩摩郡

樋脇（鹿児島ヨリ十二里）　六ケ村

一宗廟一之宮大神（同宮溝口尾張格護高壱石三斗相附）

一高三石　瑠璃光寺真言

一同三石　玉淵寺禅

衆中高千九拾五石餘　人　百八十五人（惣士五百五十六人）

惣高頭八千五百七拾七石六斗壱升弐合五夕壱才

内

一高弐千三百五拾壱石弐斗三升七合弐夕壱才（入来院内）　市比野村

一同三千百七拾七石五斗壱合八才　右同　塔之原村

一同八百五拾五石壱斗三升三合三夕五才　右同　倉野村

一同千五百七拾八石四斗四升弐合壱夕九才　右同　中村

一同百四拾石五斗八升三合三夕四才　右同　久住村

一同四百七拾四石七斗壱升五合二夕四才　右同　楠元村

用夫四百九十六人

一温泉二ケ所（市比野村ト、ノ温、下ノ湯ト云、）

同國同郡（入来ハ忠久公御時、入来又五郎頼宗、入来院ヲ知行、其先祖不祥云々、）

入来（鹿児島ヨリ一二ケ村私領　高弐千七百八拾三石余）　入来院隼人

一宗廟大宮大明神

一　松林寺　一壽昌寺

一温泉（数多、田村、添）

惣高頭四千八百八拾五石六斗九升八夕二才

内

一高三千百九拾八石六斗壱升二合弐夕三才　（入来院内）　浦之名村

一同千六百八拾七石七升七合六夕　右同　添田村

用夫百六十七人

薩州薩摩郡

中郷（鹿児島ヨリ　一ケ所　上二里半）

一宗廟諏訪大明神（祭礼七月廿八日）

一高壱石　宅万寺

一同壱石　太平山（伊集院常済寺末寺）安國寺（臨済）

右一國一ケ寺、足利尊氏将軍以来位牌有、

衆中高百弐拾壱石餘　人躰六拾四人（惣士百八十人）

一高千五百七拾五石九斗四合壱夕四才　（薩摩郡）　中郷村

用夫百拾九人

同國同郡

東郷（鹿児島ヨリ　八ケ村　上二里半）

一宗廟諏訪大明神（祭礼七月廿八日　在手参渕村）

一高六石　吉祥寺（真言）

一同五石　陽光山　天澤寺（禅）　香積寺（禅）

一笠山野（等松野共）御牧馬数百七十五疋

衆中高七百三拾石餘　人躰弐百二拾九人（惣士八百四十五人）

惣高頭六千四百五拾壱石六斗六合七夕壱才

内

一高千四百拾七石弐斗弐升壱合四夕七才　（東郷郷内）　田海村（タウミ）

一同百六拾七石八斗八升八合七夕六才　右同　臼濱村

一同弐千百六拾石九斗八合四夕弐才　右同　斧淵村（ブノフチ）

一同三百五拾五石六斗八升六合五夕七才　右同　完野村（シヽノ）

一同三百六石五斗壱升壱合四夕七才　右同　鳥丸村

一同四百拾四石弐斗九升四夕三才　右同　藤川村

一同千拾八石七斗八升三合八夕六才　右同　南瀬村

一同六百拾三石三斗壱升五合七夕三才　右同　山田村

用夫六百四十三人

薩州高城郡

水引（鹿児島ヨリ　五箇村　十二五半）

一八幡新田宮　社領高八百六拾七石

右、薩州一宮ト云、内百石御供田

文書等数多有　　五拾石修補田

六百十七石社家社僧給地

一高九石壱斗　天満宮座主　國分寺格護

高六百拾七石　八幡新田宮社領之内

内

一高四拾六石　斗壱升七合　　神亀山　観樹院（真言）

一同弐拾壱石七斗九升二合　　学頭坊

一同拾弐石五斗九升九合　　検校坊

一同拾七石弐升八合　　経宮坊

一同拾壱石九斗壱升九合　　正宮司坊

一同拾壱石弐斗三升七合　　御政所坊

一同七石八斗三升弐合　　権宮司坊

一同拾弐石弐斗三升七合　　下宮司坊

一同拾壱石弐斗三升七合　　和光坊

一同拾壱石弐斗三升七合　　玉泉坊

一同拾壱石弐斗三升七合　　左刀坊

一同拾壱石弐斗三升七合　　圓輪坊

一同拾壱石弐斗三升七合　　五代院

一同弐石七斗弐升四合　　九品寺

一同三石四斗五合

一高弐拾壱石八斗　醫王山　正智院泰平寺（真言）

右、元明帝勅願所と申傳候得共、勅所者無之候、

一同弐石　鷲岳寺

一同弐石壱斗九升　照常寺

一　國分寺　一（京泊ノ浄鏡寺（浄土）

右、國分寺者一國一ケ寺ニ而候、高天満宮之所ニ有、

衆中高千五百六拾石餘　人躰百五拾四人（惣十四百四十五人）

惣高頭七千三百弐拾三石壱斗弐升弐合壱夕七才

内

一高弐千弐百八石九斗五升三合壱夕壱才　　水引郷内　五代村

一同千五百拾八石七斗弐升三合五夕七才　　右同　宮内村

一同八百三拾八石八升弐夕八才　　右同　大小路村

一同千四百四拾二石八斗壱升九合三夕七才　　右同　網津（すゝ）村

一同千三百拾三石五斗四升五合八夕四才　　右同　草道村

用夫八百九拾七人

大小路町　宮内町　網津村神護寺（真言）　五代町　火立番所

京泊、御分國十六ケ所湊之内、寺島（川内川中ニ有之島也、こつとひ嶋、御船蔵十郎太夫、宮有、）

薩州高城郡

高城（タキ）（鹿児島ヨリ十二里）　五箇村

但薩州高城（タキ）、日州高城（タカシヤウ）、同名ニ而唱又不同、故川内高城（タキ）、庄内高城（タカシヤウ）と云、

一宗廟妙見大菩薩　　一高城宮

一高壱石　浄興寺

一高五石　信興寺

衆中高六百拾九石餘　人躰二百四十人（惣二百四十八人）

惣高頭五千八百弐拾石八斗八升七合四夕七才

内

一高千四百八拾壱石壱斗七升七合三夕三才　高城郷内　麓村

一同千百三拾五石四斗壱才　　右同　麦之浦村

一同四百三拾九石五斗五升七合四夕　西方・湯田両村、郷村帳ニ不見得候、　西方村
一同千八百八石七升三合七夕六才　高城郷内以前ハ上村　城上村
一同九百五拾六石六斗七升八合九夕七才　湯田村
用夫四百壱人
湯山村湯有、
麓村野町宿場　西方御假屋宿場
橋嶋其外小嶋段々有、御分国十二ケ所船改所之由、

薩州伊佐郡

薗牟田（鹿児島ヨリ九里半）　一ケ村　○私領　高千六拾石　樺山左京
一宗廟日吉山王
一　善賢院（真言）　一花岩寺（禅）　一大翁寺
此寺、樺山家代々位牌寺、自分修甫、
一高千四百三拾七石弐斗八升弐合四夕九才　郡答院内　薗牟田村
古ハ古里村・浦村・砂石村（サヽレイシ）と二ケ村ニ而候由、
一池有、此池ニ薗多シ、故ニ所之名と申、宗廟日吉山王宮此ニ有、山王之池ニて薗牟田中用水之池なり、此池之薗ヲ取席ニウツ、薗牟田郷名産なり、
用夫八十四人

同國同郡

大村（鹿児島ヨリ十里半）　四箇村
一宗廟大居神
一高六石　雲長山　国分正興寺末寺大應寺（臨済）
一同三石　吉祥寺
衆中高五百六拾五石餘　人躰百二拾人（士惣人数四百五十五人）
惣高頭五千四百九拾六石五斗三升弐合四夕九才
内
一高千四拾弐石九斗八升四合三夕九才　郡答院内　北方村
（古）右ハ中津川村、北・南両村ニ成、
一同千百九石弐斗四升弐合五夕　同　南方村
一同千六百弐拾五石二斗弐升四合弐夕五才　同　上手村
（古）右ハ大村一名ニ而候得共、當時上手・下手両村ニ成、
一同千七百拾八石九斗八升壱合三夕五才　同　下手村
用夫三百人
中津川二ケ村、其次黒木、其次大村二ケ村、両方ニ離居候、
大村ニ麓有之、二ケ所ニ而候、

薩州伊佐郡

山崎（鹿児島ヨリ十里半）　五箇村
一宗廟飯田大明神
永安寺
衆中高二百七拾八石餘　人躰八拾人（惣士弐百二十二人）
惣高頭三千七百弐拾弐石六斗五升五合七夕弐才
内
一同八百五拾九石八升三合五夕　白男河（シラカハ）村
一同百弐拾九石壱斗壱升三合二夕弐才　泊野村
白男河村・泊野村・二渡村、郷村帳ニ不見得、
一同七百七拾五石九斗八升八合四夕二才　郡答院内　山崎村
一同五百八拾石弐斗弐升五合弐夕弐才　薩摩郡　二渡村
一同千三百七拾八石弐斗四升五合弐夕七才　郡答院内　久富木村

同國同郡

宮之城（鹿児島ヨリ十一里半）　八箇村○私領　高壱万五千七拾五石餘　嶋津又五郎
一宗廟松尾大明神
一若宮八幡宮（済浄院格護）
一陽廣山　曇秀寺（禅）　一真蓮寺（真言）

一高百石（京都妙心寺末寺開山流）大徳山　宗功寺（済臨）

一同拾石　　薬師院

此寺ニ又五郎先祖代々廟所有、

一同七拾石（右同末寺）少林山（屋地村）大道寺（済臨）

一同三石　　神照寺

此寺、又五郎代々位牌寺、

一同五拾三石　撰龍山　楊宣寺

一同五石　　松下坊

一同五拾三石　青龍山　大圓寺

一同拾八石　大龍山（臺秀寺末寺）昌英寺（禅）

一同拾石　多寶寺（禅）

惣高頭七千九百弐拾三石四合壱夕七才

内

一高千百八拾弐石八斗九升壱合三夕六才（郡答院内川向）平川村

一同千九百八拾壱石九升八合三夕三才（同）求名村（クミヤウ）

一同八百六石六斗壱升弐合七夕壱才（同）時吉村

一同千弐百六拾八石弐斗五升五合六夕弐才（同）船木村

一同千三百壱石四斗三升三合四夕四才（同川向）虎居村

一同七百八石五升八合六夕五才（同）湯田村

一同弐百弐拾九石弐斗九升九合三夕八才（同飛地）柊野村（クキノ）

一同四百四拾五石三斗五升四合六夕八才（同薩村也）屋地村

用夫四百人

一温泉（湯田村有　于河原）　一野町

薩州伊佐郡

黒木（鹿児島ヨリ九里半）一箇村私領○高千弐百拾弐石餘　島津内膳

一宗廟市之大王權現

市之大王・二之大王・三之大王ニて、三社有之、十一月八日

市之大王祭礼、同九日二之大王祭礼、同十日三之大王祭礼ニ而候、

一諏方大明神（祭礼七月二十七日、此時黒木中祭祀）

高頭千三百弐拾七石八斗五升六夕三才（郡答院内）黒木村

用夫八十七人

同國同郡

鶴田（鹿児島ヨリ十三里）四箇村

一紫尾權現（祭神熊野大權現、三所祭九月二十九日、郡答院格護、紫尾村）

一諏訪大明神（鶴村、祭礼七月二十八日）

一高四石三斗五夕九才　神崎寺（真言）

一同壱石壱斗弐升四合五夕九才　竹林寺（済臨）

一　大願寺（薬師堂　柏原村、于今字大願寺と唱申）

右大願寺と申寺、古十二坊爲有之由候、今ハ引立ニ而、薬師堂四間四面・鎮守堂相残、山門之跡石口計相残候、南泉院御取立之御書付ニ、薩州鶴田紫尾山大願寺、元来之天台宗ニ而と有之候得共、所傳ニハ臨済宗ニ而、志布志大慈寺同前之大寺ニ而爲有之と申事候、紫尾山ハ紫尾村ニ有之、大願寺とハ別寺ニ而、此寺ハ真言宗ニ而、開山空學上人と申人之由候、今郡答院と中天台宗之寺御取立ニ而、紫尾權現格護ニ而候、

衆中高六百七拾壱石餘　人躰八十八人（上惣人数弐百八十三人）

惣高頭四千三百六拾壱石三斗八升弐夕五才

内

一高千七百八拾石九斗五升七夕九才（郡答院内）柏原村

一同八百九拾五石四斗九合弐夕七才　同　紫尾村
一同千百三拾三石三斗六升四夕八才　同　麓村
一同五百九拾壱石五斗八升二合三夕四才　同　神子村
用夫弐百八拾五人
一温泉（紫尾村権現之前ニ此温泉有、紫尾ノ湯ト云、）　一野町

薩州伊佐郡

佐司（鹿児島ヨリ十一里）　二箇村　私領　高二千四百七拾壱石餘　○島津左中殿
一宗廟阿字嘉大明神（祭礼七月一十日）
一諏方大明神（祭礼九月九日）
一松尾山　興全寺（真言）　領主　代々位牌所
一観音堂　興全寺有之、
惣高頭弐千三百八拾七石八斗三升七合八夕壱才
内
一高千四百六拾七石弐斗八升六合八夕　（那須院内）　廣瀬村
占八作司村・木渋村・池野々村ト三ケ村有之候由、
一同九百弐拾石五斗五升九夕四才　同　田原村（タハル）
但佐司村一ケ名ニ而候処ニ、此節二ケ村ニ成ル、
用夫百七拾六人

同國同郡

羽月（鹿児島ヨリ七里）　九箇村
一宗廟熊野權現（有九社、祭礼九月九日、若王寺法護、）
一稲荷大明神　一諏訪大明神
一高壱石五斗　若王寺（真言）
一同弐石　大聖寺（禅）
一蒲生永興寺末寺圓通寺（禅）（鳥巣村）　一蒲生永興寺末寺誉龍寺（禅）
此圓通寺ニ　大中様御牌有、大中免トテ田地御免ニ而相付居
由候、由緒不相知、（麦刈庭之時ニ、御牌所と申傳候、）
一観音堂（三間四面、有十日木村、）
右、此観音者、従古来二所之霊佛と申傳候、大口専念寺之阿弥
陀、同所コノシロ薬師（コノシロハ小百代殿）此観音皆共ニ作佛之由、此御佛
白木ニ而候故、直ニ村名とシテ、白木村と申候、平家時代ヨリ
霊佛ニ而、麦刈七外城崇敬佛ニ而候、
衆中高四百八拾石餘　人躰百四拾四人（上物人数四百八拾壱人）
惣高頭五千四百四拾九石弐斗四升九合三夕弐才
内
一高六百六拾石壱斗六升六夕壱才　（羽月郷内）　田代村
一同弐百九拾七石九斗八升三合壱夕三才　同　川岩瀬村
一同八百六拾六石壱斗五升九合七夕　（麓村也）　大島村
一同五百七拾三石三斗九升壱合六夕八才　同　金波田村
一同弐百七拾石九斗八升弐合四夕八才　同　堂崎村
一同千百五拾八石五斗壱升九合八夕　同　鳥巣村（トノス）
一同四百七拾弐石八斗六升二合六夕　同　白木村
一同六百四拾六石三斗八升壱合六夕六才　同　宮人村
一同五百弐石八斗九升六合六夕六才　同　下殿村
用夫

薩州伊佐郡

山野（鹿児島ヨリ十八里半）　一箇村
一宗廟熊野權現（祭九月九日）　一諏方大明神（祭七月廿六日）
一愛宕山（有子諏方近所、）　一天満天神（万徳寺格護、有子浦山、）
一高壱石　万徳寺（真言）

一同壱石　芳宥軒禅

衆中高四百九石餘　人　百四人（十歳人数弐百四十九人）

高千九百八拾四石三斗六升四夕八才

用夫百三拾九人　野町

同國同郡（大口初牛山牛原院上云、慶久公御時、十郎左衛門尉元包知行、太蔡氏、）

大口（鹿児島ヨリ十七里）十五箇村

一宗廟宇佐八幡（郡山寺格護　大口村）

一諏訪大明神（里村）

一西原八幡宮

右大口之三社ど中候、

一高弐拾六石　牛王山　蜜教院　郡山寺（候言）

一同拾石　智額山　（福昌寺末寺）成就寺（禅）

泰清院殿関山良無大居士御牌有、

一大法山　口称院　専念寺（時衆）

一高峯山　興善寺

本尊阿弥陀（考名作）三佛之内、

一小苗代山　永福寺　一青峯山　泉徳寺

一西原山　大瑞院　一瑞巌山（牛尾村）松隣寺

一出水山　寶福寺

此寺本尊十一面、行基作、

一瑞喜山　祥雲寺　一牛王山　西之坊　一永峯山　諏方坊

一小苗代薬師　一南山薬師（三間四間）

一大口城山（根切迄ハ弐拾一町四十三間、）

衆中高三千百八拾三石餘　人躰三百七拾四人（上様人数千四百八十六人）

惣高頭壱万千七百弐拾弐石弐斗五升八合八夕

一高四百拾四石弐斗七升七合九才　大口郷内　目丸村

一同千七拾六石七斗六升弐合三夕八才　右同　原田村

一同九百八拾石四斗壱升　太良院内（タライン）　市山村

大高拂、隅州菱刈郡之内と有之、御前帳、薩州内ニ相立有之、

此節隅州菱刈郡ニ改ル、

一同八百拾六石壱斗五升四合弐夕六才　同　青木村

外ニ小川内・原田村、都合三ケ村先年相重候由、郷村帳ニ見ル、

一同四百九石壱斗九升八合八夕四才　大口郷内　木氏村（キノウヂ）

一同千四百八拾石七斗九升三夕五才　同　大田村

以前八郡山村・榎田村・木崎村・大儀寺村・高柳村五ケ村ニ而

候得共、萬治御検地ニ大田一村ニ成、

一同五百七石四升八合三夕　牛尾村（クシヲ）

一同九百三拾壱石四斗五升六合弐夕五才　同　平出水村

一同三百四拾弐石五升九合六夕九才　同　渕邊村

一同六石四斗七合八才　大口郷内　渡田村（フタダ）

但本文百ノ字落ルカ、當分百石餘ニ而、三拾石門三ツ、拾石餘

浮免一ッ有之候由候、小木原村名一所ニ而竿打残シ、一村ニ

相立候由、所ニ而ハ申傳候由候事、

一同千百三拾石七斗四升壱夕壱才　同　小木原村

一同弐千八拾三石九斗壱升四合九夕壱才　同　里村（籠村也）

以前八羽田村・耳田村二ケ村ニ而候得共、萬治ニ一村ニ成、

一同千（「本ノマヽ」）　同　篠原村

一同三百七拾四石七斗八升五合四夕弐才　太郎院内　花北村

大高拂、隅州菱刈郡之内と有之、御前帳ハ薩州内ニ立有之、

此節御前帳隅州ニ成、

一同六拾壱石三斗八合七夕五才　此節重ミ　同　　小川内村

一大口惣廻リ弐拾壱里三拾五町三拾六間、大口飛地小川内惣廻四里弐拾八間、鹿児島下町札辻より肥後久木野境迄弐拾里拾四町九間、水俣境迄弐拾弐里弐拾九町弐拾一間、大口江相境候外城、吉田・吉松・馬越・羽月・出水・山野・求摩

一小川内御番所、御関所故切手なシニ罷通候儀不相成候、鎗持セ候得ハ不及其儀候、

御番所番人、上十五日大口衆中丸田与兵衛、下十五日同所衆中種子嶋清右衛門、

右十箇所伊佐郡

薩州出水郡（阿久根、初其於、御家四代、忠宗公御時、英祐兵衛尉成友居ス、）

阿久根（鹿児島ヨリ十九里半）　八箇村

一宗廟開闢正一位

一諏訪大明神　一天満天神　一伊勢　一御霊大明神

一高壱石五斗七升弐合九夕弐才　瑞香山　蓮華寺（臨済）

當寺開山南溪和尚、天文二十年辛亥七月二十九日、大檀那嶋津國久逝去、桂林國久大居士墓所有于當寺、南溪者文明四年壬辰四月廿八日化ス、國久者薩州家二代目也、

一野田感應寺末寺　楞厳寺（レウゴン）　一野田感應寺末寺　長壽寺（臨済）

一右同　大蔵庵（臨済）　一福昌寺末寺　大同寺（禅）

一　西安寺（浄土）　一折口村　永福寺（臨済）

衆中高千弐百弐拾弐石八斗四合壱夕三才　人躰弐百拾二人（諸上人数五百五拾人）

惣高頭八千三百四拾壱石六斗九升二合八夕四才

右大御支配高頭ニ而候得共、其後御支配當分高頭左之通、

高頭七千五百八拾四石五升六合三夕壱才

内

一高千六百九拾六石四斗壱升七合四夕四才（郷付ナシ）　波留村

一同五百弐拾三石三斗弐升　赤瀬川村

右両名庄屋堀切十兵衛、

一同千弐百壱石三斗弐升九合三夕八才　鶴川内村

庄屋久保甚左衛門

一同千弐百六石六斗六升四合六夕　山下村

庄屋肥田木栄右衛門

一同六百拾石九斗六升五合八夕五才　西目村

右同松下清左衛門

一同五百五拾九石三斗弐升七合壱才　大川村

右同郡山覚兵衛

一同七百七拾弐石五斗九升五合弐夕壱才　折口村

一同八百四拾八石四升四合五夕四才　多田村

此両名庄屋楠田伊兵衛

用夫

一遠見番所　一船改番所　一嶋数　四ツ前ノ海ニ有、

一倉津（五十二ケ所之内十六ケ所之湊）　一浦町　一大嶋（壱里廻リ）

一桑嶋（ビロウ嶋トモ）　一小嶋　一元ノ嶋

薩州出水郡

長嶋（鹿児島ヨリ二十三里、十二里廻リ之嶋也、）　三箇村

平尾村　指江村　山門野村

一宗廟諏訪大明神（祭神野田同前、委野田之所二記、所伝云、七月八日三棟討被中日、御祭米三斗弐升御物ヨリ被下、山門野村増田倍濃、祭礼七月廿八候故、七月八日ヨリ同十日迄、長島中此宮ニテ踊有之由也、）

一若宮大明神

一高五石　軍持院　常念寺（真言）

一同　（出家龍光寺末寺）　長光寺（神）

長光寺殿昌嶽良久大禪伯　義虎牌之由

衆中高九百五拾八石餘　人躰弐百十二人（惣上五百五十人、）

惣高頭弐千八百拾七石五斗七升四合九夕八才（二ケ村ニ而候得共、上ケ村ニ高分有之、）

内

一高弐百七拾五石壱斗弐升七合五夕　（出水郷内）　蔵本村

一同百九拾弐石八斗四升五合弐夕壱才　同　下山門野村（ヤマシン）

一同四百拾九石壱斗七升六合八夕六才　同　平尾村

一同三百六拾壱石壱斗五升八合四夕六才　（同ナシ）　指江村（サスヘ）

一高弐百五拾九石五斗弐合六夕壱才　同　山門野村

一同弐百弐拾石五斗弐升二合五夕五才　同　城川内村

一同三百七拾六石壱斗九升五夕壱才　同　鹿巣村

一同三百拾石八斗五升八合四夕弐才　同　川床村

一同弐百四石四合七夕八才　同　浦底村

一同六拾四石七斗壱升二合三夕三才　同　諸浦村

長嶋之内獅子嶋、（獅子嶋之内）幣串、（上同）御所之浦（此一ケ所、凌十六ケ所之内、）

一高百三拾石四斗五升五合、（但此高無納ニシテ、獅子嶋浦人ニ被下置候由、）

一伊唐嶋（三軍廻リ）　高壱石壱升八合七夕五才（伊唐嶋、浦水下置数、）

一長嶋野御牧馬数七百九拾弐疋、（但二牧有之、）

一三舟御番所、衆中番、　一山門野、此所ニ下代蔵有、

用夫四百五拾壱人

薩州出水郡（野田、高尾野ハ山門院也、忠久公御時、郡司秀忠ノ平姓也、）

野田（鹿児嶋ヨリ二十一里）　二箇村

一宗廟熊野權現

一若宮大明神

相傳、嶋津薩摩守義虎舎弟常陸守と申人有、義虎ヨリ野田一所被遣由候、然処ニ此常陸守謀を以て、天草之内長嶋之城主越前守（嶋衆五人之内之由候、名字迫山可記候、）を攻落シ、長嶋被成領地之処ニ、臣下之内義虎江讒言申候者、常陸守殿天草江一味ニ而御家ヲ被亡存念之由申候ニ付、義虎是ヲ信シ、於出水常陸守ヲ被誅、其霊為宗、因之若宮と祭ルト、實否不知、或吉田若狭守霊ヲ若宮ニ祭ルと、不知執カ是ヲ、

一高弐石　亀翁山　西姓院（薩州天台之一寺）　山内寺（天台）

忠久公御下向以前ヨリ為有之寺之由候、

一同弐石　鎮國山（京都東福寺末寺、五山派臨済宗、三州門主）　感應寺（臨済）

相傳、文治之比、本田次郎親經于薩州下向、而建立ニ々、

一忠久公・忠時公・久経公・忠宗公・貞久公、此五代御牌モ有之、

右御五代御石塔并本田次郎石塔抔申傳数多有之、

一本牟礼城、　忠久公薩州御下向之時此城ニ被遊御坐、夫ゟ右御五代、此城ニ爲被遊御坐由候、古跡ニ而候、只今者出水脇元支配之地ニ而、野田之内ニ而八無之候、

衆中高四百六拾石餘　人躰百七十八人（十歳人数二百七十七人）

高頭五千弐百八拾七石壱斗二升七合七夕五才

内

一高弐千四百五拾三石壱斗五升八夕弐才　（山門院内）　上名村

一同弐千八百二拾三石九斗八升六合九夕三才（右同）　下名村

用夫百八人

野町

薩州出水郡

高尾野（鹿児島ヨリ弐拾三里）　六箇村

一宗廟紫尾権現

一高壱石六斗　福性院

一同壱石六斗　洞亀寺

衆中高千六拾八石餘　衆中人　二百四人（士惣人数八百拾七人）

惣高頭五千五百七拾八石四斗三升五合四夕壱才

内

一高千六拾八石九斗弐升四合弐夕七才　山門院内　下高尾野村

一同五百弐拾六石六升六合七夕八才　同　唐笠木村

一同千百九拾三石七斗三升七夕三才　同　大窪村

一同千四百七拾弐石壱斗弐升五合弐才　同　柴引村

一同五百九拾三石三斗七升壱合四夕四才　同　上鶴村

一同七百弐拾四石弐斗壱升六合六夕七才　同　下鶴村

用夫

薩州出水郡

出水（鹿児島ヨリ弐拾五里）　拾箇村

一加志久利大明神（薩摩国二郡小之内）

一高六拾石

一宮崎八幡

一

一同弐拾六石　寶池山　無量壽院　成願寺（眞言）

一同拾石　達摩山　福昌寺末寺　龍光寺（禪）

龍光寺殿松夫道存大居士　長禄三己卯二月廿九日卒去　久豊公

御二男持久

一　亀翁山　一心院　専修寺（時衆）

衆中高七千九拾弐石餘　人躰九百六拾九人（惣千弐千七百四十四人）

惣高壱万九千九百五拾三石三斗弐升壱合六夕九才

内

一高三千七拾五石七斗六升五合壱才　出水郷内　武本村

一同弐千五百七拾六石五斗三升壱合六夕五才　同　上知識村

一同三千三百三拾石五斗八升九合六夕八才　同　下知識村

一同弐千弐百四拾六石九升七合七才　同　下鯖渕村

一同千百六拾五石壱斗六升七合八才　同　六月田村

一同千六拾三石六斗弐升七合弐夕九才　同　上大川内村

大川内村・鯖渕村、先年より両村ツ、ニ成、此節御前帳ニ相立候、

一同九百三拾壱石弐斗五升五合三夕壱才　同　荘村

一同弐千六百拾六石九斗壱升壱合五夕七才　同　西目村

一同弐千弐百四拾三石九斗壱升九合七夕　同　上鯖渕村

一同七百三石四斗五升六合七夕九才　同　下大川内村

用夫千四百五拾八人

一多崎遠見番所

一脇元御番所

一脇元遠見番所

一瀬崎野御牧　馬数四百弐拾五疋

一米之津（五十二ケ所船改番所）

一黒之瀬戸（早人之薩摩之瀬戸と申名所之由、脇元より長崎江和渡候瀬戸二而候、）

一童嶋浦　浦町

一出水御假屋

一御関所御番所（肥後通道、柳切手ナシニ罷通候儀不叶成候、勝同断、）

一山北出水・高尾野・野田・長島・阿久根、山北五ケ所と申候、
右五ケ所出水郡、

合薩摩國十二郡、惣廻百拾八里弐拾弐町
古高弐拾七万七百六拾九石三斗四升五合五夕九才
合高頭三拾万八千七百六拾弐石六斗九升七合三夕五才
内増三万七千九百九拾三石三斗五升壱合七夕六才
右之内、高千三百五拾五石壱斗九升五合四夕弐才
大口之内花北村・市山村、隅州之内ニ而候得共、大口之高頭ニ込ル、
外ニ高八百五拾五石四斗八升壱合八夕
曽木之内長野村、薩州之内ニ而候得共、曽木高ニ込ル、
五拾三ケ所
内壱ケ所鹿児嶋　五拾二ケ所外城（此内十二所私領）
一出水肥後境より佐多御崎迄四十一里弐拾九丁弐拾間

従是隅州外城諸島高並村里数名所旧跡迄附

隅州大隅郡

櫻嶋（又向之島トモ云、鹿児島ヨリ籠横山迄一里之海上、）　拾箇村
一宗廟五社大明神　一嶽（横山権現・有村権現有、両社嶽迄一里拾六町四十六間、絶頭迄一里弐拾四町拾七間）
一　潮音寺（真言）
一有于武村　西壽寺（禅）
一横山御假屋（此所ヨリ里数、付桜嶋惣廻リ九里三十壱丁四十五間、同道ヲ廻リ七里拾二丁三十四間、横山御假屋ヨリ小池村迄十二丁、小池ヨリ赤生原迄六丁、赤生原ヨリ武迄二十五丁、武ヨリ藤野迄十丁、藤野ヨリ西道拾丁、西道ヨリ松浦村九丁、松浦ヨリ二俣村七丁、二俣ヨリ白浜村迄続流ニ阿弥陀山有、白浜ヨリ高免村一里十七丁、高免ヨリ黒神村一里八丁、此間ニ字都と云入江有、黒神ヨリ瀬戸村迄一里四丁、瀬戸ヨリ脇村拾丁、脇ヨリ有村ハ村続川原有、有村ヨリ古里一里、古里ヨリ湯之村二十五町、湯ノ村ヨリ二十五町野尻村、是ヨリ二丁二町赤水村、此村ニ御假屋二十町程也、）
一烏嶋（カラス　横山御假屋ヨリ七丁）　一沖之嶋（野尻燃崎ヨリ八丁）　一瀬戸（向之間海上三丁十六間）
衆中高六百七拾六石六斗六合
内三百八拾八石九斗八升壱合弐夕弐才　桜島ニ有、
弐百八拾七石六斗弐升四合七夕八才　薩州吉田ニ有、
人躰四百九拾四人（士惣人数千弐百四人）
惣高頭弐千六百六拾八石壱斗五升五合壱夕九才
内
一高弐百弐拾五石三斗九升三合七夕七才　向島郷内　横山村
内高九斗三升六合四夕四才　沖之島
一同弐百八石弐斗七升壱合八夕八才　同　小池村
一同弐百弐拾五石八斗五升八合三夕四才　同　赤生原村
一同三百三拾五石弐斗弐升八夕弐才　同　武村
一同弐百九拾三石五升二合壱夕四才　同　藤野村
一同七拾弐石三斗壱升四合五夕八才　同　西道村
一同六拾壱石弐斗五升五合弐夕壱才　同　松浦村
一同三拾四石九斗六升五合六夕三才　同　二俣村
一同百拾三石五斗五升四合壱夕六才　同　白濱村
一同弐拾四石弐斗五升六合弐夕五才　同　高免村
一同百三拾八石弐斗八合三夕三才　同　黒神村
一同百五石八斗四升五合八夕三才　同　瀬戸村
一同百二拾三石五斗九升五合八夕三才　同　脇村
一同百拾八石八斗八升壱合弐夕五才　同　有村
有村ニ温泉海中ニ出、
一同八拾弐石四斗四升四合七夕九才　同　湯之村

一同百八拾壱石九斗七升九合壱夕七才　同　野尻村
一同弐百七拾壱石四斗九升三合七夕三才　同　赤水村
一同四拾石六斗弐升六合四才（此節湯之村ヶ分ル）　同　古里村
用夫三百三十九人

隅州大隅郡

牛根（鹿児嶋ヨリ五里海上）　三ケ村

一宗廟居世神大明神
一高壱石　有手二漁村　花蔵院（真言）
一同壱石　有手二漁村　壹翁院（禅宗）
但此寺ニ鎌田源左衛門菩提所、代々之位牌有、
衆中高三百拾九石餘　人躰百五拾九人（士惣人数四百十七人）
惣高千五百七拾四石壱斗九升四合九夕壱才

内

一高　麓村
一同　二川村
一同　壇村
用夫三百五拾人

隅州大隅郡

垂水（鹿児島ヨリ海上八里）　九ケ村　私領　高壱万百石餘　嶋津備前殿

一宗廟上之宮貫大明神　一下宮
一高五拾石　成就院（真言）
一同七拾石　寶厳山（清水堺厳寺末寺心翁寺（禅）
古寺号改、右馬頭忠将以來代々位牌所、
一江之嶋弁才天之宮有、
惣高六千四百弐石八斗九升弐合弐夕

内

一高七百七拾石六斗三升三合四夕四才　垂水郷内　海潟村
一同七百五拾四石八斗壱升六合六夕六才　同　中俣村
一同八百七拾石四斗壱升八合弐夕弐才　同　市来村
一同千三百七拾石八升七夕七才　同　田神村
一同三百九拾四石五斗三升六合七夕七才　同　新御堂村
一同六百九拾四石九斗七升六合壱夕五才　同　高城村
一同弐百拾六石弐升七合五夕　同　濱平村
一同弐百九拾五石三斗壱升八合七夕六才　鹿屋郷内　柊原村
右一名、享保御支配垂水ニ付、
用夫

同國同郡

大根占（鹿児嶋ヨリ海陸十二里）　二箇村

一宗廟川上大明神（祭礼十一月卯日、大鳥居、仁王有、城本村有、）
一高壱石　報恩寺
一同壱石　天松院
一　永林庵
一　栂皇庵
一　瑞積庵
衆中高百四拾三石餘　人躰百八十弐人（士惣人数四百四十九人）
高頭五千三百四拾五石八斗壱升弐合六夕弐才

内

一高八百三拾弐石九斗九升壱合三夕八才　（根占郷内古八假屋村）　城本村
一同弐千弐百五拾三石四斗七合弐夕六才　（同古八大根占村）　馬場村
一同千弐百五拾九石四斗壱升三合九夕八才　神之川村

用夫弐百二十九人

隅州大隅郡

新城（鹿児嶋ヨリ海上七里）　一箇村　高千九百拾八石餘　私領嶋津安房殿

一宗廟神貫大明神（郡山郷氏衛格護）

一諏訪大明神（同人格護）

一　上山寺（禅）　一妙蓮寺（法花）

高千弐百八拾六石四斗五升壱夕壱才（新城、以前ハ渡ノ屋一名ニ而候処ニ、其後一所ニ成、外城立候と申傳事ニ候、）

用夫三百六拾八人

同國同郡（栫瀬ハ沙弥行西清重、忠久公御下向ノ比今居住、栫瀬家ノ祖、）

小根占（鹿児嶋ヨリ十三里海上）　五箇村

一宗廟諏方大明神（祭礼八月十八日）

一若宮八幡

一高壱石　東善寺（眞言）

一同六石　園林寺（禅）

一同三拾石　安樂寺（天台）　一宝室寺　福田寺（浄土宗）

成圓寺　一柏庭庵　一光岩寺（大瀬ノ一心休庵）　瑞泉寺

積緑寺（セキスイ）　了叟寺　東瀬寺（凡小根占十二ケ寺）

衆中高四百弐拾弐石　人躰弐百七拾七人（士惣人数六百九十三人）

高頭七千百弐拾三石壱斗六合五夕三才

内

一高三千弐百六拾壱石六斗五升五合七夕壱才（根占郷内）　川北村

一同千弐百七拾二石三斗壱升三合四夕四才　同　川南村

一同七百六拾壱石五斗六升三合弐夕　同　横別府村

一同五百九拾四石壱斗弐升九合五夕七才　同　邊田村

一同千弐百三拾弐石四斗四升四合七夕九才　同　山本村

用夫八百五拾五人

隅州大隅郡（田代八、忠久公御時、田代次郎兼盛より代々領地之由候、）

田代（鹿児島ヨリ二六里）　一箇村

一宗廟北尾六所權現（祭礼九月九日）　山上階百計

一若宮八幡（川原村）

一高壱石　寶壽院（眞言）

一同四石　寶光寺（禅）

一鵜戸權現（大原村）岩穴大瀧之邊滝所也、

一甑岩（川原不思議之岩也、）

一花瀬（岩なめり五六町之間、春ハ殊鹿踏多、絶景之所、其名尚し、花瀬三所權現之宮有、小根占より も落合川流合有、春沢村といへる有、小根占猪狩合といへる所之近所ニあり、）

衆中高　衆中人躰百四拾人（牧十人数三百五拾七人）

高頭弐千四百七拾五石、二斗弐合八夕九才

内

一高千四百五拾弐石五合四才（古大俗田村二ケ村ニ成、）　根占郷内　麓村

一同千弐拾三石弐斗九升七合八夕三才　同　川原村

同國同郡（佐多ハ佐多太郎存盛、忠久公之御時ヨリ居城之由、）

佐多（鹿児嶋ヨリ海上十八里）　四箇村

一宗廟御崎權現（稽樂寺格護、此寺郡村ニ有、）

一御崎權現山中一里之間、皆蘇鉄山也、

一十三所權現（邊塚村）

一高壱石　来迎寺

一同壱石　曹源寺

一立目野御牧馬数

一大泊（御分国十六ヶ所湊之内）

一ひろふ嶋（有子沖）

衆中高八拾石　人躰百六拾五人（士惣人数二百八十四人）

高頭三千八百四拾壱石四斗弐升四合五夕九才

内

一高千百六拾七石五斗四升弐合五夕　根占郷内　伊佐敷村

一同八百九拾三石七升七合七夕壱才　同　馬籠村

一同九百拾五石四斗八升壱合三夕五才　同　郡村

一同八百六拾五石三斗弐升三合壱才　同　邊塚村

用夫

合八ケ所大隅郡

隅州肝付郡（肝付郡ハ古衆肝付氏代々領地之由候）

百引（鹿児嶋ヨリ）　二箇村

一宗廟利大明神

一高壱石　宝圓山　千手院　丸山寺（眞言）

一同壱石　般若寺（禅）

一同弐石五斗九升五夕　善福寺（禅）

衆中高九百七拾八石餘　人躰七拾弐人（惣士四百三拾人）

高頭三千二百八拾六石五斗壱升弐夕弐才

内

一高弐千五百四拾石七升壱合四夕四才　大給良郷内　麓村

百引郷内、古西原村、南方村、寛永御支配迄ハ大村、万治御支配之時ハ百引村、其後麓村と唱候由、

一同八百四拾六石四斗三升八合七夕八才　百引郷内　平房村

用夫

隅州肝属郡

（鹿児嶋ヨリ）　二箇村（相傳、以前串良ヨリ此外城分リ候由、）

一宗廟中津宮大明神

一高壱石　長福寺（眞言）

一同壱石　法音寺（禅）

衆中高五百弐拾六石餘　人躰四十九人（惣士百拾七人）

一高隈嶽

高頭三千四拾七石二斗弐合三夕五才

内

一高千三百七石五斗九升六合六夕九才　串良郷内　上高隈村

一同千七百三拾九石七斗五合六夕六才　常二ハ上名村　下高隈村（右同下名村唱候由）

用夫

同國同郡（奥野屋ハ津野四郎兵衛尉、御家二代之比令地頭也云々、）

鹿野屋（鹿児嶋ヨリ）　四箇村

一宗廟狩長大明神（大久保勘負修造）　祭礼十二月中卯、此日有市立、卯ノ市ト云、正月廿二日四植祭リ、六月廿九日名越祭、此日ハ高須溪下リ、神宮寺有、相傳、鹿野屋ハ伊集院右衛門太夫一所之地、其後嶋津右馬頭一所地ニ成、鹿野屋之内新城分、嶋津大和一所ニ成、大和生害之後、嶋津又助領地ト成、鹿野屋ハ其後外城ニ成ト云々、

一　醫王院（眞言）　一安養寺（禅）

一高牧野馬数二百八拾二疋

衆中高千三百八拾八石餘　衆中人躰百弐拾六人（惣士三百弐拾壱人）

高頭八千弐百八拾四石壱斗四升壱合七夕壱才

内

一高弐千七拾五石八斗七升六合九夕弐才　鹿野屋郷内　上名村

一同四石七升五合　同　北高洲村

一同弐千六百八拾壱石弐斗七升壱合弐夕五才　同（古ハ中之村之由ヒ）　下名村

一同三千弐百拾壱石三斗六升七合五夕　同　中名村

一同三百拾壱石五斗五升壱合四才　　同　　南高洲村

古ハ高洲村、此節南高洲村・北高洲村弐ケ村ニ成、

用夫

一長谷観音堂（三間四面、上之村ニ有之候、下院支配、春ハ賑盛多、）

隅州肝属郡（大姶良ハ古来祢寝小太郎義明といふ人居城之由、）

大姶良（鹿児嶋ヨリ十一里）　七箇村

一宗廟岩戸大明神（果木格護　祭礼九月十九日）

一高壱石　照山寺（テルヤマ）（真言）

一同壱石　龍翔寺（リウシャウ）（臨済）

嘉慶元年丁卯五月四日　氏久公也、

一此寺齢岳玄久大禅定門御石塔御牌有、敬外欽公大姉御夫人、溪月宗郷大姉氏久公御女也、年間不相知候、

衆中高四百二拾九石餘　人躰百三十人（上様人数弐百七十四人）

惣高頭七千百六拾六石三斗八升九合六夕弐才

内

一高千弐百二拾弐石九斗五升三合四夕　（大姶良郷内）　南村

一同千二百拾五石三斗四升弐合九才　（同）　西俣村

一同七百六拾八石四斗八升五合九夕五才　（同）　横山村

一同八百三拾弐石八斗五升壱合八夕六才　（同）　大姶良村

一同七百弐拾弐石九升六合四才　（同）　獅子目村（志々目村共）

一同六百六拾九石八斗五升三合五夕五才　（同ナシ）　濱田村

一同千六百弐拾四石八斗七合九才　（同）　野里村

外ニ古江濱・野里村之内八百石、花岡ニ付、

用夫弐百人

一大姶良城

隅州肝付郡

花岡（鹿児嶋ヨリ八里半海上）　二箇村　私領　（高六千六百九拾七石）　嶋津千次郎

一宗廟正一位當座大明神（祭礼九月九日）

一高四拾石　心如院（天台）（或真如院トモ）

一内四拾弐石　（福昌寺末寺）禅定寺（禅）

此寺　一白水村　山嶋寺（真言）

高頭千四百拾五石九斗七升三合五夕五才

内

一高六百拾五石九斗七升三合五夕五才　（大姶良郷内）　木谷村

一同八百石　（同）　白水村

一小嶋

同國同郡

姶良（鹿児嶋ヨリ拾一里半）　三箇村

一宗廟正若宮八幡

一高三拾六石　摩尼山　千手院　幸田寺（真言）

一同拾二石　寶陀山（福昌寺末寺）含粒寺（禅）

久山妙栄大姉元久公御夫人　月庭桂秋大姉日新公御息女肝付兼続室　天正九年辛巳九月三日

一同拾石　玉泉寺（禅）

此寺開山道元和尚木像、大池穴大唐竹山寺内ニ有之、

衆中高六百四拾六石餘　人体七拾八人（上様人数二百七人）

高頭六千八百五拾四石壱斗壱升六合四夕弐才

内

一高　　上之名村

一同　　下名村

一同　　麓村

用夫八百二十九人

一鵜戸権現

同國同郡　串良ハ北原又太郎延兼、忠久公御下向之時分令知行、伴家也云々、

串良　鹿児嶋ヨリ拾三里　拾箇村

一宗廟一之宮大明神

一高弐石八斗壱升弐合五夕　井手神　一諏方大明神

但御修補所ニ而ハ無之、

一万八千之宮

一高壱石　坊津一乗院末寺成願寺真言　志福寺時衆

一高壱石　福山大安寺末寺安住寺禅

一成願寺・安住寺・志福寺、麓三ケ寺ト云、此寺遊行一宿寺、故御修甫有、

一熊野権現　有上柏原近所、此所権現馬場ト云、　一千念寺浄土

一柏原　御分國十六ケ所溪之内、浦町有、肝付与・高山与下代出物蔵等有、

衆中高八百四石　人躰百五十壱人　惣士二百九拾弐人

高頭壱万九千六百九拾弐石九斗五升三夕壱才

内

一高弐千弐百七拾三石弐斗壱升八夕七才　串良郷内古ハ柏原村　川東村

一同千六百七拾六石壱斗弐升七合九夕壱才　同古ハ中別府村　川西町村

一同弐千七百二拾三石八斗八升七合弐夕八才　同　有里村

一同千四百三拾三石四斗六升弐合六夕　同　岩弘村

一同千九百七拾三石弐斗九合弐夕五才　麓村也　同　岡崎村

一同千五百五石弐斗八升四合五夕五才　同　池之原村

一同千三百四拾弐石五斗四升三夕九才　同古ハ上原村内　細山田村

一同弐千四百拾弐石五斗五升三合六夕六才　同古ハ小原村ノ内　下小原村

一同千八百弐拾四石九斗六升六合五夕　同古ハ上原村之内　上小原村

一同千弐百四拾四石九斗壱升五夕弐才　〃　同（抹消ナリ）　府中村

一同弐千五百弐拾石七斗壱升六合六夕七才　同　新川西村

用夫

隅州肝属郡

高山　從鹿児十三里　七箇村

一宗廟四十九所大明神

一高十石　坊津一乗院末寺摩尼山　五大院　高崇寺真言

開山空快上人　永観二年乙酉肝付河内守伴兼行建立

一高拾弐石　神護山　志布志大慈寺末寺昌林寺臨済

開山剛中大和尚、嘉慶二戊辰五月廿七日寂ス、

一高弐拾石　曹溪山　能州総持寺末寺我山五哲之内大徹派瑞光寺禅

此寺忠昌公・義久公御両牌有之、

開山春厳祖東和尚、應永九年壬午二月廿八日開基、同廿一年甲午十月廿八日祖東和尚示寂ス、

此寺ニ大叟儀公大禅定門之牌有、肝付家先祖之由、

一圓通山長能寺禅　一波見村福壽院真言

一柏尾山道隆寺臨済　一地福寺真言

此寺ニ古作観音堂有、　一圓福寺真言

一妙高山帝釋寺臨済　一東春山臨川寺

一瑞雲軒臨済　一霊護山盛光寺臨済　一上原庵臨済　一日新院禅

一両谷山聖茅寺禅　一長野山光福寺禅　一光厳庵禅

一南泉寺禅　一良清軒禅　一龍心庵禅

一米山寺 禪　一瑞祥寺 禪　一東禪寺 禪　一長照寺 禪

一波見浦町有、十六ケ所之内ニ八見得不申候、高山野町 有府仁町、

衆中高弐千三百七拾弐石餘

人躰弐百弐拾人　士惣人數八百卅五人

高頭壱万弐千三百八拾壱石九斗弐合壱夕壱才

内

一高八百九拾九石壱斗二升弐合八才　高山郷内　波見村

一同弐千八百拾弐石七斗九升壱合六夕七才　同　前田村

一同千三百九拾四石八斗七升四合九夕五才　同　宮下村（ミヤケ）

一同六百弐拾六石八斗弐升六合八夕七才　同　富山村（トミヤマ）

一同千四百拾八石五斗五升八合九夕九才　同　野崎村

一同三千八百九拾石六斗七升九合二夕八才　同 麓村也　新留村

一同千三百三拾九石三升八合壱夕七才　同　後田村

用夫千弐百九拾人

隅州肝属郡

内之浦 從鹿児嶋一九里　三箇村

一宗廟鷹屋大明神

一高壱石　感應寺 真言　一同壱石　長泉寺 臨濟

衆中高三百六拾八石餘　人躰六拾人 士惣人數百廿八人

高頭四千三百三拾六石六斗四升八合九才

内

一高千二百五拾七石四斗四升九合三夕　高山郷内　南方村

一同千六百七拾六石壱斗壱升六合弐夕　同 古八小串村　北方村

一高千二百三石八升弐合五夕九才　同　岸良村

用夫五百七十一人

合八ケ所肝付郡、亦肝属郡トモ、

同國曽於郡 福山八古麓ト云、薩肥伊豆守元久公御時舎居城、廻氏頼政苗ト云々、

福山 從鹿児島九里半　弐箇村

一宗廟宮浦大明神 延喜式大隅國五座之内 正一位

一高拾五石壱斗七合弐夕九才 天直派西上野長源寺末寺 永泰山大安寺 禪

大安寺殿心翁大安大居士 永禄四年辛酉七月十二日 日新公御二男右馬頭中將

一高壱石六斗　不動寺 真言

衆中高九百八拾四石餘　「イ人躰百九十八人、惣士七百十四人」 人躰四百五人　士惣人數千三百人

一福山野御牧 御領國壱番大牧也、馬数弐千弐百六拾三疋

一浦町　一下代蔵　一出物蔵

高頭弐千四百拾壱石弐斗弐升四合五夕

内

一高

一同

用夫二百九拾四人

隅州曽於郡

市成 從鹿児島　二箇村　私領　高千六百四拾九石餘

○嶋津仁十郎

一宗廟大王大明神

一高百五拾石　寶城山　兩足寺 禪

高頭弐千弐百五拾九石五斗六升弐合六夕

内

一高九百四拾七石弐斗五升弐合弐夕九才　末吉郷内　市成村

一同千二百拾弐石二斗壱升三合壱才　同　諏訪原村

用夫百拾壱人

同國同郡

恒吉（從鹿児島　四箇村

一宗廟投谷八幡

一高壱石　吉祥院（真言）　一同壱石　徳泉寺

衆中高七百八拾八石餘　人躰百拾八人（總七百八十七人）

高頭二千四百弐拾五石弐斗五升八合九夕

内

一高九百三拾三石六斗七升八合五夕六才（恒吉郷内）　長江村

一同七百拾六石四斗二升四合弐夕七才　須田野木村

一同七百五拾壱石三斗八升四合壱夕七才　坂元村

一同千弐拾三石七斗六升壱合九才　大谷村

用夫

隅州曾於郡

末吉（從鹿児島十五里　七箇村

一宗廟諏方大明神

一高弐拾六石　無量壽山（深カ）　染川院　光明寺（真言）

一同拾石　興昌寺（禪）

一彌勒山寶泉院（遊行一遍寺　故関條由所）　光福寺（時衆）

一住吉大明神（筑紫日向小戸橘檍原也、因テ住吉社建南郷村、アワヲキ）

一檍大明神（尊中之瀬ニ濯玉ヲ時出生シ玉フ、底筒男・表筒男命魂也、同所、）

一小戸池（檍大明神有手神前）、一神殿額　卜部兼連之筆跡

一櫻谷　一上津瀬　一中津瀬　一下津瀬　一橘山

其外神代旧跡有、南郷村ハ日州之内也、國境石有、當所無紛住吉本社之由、卜部兼連自書之有縁起一巻、西ノ海檍原之潮路ヨリ阿良波禮伊天シ住吉ノ神（卜部兼直ノ殿也）

一末吉野御牧馬数五百疋

衆中高三千二百八拾八石餘（人四百二人　總七千三百六十弐人）

高頭壱万六千四百拾壱石壱斗弐升八合五夕五才

内

一高千六百六拾六石五斗三合二夕六才（古ハ小島村・末吉郷内・道持村）　岩崎村

一同千七百八拾三石壱斗五升七合壱夕七才　同　中之内村

中之内村、古ハ梶ケ野村・土成村・田尻村、

一同千九百六拾八石壱斗壱升四合七夕弐才　同　五十丁村

一同弐千七百七石壱斗七升七合三夕二才　財部郷内　諏方方村

諏訪方村・古ハ西ノ村・林迫村・蔵町村、

一同三千八百六拾九石弐斗壱升八夕七才　末吉郷内　深川村

深川村・古ハ柳板村・村山村・漆崎村・鶴森上畑村、

一同千八百三拾石弐斗六升六合四夕九才（同離村也）　二之方村

二之方村、古ハ稲井原村・宮路村、

一同弐千五百八拾六石七斗四升九合六才（荘内南郷内）　南郷村（ミナミノゴウ）

南之郷村、古ハ大裏村・中裏村・脊村、此一ケ村ハ日州諸縣郡之内、

用夫

同國同郡

財部（從鹿児島十四里　二箇村

一宗廟日光神　祭神天照大神、此宮ヘ慶長五年三月十六日、龍伯様被遊御社參、御高弐拾石餘御寄附被成候由、山田利安・伊集院抱節両判御日録、社人蛭牟田所持、

一高拾四石　小牧山　法嚴寺　佛性寺（真言）（佛性院トモ、）

一同壱石弐斗　興禪寺

衆中高千七百七拾四石餘　人躰四百五人　士總數千三百人

高頭七千八百六拾九石五斗八升五合弐夕四撮

内

一高弐千七百八石四斗八升八合九夕五才　上財部郷・恒吉郷相込候由　北俣村

一同弐千百四拾弐石九斗三升七合三夕四才　日州内　下財部村

一同三千拾八石壱斗五升八合九夕五才　上財部郷内　南俣村

用夫四百五十七人

隅州曽於郡　敷根八古來土岐左衛門尉國房といふ人居城之由、

敷根　從鹿兒島八里　三ケ村

一宗廟剣大明神　祭礼九月九日

一高壱石　蓮持院　真言　一同壱石　瑞慶寺　禪

一角蔵薬師堂　福山原登り立三有、所像南

衆中高三百八拾五石餘　人躰百拾四人　士惣人数四百十四人

浦町

高頭三千百九拾石八斗六升七合七夕五才

内

一高千九拾四石五斗七升弐夕五才　敷根郷内　湊村

一同千五百弐拾九石七斗四升九合四夕九才　同　以前者敷根村　麓村

一同五百六拾六石五斗四升八合五才　同　上之段村

用夫

同國同郡

國分　從鹿兒島八里　拾九箇村

一正八幡宮　輪旨院宣將軍家并諸家文書数多有、

高七百弐拾九石七斗九升七合九夕弐才

内六拾石油田　三拾六石七斗五升弐合九夕弐才修補田

六百三拾三石壱斗四升五合三才社家社僧給地

一大穴持　是以爲正　一稲荷大明神　屋敷御城内

一稲荷大明神　濱之市　一韓國宇豆峯神社　在上井之郷、延喜式大隅五座内、但此宮二月午日・九月午日・十一月午日三度之祭有之候、

一観音堂　國分寺　一観音堂　宮内獅子尾

一高三拾三石　文明山　福昌寺末寺　龍昌寺　禪

義久公御牌有、并二大中公・義久公御嫡女義虎御夫人之牌、

龍昌寺殿貫明存忠庵主

一同五拾三石　五峯山　龍護院　大乘院末寺　金剛寺

義久公・同御女・御上様實溪妙蓮大姉義久御廉中牌

一鷲峯山勧持院　有三蔵、左ノ通、　本能寺本興寺末寺　遠壽寺　法華

門主列　此寺ニ義久公・持明様・同御母堂

一高四拾壱石弐斗七升弐合五夕弐才　五山派京都南禪寺末寺霊鷲山　正興寺　臨済

但正八幡神領之内　宮内

一高四拾三石八斗五合七夕弐才　宝来山浄蓮提院　大乘院末寺　正高寺　真言

但正八幡宮神領之内

一同拾石壱斗四升三合弐夕弐才　正八幡神領之内社僧　正護寺

右同神領之内

一同拾四石壱斗五升弐合八才　梅雪山無量寿院宮内也　正國寺　禪

一伊勢　一龍昌寺隠庵　岱叟寺　禪　一鈴照山壽岩軒

江雲寺　浄慶寺　長久寺　西雲寺

名所

一気色杜　府中村　新古今集　摂政大政大臣

秋近きけしきのもりに鳴せミの涙の露や下葉染らん

一奈毛木杜　同村二有、　同集　橘俊宗女

いかにせん歎のもり八茂れとも木の間の月の隠れなき世を

衆中高六千五百弐拾六石餘　人躰三百五十一人（惣士人数千三百五人）

一野町　一庠仁町

高頭弐万千九百六拾六石壱升四合五夕壱才

内

一高千三百弐拾九石三斗四升七合七夕　東國分郷内　向花村（ムケ）

一同千弐百四拾四石九斗壱升五夕弐才　同　府中村

一同千七百四拾五石四升四合弐夕七才　　新町村

一同九百九拾石八斗弐升三合弐夕三才　西國分郷内桑原郡之内　野口村

一同八百六拾壱石四升八合五夕五才　東國分郷内有同郡之内　松木村

一同七百三拾九石八斗七升五合　同郷内同郡之内　見次村

一同九百弐拾石八斗八升壱合六夕四才　西國分郷同郡　内村

一同千九拾八石四斗六升壱合八夕五才　右同郷同郡　小田村

一同九百三拾五石壱斗七升三合七夕五才　同　小濱村（コハマ）

一同六百弐拾石九斗八升七合四夕九才　同郷内桑原郡之内古八品中村　真幸村

一同七百八石七升三夕七才　東國分郷内　小村

一同千九百五拾四石九斗三升九合七夕弐才　同　下井村

一同九百石九斗七升三合壱夕三才　同　川内村

一同弐千九百八拾五石四斗六升九合弐夕弐才　同　上小川村

一同千九百七拾石八斗壱升六合三夕七才　東國分郷内　福島村

一同千五拾八石壱斗八升壱合八夕七才　同桑原郡内　内山田村

一同三百弐拾九石三斗八升壱合弐夕四才　右同　住吉村

一同五百四拾三石八斗八升三合七才　同　野久見田村

一同千弐拾七石七斗四升五合五夕弐才　同　上井村

用夫千六百九十一人

隅州曽於郡（清水八本田因幡守國親、御家九代忠國公御時ヨリ令居城、姫木八姫太十郎、守護近藤公御代此城を守ル、大中臣氏也云々、）

清水（従鹿児島八里）　五箇村

一山王社（壹明寺格護）　一守公神

一北辰妙見

一高六石　佛頂山（能州総持寺末寺）楞厳寺（禅）

楞厳寺殿貫明存忠庵主　義久公

一同拾二石　竹林山衆聚院（壹明寺天台）

山王座主、壹明竹此寺ヨリ出、文書数多、

一岡寺　此寺ニ龍伯公御詠歌御自筆有リ、

片岡をかたひく寺に住人はうき世の中を白菊の花

一楞厳寺隔庵　西雲寺　永江寺　圓通山國分寺　洞雲軒

衆中高八百八拾石餘　人躰卅九人（惣士九百六十五人）

高頭五千八百九石八斗二升壹合七夕四才

内

一高千三百七拾壹石七斗八升六合八夕五才　清水郷内　郡田村

一同八百弐拾七石九斗七升六合弐夕四才　同　弟子丸村

一同六百拾七石九斗七升八合五夕四才　同　山之路村

一同弐千弐百九拾弐石三斗弐升七合六夕　同（同カ）　姫城村

一同六百九拾九石七斗六升弐合五夕　　川原村

用夫

同國同郡（曽於郡八郡所兵衛尉拾清、忠久公薩州御下向御、令居城也云々、）

曽於郡（従鹿児島八里）　五箇村

一霧島山神社（日向國座井少之内、諸縣郡、座小有、延喜式神名帳、）

座主花林寺格護　野上権現　田口村

神領高五百四拾四石九斗七合弐夕九才

一霧島山錫杖院　華林寺（真言）　拾壱坊（白坂坊　山下坊　林泉坊　普門坊　多門坊　華蔵院　鬼嶽坂　集福坊　大日坊　谷口坊）

集林坊

一宗廟止上權現　一高三拾石　吉水山称名院念佛寺時衆

念佛寺阿弥陀堂五間四面

一高拾石　吉祥院真言　一同壱石　慈恩寺

衆中高八百五拾八石餘　士弐百十八人　惣士人数八百七十三人

一春山御牧馬数四百五拾六疋

高頭四千七百拾四石七斗四升七合四夕九才

内

一高千弐百三拾四石四斗四升七合六夕　囃聆郡郷内　松永村

一同五百弐拾九石三斗弐合六夕壱才　同　大窪村

一　弐百弐拾四石弐斗七升六合四夕壱才　清水郷内　川北村

一同九百拾七石九斗七升壱合四才　同　田口村

一同千八百八石七斗五升三夕七才　囃聆郡郷内　重久村

用夫百五拾人

合九ケ所囃聆郡

隅州桑原郡

日當山従鹿児島八里半　四箇村

一宗廟日吉山王

一高拾石　二光院

一同拾三石　西光寺真言　一東林寺

此寺門前有、温泉俗云東林寺之湯ト云、

衆中高四百弐拾六石餘　人躰八十二人　惣士三百五拾人

高頭弐千八百七拾四石七斗壱升壱合四夕六才

内

一高百七拾九石弐斗弐升壱合四夕五才　日當山郷内　朝日村

一同七百六石四斗四升弐合七夕八才　同　西光寺村

一同千百六石三斗壱升弐合八夕　曾於郡郷内　東郷村

一同八百八拾三石七斗三升四合四夕弐才　同郷村帳不見、　住例川村

用夫

同國同郡

踊従鹿児嶋二里半　六箇村

一宗廟妙見大菩薩

一高壱石　新福院真言

一同壱石　東光寺

衆中高五百弐拾三石餘　人躰八十二人（「千百十七人」）　惣士三百九十八人

高頭四千六百九拾九石四斗壱升弐合弐夕三才

内

一高五百三拾三石七斗五升三合六夕五才　曾於郡郷内　持松村

一同千百三拾弐石弐斗九升八合壱夕五才　麻郷内古八臭猫田村　宿窪田村

一同六百弐拾四石八斗六升五合　同　上中津川村

一同千七百二斗八升壱合九夕三才　中津川村、此節二ケ村ニ成　中津川村

一同七百九拾四石壱斗七升六合弐才　同　萬膳村

一同六百六石九斗三升七合四夕八才　同　三躰堂

川夫弐百四十六人

隅州桑原郡横川八横川郷内兵衛叶信承久之比居城之田、

横川従鹿児嶋十里　三箇村

一宗廟安良大明神祭礼九月廿九日

一高壱石　眞乗院真言　一同壱石　仙壽寺禅

衆中高六百四拾八石餘　人躰百四拾八人　士惣人数五百六十一人

野町国敷田ケ所、本天堂ニ阿弥陀堂有、竜八町予部左手ニ有

一地頭假屋町之上岡于二有、
高頭四千五百弐拾石八斗八升三合弐夕九才
内
一高千八百拾石壱斗三升四夕七才　横川郷内　中之名村
中之名村、古ハ中之村・上之村・下之村、
一同六百三拾六石四斗六升八合壱夕三才　同　下名村
一同弐千七拾四石弐斗八升四合六夕九才　同　上之名村
用夫三百十人
同國同郡（従鹿兒嶋十二里）　七箇村
栗野（従鹿兒嶋十二里）　七箇村
一宗廟正若宮八幡（高二丈、水之瀦石高伝難）
一高弐拾石（義弘公御子薩摩様御寄）福城山（福昌寺末）徳元寺（禅）
徳元寺殿慶雲幸公大禅定門　文禄四年乙未七月四日卒去
惟新公御子久四郎忠清
衆中高千百四拾八石餘　人躰弐百三拾弐人（士惣人数七百七十八人）
高頭七千五百六拾石七斗壱升九合四夕七才
内
一高六百壱石五斗五合五夕弐才　栗野郷内　稲葉崎村
一同三百八拾八石二斗弐升四合四夕八才　（同）占ハ崎嶋村　田尾原村
一同八百七拾六石九斗四升弐合八夕七才　同　恒次村
恒次村、古ハ上村・廣田村、何比（イツ）一村ニ成候儀不和知候、
一同七百弐拾三石八斗二升弐合六夕壱才　同　高山村（桑田郡）
一同千四百三拾弐石弐斗壱升五合三夕弐才　（同）古ハ栗野村　米永村
一同千四百八拾九石八斗八升二合四夕　（同）古ハ小羽村　木場村
一同弐千四拾八石壱升五合六夕三才　（同）古ハ北名村　北方村
用夫五百四十七人
隅州桑原郡
吉松（従鹿兒嶋十四里）　四箇村
一宗廟筥崎八幡（有于川西村、依神卜中有、十月廿三日ヨリ同廿八日迄祭有之、二十五日ニハ頭殿ト申四五歳之童子両人、吉松ヲ廻リ候祭有之云々、）
一高壱石　光照院
一同壱石　玉泉寺
一磐若寺　一千手観音堂（般若寺）
此寺茶之名所
一小林瀬多尾權現別當山伏寺　内小野寺
衆中高六百七拾七石餘　人躰弐百拾四人（士惣人数五百七十九人）
高頭四千七百八石六斗壱升八合壱才
内
一高　水流丸村
一同　中津川村
一同　川添村
一同　川西村
用夫弐百五拾四人
合五ケ所桑原郡
隅州姶羅郡（蒲生八吉来蒲生氏代々領地之由ニ候、）
蒲生（従鹿兒嶋五里半）　九箇村（此内一ケ村山田ニ人、只今者八ケ村、）
一宗廟正八幡若宮（瀬戸口舎人檀護）
一楠田大明神
一高五拾四石七升三合　大定山（田布施菅瑞寺末寺永興寺）（禅）
永興寺殿松齢白貞庵主　義弘公
一同七石　千手院（真言）

一同壱石壱斗七升四合　法壽寺臨済

一青色野御牧　馬数四拾疋

衆中高弐千七百三拾九石餘　人躰四百五拾人　士農人数千一百三拾五人

高頭八千八百拾弐石九斗八升五合弐夕五才

内

一高八百七拾九石三斗五升五合八夕九才　浦生郷内　久末村

一同弐百九拾壱石八斗五升壱合九夕三才　同　西浦村

外ニ北村、郷村帳ニ有之、

一同千八拾弐石壱斗四升壱合九夕弐才　同　白輪村　白男村

一同三百四拾三石三斗四升五合弐夕弐才　同　米丸村

一同千弐百九拾五石九斗壱升三合六夕三才　同　上久徳村

以前八久徳一村、延寶四年丙辰御竿入之時二ケ村ニ成、

一同千四百八拾壱石壱斗五合六夕三才　同　下久徳村

一同八百五拾九石七斗三升五合壱夕　同　漆村

一同千五拾四石八斗弐升七合六夕　同　北村

外ニ木津志村、隅州山田ニ被召入、

野町

用夫三百拾六人

隅州姶羅郡　加治木八吉米加治木氏代々領候由、

加治木　従鹿児嶋去里　五箇村　私領　高壱万九千四百弐拾五石餘

○嶋津兵庫殿

一寶現大明神

一宗廟春日大明神

貴久公御夫婦義久公四牌有、

捐館湖月宗江大禅定門義弘公御二男　春日寺真言

一長歳寺禅　妙心寺末寺安國寺

一足利尊氏將軍御願一國一ケ寺、隅州之一ケ寺ニ而候、

此尊像、御存生之内御出来ニ而候、

一義弘公御影像　本誓寺浄土

御同人様御位牌、先住自分安置候由候、

一浦野町　一出物蔵

高頭壱万九百八拾六石弐斗七升八合四才

内

一高三千弐百六拾八石八升五合壱夕　加治木郷内　段土村（反土兼ヒ）

一同三千七百四拾石三斗三升四合八夕二才　同　木田村

一同千百七拾五石弐斗八升五合七夕三才　同　西別府村

一同六百三拾弐石壱斗三升三合壱夕弐才　同　日木山村

一同千四百七拾壱石九升七合六夕　同　小山田村

以前高井田村爲有之由候得共、何比禿候哉、當分無之由候、

一同

用夫四百五拾八人

隅州姶羅郡　溝邊八溝邊孫太郎守護遠藤公之時今居城、氏不詳云々、

溝邊　従鹿児島　五箇村

一宗廟鹿大明神

一高壱石　大長院真言

一同壱石　心慶寺禅　地蔵院禅心慶寺末寺

衆中高四百弐拾六石餘　人躰八拾弐人　總士三百四十三人

高頭四千二百四拾八石八斗四升六合七夕八才

一高

一同

一同
一同
一同
用夫
同國同郡
山田（從鹿児嶋五里半）　六箇村
一宗廟黒嶋大明神
一高壱石　正田院（真言）
一同壱石六斗　陽春院
衆中高五百四拾壱石餘　人躰百五拾九人（士族八百六十三人　卒族四百六人）
高頭四千五百四拾四石九斗九升四合五夕六才
内
一高千七石六斗五升八合三夕四才　帖佐郷内　上名村
一同四百六拾石六斗七升三合二夕四才　同　邊川村
一同四百拾壱石弐斗七升七合壱夕五才　同　北山村
一同千弐百五石九斗七升四合壱夕七才　同　下名村
下名以前八小田村、先年引并之時二村ニ成、
一同四百七拾壱石五斗九升八合六夕二才　同　大山村
一同四百弐拾四石七斗八合三夕四才　蒲生郷内　木津志村
此村近年蒲生令入、
用夫弐百十九人
隅州姶羅郡（帖佐八吉来四後房良西居城之由、）
帖佐（從鹿児嶋四里半）
一宗廟新正八幡（祭礼十月廿五日）　一住吉大明神
一高弐拾七石　平安山　八流寺　増長院（真言）
一同二拾石　如意珠山　智恩院末寺願成寺
松齢自定庵主義弘公、實窓芳眞大姉御同人御夫人、此両牌
願成寺（浄土）　願成寺阿弥陀堂　願成寺十王堂
一龍水山（福昌寺末寺）心岳寺（禅）　左衛門尉藤久寺
心岳寺殿心岳良空大居士　大正二十年壬辰七月十八日
一同三拾弐石　龍護山　総禅寺（禅）
総禅寺殿（ダイキャウヂヤウコウ）題嬌柱公大禅伯牌　文明九年丁酉八月六日卒去　久
豊公御三男豊後守季久
一同壱石　圓明院
一同壱石　三祖院
衆中高千弐百七拾弐石餘　人躰三百四拾三人（士族人数千四百六十人）
高頭壱万三千七百八拾石五斗五合壱才
内
一高千四百九拾壱石六斗九升七合弐夕九才　帖佐郷内　三十町村
一同四百五拾四石三合壱夕　同　深水村
一同五百五拾五石六斗三升九合弐夕七才　同　豊留村
一同弐千五百拾三石六斗七升六合弐夕三才　同　東餅田村
以前八餅田村一名ニ而候処ニ、寛文年中両村ニ成、
一同弐千四百拾四石九斗壱升三合八夕三才　同　西餅田村
一同六百九拾八石八斗壱升五合八夕四才　同　住吉村
一同三百五拾五石九升三合弐夕　同　長瀬村
一同六百九拾五石三斗七合五夕五才　同　中津野村
一同四百拾八石　同　増田村
一同四百拾石七斗八合弐夕四才　帖佐郷内　鍋倉村
一同九百八拾七石八斗七升弐合九夕三才　同　寺師村

右一名、隅州山田之内ニ而候処ニ、此節重富外城立候ニ付帖佐ニ入、

隅州姶羅郡

重富（従鹿児嶋　高壱万千八百五拾五石餘）○私領嶋津若狭殿

一宗廟

一高五拾石　圓明院（大台）

高頭四千三百五拾石

内

一高弐千三拾八石七斗八升弐合六夕　帖佐郷内　平松村

一同弐百八拾六石四斗壱升七合　同　脇元村

一同七百三拾石九斗三升六合壱夕四才　同　春花村（八ルケ）

一同七百拾六石七斗八升四合九夕　同　船津村

一同　薩州吉田郷内東佐多浦名ゟ移立　觸田村

用夫弐百壱人

合六ケ所隅州姶羅郡

隅州菱刈郡（菱刈氏代々領分三而、吉木本城ニ居城之由、）

湯之尾（従鹿児嶋　十四里）　一箇村

一宗廟御霊大明神（鎌倉之頃五郎某敬之霊ヲ祭之由申傳候、）

一高壱石　蓮壹院（真言）

一同壱石　高源寺

衆中高三百七拾八石餘　人躰百三十四人（總人数二百十五人）

一温泉有、　一野町

高頭弐千六百三拾石五斗壱升壱合弐夕

内

一高千八百七拾弐石六斗弐升九合九夕　太良院内　河北村

一同七百五拾七石弐斗八升弐合壱夕壱才　同　川南村

用夫百三拾壱人

同國同郡

本城（従鹿児嶋　十三里）　四箇村

一宗廟諏方大明神

一高壱石　甘露寺

一同壱石　曹源寺

一現王山　止覚院　大林寺（禅寺）

一野町

衆中高五百拾九石餘　人躰百七拾五人（總人数五百七十五人）

高頭五千六百九石五斗四升五合三夕

内

一高五百八拾弐石六斗壱合七夕四才　太良院内　重留村

一同千七拾三石六斗七升七合八才　同　南浦村

一同千四百拾五石弐斗壱升四合五夕八才　同　下手村

一同弐千五百三拾八石五升壱合九夕　同　荒田村

用夫百六拾人

隅州菱刈郡

馬越（従鹿児嶋　十二里半）　三箇村

一宗廟諏方大明神

一高七百四斗壱升九合弐夕五才　黒坂寺（真言）

一同壱石　長壽寺（此長壽寺町頭ニ有、此寺門前之坂をしん庵の坂と申候、如何様此邊ニ如斯寺島有之事哉、）

衆中高三百七拾八石餘　人躰百十九人（總人数四百十九人）

高頭四千五百拾六石七斗弐升五合八夕九才

内

一高弐千七百四拾石八斗壱合三夕六才　太良院内　前川村
一同九百弐拾六石八夕　同　田中村
一同八百四拾九石九斗弐升二合七夕三才　同　徳邊村
用夫四百六十六人　一野町
同國同郡（皆木八皆木彦太郎忠茂、計護遣羅公之時全居城也云々、）
曽木（従鹿児嶋十四里）　二ケ村
一宗廟悪瀬大明神
一高壱石　観音寺（其寺）
一同壱石　廣徳寺（海濟）
衆中高三百七拾九石餘　人躰九十八人（士卒人数三百拾弐人）
高頭三千七百壱石九斗五升弐合七夕壱才
内
一高千八百五拾八石八斗六升七合九夕壱才　太良院内　里村
一同九百五拾七石六斗弐合九夕壱才　同　針持村
一同八百八拾五石四斗八升壱合八夕九才　同　長野村
外田丁場、此節除大高拂、永野村薩州伊佐郡之内ト有之、郷村帳ニハ伊佐郡ニ不見得、御前帳ハ隅州と有之、此節御前帳薩州ニ改ル、
用夫百弐拾八人
合四箇所菱刈郡
隅州熊毛郡（種子嶋八四郎左衛門信式、忠久公御下向ノ時嶋主也、種子嶋家祖、）
種子嶋（従鹿児嶋海上四十八里）　拾七箇村（高壱万千石餘）　私領種子嶋左内
一高百五拾石　本源寺（法華）
一同百石　慈恩寺（法華）
一同五拾石　大恵寺（右同）
一熊野権現
高頭九千百二拾四石七斗四升五合九夕四才
内
一高八百六拾八石弐斗弐升五合八夕四才　種子嶋郷内　西表村
古ハ西而村・麓村、俗赤尾木村と申候、
一同弐百七拾五石九斗二升四合六才　同　國上村
一同百六石弐斗五升四合八夕九才　同　安納村（ヤスノウ）
一同五百弐拾七石七升九合七夕九才　同　現和村（ヤワ）
一同弐百六石五升六合弐夕五才　同　安城村（アンジョウ）
一同六拾壱石五斗八升弐合弐夕九才　同　古田村（フルタ）
但山中ニ有之村也、故ニ俗ニ山之古田と云、
一同百九拾四石八斗七升九合八夕九才　同　住吉村
一同弐百三拾四石七斗壱升七合壱夕八才　同　納官村（ノウクワン）
一同七百七拾石六斗六合壱夕四才　同　野間村
一同五百七石八斗八升八合五夕四才　同　増田村
一同四百拾九石八斗九升壱合八夕八才　同　油久村（ユク）
一同六百九拾石六斗三升六合八夕八才　同　坂井村
一同八百五拾八石八斗九升弐合六夕壱才　同　平山村
一同千二百三拾七石五斗五升壱合弐夕六才　同　茎永村（クキナガ）
一同千百五拾八石八斗七升二合五夕四才　同　中之村（古ハ中村）
一同四百七拾五石弐斗七升壱合九夕八才　同　西之村（此村西之端也）
一同四百四拾石四斗弐合九夕弐才　同　島間村
用夫九百人
一馬毛嶋（二里廻、従種子嶋一里、無人嶋、民井鹿多、従種子嶋時々魚取ニ参嶋也、）
同國馭謨郡

屋久嶋（従鹿児嶋四十八里）　弐拾村（拾八里廻リ）

一宗廟屋久権現（延喜式ニ、益救神社駅謨郡一座小と有之ハ此社之由候、大隅五座之内、）

一五十二ケ所船改番所芋生　一同長田　一同湊　一同安房

一同宮之浦（屋久番行在番之所）

高頭千三百八拾六石六斗五升弐合九才

内

一高百八拾四石六斗六升四合五夕八才　屋久嶋郷内　宮之浦村

一同四拾弐石四斗八升五夕四才　同　壱湊村

一同七百壱石壱升五合　同　長田村

一同四拾四石弐斗五升六合弐夕五才　同　尾間村

一同五拾四石八斗七升七合八才　同　湯泊村

一同八拾九石四斗九升六合六夕七才　同　吉田村

一同百七石八斗八升壱合弐夕五才　同　粟穂村

一同弐拾六石六斗　同　志戸子村

一同拾石壱斗八升弐夕壱才　同　中間村

一同拾六石三斗六升三合三夕三才　同　楠川村

一同拾壱石弐斗壱升三合五夕四才　同　小瀬田村

一同八石五斗壱升壱合四夕六才　同　小嶋村

一同八石壱斗九升八合九夕六才　同　戀泊村

一同拾石五斗弐升九合壱夕七才　同　椎野村

一同弐拾八石壱斗五升八合三夕二才　同（平内村ト有）　平田村

一同五石六斗七合弐夕九才　同　舟行村

一同拾五石八斗壱合四才　同　安房村

一同四石九升六夕二才　同　江石野村

郷村帳ニハ黒石野村ト有、大高拂同、

一同拾石六升五合六夕弐才　同　麦生村

一同六石六斗五升三合壱夕三才　同　原村

原村・脇元村郷村帳ニ有、平村ハ郷村帳不見得、

同國駅謨口之永良部嶋　但屋久嶋支配之内也、

右嶋高百八拾五石弐斗九升三合七夕五才

合二嶋駅謨郡

大隅國八郡惣廻リ百壱里二十七丁

内外城数四拾壱ケ所、内六ケ所私領、

合高弐拾五万九千二百四拾五石八斗八升六合壱夕五才

但此内五万三千五拾四石八斗五升三夕四才　増高

内高八百八拾五石四斗八升壱合八夕九才

但曽木之内長野村、薩州分入、

同弐千百四拾弐石九斗三升七合四夕四才

但財部之内下財部村、日州分入、

外ニ高千二百五拾五石壱斗九升五合四夕夕弐才

大口之内市山村・花北村、薩州江相除、

従是日州諸縣郡

吉田（従鹿児嶋十五里）　六箇村　吉田多侯故、真幸吉田ト云、

一宗廟天満天神

一高壱石　観音寺

一高壱石　昌明寺

衆中高三百二拾壱石餘　人躰百二拾七人（内四百六十人　男子人数弐百七十八人）

一有温泉、昌明寺之湯ト云、

高頭三千二百八拾五石五斗六升七合六才

内

一高六百拾七石八斗壱升七合弐夕壱才　吉田郷内 古ハ向名之由　向江村

一同四百五拾三石三斗六升壱才　同 古ハ鶴田村之由　水流村

一同五百八拾壱石五斗七升弐合五夕九才　同　亀沢村

一同五百拾壱石六斗四升五合三夕弐才　同　岡松村

一同八百六拾八石九斗八升七合九夕四才　場村、ケ村　同、古ハ内立馬上下田村當分一　内立村

一同三百五拾弐石壱斗八升三合九夕九才　同　昌明寺村 村々成由

用夫百壱人

一野町

日州諸縣郡

馬關田 従廣瀬嶋十五里　四箇村

一宗廟天満天神

一高六斗　威徳院 真言

一同壱石　大圓寺 禅

衆中高三百弐拾石餘　人躰九十四人 士惣人数弐百七十八人

高頭弐千九百九拾七石三斗弐升弐合弐夕五才

内

一高六百四拾八石六斗七升六合壱夕四才　馬関田郷内　浦村

古ハ裏村・高牟礼村・岡本村、當分一ケ村ノ由、

一同五百六拾五石八斗九升四合七夕九才　同　柳水流村

一同千百拾八石八斗八升五合四夕壱才　同　島内村

一同六百六拾三石八斗六升五合九夕壱才　同麓村也　川北村

用夫百拾四人

一野町

同國同郡

加久藤 従廣瀬嶋十六里半　拾箇村

一三社 但水天・荒神・妙見也

一二之宮大明神

一高弐拾三石八斗七升四合九夕九才　光林山

大乗院末寺 吉祥院 真言　不動寺 真言

リョウサンゲン 涼山幻生大禅定門　惟新公御子鶴壽丸様　天文三年乙亥十一月

廿一日御逝去

一高弐石五斗弐升八合弐夕弐才　徳泉寺 禅

一五拾石　高連山　福姓院 真言　二宮寺

一同三石七斗　栗下村 地神盲僧寺三徳

右三徳、木崎原之時占仕候依忠節、吉松・吉田・馬関田・加久藤・飯野・小林・須木・高原・高崎・野尻・高岡・綾・穆佐・倉岡、以上十四ケ外城家督御免ニ而、四季土用経相廻リ勤來候事、

一関所番

衆中高千弐拾五石餘　人躰弐百六十五人　士惣人数六百三十二人

高頭九千四拾三石弐斗八升六合弐夕壱才

内

一高千七百六石八斗壱合六夕四才　加久藤郷内　栗下村

一同千拾壱石七斗九升五合五夕四才　同 古ハ中福良村　小田村

一同三百拾三石三斗三升弐夕壱才　同　榎田村

一同千弐百六拾四石三斗三升七合七夕三才　同 古ハ長江村　西永江浦村

一同六百四拾三石七斗三升九合三夕七才　同、古ハ吉田 法華寺村之由候　東永江浦村

一同九百八拾石五斗四升八合六夕九才　同　永山村

一同七百九拾九石四斗三升壱合五才　同　灰塚村

一同九百八拾六石四斗七升八合七夕六才　同　西江村
一同五百五拾九石弐斗三升八合弐夕三才　同　川北村
一同七百七拾八石三斗四合九夕八才　同　湯田村
用夫四百六十人
一野村（町カ）今町ト云、古町ト云所モ有之候由、

日州諸縣郡

飯野（延鹿児嶋十八里）拾箇村

一白鳥山（祭神日本武尊　主満足寺格護）座
一狗留孫山権現（座主鶴山寺格護）

右狗留孫山神三座者、鹿児島ヲ去コト二十一里、艮ニ當レリ、山路嶮峻ニシテ、到ル者或匍匐シ、或ハ樹枝ヲ攀テ嶺ニ渉リ谷ニ下ルコト幾何ソヤ、山静ニ谿深シテ一鳥啼カズ、仙斧丁ヒノ響稀ニシテ、實ニ塵外ノ浄境也、麓ヨリ三里、山上ニ至テ其長十五尋、圍七尺、四方又高キコト五尋ニシテ相同キ、自然ノ一長石深谷ノ中ヨリ屹立シテ空裏ニ聳ス、縁起ニ曰、足ハ上古ニ健盤・娑竭二龍王ノ爲ニ、狗留孫佛観音大士建玉ヘル石卒都婆也、因テ山ヲ狗留孫山ト云、後ニ建仁ノ開山葉上僧正中華ニ在ルノ日、醫王山ニ於テ指示ヲ蒙リ、帰朝シテ此山ニ来リ、卒都婆ヲ拝シ、谷傍ノ山巓ニ一宮ヲ建テ、彌陀・薬師・観音ノ尊像ヲ安置シ、三所権現ト号スル々、

一一之宮大明神
一高五拾石　大戸諏訪大明神（座主鹿児島延寿院格護）
一同百四拾三石五斗弐升二合　白鳥山金剛乗院　満足寺（真言）

但此高、木崎原依忠節、前代出米御免ニテ賦米計掛ル、加久藤ニ一所之門地有之候、一唯怨山大禅定門又一郎久保公御牌彦山寺ニ有、是ハ先師光厳自分ニ安置之由、満足寺申出候、

衆中高弐千四百六拾四石餘　人躰二百三拾弐人（惣士人数八百六十人）
高頭九千拾壱石弐斗九升九合八夕六才

内

一高八百四石弐斗壱升弐合九才　（飯野郷内古八宮原村）　上江村
一同四百三拾七石四斗五升弐合八才　同　今西村
一同六百八拾三石四斗五升弐合九夕壱才　同　大河平村
一同八百二拾六石六斗三升弐夕九才　同　杉水流村
一同弐千二拾五石弐斗弐升五合八夕六才　（同麓村也）　原田村
一同千三拾三石三升二夕　同　前田村
一同四百六拾六石八斗四升七合五夕　同　坂本村
一同五百七拾石八斗八升壱合二夕七才　同　池島村
一同千百四拾三石六斗七合四夕七才　同　末永村
一同九百九拾九石九斗五升九合九夕九才　同　大明司村
用夫四百拾四人
一野町
一高弐拾七石四斗弐升九合壱夕七才　保壽院（新阿弥堂高有之候得共、後年所二而無之候、）
一同弐拾石　亀城山（飯野宗江院末寺）幻生寺（禅）
涼山幻生大禅定門　義弘公御嫡男御牌
一同弐拾石　兜卒山（能州総持寺末寺）長善寺（禅）
此寺ニ義弘公・久保公・家久公・貴久公御牌有、
一同拾八石（右同本寺飯野長善寺末寺）宗江院
一同弐拾七石四斗弐升九合九夕七才　保壽院（真言）
稲荷山　西方寺

一同四石　愛染院（真言）

一同七石　成就軒

一大河平（此所、大河平休兵衛鹿児嶋上ニ而、代々番頭被仰付置候、）

日州諸縣郡

小林（従薩児島二十里）　七箇村（古八三ノ山御三霧嶋山ニ様三ツ有故、以前八三ノ山ト為中由、或半分ハ以前ヶ小林ト為中由モ申候、）

一雛守（ヒナモリ）権現（祭礼九月十九日・十一月十五日、両度有、）黒木丹後格護

一八王子権現（此宮鷹宗廟之由、）

一熊野権現（此宮東方宗廟ト申候、）

一瀬多尾権現（此宮、以前八霧嶋山上ニ有、享保元巳年以後、様八ヘト云山中ニ勤請、吉松内小野寺格護、）

九月廿九日祭

一高弐石三斗　観音寺（真言）

一同弐石　　昌壽寺（禅）

一同六拾石（南泉院庇末寺此寺ニ地蔵堂有）　圓岳寺（天台）

一高原神徳院末寺　寶光院（天台）

一河野・坂元・八重尾、此三家代々行司役ヲ勤、

衆中高三千三百拾七石餘　人躰三百二十九人（上物人数九百弐拾壱人）

高頭八千六百三拾六石壱斗弐合七夕八才

内

一高千五百九拾二石九斗九升二合弐夕八才（小林郷内）　真方村

一同千五百弐拾五石八斗八升六合七夕七才（同古八北方村）　北西方村

一同六百拾石七斗九升四合弐夕六才　同　東方村

一同弐百八拾七石五斗三升壱合七才　同　水流廻村

一同三千三百三拾壱石弐斗三升九合弐夕壱才　同　細野村

一同千五拾八石壱斗八升四合八夕五才　同　南西方村

一同千弐百弐拾八石四斗七升二合三夕三才　同　堤村

用夫四百十二人

一野町

日州諸縣郡

須木（従薩児嶋二十三里）　一箇村

一宗廟高壱石七斗二升七合　大歳大明神

一高壱石　世尊寺（真言）

此寺ニ古来ノ阿弥陀堂有、

一高壱石六斗　一麟□寺（禅）

但此寺ニ米良氏位牌・伊集院忠真堂有、

衆中高五百六拾九石餘　人躰弐百拾人（上物人数五百五十一人）

此所山深ク、金松氏・永井氏両家代々行司役ヲ勤、

高頭千弐百拾九石九斗壱升三合壱夕四才（須木之内）　須木村

用夫百二十三人

一野町

同國同郡

高原（従薩児嶋上六里半）　五箇村

一霧嶋山東御在所（殊主東光坊格護祭礼九月九日）

一霧嶋六所権現（狭野神徳院格護祭礼九月二十九日）

一高（天台六太流東叡山末寺）霧嶋山錫杖院花林寺（天台）

一同　東光坊

一高壱石　法蓮寺（禅　花堂ノ坂元寺天台）　地蔵院（真言）

一（東光坊門前）祓川ト云、一（神徳院門前）佐野ト云、

衆中高千四拾五石餘　人躰千六拾一人（上物人数四百五十八人）

高頭四千二百弐拾六石四升四合六才

内

一高三百八拾三石五斗八升八合　古来八人来村・引高原郷内井御牟之崎ヶ改　後河内村
一同四百拾四石弐斗六升弐合六才　右同　麓村
古ハ高原村、外ニ黒島川内此節被召畳蒲牟田江相加候、
一同四百七拾六石壱斗六升九合三夕六才　右同　蒲牟田村
一同五百九拾九石壱斗五升弐合三夕九才　同　廣原村
一同弐千四百五拾弐石八斗七升弐合弐夕六才　同　水流村
但飛地高原ゟ相隔候事、凡四里半、
高原城　坪ノ廻リ拾九丁二十間　松ケ城ト申傳候
二ノ丸　竪廿六間　横十四間　一本丸　竪七十二間　横二十三間
二ノ丸　竪四十四間　横十六間　取添丸　竪八十間　横三十間
右、古来伊東家持城之由、城内ニ桂園法花大禅定門石塔一基・鴛河大隅守法花千部供養石一基有之、
用夫
一野町
一御池　霧嶋山之池也、一里廻リ七湊有、東光坊之近辺故高原之御池ト申候得共、過半都城之内ニ横リ候、

日州諸縣郡

高崎　従鹿児嶋十八里　三箇村　延宝八年十二月、新外城ニ御取立被仰付候由、
一宗廟宇賀大明神　祭礼九月廿八日
一高壱石　幸樹院　真言
一同壱石　皆蔵寺　禅
一浄蓮寺　禅　縄瀬村ニ有、縄瀬村之宗廟天満大神　一轟　有于縄瀬村、去川之川上爰ニテ落ル所也、其間二間半、
其長サ凡半町計有、
衆中高四百五拾壱石餘　人躰百三拾五人　士数人数三百九十一人
高頭弐千九百七拾弐石九斗八升八合五夕壱才
内
一高千弐百三拾八石四斗四升三合二夕三才　高原郷内　縄瀬村
古ハ樋渡村相立有之、當分縄瀬村ニ込由、
一同六百弐拾六石三斗四升八合七夕弐才　右同　前田村
古ハ朝倉村相立有之候得共、當分前田村ニ込由、
一同千百八石壱斗九升六合四夕六才　右同　大牟田村
用夫弐百九拾八人
一野町

日州諸縣郡

大崎　従鹿児嶋十八里半　拾壱箇村
一高四百三拾三石壱斗六升壱合四夕六才　飯限山権現別當
右飯限山飯福寺照信院者、本山派山伏門首ニ而、宗旨天台三千隔日之袈裟頭ニ而候、日本國中本山二十八人之大達所、往古ヨリ勤仕也、号救仁郷深仙坊、
一同百壱石壱斗四合壱夕七才　飯限山坊中中之坊天台
一宗廟妻万一之宮大明神
一高四石　多門院　真言
一高壱石　心慶寺　禅
衆中高九百八拾三石餘　人躰弐百九十四人　士数人数七百六十人
高頭壱万五百五拾四石四斗八升四夕九才
内
一高八百八拾壱石四斗九升六合六夕八才　求仁院内　菱田村
右ハ益村一村ニ而候処ニ、京竿以後神領・益丸都合二ケ村ニ成、
一同九百三拾壱石弐斗七升弐夕壱才　同　井俣村
一同九百七拾七石七斗四升　同　益丸村
一同千弐百弐拾六石四升五合四夕弐才　同　横瀬村
一同千弐百七拾四石壱斗壱升八合六夕五才　同　野方村

一同弐千百拾三石五斗七升弐夕　末吉郷内　永吉村
一同八百四拾三石八斗三升九合九夕九才　求仁院内　神領村
一同五百六拾壱石五斗弐升三合三夕壱才　同　持留村
一同三百弐拾壱石四斗弐升壱合八夕八才　同　岡之別府村
一同千四百弐拾弐石八斗五升四合壱夕六才　同或狩宿トモ　假宿村
一同　今田村
用夫千弐拾七人
一野町
高壱石壱斗九升七合九夕弐才　大崎・志布志境論地　大崎ハ菱田村志布志ハ野井倉村

日州諸縣郡

志布志　佐土原児嶋二十里　拾弐箇村

一宗廟山口大明神　祭神天智天皇之霊
一高三拾壱石五斗六升　秘山　密教院　寶満寺　仲
寶満寺如意輪観音堂座像一躰一佛舎利二粒勅封五色光明アリ、右當寺ハ、相州鎌倉極楽寺ノ沙門ニ信山又英基和尚共ト云者、正和五年此所ニ来リ開創セシ也、花園帝ノ勅願ニテ南都西大寺ノ末院也、草創以来律燈ヲ挑ケテ于今不滅熄、大士ノ尊像ハ運慶ノ作也、是ハ中津川道海・原田光信、又信長ト云ル二人之者志願ニテ、元應二年南都西大寺ヨリ當寺江降臨ナシ奉レル殊勝ノ霊佛タリ、又佛舎利ハ暦應三年左兵衛督源朝臣直義院宣ヲ奉リ、扶桑ニ於一國一基ノ塔婆ヲ安置、其一也、院宣並直義之状有、歴年舎利分身シテ十八箇ト成、
一高六拾四石七斗弐升　蜜厳山　丈陸寺　大性院　鳳言
一同拾五石　大慈寺塔頭　即心院　臨済
此寺ニ氏久公御夫婦・御女溪月宗郷大姉御牌有、
一同四百七拾壱石壱斗九升六夕弐才　龍興山　京都妙心寺末寺、大慈廣惠寺トモ有之、
大慈寺　臨済
開基祖勅諡佛智大通禪師、暦應三年大慈廣惠之二字ヲ賜フト、
大慈寺ニ　寛陽院様・太玄院様御牌、先住自分奉安置、
一高拾九石三斗三升四合二夕　新豊山　此寺曹洞公御牌有福島寺末寺、陽泰寺　禪
一同弐石三斗四升三合五夕　遊行上人一宿寺故御條甫所　福壽山無量院海徳寺　時衆
衆中高二千弐百六拾四石餘　人躰四百三人　上様人数千人
一夏井御番所
一八郎ケ野御番所
此両所、他國境御関所　出入切手ナシニ通機不龍成、跡同断、
高頭壱万三千四百七拾五石七斗壱升弐合八夕弐才
内
一高弐百八拾八石七斗五升三合壱夕三才　求仁院内　夏井村
一同三百九拾四石七斗九升七合壱夕九才　同　田之浦村
一同千三百弐拾壱石五斗壱升八合二夕五才　同　野井倉村
一同弐千三百八拾壱石三斗八升七合六夕九才　同　安楽村
一同千百弐拾四石九斗三升六合五夕五才　松山郷内　蓬原村
一同六百五拾弐石壱斗九升七合六夕八才　求仁院内　野上村
一高三百三石三斗四合五夕　同　原田村
一同千九百七拾四石六斗九升三合六夕五才　同　伊崎田村
一同弐千百四拾弐石六斗八升四合四夕六才　同月野ト高柳ニ有ト　槻野村
一同千四百七拾六石弐斗弐合四夕五才　同　帖村
一同九百拾石九斗四升九才　同　内之倉村
一同五百四石四斗七升七合八才　同　町畠村
用夫弐千四拾六人

一浦町（御國十六ケ所之内津口御番所有、）

日州諸縣郡

松山（從鹿兒嶋十七里）　三箇村

一宗廟正若宮八幡

一高壱石　蓮華院（真言）

一同壱石　蒼龍庵

衆中高六百四拾八石餘　人躰九千七人　士物人弐百五拾四人

高頭弐千三百三拾壱石四斗七升壱合壱夕

内

一高千三百三拾石四斗四升七合八才　松山郷内　新橋村

一同四百拾弐石八斗四升八合弐夕四才　同　尾野見村

一同五百八拾八石壱斗七升五合七夕八才　同　泰野村

用夫弐百八拾四人

一野町

同國同郡

都城（從鹿兒嶋拾六里）　弐拾六箇村　高三万三千八百石餘

○私領嶋津筑後

一宗廟神宮（号神桂神社、有于梅北村、有神宮寺、祭礼九月九日、有鎧流馬、）

一乙戸大明神

一稲荷大明神

一建氣大明神

一　天長寺（真言）　一　龍峯寺（禪）

一梶山御番所

所々邊路　梶山切寄番　同所邊路細目番所　中野邊路番所

同所杉ノ木水流邊路番人　邊路野首番　前村番　上同諏訪口同断

梶山浦福留邊路同断　梶山寺垣ノ木番人　上同留木野同

上同牧野同　上同走持同　右同大野同　同所正矢谷同　同断平山同

此十二ケ所邊路

右之外、段々邊路番人付置候、

高頭三万弐千百八拾六石七斗四升弐合三夕

内

一高千九百七拾八石五斗壱升四合七夕九才　荘内中郷内　河東村

一同弐千三百弐拾弐石八斗壱升九合弐夕七才　同　宮丸村

一同七百七拾四石壱斗七升三合四夕四才　同寺郷内　木之前村

一同九百八拾九石五斗壱升三夕壱才　三俣院内占ハ井戸村　下長飯村

一同九百拾七石壱斗八升六合四才　荘内寺郷内　安久村

一同千弐百拾九石三斗五升七合八夕壱才　三俣院内古ハ源口村　上長飯村

一同七百五拾壱石七斗六升三合五夕四才　同　古ハ後校村　後久村（ゴキウ）

一同弐百六拾三石五斗八升八合壱夕三才　同　早水村

一同百四拾三石九斗弐升八合壱夕弐才　同　寺柱村

一同七百弐拾弐石九斗六升六合四才　同　田邊村

一同六百五拾石九斗三合五夕四才　鷺巣ハ三俣五十町飯田　飯田郷内　鷺巣村

一同弐千弐百六拾三石五斗六升四合六夕八才　五十町村

一同弐千弐百九拾四石壱斗壱升三合壱夕弐才　荘内寺郷内　梅北村

万治御支配ヨリ益二村・寄田村トナル、享保御支配此二ケ村ハ被召除、梅北ニ立、

一同千五百弐拾七石弐斗八升四合三夕八才　北郷内　横市村

一同千百三拾九石七升壱合弐夕五才　中郷内　郡本村

一同壱千七百六拾石弐斗三升九合弐夕八才　荘内北郷　荘内北郷内ハ前ハ安久村ノ内、同郷　前川内村

一同千三百八拾七石四斗四升五合六夕三才　西嶽村

一同九百三拾三石九升八夕四才　前ハ安永村之内　中霧島村
一同弐千弐拾八石六斗九升五合弐夕壱才　山田村
山田村、古ハ上中原村、高原郷之内梶原村、中郷之内一ケ村ニナル、
一同五百弐拾石五斗四合壱夕七才　三俣院内　岩満村
一同七百弐拾九石壱斗九升三合二夕三才　中郷内　丸谷村
一同七百七拾四石六升五合九夕四才　同　野々美谷村
一同八百八拾四石五升弐夕壱才　荊内北郷内　金田村
一同千九百三拾六石三斗五升五合八夕三才　右同中郷内　高木村
一同千五拾弐石七斗九升六合八夕八才　右同北郷内　石寺村
一同千弐百弐拾壱石五斗六升五夕弐才　右同中郷内　水流村
外増貫村・寄地村被召墨候、
用夫千弐拾人
一野町　本町・新町・唐仁町・高木町
一日州三俣院高城、山之口、勝岡、都城内ニ而ハ志和地、梶山之内高木、山上、川内、野々美谷、舟場ゟ下高原之内水流名、
右三俣ニ而御座候と下々申傳候、正説之書付等ハ無御座候、
以上、
元禄十五年午十一月廿二日
一又高城・下之城・山之口・上去川・下去川・梶山・勝岡トモ申候、此説ハ七ケ所有之候、
一又庄内三俣ハツ之外城、三俣（松尾トモ山之口花ノ木村ニ有之）梶山・勝岡・野々美谷・下之城（高城有水村ニ有ル）小山（高城ニ有之）高城等也、又三俣郷救之事、
一山之口・高城・勝岡・都城之内梶山・野々美谷・高木・志和地・薄谷村・大西村、
但此両所、唯今丸谷村ト唱候、水流村・金田村北郷ニ三俣ニ相加リ候、外ニ岩満村三俣院ニ而候、
右郷数有、貞享二乙丑五月、御記録所ゟ都城江御尋有之、又寶永七庚寅上使御通國之砌、高辻帳抜書を以御尋之節、都城ヨリ申上候郷ニ而候、
右之通段々有之候江有、三俣ハノ外城と申事、究而無別条所ハ無之と見得候、

日州諸縣郡

勝岡（従鹿児嶋十七里）三箇村

一宗廟諏方大明神
一高壱石　長久寺
一同壱石　鶏足山　梁新寺
衆中高七百三拾八石餘　人躰五十人　士惣人数弐百五拾四人
高頭三千弐百四拾三石八斗八升九合六夕九才
内
一高　樺山村
一同　餅原村
一同　蓼池村
用夫弐百四十人

日州諸縣郡

山之口（従鹿児嶋十九里）三箇村

一的野正八幡宮（于留吉村有、三俣之宗廟ト申傳之山、弥勒寺格護、祭礼十月二十五日、此祭ニ出候名、花木村・高吉村・勝岡餅原村・蓼池村・高城板木村也、）
右正八幡、和銅三年建立之由、伊東氏三俣領地之比氏神ト申傳候、
一走湯（サウトウ）権現（山之口宗廟ト申傳由、別当宗規院、東之坊新願所、真言、）

一高壱石　桂谷山　修善寺真言

此寺之本尊千手観音、御長八尺餘、座像、行基菩薩之作也、京都鞍馬之外、西國方無類之霊佛之由、

一同壱石　福昌寺末院号地蔵院候由、菩提所　桂昌山　十輪寺禅

衆中高九百弐拾六石餘　人躰九十六人　士惣人数三百十三人

高頭三千九百六拾五石六斗六升五合弐夕壱才

内

一高千五拾九石八升弐合二夕九才　古八山ノ口村当分モ同、三俣院内　麓

一同八百九拾壱石四斗八升弐合六夕三才　同　花之木村

一同弐千拾五石壱斗壱夕九才　同　留吉村

用夫三百三拾四人

一山之口惣廻合間数、四萬千四百四拾六間　町ニシテ六百九十町四十壱間、里ニシテ拾九里六町四十壱間、

一鬼山越筋、上使飫肥江之古通道ニ而、只今ハ通用無之候、

一日當瀬御番所、飫肥境ニテ邊路道有之候、

一一之渡御番所、山之口麓札辻ヨリ十二町四十六間有之候、右同断、

一飛松御番所　山之口麓札辻ヨリ飫肥領境川中迄縄二里三十一町八間、御番所ハ右川中境ヨリ弐百五間、町ニシテ三町二十五間此方ニ而候、

一在番所　右之通飫肥境已成、従鹿児嶋在番被請居候、

同國同郡

高城　従鹿児嶋ト九里　七箇村

一宗廟春日大明神　吉伊東家領内之時、氏神ト申傳候、此社山杉山ニテ過分有之、東龍寺格護、

一高九石三斗六升六合　春日山　三摩地院　東龍寺真言

一同拾弐石　東霧島神社東霧嶋山　金剛佛作寺真言

一同三石　吉祥寺臨済

一同五石壱斗壱升八合　福壽寺

一諏方大明神

一石山観音　観佛ノ由、有于石山村、石山寺

衆中高千七百四拾三石餘　人躰弐百壱人　士惣人数五百人

高頭九千百三石四斗四升八合七夕三才

内

一高千四百九拾八石五斗五合八夕　三俣院内　大井手村

一同千三拾五石九斗三升五合七夕三才　同　櫻木村

一同九拾四石四斗弐升弐合弐夕九才　同古八下川内村　四ケ村

一同五百四石八斗九升三合七夕五才　此村ハ高城飛地ニテ、麓ヨリ川越、其間二里半計、　東霧嶋村

一同弐千三百壱石九斗九合四才　同　石山村

一同千四百四拾四石九斗四升六合三夕弐才　同　有水村

有水、古八下川内村・上川村・宮原村一村ニ成、田尾ト申所以前ハ田尻村ト申候由、

一同弐千弐百弐拾弐石八斗三升五合八夕　同麓村ニテ候、　穂万坊村

用夫五百八拾七人

一野町

日州諸縣郡

野尻　従鹿児島二十里半　五箇村

一宗廟大王権現

一八社大明神　有于紙屋村、以前ハ紙屋外城ニテ此社御修甫所之由候得共、延宝九年紙屋外城御引取ニテ野尻ニ被引附、従是所修甫之由候、祭礼者九月初申、

一高壱石　本光寺

一高壱石六斗　真光寺禅

一同壱石　有于紙屋村、以前ハ御修甫所、外城御引取以後所修甫、　正法寺真言

一同壱石　有于紙屋村、上同断、共高ハ両寺以前ノ通、　福萬寺禅

衆中高千二百拾三石餘　人躰弐百六十六人　士惣人数八百五十一人

但野尻之儀、内ニハ只今モ野尻紙屋ト二ニ分リ居候由、曖五

人之内一人ハ紙屋ゟ勤候由、

高頭三千七百弐拾五石弐斗七升壱夕七才

内

一高八百九拾弐石三斗壱升七合七夕　野尻郷内　麓村

一同百八拾弐石弐斗五升四合壱夕六才　高原郷内　笛ケ水村

笛ケ水村・江平村、延宝九年高原ヨリ被召付候由、

一同六百九拾壱石四斗壱升三合二夕　野尻郷内　三ケ野山村

一同千拾七石三斗八升七合弐夕六才　同　紙屋村

古ハ外城ニ而候処ニ、延宝九年野尻ニ被召付候由、

一同九百四拾壱石八斗九升七合七夕壱才　高原郷内　江平村

用夫弐百十七人

一紙屋御番所（御関所故、出入無手形罷通候儀不罷成候、番人八所衆中之内七八ケ年二代合相勤候、御扶持弐拾表宛、）

一一ノ瀬番所（此一ノ瀬、邊路数番人有、）

是迄内場外城

関外四ケ所

紙屋・去川御番所之外ニ四ケ外城有之、

日州諸縣郡関外四ケ所之内

倉岡（従鹿児嶋弐拾八里）　二箇村

一宗廟圖帥大明神

一高壱石　郡山寺（真言）

一同壱石　龍泉寺（禅）

衆中高五百三拾三石餘　人躰百弐人　士惣人数弐百三拾八人

高頭千六百九拾九石五斗四升弐合八夕壱才

内

一高千九拾壱石五升七合五夕九才　（穆佐院内麓村也、）　糸原村

一同六百八石三斗八升五合弐夕弐才　同　有田村

有田村ハ倉岡ヨリ川向左右延岡領之内ニ有之村也、延岡領冨吉村穆佐之間ニ有之、

用夫七拾弐人

一野町

一倉岡御番所（従鹿児嶋二ケ月代合勤番）

同國同郡関外四ケ所之内

綾（従鹿児嶋弐拾七里半）　二箇村

一宗廟二之宮（ミツノミヤ）大明神（京永美濃格護）

一高弐石　法音寺（真言）

一同四石　綾光寺（リョウ）（禅）

一　傳徳寺（衆時）

一　阿弥陀寺（時衆）

一　流邊寺（禅）

一　佛像寺（時衆）

衆中高千弐百七拾四石餘　人躰弐百七拾六人　士惣人数八百四拾四人

高頭四千七百弐石七斗八升九合四夕壱才

内

一高弐千五百拾五石五斗八升八合九夕七才　綾郷内　南俣村

一同弐千百八拾七石弐斗四夕四才　同　北俣村

用夫弐百弐拾七人

一野町

一綾在番所（関目故ゟ分従鹿児嶋横百四ケ月代）

日州諸縣郡関外四ケ所之内

穆佐（従横児嶋弐拾七里）　二箇村

一宗廟宇佐八幡

一高七石四斗　大正寺

一同三石　悟性寺 禅

衆中高千五百拾七石餘　人躰弐百弐拾二人　士燈人数五百七十七人

高頭四千四百四拾七石弐合壱夕八才

内

一高千五百四石六斗五升三合壱夕壱才 古八蔵永村 穆佐院内 上下両村ニ成 上倉永村

一同千四百弐拾石四斗六升七夕弐才 八 同 下倉永村

一同千五百弐拾壱石四斗八升八合三夕四才 同 小山田村

用夫三百拾人

日州諸縣郡関外四ケ所之内

高岡 従鹿児嶋 武拾六里　拾弐箇村

傳聞、高岡ハ慶長五年、八代之内楠良と申所ニ城地御見立ニ而、高岡之城と為申由候、大ゟ高岡と申外城ニ成為申由、其以前ニハ八代と申外城ニ而、相良日向と中人地頭職ニ而為有之と申傳事ニ候、

一宗廟栗野大明神 弊礼十月初午ノ日、此日鐵流馬百騎餘大神事有、六月二十七日延岡鎮神之町ニ猶下リ、川舟数十艘、

一高拾六石 以前八長福寺 興福寺 真言

一同拾四石　龍福寺 禅

一同八石弐斗六升七合七夕壱才 栗野宮格護 栗野寺 真言

一同七拾七石八斗八升八合五夕四才 寶金山 福昌寺末寺 法華嶽寺 禅

但 此高ハ高岡之内深年村

法華嶽薬師堂 此薬師霊佛ニ而其名高シ、従佐土原現米四拾石四斗表ニシテ百表、従古来附米ヲ取納有之由候、

一高三石 此内ニ太中公御願有、八代之光孝寺 禅

一同壱石弐斗 八代之萬福寺 真言

一松尾山 房州妙本寺末寺 法花宗富士門派 浦之名村 本永寺 法華

一當山派山伏寺 高岡穆佐後倉岡富山派山伏袈裟頭 深年之善載坊

衆中高壱万弐百九拾五石餘　人躰六百五拾四人　士燈人数弐千一人

高頭弐万千九百弐石四斗五升四合弐夕弐撮

内

一高八百六拾八石六斗壱升四合七夕九才 穆佐院内 高濱村

一同千六百八石七斗弐升壱合弐夕五才 飯田郷内 五町村

柚木崎村當分五丁村ニ込ル、

一同弐千六拾九石弐斗七升壱合五夕 同 花見村

一同弐千四百六拾七石六斗六升三合六夕四才 同 人野村

入野村ハ紙屋ノ内ニ而、紙屋外城御引取候以後高岡ニ附候と承事ニ而候、

一同弐千五拾石弐斗五升七合壱夕八才 内山郷内 浦之名村

一同弐千五百六拾石三斗弐升三合六夕五才 八代郷内 深年村

一同弐千五百七拾六石弐斗六升三合九夕壱才 綾郷内 八代南俣村

八代、古八大裏村・目黒村・川上村・切畑村・樋渡村込、

一同千三百七拾壱石壱斗九升九夕六才 八代北俣村

八代、古八北方村共唱候哉、北俣之内ニ北田ト申所有之、古米ハ北方村ト唱候由、

一同千七百七拾石四斗四升五合 八代郷 田尻村

一同千五百五拾四石二斗八升弐合四夕七才 内山郷内 内山村

一同千百拾八石壱斗八升壱合弐夕壱才 八代郷内 向高村（ムカタカ）

一同千八百八拾石壱斗三升八合六夕六才 飯田郷内 假田村

一高岡惣廻リ二拾八里八町三拾六間半 上畑飛地廻リ三里十六町弐拾九間

一六里壱町四拾壱間

志布志丸山ゟ都城三つかのふ迄福嶋領境、
一拾三里七町四拾三間
都城ミつかのふゟ勝岡・山之口・高城・高岡・穆佐之内ミつ岩迄天領境、
一五里三町四十五間、穆佐之内三岩ゟ倉岡・瓜生野ミつかのふ迄、
内むかさ内三里弐町弐拾五間、高岡花見内六町弐拾間、天領境倉岡内壱里三十壱町、
一三里四町三拾弐間、瓜生野ミつかのふゟ田尻きつね塚ミつかのふ迄、
内倉岡壱町、但里ハ本ノ通十町ヨリ八間 高岡壱里三十四間
秋月式部殿領境
一五里六町拾六間半、田尻きつね塚ミつかのふゟ右深年ミつかのふ迄、
内綾六町四間、高岡五里十二間半天領境、
一三町四十五間、深年ミつかのふゟ同所よろひ塚迄、秋月長門守領境、
一三拾四町五十五間、よろひ塚ゟ八代樋渡ミつかのふ迄天領境、
一弐拾九町五間、樋渡ミつかのふゟ同所鳥巣ミつかのふ迄高鍋領境、
一六町拾二間、とりのすミつかのふゟ同所東迫ミつかのふ迄、
一弐町四十四間、東迫ミつかのふゟ同所城塚ミつかのふ迄高鍋領境、
一四町十二間、城塚ゟ同所塩こり廻ミつかのふ迄天領境、
一二里拾町五拾壱間、けんのふゟ粕木薄かぐぼきり立塚迄、
一他領ゟ薩摩領ニ飛地、薩摩領ゟ他領之内ニ飛地之帳、
中山原ニ有
一角込山廻リ九町五十八間、花見村ニ秋月式部殿御領、金崎村ゟ飛地、
八反口
一下山四十六間 三十八間八反弐畦弐拾四部平右衛門先
此田花見村ゟ式部殿御領内金崎江飛地、
同処
一下田八間 四十六間壱反三畦十歩四郎右衛門先
右同花見村ゟ金崎村江飛地、
ぬめり川
一下田十六間 二十二間伝左衛門先此田式部殿御領、吉野村江花見村ゟ飛地、
一弐拾弐間廻リ、但川原田尻村之内式部殿御領、嵐田村ゟ飛地、
一四天ノ尾野岡廻リ壱里十五町十四間、但田畑少々有、
右ハ高岡向高村・内山村・人野村ニ相掛リ、御領森永村ゟ飛地、
一田四町四拾八間廻リ、御領森永村ゟ高岡入野城現寺山、向高村之脇之間ニ飛地、
一田三町五十間廻リ、御領ゟ向高・入野、綾ニ掛リ飛地、
一田三町弐拾七間廻リ、御領ゟ向高上之宮田入野、城現寺山之下
溝畑ニ有之飛地、
横枕
一田拾七町拾九間廻リ、但中ニ溝有、深年村之内ニ秋月長門守殿御領宮王丸ゟ慶田か迫ニ飛地、但慶田か迫と申ハ高岡深年村之内也、
一田五町五十間廻リ
一田九町十五間廻リ、但上慶田中ニ溝有、
一田七町三十間廻リ、但溝有、此三行秋月長門守殿御領宮王丸ゟ深年村ニ飛地、
高遠前
一田壱町四拾七間廻リ、御領八幡村ゟ高岡八代南鳥越村之前ニ飛地、
伊佐生田
一田八町四十七間、高岡八代北俣村江秋月長門守殿御領伊佐生村ゟ北俣村光孝寺之後ニ飛地、

右之内他領と出入有之、元禄十年丑十一月十九日、境見分奉行林九兵衛・本城源四郎、山奉行日高六郎兵衛、梶山在番肝付清左衛門、筆者佐々木新右衛門、繪師長瀬市兵衛・同坂元勘兵衛、山奉行所筆者湯浅権之助ニ而縄引有之候、

高岡惣用夫千九百八拾人　一町

一高岡諸縣境ヨリ泊之浦迄四十一里二十九丁廿間

一高岡地頭代　諏訪甚兵衛

一八代在番　高岡曖交代

一粉木抑　高岡衆中粉木仲右衛門

一去川御関所勤番　高岡衆中二見休右衛門・二見三四郎

一高岡ゟ他領新納院

高城迄七里

右関外四ケ所

高拾五万弐千九百三拾弐石壱斗九升壱合弐夕三才

外ニ高弐千百四拾弐石九斗三升七合三夕四才

財部之内下財部村

同弐千五百八拾六石七斗四升九合五才

末吉之内南郷村隅州江相除、

日州諸縣郡合外城弐拾ケ所　内一ケ所私領

日向國惣廻リ弐百八里三拾二町

内九拾里廻リ薩州御領分惣廻リ

薩摩大隅日向之内諸縣郡

合高七拾弐万千四拾石弐斗弐升六合九夕四撮

内拾壱万千六百六拾壱石壱斗九升九合四夕四才　増高

従是琉球國

喜界嶋　又鬼界嶋共　従鹿児嶋海上　六間切　村無

高壱万八百三拾六石五斗八合五夕七才

内

一高千七百七拾六石弐斗九升五合弐夕四才　東間切

一同千八百六拾九石壱斗六升四合七夕六才　西目間切

一同千六百九拾石弐斗四升壱夕九才　志戸桶間切

一同弐千五拾七石三斗四升壱合九夕壱才　湾間切

一同千八百九拾三石四斗八升七合六夕弐才　荒木間切

一同千五百五拾石壱斗七合壱夕四才　伊砂間切

琉球國

大嶋　従鹿児嶋海上百五十里七間、名瀬間切三十村、住用間切十四ケ村、焼内間切二十六村切、西間切二十九ケ村、古見間切十村、東間切二十一ケ村、笠利間切十五ケ村、合百二拾八ケ村、七間切ニ相附、名瀬間切二十三ケ村、

高三千弐百五石八斗九升四夕九才

一大熊村　一浦上村　一有屋村　一阿里村　一中勝村

一伊津部村　一金久村　一阿佐仁村　一知名瀬村

一根瀬部村　一小宿村　一佐仁村　一瀬志古村　一浦村

一屋入村　一木場村　一瀬毛留部村　一圓村　一阿木村

一加徳村　一有村　一芦毛部村　一阿加礼村

七間切、右之外六ケ間切之村名略之、

一都合高壱万六千七百七拾八石壱斗九合五夕九才上古小琉球ト申候ハ此大嶋之事之由候、

同國

徳嶋　十八里廻リ三間切

一高五千弐百四拾六石壱斗七升七合壱夕四才　西目間切十五ケ村

一阿木名村　一三京村　一常部村　一平山村　一瀬瀧村
一大津川村　一九年母村　一兼久村　一阿布木名村　一浅間村
一岡前村　一松原村　一与那間村　一年々村　一金見村
一高四千三百七拾壱石八斗八升五合七夕弐才（西東和間切十六ケ村）
一喜念村　一目手久村　一佐弁村　一西縄村　一柳福村
一白猪村　一伊仙村　一古里村　一中山村　一馬根村
一浅間村　一木之香村　一阿權村　一糸木名村
一犬山布村　一小島村
一高五千七百石三斗八升九夕五才　東間切（拾弐ケ村）
一百次木村　一母間村　一串村　一花徳村　一井之川村
一神之峯村　一諸田村　一和瀬村　一秋徳村　一亀津村
一尾母村　一山村
合高壱万五千三百拾八石四斗四升三合八夕壱才

琉球國

沖ノ永良部嶋三拾七ケ村（十三里廻リ　長サ五里）
一高六千四百拾石弐斗四升弐合八夕八才

与論嶋（二里廻リ、此島ヨリホンノ貝出ル、沖ノ永良部島支配、）
一高弐千四百拾三石弐斗三升五合弐夕四才（是迄道之嶋五島）

琉球國

沖縄嶋（本琉球是也、縦三十五里、横二里、従此嶋以国司之支配、）
一高六万四千四百九拾石壱斗壱升七合六夕弐才

王城中山（百里と云、）
那覇（ナハ　湊ノ名、湊口広サ日五町、）**運天**（ウンテン　上同、薩摩運船ノ湊也、）**國頭**（上同、）**やん原**（上同、）

同国

計羅摩嶋
一高弐百拾石四斗七升九合七夕六才

戸無嶋
一同四拾六石八斗壱升七合七夕三才

粟嶋
一同七百五拾四石弐斗弐升四合三夕壱才

琉球國

惠平屋嶋
一高五百六拾壱石五斗七升九夕

伊是那嶋
一高七百七拾七石八斗弐升六合七夕八才

伊恵嶋
一高三千七百七拾七石壱斗九升八合三才

久米嶋（従那覇沖申方四十八里、産物米・真鍮・蘇鉄、）
一高三千八百拾三石壱斗四升壱合六夕三才

宮古嶋
一高壱万弐千九百拾七石五斗八升三合七夕七才

八重山嶋（従宮古島申酉方四十八里、産物米・人平布・苧麻、）
一高六千八百八拾壱石七斗四升四夕壱才
沖縄島ヨリ以来十嶋分
合高九万四千弐百三拾石七斗九夕四才　琉球國司領

琉球國草木鳥獣産物之事

一三段花　一佛桐花　一龍眼木　一赤木　一黒木　一楡（ガツマル）
一でこ　一阿檀　一福木　一やうが　一澤藤　一まめが
一月指　一風蘭　一名護蘭　一あわ蘭　一竹蘭　一もいくひ
一栗蘭花　一蘇鉄　一まね　一金子媒

右之外者日本ニ有之候草木のミニ而候、花實目ニ立不申、草木ニハ為替品多可有之、

一海馬　一綾鳩　一ふうつら　一黒鶏　一こかふ　一八重山蝙蝠

一琉球國之海外ニ隣國とて八無之候、乍然高砂と申所、唐江之海路より八程近有之由候得共、互ニ通融無之候事、

一はてるま嶋（八重山嶋之内）

此嶋琉球國先嶋ミはてなり、此所迄従鹿児嶋海上三百六拾弐里、

一あんまく、海老ニ似たる魚なり、海中ニ住、陸にもあがり田畑を損ざし申魚にて候由、取候て被下、別而宜魚ニ而候得共難取得魚之由候、俗ニ童子強勢に見得候をあんまくと申事八此魚之事ニ而候由、此はてるま嶋邊にも罷居魚之由候事、

琉球國拾五島

合高拾四万五千九百八拾七石三斗四升壱合三才

薩摩大隅弐箇國并日向国諸縣郡琉球國諸嶋々迄

都合御高八拾六万七千弐拾八石六斗七升弐合弐夕八撮

内

一高三拾三万千弐百八拾九石弐升壱合三夕六才　諸御蔵入

右之内

一高五万千七百五拾六石六斗四升九才　道之嶋

一同千八石八升弐合壱夕六才　神領司（諸領免）

高五拾弐万七百八拾六石壱斗五升四合七夕壱才　給地

右之内

一高二拾壱万七千四百七拾六石八斗六升五合九夕五才　鹿児嶋給地

一同九万九千三百弐拾壱石八斗七升八合壱才　外城給地

一同九万四千弐百三拾石七斗九夕弐才　琉球國司領

一同七千九百四拾四石六斗壱升四合五才　諸御免地

一同百八拾壱石六斗八升七合六夕五才　上下西田町屋敷

一同千弐百四拾八石弐斗弐升三合九夕　士屋敷座付

薩隅日琉球諸嶋迄

百三拾三ケ所

内五拾五ケ所　薩州外城

四拾二ケ所　隅州右同

弐拾ケ所　日州右同

拾五ケ所　琉球諸島

一人体三千弐百三拾弐人　鹿児嶋諸士

内七拾二人御寄合以上　高持千七百拾七人

無高千四百四拾弐人

一同壱万七千七拾八人　薩隅日三州外城衆中

内高持壱万弐千三百拾六人　無高四千七百六拾弐人

一神社四千四百拾五座　仏閣四千四拾六宇　寺院千八百五拾五軒（三州之惣高也、）

〆

御分國之巻　終

（表紙）

御家格御政治向

三州御治世要覧　三十七

三州御治世要覧巻第三十七目録

御家格御政治巻

御袖判 吉貴公

掟 吉貴公稱御条書共云

御目見之節進上物之訳

高上リ御格式被相定

一所持之事并一所持格

名一所之事

御寄合之事并御寄合並

小番

代々小番

代々新御番

一代小番之事

一代新御番之事

大番之事

諸座附士之事

外城衆中之事

附衆中之事

士以下足軽御小者諸座附御書院仕坊主之事

御一門大身分一所持一所持格御寄合御寄合並連名之事

私領之事

一所持ニ而當分一所不相見得衆

従一所持御寄合迄名一所有之人数并寺院

御直元服御内證元服迄島津称号之衆

二男名字拝領月並御礼　御家老組　六組小番　鹿児島諸士名字

御袖判

一去秋　大玄院様御卒去無遣方仕合ニ而、未齋茂不絶内、継目無相違被仰付、被任少将、累代之領國首尾好令相続、此節御老中上使ニ而御暇被下置、拝領物等段々先格不相替結構被仰付、難有次第候、國中者共謹而可存此旨事、

一兼日従　公儀被仰渡置候御条目之趣、且又時々被仰出候御法度之旨堅固可相守、就中幾里支丹宗門之儀御大禁之事候条、自然隠れ居候儀聞付候ハヽ、早速可申出之、一向宗之儀茂子細有之、當家代々令禁止之条、不可違犯事、

一家老中ゟ申付候趣、致違背敷(脱カ)候、其外奉行頭人ゟ申付候儀、支配中之者無異儀可相勤、惣而下役之者ハ其分ヶ相立候様ニ相心得、礼儀正しくましハリ、頭人ゟ茂下役に對し無礼なく叮嚀ニ相交、役所之風格無作法無之様ニ互可相嗜、且又不依何篇党をむすび類を引連判等をいたし、妨ニ成候儀者従前代禁止候間、弥可相守、此旨を違犯之者あらは重科可申付候、尤荷擔之者者本人可為同罪事、

一平日学文武藝を相嗜、親子兄弟其外類中むつましく、傍輩中之交無表裏、万端風俗を不乱正道に可相勤、武具馬具等之儀、其用にもとつき分限相應に可調置、見聞迄を存、異様之道具又ハ不應分限結構之道具調間敷候、亀相に有之候而も不事欠儀をもつはら考、用意可致置事、

一領國之者共、代々當家隨身いたし来候ニ付、都而古来旧友之筋目候、然者尋常何分ニも致熟談、喧嘩口事出入等不致様ニ可相

慎、自然口事出入等有之候節者、組中又ハ支配頭ゟ可相済、其頭人共大形取扱、軽儀を致披露為及沙汰候ハヽ、其頭人可為越度、勿論支配中之もの頭人之扱を不請、我侭を申ものあらは、先例之通可行重科事、

一若き者共髪月代惣而見くるしくいたし、何國にも士之風俗にあらさる無作法之所行共有之付、従先代稠敷被仰付候得共、于今其風儀不相改由不届候、武藝鍛錬ニ付、勇ましき業は可有之事候、容躰之義者眼前之事候故、気を付へき之處ニ、愛念之一通にまよひ、若輩者共を気侭に生立せ候儀、畢竟親兄弟不届条、此已後ハ親兄弟其外親類共ゟ稠敷可申付、勿論常々申付様大形成者、親兄弟親類共江其咎可申付事、

一不依大身小身、無益之費無之様ニ可[ヲノヲノ]咎、衣服等之儀、男女共ニ前々より御定置候趣有之、唐織類ハ雖不用、絹紬ニ而も過分ニ衣服を調候得ハ、費といひ、法度ニ候、無詮事候、此節相定趣、家老中ゟ可申渡候間、其旨を可相守事、

一不勤故身躰衰微、申付候奉公茂勤かたく成行候者、或我意を働諸人之妨になる者、或乱心之催有之候者共ハ、服忌相懸候程之親類又ハ家につき無據者共ゟ急度引請、首尾好様可相計、若右躰之従類無之者ハ、遠き親類縁者たりといふ共引取、宜相計、致油断家を免させ、又ハ及怪我候ハヽ、其可[ヲノヲノ]計親類中可為越度事、

一農民之仕置題目之事候間、飢寒之苦しミなきやうに扱之、耕作之時節を不違、年貢徴納等之儀無油断様ニ、田地之支配人并地頭職之者共精を出し可申付事、

右条々、無緩疎可相守、國中之者共ハ譜代之筋目ニ而候得者、聊於心底疎略有間敷候得共、代々之旧恩に馴心得違候者有之、地方之及批判儀なと候而ハ不可然候条、譜代之好を存、家之瑕瑾に不成様ニと於心懸者、可悦入候、勿論行跡よろしく、而々職堅固相勤候者、不依高下段々品能申付、又者其働時々可加褒美、地頭又ハ一所之地を遣置候者共、其外奉行頭人等茂、件之趣を以支配之仕置入念可申付者也

寶永二年十一月十五日

掟

一公義之御政務堅固相守之、段々被仰出御条目之趣、謹而可奉得其旨事、

一幾里志丹宗門之儀御大禁之条、領内稠敷所令制禁也、弥以相守此旨、自然隠居者於有之者、見立聞立可申出之、公義御褒美之上、自分之褒美急度可申付之事、

附一向宗之儀子細有之、常家代々令禁止之畢、若違犯之族有之者、不依貴賤宗門役人其外支配頭江可申出之事

一當家累代第一相守、公義之御政法并参勤交替無懈怠相勤之、日又國家之仕置無緩疎、就中[ヲ勤カ]付之首尾好所令連続也、國中之者共存此旨、励忠義奉公方無異儀可相勤之候、附親子兄弟之睦、朋友之交正礼法、不紊風俗、就中若者共学文武藝俄ニ修練難成事候間、別而心懸可相嗜之、其身勤正敷行跡能者者、奉公之品能可召仕之、速々我侭に生れ立、士に不似月代衣類等異様之為躰にて、大勢列立或路次門頭に寄屯、非法之狼藉等を働、仕置之妨に成儀甚以不可然、稠敷令制禁之事、

一武具馬具等分限相應に可調之、見分迄を存、或異様或結構成道具調間敷候、麁相に有之候共不事欠儀を専相考可致格護、左様

成無心掛、領過分之知行、忘数代之恩顧、耽身之安楽、或妻子以下之衣類を飾、或愛酒宴遊興、内證之驕に身上令衰微之輩者不勘之至也、尤雖為小身、應分限可致其心得、何之子細茂不相知令逼迫、奉公難勤者者可及僉儀之間、常々可用倹約、次ニ者一身之以才覚領地を雖致格護、何之勤も不致恣に誇利欲専自己之輩者、為國家之費之条、能々可守仕置之趣儀可為肝要事、附諸事奉公方申付刻、或軽儀を中立致詫言、或構虚病於令難渋者可為曲事事、

一家老中ゟ申付儀致違背間敷候、其外奉行頭人申付候趣、支配中之者無異儀可相勤之、惣而下役之者ハ其分ヶ相立候様ニ相心得礼儀正敷、頭人よりも對下役不致無礼可嘩に相交、役所之風格無作法無之様互可相嗜事、

一不依何色党をむすひ類を引、或畠屋或致連判、其所之妨に可成程之事を相企儀一切令禁止訖、若違犯之族於有之者可行厳科、

一事沙汰之儀於組中可相済、自然組中之扱於不致承引者可遂披露、決断之上非儀に相究候ハヽ可為重罪事、

一喧嘩口論堅所令停止也、万一不意之儀ニ而及争論候共、隨分致堪忍短慮之働無之様致覚悟、道理於有之者可遂披露、理不尽に事をやふるにおいてハ、沙汰之上加成敗可没収所帯、勿論双方荷担之人者、不論理非可為本人同罪事、

一隠居願之儀、或病者、或老躰之外申出間敷事、

一乱気之者於有之者、内々親類共其格護可申付之、令油断悪事を仕出候ハヽ、親類中可為越度事、

一不限地頭并領地一所之法外之仕置、非分之課役等於申付者可及沙汰、且又農民之仕置題目之事候条、飢寒之くるしミなき様ニ扱之、耕作之時節を不違、年貢取納等之儀無油断様、其支配人出精可申付事、

一諸所境目之儀、常々申付置之条別而入念、萬一隣國騒動之儀於有之ハ、實否共早速鹿児嶋江可令言上之、附境目他方江入交候所々、他領人と縁組又は別而致入魂儀、皆令禁止之事

右条々堅固可相守之、此外加判形申渡置候条目之趣、致忘却間敷候、就中留守中之儀、不依大身小身、領國静謐之儀専可心掛候、若違犯之族有之者、可及沙汰者也、

寶永三年四月朔日

御家格

御目見之節進上物之訳

一御太刀三種二荷

一右御一門并御家老之嫡子、其外ニ茂一所持・与頭之内、差立候筋目之嫡子、

一小身ニ而も御太刀三種二荷・二種一荷、無中絶上来候者者、其通可被仰付候、

一御太刀二種一荷

一与頭并与頭格之嫡子

一祖父親迄茂無中絶上来候者ハ、為差立訳無之候而も、嫡子ハ不相替進上物可被仰付候、

一二男家ニ而も右同断ニ候、

一此以後ハ二男を嫡子並之進上物者被仰付間敷候、且又致分地相勤候者茂嫡子並之進上物被仰付間敷候、然共為差立御役被仰付候者ハ格別候間、其節ハ相應之進上物可被仰付候、

一御太刀

一祖父親迄進上仕来候者ハ、小身ニ而も引続進上可被仰付候、

一地頭職被仰付候者ハ、依其職御太刀進上被仰付事候間、親地頭職之内嫡子　御目見仕候ハヽ、御太刀進上可被仰付候、

右通御太刀進上仕候者ハ、嫡子代々御太刀進上可被仰付候、

一祖父地頭職之内嫡孫　御目見之願申出候ハヽ、御太刀進上可被仰付候、祖父地頭職御免已後ニ而候ハヽ、嫡孫弓進上可被仰付、是茂嫡子代々弓進上可被仰付候、

一親地頭職御免已後嫡子　御目見仕候者ハ弓、其家ハ嫡子代くら進上可被仰付候、

一親地頭職不被仰付前嫡子御太刀外之品進上仕、初而之　御目見相済候ハヽ、何そ之折目、且又名替不致候而不叶訳有之、名替之詮為相立願付而ハ、親地頭職之内有之候ハヽ、御太刀進上可被仰付候、

一家筋之儀を申立上来候進上物之外、新規ニ願申出候而茂御請付有間敷候、御奉公ニ付、依働次第ハ不限此儀、品能可被仰付候、

一弓

一祖父親ゟ二種一荷ニ而　御目見仕候者、此節ゟ弓進上可被仰付候、

一中紙

右弓進上以下、

小番入願付而被極置覚

一祖父親迄引続小番相勤候者ハ、小身ニ而も不相替小番可被仰付候事、

一地頭職被仰付候者、又ハ御留主居之格程之御役被仰付候者ハ、小番不仕来候共、右之通之格式ニ為被仰付者ニ候間、嫡子計ハ代々小番可被仰付候事、

一御馬廻リ并於江戸馬相立相勤候者ハ、其身計ハ先小番可被仰付候、左候而無中絶三代も右通相勤候ハヽ、代々小番相勤候様可被仰付候事、

一小番之儀、依持高ハ不被相定、時々御見合次第可被仰付候、且又不限此儀中絶之儀、依願ハ御取上有間敷候間、小番被仰付格之者御役相勤、又ハ餘事之御奉公ニ而御番入不仕者ハ、申出次第小番帳可載置候、不申出不御番入者ハ中絶ニ可罷成事、

一家筋之儀を申立、小番入之儀新規ニ申出候而茂御取上ゟ有間敷候、御奉公之働次第品能可被仰付事、

右之通、此節格式被相極置候間、堅固可相守候、以上、

寳永三年戌二月　日

高上りニ付而段々御格式被相定

一萬石成御免之儀、別而之訳無之候ハヽ、御免被成間敷候、當分萬石以上之面々、高上り御免被成間敷候事、

一寄合并之格ニ而無之候者ハ、千石ニハ御免被成間敷候、只今迄持来候者ハ格別ニ而候、千石以上ニ而茂其上ハ高上り御免被成間敷候事、

一祖父曽祖父代より茂屹立候御役相勤候者子孫、且又地頭職被仰付候者ハ、五百石成御免可被成候、小番迄勤来候者ハ五百石成御免被成間敷候事、

一三百石成ハ代々士筋ニ而、近代御歩行格之勤迄を仕、其身茂其通候ハヽ御免被成間敷候、乍然江戸なとニ道中鑓持せ候程之勤

仕候ハヽ、様子ニより御免被成儀茂可有之候、道中鑓持せ候共、右躰之者、其身御歩行格之者ニ而鑓持せ候共、御免被成間敷候事、

一初而高持成願申出候者ハ、吟味之上御免可被成候、

一外城養子其身代高五十石ニ者被仰付間敷候、倅代ニハ五十石以上ニも可被仰付候、座付士者三十石ニハ被仰付間敷候、右通候得共、御奉公之品ニより候而者格別候、只今迄持来候者、右之程ゟ上候高ニ而候ハヽ、高上りハ被仰付間敷候、

一外城より養子ニ罷成候者、三四代過候ハヽ、百石成御免可被成候、座附御赦免者座を離御奉公仕候ハヽ、三四代相過、五百石程成候願申出候ハヽ、御免可被成候、三四代之内ニ而も、諸奉行格無役ニ而も、御馬廻り又ハ小番ニ御免被成候ハヽ、百石成御免可被成候、

一外城養子ニ而も小番ニ被召入候ハヽ、三百石成御免可被成候、且又御赦免者小番相勤候筋目之養子ニ罷成、小番相勤候ハヽ、且又三百石成御免可被成候、

一外城者又ハ御赦免者、其身藝能ニ付被召出候者、又ハ筆者小役人躰之勤迄ニ而大番相勤躰候ハヽ、百石成御免被成間敷候、乍然月並御目見仕程之御役相勤候欤、又者中通ニも被仰付程之者ハ、百石成御免可被成候、

右之通、段々高上り被相定候得共、或は病者、或ハ御奉公難勤躰之者ハ、向後高上り御免被成間敷候、

一外城衆中、高上り以前より士筋ニ而、三四代差立勤来候者之子孫高上り申出候ハヽ、百石迄ハ御免可被成候、祖父曽祖父御赦免之者子孫、當時衆並ニ勤居候者、五十石迄ハ高上り御免可被成候、外城衆中之儀、惣而百石以上ニ者高上り御免被成間敷候、以前より百石以上持来候者御構無之候、當分持高百石以上ニ而、其上之高上り願申出候共、御免被成間敷候、

一外城衆中、何そ御奉公不仕者、或幼少、或病者躰之者、御奉公不仕罷在候共、此節より小普請被仰付候、尤小普請ニ被召入候者、弥小普請銀被仰付候、

右者寄合又ハ寄合並格之者共より以下高上り之儀、且又外城養子并御赦免高上り之御格式被相定候間、時々入念吟味之上可奉伺候、且又外城衆中高上り之儀ハ、向後時々地頭所江申出候様申渡、此節被相定候趣を以願出候者之節目相糺、高上り之儀申出候ハヽ、御家老承届可差免候、小普請之儀は御奉公不仕者、又ハ小普請ニ被召入候者相糺、鹿児嶋改同前於地頭所相しらべ、明所ハ當番御用人よりしらべ之上可申出候、右之通被相定候間、諸地頭并表方支配中可致通達候、以上、

正徳三年巳九月

一所持之事并ニ一所持格

一所持とハ、古来一所之外城ヲ持傳候人一所持と申、一名持来候人者一所持列と為申由ニ候、當時ハ御格ニ罷成、一所地無之候而も一所持と申御格ニ罷成候、川上（鹿児島名之内）川田（郡山之内）月野（志布志之内）大野（田布施之内）吉利（前代ハ伊集院之内之一名）中津川（曽之内）石谷（伊集院之内）抔者其所之一名ニ而候得ハ、一所一円ニ者相替、一列之内とハ難申事と相見得候、今以宮之城（附佐司）、鹿野屋（附新城）、大村（附薗牟田と有之候得ハ、是も屹と一所ニ為相立と申ニ而ハ無之候得共、諸地頭帳ニも私領と相立有之候得ハ、外之知行所とハ相替申候、石谷之儀

ハ右之帳内ニも不相見得候、前代之一所ハ大方一名式名相領ゞ、其内ニ城を拵、其所ニ致居住候、是皆一所列と唱申ニ候事、

名一所之事

名一所之儀、一所持并一所持格ニ而も無之、御寄合之衆ニも名一所被致所持候而も、やはり御寄合ニ而被罷居候衆有之候、尤一所持之儀者、一所之外ニ段々名一所所持ニ而候、一所持格同断、

御寄合之事并御寄合並

御寄合、以前ハ歴々衆又ハ御直触と申、御家老与ニ入被罷居由候、御寄合並ハ御直触並と為申由候、只今ハ御寄合・御寄合並迄ハ為表立家格ニ罷成候事、

小番

以前小番被相勤候衆ハ、皆歴々大身ニ而無之候得ハ、相勤申儀難成、又大身ニ而も不被仰付衆而已為有之由ニ候、御家老役被相勤候衆之嫡子、小番被相勤候衆も有之、一所衆ニ而も小番被相勤候衆も有之候間、御与頭之二男、御与頭列ニ家不被召立候衆者、何れも小番可被仰付儀歟と考申候由、古ゞ御記録所之調書ニ相見得候由、

龍伯様御代國分御番帳

新納四郎右衛門　三嶋小平三　坂元孫次郎　山田民部少輔

平田主水左衛門　村田十次郎

右六人、相番人数之由、此本書國分衆中平田利右衛門所持之由ニ而候、於鹿児嶋も中納言様御代迄ハ別而少人数ニ而為有之由候、鹿児嶋ニ而伊地知権左衛門入道増也若輩之砌、小番被相勤候時分ハ、三番かへり之御番ニ而為有之由候、本田作左衛門・伊東九左衛門・相良甚左衛門抔小番被相勤候由、酒勾大蔵兵衛小番入願書左ニ相記候、

口上覚

乍恐申上候、私養祖父酒勾新左衛門江、初而鎌田大炊殿御取次ニ而小番可相勤旨被仰渡候処ニ、其砌者小番相勤居候衆皆々大身ニ有之、僅取納高弐拾七石餘之小身ニ而中々小番可相勤様無御座候ニ付、一節大番ニ被召入可被下由奉願、大番帳ニ被召入置候由、内々養父利左衛門申聞セ置候、依之奉訴候、右之通新左衛門不案内と申、畢竟無身上故御断申上候、然ハ拙者代ニ家之儀段々申上、達貴聞、首尾能被仰付、御銀并御繕米被成下、難有仕合ニ奉存候、新左衛門代ニ右之仕合ニ付迷惑ニ御座候、何とそ此節小番ニ被召入被下度、偏ニ奉願候、私事最早年罷寄、御奉公可相勤様無御座候得共、願之通被仰付被下候ハヽ、世忰利兵衛往々小番相勤させ、江戸方之御奉公をも為仕度念願ニ奉存候、誠以　先祖代々差立候而被召仕候処ニ、近代右之通罷成、別而残念之至奉存候条、願之通被仰付被下候様ニ被仰上可被下儀奉願候、以上、

辰八月五日　　酒勾大蔵兵衛

一家久公御代之中程ゟ太平之御世ニ罷成、軍陣之勤無之事ニ罷成、大身歴々ゟ諸士ニ至迄物入無之、所帯宜敷罷成候由、然共将軍家御上洛ニ付、　家久公ニも供奉被遊、　中納言ニ御任官等之儀ニ付而者過分之御物入有之、諸士持高四部壱上りと申事、此前後之様ニ承事ニ候、然共諸士所帯宜敷有之候印ニハ、福昌寺・浄光明寺・南林寺其外所々寺々ニ有之候諸士墓、寛永年中之比ゟ大墓有之候、其前之墓ハ有之候而も少く、大形諸木共植置候形ニ而、墓所然と不相知候、　寛陽院様御代ニ罷成、江戸江御馬廻り等ニ而参候得ハ、泣(なき)八人と申候而御馬廻り等ニ而上下

拾人之御賦被下候得共、上下八人ゟ内ニ而参候儀難成、大形上下拾人ニ而馬をも鹿児嶋より索せ参候故、過分之物入有之、小身ニ而相勤候儀不罷成候故、願出候者無御座候ニ付、鹿児嶋・諸外城ニ而高弐百石以上も致所持候得ハ、御見合を以被仰付為参事之由候、右ニ付而者、先祖ゟ御役等不相勤人ニ而も、弐百石以上ニ持高有之候得ハ願出、御馬廻り御借シ馬と申ニ而為参由候、不願出候得ハ、出合不宜様ニ為有之由候、尤御見合を以為被仰付由候、　大玄院様御代ニ罷成、右之通ニ而、御馬廻り相勤候人者直ニ小番相勤、其子之代親小番相勤候得ハ、其段願申出相勤候様ニ罷成候故、小番別而多人数ニ為罷成由ニ候、

浄國院様御家督之節、小番願申出候者ハ大形被仰付、其後只今之御格ニ為被仰付由候事、

代々小番之事

以前ハ代々小番と申儀も無御座、親小番相勤候得ハ、其子小番願申出相勤候様ニ為有之由候、然共當御格被相定候以後、其通ニハ不参候、代々小番ニ不被仰付候得者、無役ニ而小番相勤候儀ハ不罷成様ニ罷成候、

代々新御番之事

一古ハ六人賦之御奉公、何代相勤候而も拾人賦之御奉公不相勤候得ハ、大番為相勤事之由候、浄國院様御代新番被召立、三代六人賦之御奉公相勤候得ハ、代々新御番ニ被召入候事、

一代小番之事

一其身地頭職被仰付、亦地頭不被下候而も御留主居程之御役相勤中候得ハ、一代ニ而代々小番ニ被召入候、無左候得ハ、三代引続十人賦之御役不相勤候得ハ、其身一代宛之小番ニ而候、

一代新御番之事

一一代小番同断、

大番之事

一大番、古ハ上下着用ニ而御番相勤候由、當分ハ袴ニ而相勤候、

諸座附士之事

一主従賦ニ而其御座之御奉公相勤候、三人賦大番並之御奉公ハ不被仰付候、　御目見之節茂敷居越ニ而候、席違申候、大故席違之士共申候、諸事被仰渡候儀も、諸士之末席ニ而申渡候様ニと被仰渡置候由、角入前髪取等ニ而、六与之士御家老衆御見分之節も、諸士ハ壱番与ゟ次第ニ六番与迄罷出事ニ候得共、席違ハ与ニ無構、六与諸士罷出候跡ニ而御見分有之候、座附士ハ士之号御免ニ而、六与之内ニ被召入、御目見迄も被仰付候、外城衆中之儀ハ外城ニ罷居衆中号ニ而、鹿児嶋六与ニも不被召入、御目見も被仰付候、然共江戸江参候節ハ三人賦ニ而、鹿児嶋士同例ニ御奉公相勤、高上リ之儀も、以前ゟ士筋ニ而三四代差立御奉公相勤候者之子孫、百石迄者高上り御免可被成、祖父曽祖父御赦免者之子孫、當時衆並ニ勤居候者ハ、五十石迄ハ高上り御免可被成と被仰出候、座附士之儀、高三十石ニハ被仰付間敷候、右通ニ候得共、御奉公之品ニより候而ハ格別ニ候と被仰出候、然ハ外城衆中ゟ二事欠候而下リニ而候、然共外城衆中ハ与ニも不入、御目見も不仕候得ハ、又二事欠候、依之何そ之御しらべ之節ハ、外城衆中同格ニしらべ事有之事之由ニ候、右鹿児嶋諸士と申候、

一外城之儀、役目ハ格別、其外ニ家之高下は御取分無之、乍去曖筋と申候而、代々曖役相勤候も有之候得共、曖・与頭筋と申御

格ハ無之候、以前ハ御馬廻り新御番ニ而江戸詰被仰付候而、於江戸ハ鹿児嶋御歩行役之頭ニ居候得共、本外城ニ罷帰り候得者、又候曖・与頭夫々之役目仕候、當分ハ外城衆中賦等無之候事、

但軽キ物ゟ芸能を以外城衆中ニ賦免被仰付者、大形ハ足軽ニ而、以後ハ御城下士ニ被仰付候、其外城ニ罷居候者ハ別而少ク御座候、

附衆中之事 従是以下足軽・御中間・御小者・諸座附・御出入院仕坊主等者、何れも片書名字同格ニ而御点と中計、凡下之者ニ而候事、

一一所持・一所持格・寄合并小番迄之間ニ、其家々ニ為相附有之候、是ハ衆中之格式下り 何方外城ニ而も預り衆中ニ而役目等不申付、又申付候外城も有、然共江戸江参候節ハ三人賦ニ而、中小姓役相勤候由ニ候、

御一門・大身分・一所持・一所持格・寄合並御家格連名

嶋津周防殿（東市） 嶋津兵庫殿（加治木） 嶋津備中殿（垂水） 嶋津因幡殿（今和泉）

右四家御一門

嶋津左衛門（大身分・日置） 嶋津大学（大身分・花岡） 川上久馬 ○嶋津大蔵

嶋津圖書 嶋津藤九郎（黒木） 嶋津又七（永吉） 嶋津杢殿（知覧）

嶋津左仲殿（佐敷） ○嶋津助之丞 新納四郎 樺山左京殿（薩摩田）

嶋津筑後（大身分・都城） 桂 織部殿 ○嶋津頼母 ○嶋津求馬

喜入主馬殿（鹿籠） 町田主計 ○嶋津清太夫 ○嶋津内記

北郷主膳 嶋津内蔵 ○嶋津矢柄 大野多宮

吉利杢右衛門 ○嶋津十太右衛門 ○伊集院伊膳

種子嶋左内（墨子嶋） 嶋津右膳（市成） 頴娃内膳 小松式部

入来院隼人（入来） 比志嶋要人 肝付左門（肝入） 菱刈藤馬

諏訪甚六 川田伊織殿 ○畠山数馬 ○鎌田蔵人

○伊勢兵部 嶋津市太夫（勇成） 市田

合四十四人一所持・一所持格（内三十弐人一所持・十弐人一所持格）

御寄合

義岡左平太 山岡齋宮 嶋津主右衛門 末川織江

嶋津彦太夫 川上弥五太夫 嶋津主鈴 嶋津 登

郷原金太夫 川上源之進 新納次郎四郎 樺山権右衛門

北郷七郎左衛門 北郷権五郎 嶋津仲殿

伊集院十右衛門 新納五郎右衛門 町田源左衛門

伊集院十蔵 新納十郎左衛門 川上頼母 山田新助

鎌田典膳 平田平十郎 高橋縫殿 仁礼仲右衛門

二階堂 都 二階堂源太夫 名越左源太 小林中太兵衛

北条十左衛門 本田信次郎 相良新助 平田平太左衛門

堀四郎太夫 鎌田太郎左衛門 鎌田一藤太

小笠原郷左衛門 市来次郎左衛門 河野八郎左衛門

赤松甚右衛門 渋谷喜三左衛門 宮之原甚五太夫

合御寄合四十三人

御寄合並

村橋左膳 北郷助太夫 伊勢新五郎 西 平太

一所持ゟ御寄合並迄凡人数九拾壱人

私領

重富 嶋津周防殿 加治木 嶋津兵庫殿

垂水 嶋津備中殿 今和泉 嶋津因幡殿

花岡 嶋津大学 新城 嶋津市太夫

市成 嶋津右膳 種子嶋 種子嶋左内

知覧 嶋津杢殿 喜入 肝付左門

鹿籠 喜入主馬殿 吉利 小松帯刀殿

永吉 嶋津又七郎殿 日置 嶋津左衛門

平佐 北郷作左衛門 入来 入来院隼人

宮之城　嶋津又五郎　　黒木　嶋津藤九郎
薩牟田　樺山左京　　佐司　嶋津左仲殿
都之城　嶋津筑後　　合弐拾壱ケ所

一所持ニ而當分一所不相見得衆

川上久馬　新納四郎　桂　織部　大野多宮
吉利李右衛門　比志嶋要人　菱刈藤馬　諏訪甚六
川田伊織

従一所持御寄合迄名一所有之人数

一 清水之内 川原村　一 志布志之内 伊崎田村　一 東郷之内 藤川村
一 浦生之内 下久徳村　一 飯野之内 坂元村　右持留 嶋津周防殿
一 踊之内 持松村　一 大崎之内 今田村　一 馬越之内 前目村
一 羽月之内 下殿村　一 大口之内 小木原村　一 濱辺之内 竹子村（宮川内濱之川鹿書）
右村之持留 嶋津兵庫殿（家来兵庫持来）
一 串良之内 岩廣村　一 伊作之内 田尻村　嶋津因幡殿
一 大崎之内 永吉村　一 大姶良之内 西俣村　一 高崎之内 縄瀬村
一 庄内高城之内 東霧嶋村　一 鹿之屋之内 上名村　右持留 嶋津備前殿
一 大姶良之内 野里村
一 馬関田之内 嶋内村　一 羽月之内 川岩瀬村　一 馬越之内 徳邊村　右持留 嶋津又五郎
一 伊集院之内 飯牟礼村　嶋津左衛門
一 伊集院之内 石谷村　町田主計
一 末吉之内 五十町村　一 末吉之内 中之内村　一 国分之内 野久見田村　右持留 伊勢兵部
一 伊集院之内 入佐村　小松帯刀殿
一 樋脇之内 中村　一 樋脇之内 楠元村　一 曽木ノ内 針持村
一 伊集院ノ内 嶽村　右持留 北郷主膳
一 頴之内 上中津川村　伊集院十右衛門
一 頴之内 三躰堂　新納波門
一 小林ノ内 堤村　嶋津又七郎
一 川辺ノ内 神殿村　新納五郎右衛門
一 大口ノ内 木氏　新納次郎四郎
一 恒吉ノ内 坂元村　嶋津内記
一 敷根ノ内 湊村　一 串良ノ内 川東村（此二ケ名、実之名一所と申二而無之由候、一所ニ過分有之、知行川東村八半分方之由候）　種子嶋左内
一 大崎ノ内 菱田村（右同断、持留持有之、家来共過分罷居之由候、）　嶋津筑後
一 大姶良ノ内 南村　鎌田蔵人
一 加久藤ノ内　嶋津助之丞
一 鵜ノ内 宿窪田村（一所と申二而無之、知行過分所持ノ由、）　伊集院伊膳
一 同（右同断、同村ノ内戸谷と申所ニ、過分持留有之、家来共罷居之由候、）　瓶娃波江

寺院一所

一 郡山之内厚地村　大乗院
一 谷山之内宇宿村・同平川之内古屋敷　福昌寺
一 鹿児嶋名之内花野村　浄光明寺
一 帖佐之内増田村　南泉院
一 川邊之内今田村　坊津 一乗院
一 志布志之内田之浦村　志布志 大慈寺
一 曽於郡之内田口村半分之由候　曽於郡 霧嶋山
一 加久藤之内　飯野 白鳥山

（御直元服御内證元服迄島津称号之衆・二男名字）

一御直元服二男迄御直元服之衆

嶋津兵庫殿　嶋津玄蕃殿　嶋津周防殿　嶋津因幡殿　嶋津左衛門

一嫡子御直元服二男御前元服之衆

嶋津大蔵殿　嶋津圖書　嶋津主殿　嶋津小平太　嶋津市太郎

新納四郎　嶋津筑後

一嫡子御直元服迄之衆

樺山主計殿　桂　太郎兵衛　嶋津郷太夫　嶋津求馬　喜入主膳　町田郷九郎　嶋津帯刀　嶋津内紀　北郷四郎　嶋津市太夫　嶋津弥市郎　大野七郎太夫　吉利李右衛門　嶋津内蔵　伊集院吉太夫　種子嶋弾正　嶋津主水　頴娃左京殿　祢寝孫左衛門　入来院主馬　比志嶋隼人殿　肝付典膳　菱刈孫兵衛　諏訪次郎左衛門　畠山喜藤次　鎌田小藤次　伊勢兵部　義岡左平太　山岡権左衛門　嶋津彦太夫　嶋津右平太　嶋津権五郎　川上縫殿　新納次郎四郎　新納五郎右衛門　町田宇右衛門　伊集院十蔵　山田新助　鎌田源左衛門　平田次郎兵衛　仁礼十兵衛　新納喜右衛門　比志嶋仙太夫　諏訪仲右衛門　土持新八　渋谷三四郎

一御前元服

河田与右衛門　三崎小平次　郷原金太夫　伊勢新五郎　本田作左衛門　秩父十郎兵衛　肝付八郎左衛門

一元服之御礼

桂李右衛門　伊集院蔵人　種子嶋十次　川上助太夫　本田孫右衛門　高崎惣右衛門

一御内證元服

嶋津孫四郎　相良新助

一嶋津之称号被下置候面々二男以下名字拝領之人数

一末川嶋津玄蕃殿　一村橋嶋津兵庫殿　一赤山嶋津左衛門

一村森嶋津周防　一三崎嶋津大蔵殿　一山林嶋津圖書

一倉山嶋津藤九郎　一九良賀野嶋津主殿殿　一佐多嶋津李殿

一谷川嶋津小平太　一三木原嶋津市太郎　一北郷嶋津筑後

一平屋嶋津郷太夫　一柳　嶋津求馬　一黒岡嶋津帯刀

一基太村嶋津内記　一細瀧嶋津市太夫　一岩越嶋津孫市郎

一川久保嶋津内蔵　一土岐嶋津主水　一吉崎嶋津助左衛門

一板鼻嶋津彦太夫　一大熊嶋津右平太　一掛橋嶋津権五郎

一栗川嶋津権左衛門

一御家之字名乗来候面々ニ二男以下名乗之字拝領人数

一朗　嶋津兵庫殿　一将　嶋津玄蕃殿

但玄蕃殿、元文二年巳七月、従総州様　御諱之貴之御一字拝領被成候ニ付、嫡子ハ右貴之字永代被相用候様ニ仰渡置候、

一歳　嶋津左衛門　一英　嶋津周防

右四人、二男迄ハ永代久之字御免、三男ゟ拝領之字被相用筈ニ被仰渡候、

一親　川上一学　一明　嶋津大蔵殿　一尚　嶋津圖書

一孝　嶋津藤九郎　一輝　嶋津主殿殿　一直　嶋津李殿

一清　嶋津小平太　一廣　嶋津市太郎　一時　新納四郎

一資　樺山主計殿　一資　嶋津筑後　一勝　桂　太郎兵衛

一記　嶋津郷太夫　一房　嶋津求馬　一譽　喜入主膳

一俊　町田郷九郎　一用　嶋津弥一郎　一用　大野七郎太夫

一用　吉利李右衛門　一實　義岡左平太　一俊　伊集院蔵人

一雄　郷原金太夫

右人数、嫡子迄ハ代々久之字御免、二男ゟ拝領之字被相用筈ニ被仰渡置候、

嶋津帯刀　嶋津内記　北郷四郎　嶋津市太夫　嶋津内蔵

伊集院吉太夫　山岡権左衛門　嶋津助左衛門　嶋津彦太夫

川上孫八　嶋津右平太　嶋津権五郎　新納次郎四郎

樺山長太夫　北郷七郎左衛門　桂　李右衛門　新納五郎右衛門

町田宇右衛門　伊集院十蔵　新納十郎左衛門　三崎平太

村橋左膳　北郷助太夫

右人数ハ夫々之庶流ニ而候得共、寄合並以上之格式ニ候故、嫡子計ハ代々久之字御免被成候、二男以下ハ嫡家江被下候字を用中筈ニ被仰渡置候、

嶋津主殿　頴娃右京殿

右両家、代々嫡子計久之字御免、二男より御家之字名乗申間敷旨被仰渡置候、

種子嶋弾正（此家右所格久之字御免と見得申候、爰ニ不相見得候ニ付、書入置候）

一良　亀山仲左衛門　一直　山田九郎左衛門

一安　碇山次郎太夫　一有　大嶋次郎太夫

一経　迫水善左衛門

右者共、御直別之家筋候間、嫡子迄ハ久之字御免被成候、二男ゟハ此節被下候字を用可申候旨、被仰渡候、

一長（伊作家庶流若松氏嫡流）若松正左衛門

一用（薩州家庶流大田氏嫡流）大田五郎右衛門

一（薩州家庶流寺山氏嫡流）寺山源右衛門

一行（越前嶋津家庶流出所不相知候）宇宿覚兵衛

右四人、名乗之字拝領被仰付候、

一長（伊作家庶流西氏嫡流加世田衆中）西　藤四郎

一用（薩州家庶流内氏嫡流鹿用衆中）西川六太夫跡

右式人、名乗字拝領被仰付候、

一時（羽月衆中）阿蘇谷彦左衛門

右之通、名乗拝領被仰付候、

一長　石見与吉郎

右伊作名字名乗来候得共、石見と名字拝領被仰付、名乗之字長之字用可申旨被仰渡置候、

一氏（和泉嫡流断絶庶流塩津玄蕃殿家来）和泉吉兵衛

一長（伊作家庶流恒吉氏嫡流嶋津兵庫殿家来）恒吉金左衛門

一行（越前家庶流知覧氏嫡流嶋津筑後家来）知覧兵太

一氏（帥久公御嫡子伊久之二男家嶋津筑後家来）相良弥市右衛門

一氏（貞久公六男但馬守氏忠嫡流塩津筑後家来）石坂与右衛門

右者共、名乗之字拝領被仰付候、

一千竈　伊作清右衛門

一川崎　伊作諸右衛門

一川崎　伊作慶右衛門

一市来　伊作与右衛門

右四人、名字替被仰付候、

但右四人之衆、名字拝領ニ而ハ無之、何そ名字願出候様ニ被仰渡、右之名字願出候得ハ、願之通之名字ニ被仰付候由、咄承候、

月並御礼之次第

独礼　左衛門　大学　圖書　筑後

御子様　寺社奉行　御勘定奉行　与頭　御番頭

一以前ニ右御役相勤候者　一所持　一所持格　寄合　一所持之嫡子　一所持格之嫡子　寄合之嫡子

寄合並ゟ以下席違

寄合以上之二男三男　寄合並之嫡子　御用人　町奉行　江戸・京・大坂留主居　物頭　移地頭　無役之地頭　御船奉行　御使番　御普請奉行　長崎御附人　高奉行　物奉行　御廐御馬方　御目附　請奉行　出水・大口・高岡地頭代　唐船請込方　寺社方取次　御勘定方小頭代官　表御小姓　御書院役人

右之通ニ而候、左ニ委相記候、

月並御礼之節独礼之次第

左衛門　筑後　頼母殿　式部殿　主馬殿　求馬殿　仁十郎殿

又次郎殿　大学　石見

独礼之儀者、年頭之節者名字迄も相唱候、

寺社奉行　御勘定奉行　川上縫殿　嶋津又七　嶋津小平太　大野七郎太夫　伊集院十右衛門　喜入主膳　伊集院十蔵　新納五郎右衛門　町田宇右衛門　嶋津右平太　北郷四郎　伊集院徳袈裟　鎌田源左衛門　鎌田太郎右衛門　宮之原甚太夫　嶋津市太郎　鎌田小藤次　新納伊織　嶋津八郎左衛門　種子嶋太郎左衛門　義岡左平太　嶋津宇左衛門　嶋津権五郎　川上久馬　祢寝内記　菱刈孫兵衛　川田与右衛門　伊勢兵部　川上弥五太夫　新納次郎四郎　樺山長太夫　北郷七郎左衛門　山田新助　高橋七郎右衛門　大野藤四郎　入来院右近　川上孫八　川上源十郎　樺山助四郎　新納七郎左衛門　平田兵十郎　仁礼小吉

寄合並ゟ席違

三崎平太　郷原金太夫　嶋津権左衛門　北郷助太夫　伊勢新五郎　西　彦太郎　赤山佐左衛門　赤山万次郎　三崎吉次郎　九良加野平八　倉山藤八　佐多喜六郎　伊集院六郎　基太村和太夫　北郷七左衛門　伊集院杢兵衛　種子嶋権四郎　川上権之進　伊集院千兵衛　御用人　町奉行　江戸・京・大坂御留守居　物頭　無役之移地頭　御船奉行　御使番　御普請奉行　長崎御附人　高奉行　物奉行　御廐別當　御目附　山奉行　郡奉行　金山奉行　御細工奉行　屋久嶋奉行　宗門改方　出水・大口・高岡地頭代　唐船方請込　寺社方取次　御勘定小頭　同吟味役代官　御台所頭　御春屋役　表御小姓　御書院役人　表御同朋　梶山・穆佐・綾在番　隈之城押　御礼惣様相済　表御目附

右之次第を以御座配有之事之由候、此書付者　有邦院様御代之書付ニ而候得者、常分者段々御格式為相替筈ニ候、尤罷出候面々も、只今之人々より八祖父或親代ニ為罷成賦ニ候、年頭・八朔・五節句・毎月朔日・十五日・廿八日ニハ、右御座配之由候、右相済、諸士御目見御請被遊候、何そ御祝儀・五節句等、諸士ハ此引次ニ一座一統ニ御目見仕候、

元文五年申二月二十日

御家老与人数

島津玄蕃殿　島津兵庫殿　島津大蔵殿　島津杢殿　樺山主計殿　頴娃左京殿　堀四郎太夫殿　種子嶋織部殿　嶋津左衛門　嶋津大学　嶋津圖書　嶋津筑後　嶋津要人　伊集院十蔵　嶋津右平太　山田新助　小笠原郷左衛門　嶋津平八　川上一学　鎌田源左衛門　郷原金太夫　山岡権左衛門　鎌田太郎右衛門　川田与

右衛門　諏訪次郎左衛門　二階堂舎人　菱刈孫兵衛　伊集院十
右衛門　嶋津帯刀　町田郷九郎　三崎平太　嶋津藤九郎

壱番与小番

新納小右衛門　二階堂森右衛門　西　八兵衛　本田久米右衛門
堀　堀右衛門　北郷喜三次　本田新助　東郷拾左衛門　大野清
太夫　川上助六　鎌田平左衛門　蒲生十郎右衛門　鹿嶋郷兵衛
高田茂太夫　中原伊右衛門　中村与太夫　村上彦八　野村大右
衛門　小沢小左衛門　米（ホウ）新右衛門　矢野清右衛門　牧　源兵衛
丸田金左衛門　丸田弥右衛門　有馬次右衛門　芦谷蔵右衛門
相良源左衛門　相良傳八　相良権太夫　相良四郎兵衛　猿渡仲
右衛門　相良佐平次　三嶋仲左衛門　築崎八右衛門跡　柴　惣
左衛門　渋谷次郎左衛門　菱刈彦四郎　菱刈新兵衛　平田五次
右衛門跡　戸田七郎太　町田孫七　町田七郎左衛門　岩下佐次
右衛門　伊集院主右衛門　合四十四人

弐番与

碇山次右衛門　伊集院六左衛門　伊集院仁左衛門　伊地知助太
郎　伊地知嘉右衛門　伊地知越右衛門　伊地知新太夫　伊勢十
兵衛　岩元清左衛門　長谷場源助　土岐市左衛門　土岐藤左衛
門跡　岡元仙兵衛　尾上甚五左衛門　和田乗助　汾陽源右衛門
汾陽次郎左衛門　上村権右衛門　川田仲太郎　種子嶋次郎右衛
門　田尻八郎右衛門跡　高城六右衛門　曽木甚右衛門　村田平
右衛門　梅田九左衛門　米田嘉右衛門　山田造右衛門　山田九
郎左衛門　薬丸長左衛門　山元猪散太　藤野休左衛門　國分次
郎右衛門　相良市郎左衛門　木脇仁右衛門　岸良清右衛門　美
坂太左衛門　関山軍兵衛　合三十七人

三番与

家村杢太郎　入佐助八　新納九右衛門跡　新納次郎五郎　仁礼
覚左衛門　仁礼正善五　本田次郎右衛門　本田新右衛門　法元
太郎左衛門　中馬源兵衛　大場杢平太　上井五郎左衛門　川上
弥八郎　川上弥右衛門　川村四郎左衛門　上村茂兵衛　甲斐正
左衛門　柏原周右衛門　四本宇左衛門　種子嶋善左衛門　種子
嶋宇平次　谷山孫右衛門　武宮八左衛門　高城拾左衛門跡　名
越太郎左衛門　村田与三左衛門　上原小助　野元源左衛門　山
口平左衛門跡　藤崎六郎兵衛　郷田源左衛門　是枝中存院　國
分藤之丞　弟子丸与次右衛門　弟子丸弥八郎　阿多六太夫　有
川六弥左衛門跡　有馬源太左衛門跡　喜入佐司右衛門　三原次
郎四郎　三原次郎左衛門　三原善兵衛　諏訪八郎右衛門　毛利
善太夫　川上休次右衛門　合四十五人

四番与

市来八左衛門　家村彦左衛門　岩下新左衛門　仁礼善左衛門
二階堂五郎太夫　二階堂十郎兵衛　丹生助右衛門　西田嘉左衛
門　東郷藤右衛門　冨山弥右衛門　大田金兵衛　大田筑左衛門
大山後角右衛門　川上十郎左衛門　鎌田主左衛門　海江田半蔵
川崎源右衛門　吉田次郎左衛門　四本庄蔵　高崎五右衛門　土
持新八　奈良原助左衛門　村尾源左衛門　久保七兵衛　佐々木
八郎兵衛　山崎蔵右衛門　矢野大右衛門　山本五郎左衛門　阿
多十兵衛　阿蘇助左衛門　酒勾太郎左衛門　佐久間源太夫　清
水源右衛門　木村四郎左衛門　三原六兵衛　宮之原甚五太夫
志岐兵藤次　平出新兵衛跡　諏訪仲右衛門　諏訪八左衛門　関

為兵衛　森川孫六　肥後与左衛門　日高六右衛門　合四十四人

五番与

伊集院嘉左衛門　伊集院権右衛門　伊集院休右衛門　伊集院休兵衛　伊勢八右衛門　今井仁右衛門　岩山直次郎　石黒登五左衛門　長谷場伊角　新納藤右衛門　新納四郎兵衛　新納弥兵衛　二階堂与右衛門　西俣彦左衛門　新納喜三兵衛　西　十郎右衛門　新納平太夫　細江弥右衛門　大嶋清太夫　大寺太郎八　若松平八左衛門　川上瀬兵衛　川上郷次郎　川上杓把右衛門跡　川越三右衛門　桂　八左衛門　川上仲右衛門　種子嶋十郎太夫　高崎惣右衛門　谷山善左衛門　土持平右衛門　土持半右衛門　中西文右衛門　中原仲左衛門　中江長五郎　名越悦右衛門　名越斧右衛門　中嶋七郎左衛門　村田善太夫　村田五右衛門　野村勘兵衛　薬丸猪右衛門　町田越右衛門跡　町田直右衛門　後醍院喜兵衛　五代孫次郎　児玉四郎兵衛　阿多源之烝跡　赤塚新次郎　相良弥一兵衛　追水善左衛門　坂元平右衛門　相良源蔵　木脇伊左衛門　肝付五右衛門　米良周右衛門　宮原五兵衛跡　三原九兵衛　白尾登五右衛門　平岡太郎八　肥後平右衛門　鈴木宇右衛門　合六十弐人

六番与

伊地知八右衛門　市来十郎右衛門　伊東源右衛門　伊佐岡伊右衛門　伊東九左衛門　新納喜右衛門　本田助之丞　遠屋金兵衛　大嶋孫右衛門　面高真蔵　和田平右衛門　川上平右衛門　汾陽茂右衛門　鎌田弥右衛門　川上八郎次郎　高橋武右衛門　高橋喜兵衛　黒葛原源左衛門　長束市郎右衛門　中神織右衛門　向井十郎太夫　上原次郎左衛門　野村弥太郎　山口五郎兵衛　町田幸太郎　松崎十郎左衛門　福山平太夫　児玉小六　國分市郎右衛門　寺山源右衛門　有川勇馬　赤塚源四郎　愛甲次右衛門　讃良吉助　貴嶋五十右衛門　岸喜右衛門　三雲新右衛門　平田九郎右衛門　比志嶋彦七郎　森喜右衛門　日高拾左衛門

合四十壱人

六組合弐百七拾三人

右人数、従先祖為差立御役相勤候衆、又者地頭職・諸奉行拾人賦之御役相勤、三代目ゟ代々小番ニ被召入、又ハ御寄合之二男等ニ而小番ニ被召入候衆ニ而候、当時為差立御役諸奉行御馬廻り相勤、又ハ代々小番ニ而御番被相勤、又ハ当時小身ニ而軽御奉公相勤被居候衆も有之候得共、代々小番相勤被居候衆ニ而候、此外此人数ニ洩候衆過分有之筈ニ候、追而可書載事、

鹿児嶋諸士名字

い伊集院　伊勢　伊地知　家村　岩元　岩崎　今井
猪俣　伊駒　岩山　岩城　市来　伊東　伊藤
市成　岩切　稲留　印東　市来崎　池上　石黒
石塚　石原　石神　池田　井上　市田
ろ六村
は長谷場　畠山　浜田　土師　春山　林　原口
春成　春田　羽嶋　羽田　萩原　花田　橋口
早川
に新納　西川　西　西田　西牟田　二階堂　入田
丹生　西俣　二之宮
ほ北郷　本田　堀　星野　堀之内

へ邊見　戸次　弁宮　上別府　邊木
と富山　外山　戸田　遠矢　鳥丸　徳永　徳田
ち秩父　中馬　知色　帖佐
を大嶋　大田　大山　大野　上井　荻野　尾上
折田　大迫　大寺　小川　面高　押川　鬼塚
大原　大脇　大窪　小倉　小浜
わ若松　和田　脇本　早田
か川上　樺山（ハヤマ）　鎌田　梶原　蒲生　加世田　河野
川田　鹿島　川村　上村　蒲地　川越　加治木
海江田　柏原　川崎　勝目　勝部　上田　汾陽
よ吉田　義岡　横山　吉井　吉村　吉原　吉川
吉冨
た高橋　田尻　高城　田中　谷山　財部　高木
高崎　竹之内　宅間　武宮　瀧聞　但馬　武元
谷川　高田　田原　田畑
そ曽木　園田
つ津曲　土持　津留　圖師
ね祢寝　根占
な中村　名越　中山　長崎　永山　永田　奈良原
中島　長井　長友　長野　中原　南雲　中江
長沼　中西　中神
む村田　村山　村野　村瀬　村上
う上野　上山　上原　宇都宮　植村　梅北　宇都
上床
の野村　野間　野田　能勢　野本　野津　野崎

野呂
く久保　黒田　救仁郷　桑波田　隈元　隈崎　熊吉
黒木
や山田　山崎　山本　山元　山下　薬丸　簗瀬
山口　矢野　八代　山鹿　山城　山野田　安岡
山名　八木
ま松田　松元　松永　益山　牧　前田　間世田
松崎　前川　松井
け検見崎
ふ藤野　藤崎　福山　香笠　二渡　福屋　福崎
藤井　深栖　藤田　藤山
こ児玉　國分　足枝　甑　郡山　古後　後醍院
郷田　江夏　小森　木場　國生
え江田　穎川
て寺山　弟子丸　寺尾
あ有川　安藤　有馬　赤松　阿蘇　阿多　愛甲
赤塚　天辰　芦谷　浅江　朝倉　赤崎
さ酒匂　猿渡　相良　鮫嶋　佐藤　佐竹　讃良
佐々木　坂元　西郷　坂　齋藤　佐土原
き喜入　城井　木脇　岸良　木藤　清水　貴嶋
木原　木上　菊地　喜入
ゆ湯地　指宿
め米良　廻
み宮原　三雲　宮之原　右松　蓑田　宮里　南
宮田　三木原　皆吉

し嶋津　渋谷　執印　志岐　篠原　篠崎　志和屋
白坂　渋江　塩宮（シホノミヤ）　志賀　下河邊
ゑ顕娃　海老原　江田　顕川
ひ比志嶋　平田　平山　平野　肥後　肥田　樋口
平瀬　平城　平川
も森　毛利　最上　森岡　森田　森川　森山
せ関　瀬戸山　瀬戸口　関山　千田
す須田　杉山

三州御治世要覧巻第三十七終

（表紙）

当時御役人

三州御治世要覧　三十八

當時御役人

御家老

御側方　嶋津左中殿　　喜入主馬殿

異國方　小松帯刀殿　　御側方　山岡市正殿

嶋津　仲殿　　御側方　二階堂主計殿

御勝手方　赤松造酒殿

若御年寄

嶋津采女殿　　新納波門殿　　御側方　嶋津大進殿

御家老中渡

大御目附

菱刈大炊殿　　伊勢兵部殿　　新納内蔵殿

宮之原主膳殿

御側詰

寺社奉行

町田監物　　川上弥五太夫　　二番与頭　末川織衛

四番与頭　嶋津　杢

御勘定奉行

鎌田太郎右衛門　　二階堂源太夫

寺社奉行　町田監物殿

御勝手方添役

小林中太兵衛　　仁礼仲右衛門

御側詰御小姓頭　但御番頭同格

組頭御番頭

六番与頭　畠山数馬　右同　　嶋津主鈴　五番与頭　島津内記

三番与頭　鎌田典膳　五番与頭　島津求馬　四番組頭　小松相馬

五番与頭　新納五郎右衛門　一番与頭　北条十左衛門

二番与頭　比志島要人　三番与頭　義岡左平太　一番与頭　川上久馬

高橋縫殿　一番与頭　島津内膳　一番与頭　頴娃波江

三番与頭　諏訪舎人　鎌田蔵人　山岡齋宮　関山軍兵衛

島津又七郎　四番組頭　喜入善之助　新納四郎

平田新左衛門　一番組頭　嶋津小平太　藤野休左衛門

入来院隼人　樺山相馬　嶋津十太右衛門

二番与頭　末川織衛

御側御用人

関山軍兵衛　島津　登　平田平太左衛門

山岡齋宮　村上静馬　赤松新之丞　川上頼母

山田　司　佐久間九十九

表御用人

小松相馬　大野隼人　小笠原郷左衛門

種子島十郎太夫　横山権右衛門　頴娃波江

高橋縫殿　比志島要人　鎌田典膳　島津弥市郎

川上久馬　桂　杢右衛門　築崎蔵太左衛門

大島休左衛門　有川勇馬

町奉行

福山平太夫　上村笑之丞　伊集院四郎

御近習役

鎌田慶太夫　村上静馬　川上頼母　二階堂　蔀

市田勘解由

御近習役并江戸御留主居

有川勇馬　佐久間九十九　矢野清右衛門

京都御留主居

伊藤主左衛門　二宮藤太左衛門

大坂御留主居

伊集院弥平左衛門　相良権太夫

御納戸奉行

鹿島牧多　愛甲蔵記　相良弥市兵衛

相良権太夫

物頭

伊地知嘉右衛門　川上主鈴　伊集院織部

町田幸太郎　三崎文太夫　北郷助太夫

種子島雲治　河野外記　市来次郎左衛門

関山新六　伊集院伊膳　堀　四郎太夫

島津主水　相良新助　樺山助之進　伊集院隼衛

山田弥九郎　菱刈新五兵衛

移地頭

長島　新納隼見

甑島　谷山角太夫

久見崎御船奉行

御船奉行

堀　孫太夫　木場傳内　相良四郎兵衛

森川孫六　平田善太夫　上持新八

和田平右衛門　石川庄右衛門

御使番

大野清太夫　若松十左衛門　本田久米右衛門

岩下佐次右衛門　郡山次郎左衛門　児玉祝人

本田新右衛門　清水源兵衛　今村政十郎

御廣敷頭

藤井才助　田畑武右衛門　大田休兵衛

肥後平六　小倉喜藤太　町田孫七

簗瀬金右衛門　児玉利右衛門

聖堂奉行

山元傳蔵

足より来　御用人中渡

御普請奉行

伊集院仁左衛門　伊集院六左衛門　岸良弥右衛門

渕邊良右衛門　黒岩庄左衛門　伊藤長左衛門

小島甚兵衛

御記録奉行

郡山次郎左衛門　本田新右衛門　児玉祝人

川上大六　郡山主右衛門

長崎御附人

郡山権蔵　上野普兵衛　有田次郎左衛門

高奉行

中江長五郎　峯　喜右衛門　中野織右衛門

長沼嘉兵衛　肥後翁助　諏訪八郎太

松崎十太郎

物奉行

石川庄右衛門　木場休右衛門　川上四郎兵衛

吉井幸右衛門　植村長蔵　野村良右衛門

道奉行 拾人扶

喜入佐司右衛門　相良此右衛門　高城六右衛門

相良六郎左衛門　永山与三右衛門　安藤佐次兵衛

堀　万右衛門　田村幸太夫　伊集院嘉盛

森　十佐衛門

御馬預り

菱刈新五兵衛　高崎納右衛門　讃良善助

五代周左衛門　藤田次兵衛　鎌田平左衛門

木脇権市兵衛　山下次郎八　財部孫之丞

川邊平八

御小納戸役

伴　其輪　早川半蔵　川上九戸　橋口与三次

御抱守御小納戸同格

大重五郎左衛門　鈴木弥藤次　面高善右衛門

御小納戸役並

佐久間五十賀

御月付表

木場次郎兵衛　基太村沢右衛門

御裁許嘉役

樺山孝右衛門　義岡宗次郎　山田助太郎

伊地知彦左衛門

御裁許嘉役

愛甲新右衛門　岩山直次郎

肥後平右衛門　中村早太

御裁許嘉役

高橋武右衛門　樺山八郎　川上弥三太

北郷八右衛門　川上長左衛門　渋谷喜二左衛門

大迫弥右衛門　家村彦作

御裁許加役

野田勘兵衛　中馬源太夫　長谷場角也

近藤彦右衛門　佐久間源太左衛門　大野弓五郎

平田清右衛門　追水善左衛門

御右筆

鎌田七左衛門　大原林右衛門　亀山用右衛門

小倉仲之丞　高橋金左衛門　平瀬治右衛門

折田清右衛門　野村与藤太　町田甚左衛門

御廣敷番 六人扶

武　五郎右衛門　野村与藤太　町田甚左衛門

大窪仲兵衛　左近允嘉太夫　植村仁蔵

早川茂右衛門　山田市郎左衛門　伊勢九郎八

川上七九郎　大場庄太左衛門　川田甚四郎

益満与右衛門　高崎権太夫　田中七左衛門

川田仲太郎　竹下林右衛門　鎌田小十郎

山田増右衛門　伴　金太夫　土持佐左衛門

鳥丸六左衛門　肥後七左衛門　赤崎平兵衛

川北孫太郎　長野筑右衛門　岩城九郎

富満仲太夫　別府太右衛門　入江七郎左衛門

山本五郎左衛門　黒田長右衛門　山内堅右衛門

山奉行

内田仲左衛門　有馬甚兵衛　菱刈早太

市来太郎左衛門　川村四郎左衛門

左近允嘉右衛門　日置万右衛門

郡奉行

竹内次右衛門　江田五郎左衛門　内田喜三右衛門
内山次郎左衛門　坂元万兵衛　市来次右衛門
本田新兵衛　堀　仁右衛門　田尻弥八郎
石原助左衛門　村田源左衛門　上原源助
大窪半兵衛　山内平六　市木新左衛門
坂元長兵衛　徳田市左衛門

金山奉行
中馬休左衛門　大野休太夫　南雲新右衛門

御細工奉行
向井新兵衛　竹原藤兵衛　岸良長兵衛
河野右市　士持長蔵　川田来栖（クルス）　五代助太夫
頴川金弥

屋久島奉行
永井源太左衛門　隈元太一左衛門　野村大右衛門
大野藤太夫　岡元千右衛門

宗門改役
藤井平左衛門　谷元六兵衛　中山佐五右衛門
東郷休左衛門　東郷半助　平岡　等
木村四郎左衛門

御鷹匠頭（尾畔頭）
宮内源内　毛利善助　宮内源左衛門

御同朋頭
稲留孝阿弥　有馬自阿弥

御記録方添役
児玉早之允　東郷次太夫　本田文蔵

篠原善兵衛　黒田嘉右衛門

御普請奉行
松崎次左衛門

物奉行見習
芦谷市助　小田善兵衛

唐船方
奈良原助七　岩元次左衛門　児玉金蔵
野元孝助　津曲次兵衛　平田藤九郎

寺社方取次
東郷次郎作　岩山千次郎　讃良猪三太
稲津大六　赤塚千十郎　宇宿雅次郎
植村七兵衛　愛甲十兵衛　竹下辰巳

御勘定方小頭
毛利覚次　横山平角　稲津源左衛門
上村藤四郎　伊集院周右衛門　山元千太夫
吉田百二

表方代官
松崎平六　桐野源六郎　猪俣休右衛門
有川六右衛門　有川伊左衛門

帖佐与代官
有馬守右衛門　久保五次右衛門　山田次郎右衛門

御台所頭
堀　次郎左衛門

御春屋役
有川七郎右衛門

御側御小姓
鈴木門十郎　冨田八郎　丸目和吉　伊集院平格
三雲八次　佐久間蔵之助　薬丸猪之助
岩元市次郎　村田喜平次　川上十母知
関山鬼散太　伊集院甚助　迫田十九郎
近藤喜四郎　肥後太郎右衛門　志岐藤右衛門
山本孫右衛門　中村八兵衛　愛甲佐惣
早川清次

表御小姓
須摩仁右衛門　今井平左衛門　伊地知恕兵衛
山之内彦五郎　土師四郎兵衛　大野休之丞
渋谷四郎左衛門　長崎喜清太　堀　万次
千頭儀八郎　小久保往来　吉田七郎　長沼主蔵
高橋弥市郎　本田兵助　入江駒之丞
瀬川佐平次　日高新左衛門　柴　傳兵衛

御裁許方見習
奥御小姓
大橋銀次郎　本田甚次　福山太郎太　鈴木才次
柳元乙吉　冨田十蔵

御側醫師
圖師崎検校　東郷典沢　丸目元為　大河平順喜
橋口順貞　森山長元　樺山龍渕　池田隆雲
川畑昌軒　林　玄長　越山玄悦　永井玄祝
永田閑龍　郡山貞輪

御書院方預
白石悦阿弥　村田元阿弥

御側御同朋
稲留瑳阿弥　福崎琢阿弥

表御同朋
伊藤為阿弥　河野傳阿弥　有馬清阿弥
有馬駿阿弥

御側御茶道
前谷仙斎　宅間快些　新納宗悦

小坊主

御記録稽古
大田小平次　日高六右衛門

御右筆稽古
福島半左衛門　津留八左衛門　萩原龍右衛門
柿元十蔵

学頭
長崎鉄之丞

無役御近習通
薗田与藤次　東郷長左衛門　柏　百鬼
野村兵部　亀田検校　有馬衛守

奏者番
小松相馬　頴娃波江　鎌田典膳　小笠原郷左衛門
高橋縫殿　川上久馬　島津又七郎　新納四郎
義岡左平太　島津小平太　島津内膳

定火消
入来院隼人　島津多門　島津平馬　島津右膳

肝付弾正　北郷作左衛門

右御役人、安永七年戌十月二日書之、

既刊史料名

三十四年	第一集	薩藩政要録
三十五年	第二集	丁丑日誌（下）
三十六年	〃	（上）
三十七年	第三集	薩摩国新田神社文書
三十八年	第四集	一向宗禁制関係史料
三十九年	第五集	薩摩国山田文書
四十年	第六集	諸家大概・職掌紀原
四十一年	第七集	薩摩国阿多郡史料・山田聖栄日記
四十二年	第八集	御登道中日帳御下向・列朝制度
四十三年	第九集	明治元年戊辰戦役関係史料
四十四年	第一〇集	伊能忠敬の鹿児島測量関係資料並解説
四十五年	第一一集	管窺愚考・雲遊雑記伝
四十六年	第一二集	川上忠塞一流家譜
四十七年	第一三集	本藩人物誌
四十八年	第一四集	薩陽過去帳
四十九年	第一五集	備忘抄・家久公御養子御願一件
五十年	第一六集	鹿児島県地誌（上）
五十一年	第一七集	鹿児島県地誌（下）
五十二年	第一八集	薩藩舊士文章
五十三年	第一九集	薩藩先公貴翰　乾
五十四年	第二〇集	薩藩先公貴翰　坤
五十五年	第二一集	小松帶刀傳・履歴・記事
五十六年	第二二集	小松帶刀日記
五十七年	第二三集	新修旊鹿児島藩領国・郡・郷・村・浦・町附（上）
五十八年	第二四集	新修舊鹿児島藩領国・郡・郷・村・浦・町附（下）
五十九年	第二五集	三州御治世要覧

鹿児島県史料刊行委員会

五十音順

川越政則　元南日本新聞社社長
芳即正　鹿児島純心短大教授
北川鉄三　鹿児島大学名誉教授
桐野利彦　鹿児島女子短大教授
桑波田興　鹿児島大学教授
五味克夫　鹿児島大学教授
小西四郎　元東京大学教授
犀川碇吉　元甲南高等学校長
竹内理三　元早稲田大学教授
原口虎雄　鹿児島経済大学教授
福満武雄　鹿児島新報社
宮下満郎　鹿児島県立甲南高校教諭
村野守次　鹿児島女子短大教授
桃園恵真　鹿児島大学名誉教授

三州御治世要覧
〈年代記・御分国之巻・御家格御政治向・当時御役人〉
昭和五十九年十月
発行　鹿児島市城山町五の一
鹿児島県立図書館内
鹿児島県史料刊行会
印刷　鹿児島市平之町九―一六
竹宝堂印刷
電話　二三二・九六二九